

**河内長野市
子どもの生活に関する実態調査
調査結果報告書**

平成 31 年（2019 年） 3 月

河内長野市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果	3
1	回答者の属性	3
	（1）学年【子ども票】	3
	（2）回答者の続柄【保護者票】	4
2	単純集計	5
	（1）経済状況	5
	（2）生活環境	42
	（3）教育環境	95
	（4）社会環境	105
III	クロス集計および分析結果	123
1	基本情報	123
	（1）経済状況	123
	（2）家庭状況（制度等）	135
2	雇用	146
3	健康	153
4	家庭生活、学習	171
5	対人関係	201
IV	課題まとめ	213
1	経済状況について	213
2	学びを支える環境について	214
3	子どもの現状について	214
4	保護者の現状について	215

I 調査の概要

1 調査の目的

河内長野市では、子どもや子育てに関する支援策をさらに充実させ、効果的な取組みを推進するため、河内長野市の子どもたちの生活実態等の調査を行い、現状を把握し、得られた結果から、今後支援を必要とする子どもや家庭に対する方策を検証することを目的とし、実施しました。

2 調査対象

小学5年生とその保護者（795世帯）

中学2年生とその保護者（751世帯）

3 調査期間

平成31年（2019年）2月4日から平成31年（2019年）2月15日

4 調査方法

河内長野市内の調査対象の世帯に各学校を通じて調査票を配布し、回収を得たもの。

5 回収状況

表1 調査票の回収状況

種類	配布数	有効回答数	有効回答率
小学5年生	795	535	67.3%
小学5年生の保護者	795	534	67.2%
中学2年生	751	518	69.0%
中学2年生の保護者	751	522	69.5%
小学5年生・ 中学2年生合計	1,546	1,053	68.1%
小学5年生保護者・ 中学2年生保護者合計	1,546	1,056	68.3%
計	3,092	2,109	68.2%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、不明なものや無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）がありますが、実際に示された数値で算出しても結果が異なる場合があります。これは、示されている数値は小数点以下第2位を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものです。
- ・本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化している場合があります。
- ・本文中にある「大阪府内全自治体」とは、平成28年（2016年）6月に実施された「大阪府子どもの生活に関する実態調査」を示しています。

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

(1) 学年【子ども票】

学年については、「小学生」が50.8%、「中学生」が49.2%となっています。

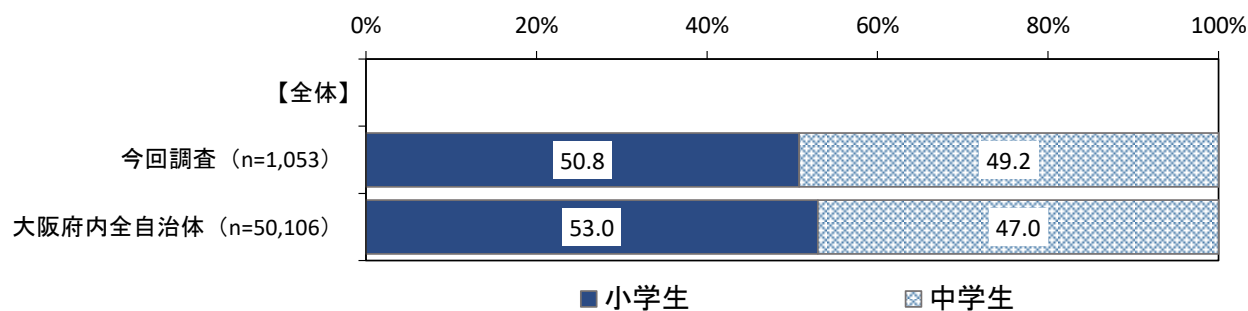


図1 学年

(2) 回答者の続柄【保護者票】

回答者の続柄については、「お母さん」が 91.3%で最も高く、次いで「お父さん」が 4.6%、「おばあさん・おじいさん」が 0.5%と続いています。

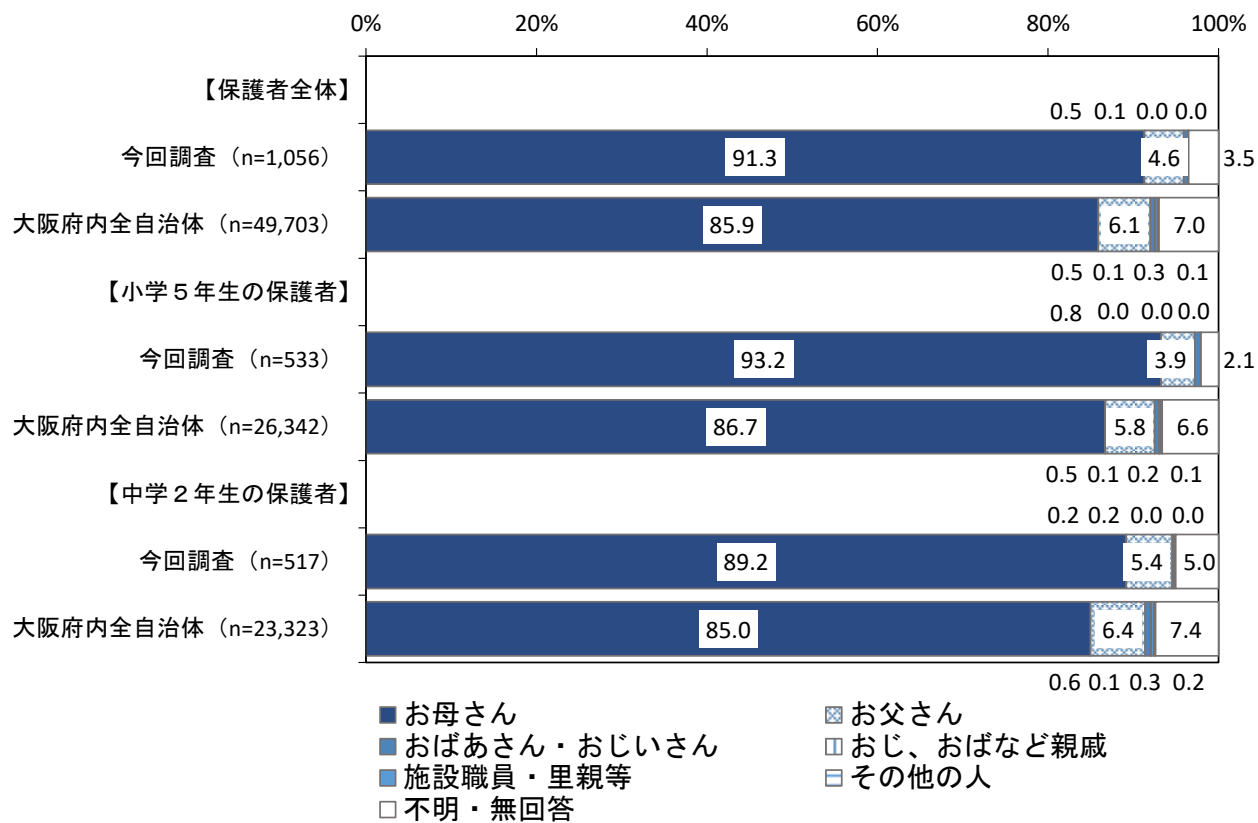


図2 回答者の続柄

2 単純集計

(1) 経済状況

① 母親の就業状況【保護者票】

母親については、「いる」が99.1%、「いない」が0.7%となっています。

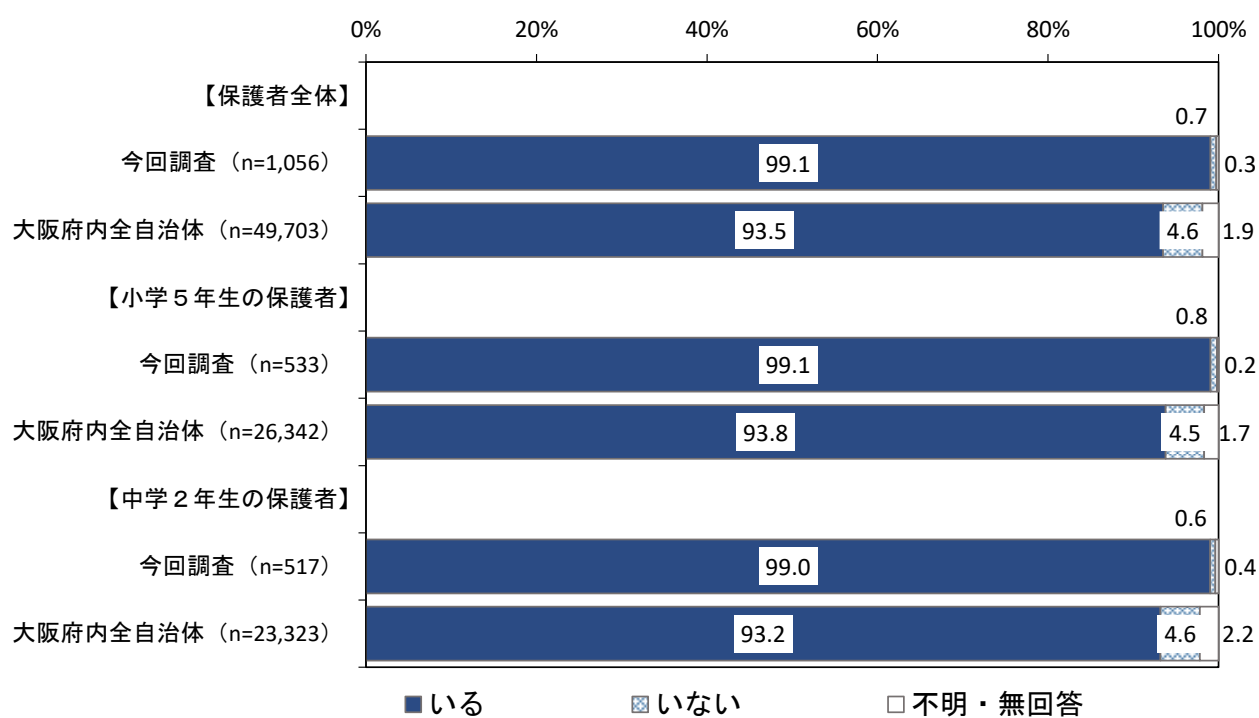


図3 母親がいるか

また、母親の就業状況については、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が45.8%で最も高く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が22.8%、「仕事をさがしていない」が13.7%と続いています。

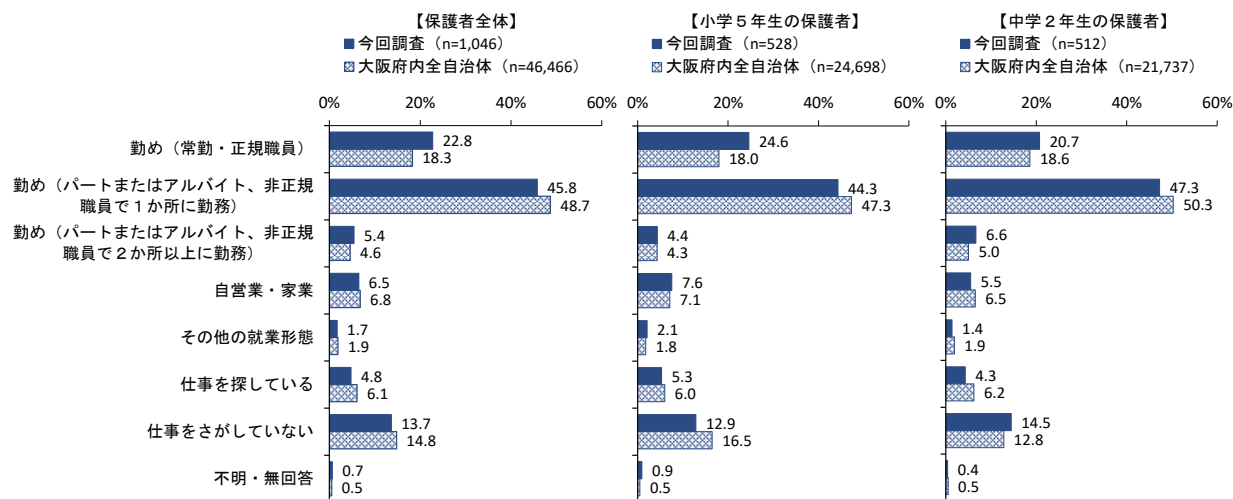


図4 母親の就業状況

さらに、母親が仕事をさがしていない状況については、「家事や育児に専念」が84.6%で最も高く、次いで「病気療養」が10.5%、「その他」が6.3%と続いています。

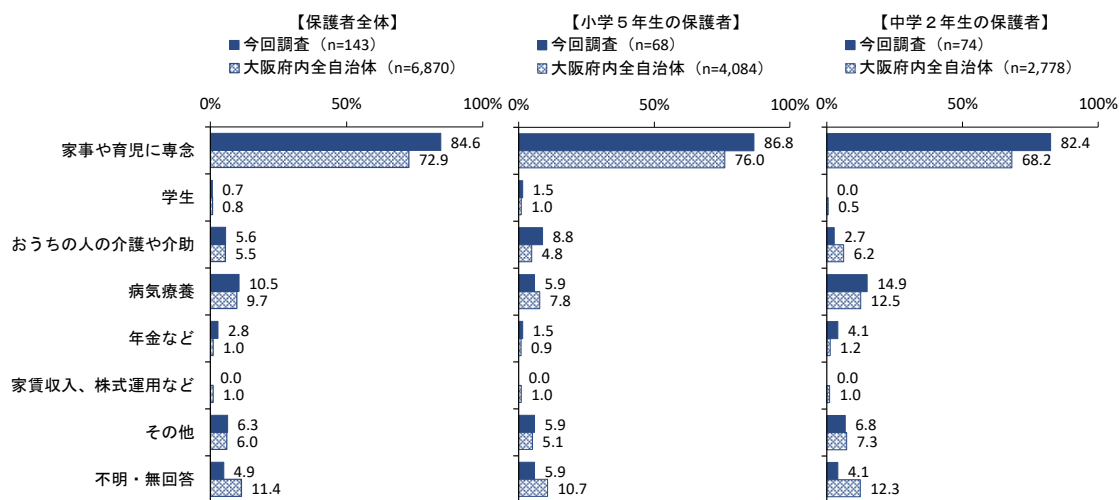


図5 母親が仕事をさがしていない状況

② 父親の就業状況【保護者票】

父親については、「いる」が88.5%、「いない」が10.1%となっています。

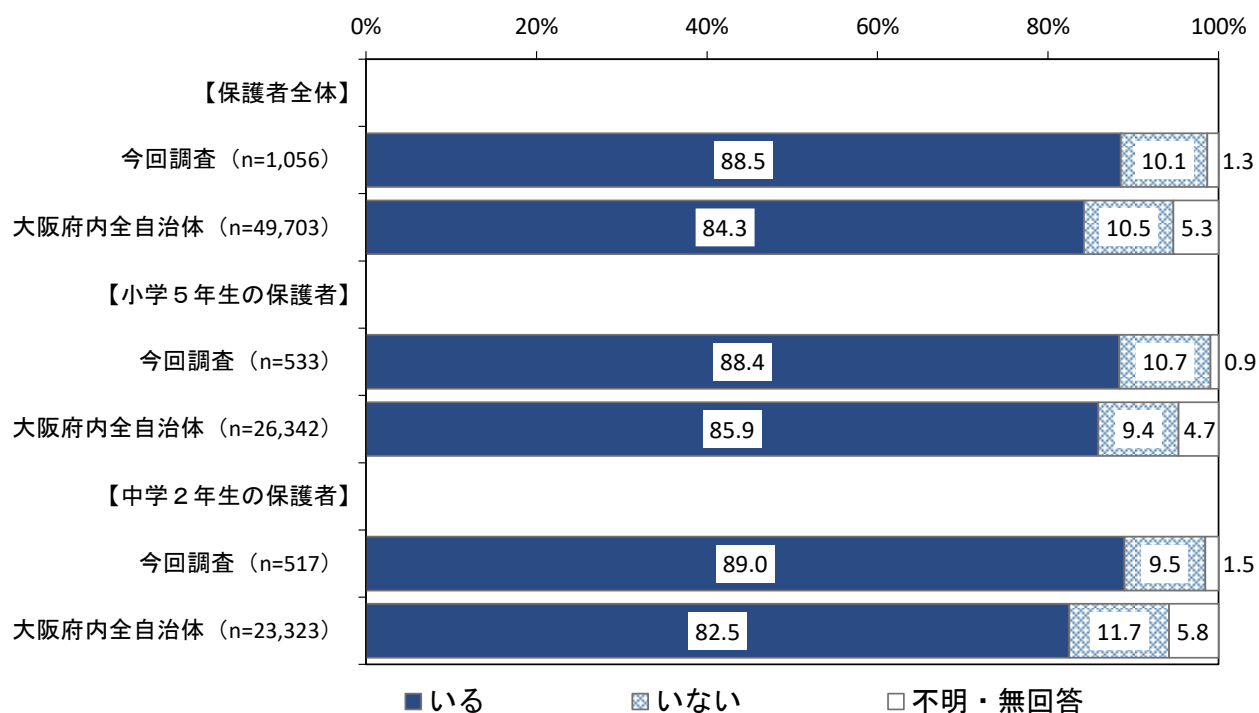


図6 父親がいるか

また、父親の就業状況については、「勤め（常勤・正規職員）」が 83.0%で最も高く、次いで「自営業・家業」が 13.6%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で 1 か所に勤務）」が 1.6%と続いています。

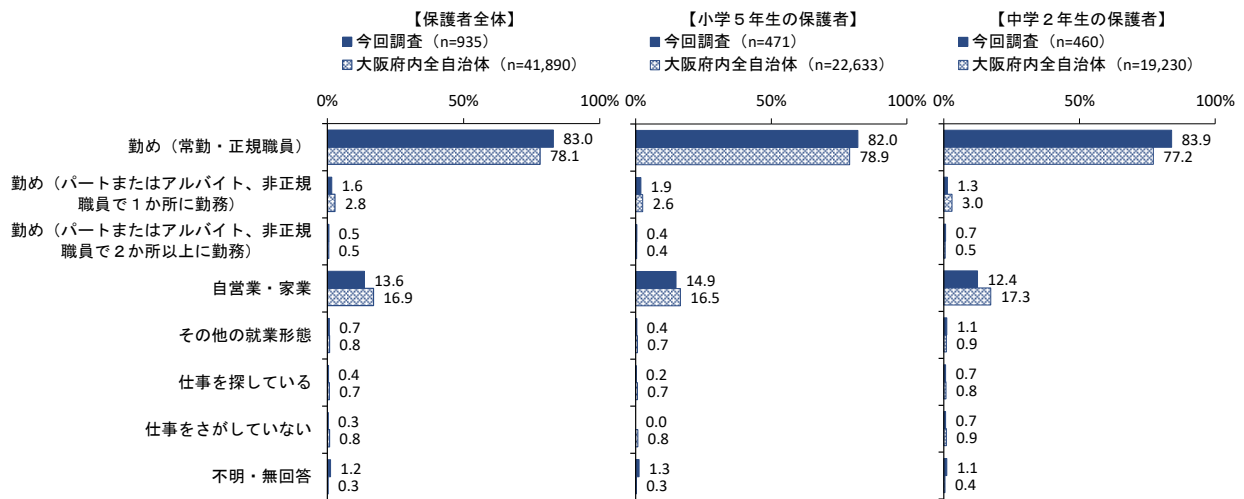


図 7 父親の就業状況

さらに、父親が仕事をさがしていない状況については、「病気療養」、「年金など」がいずれも 33.3%（1 人）となっています。

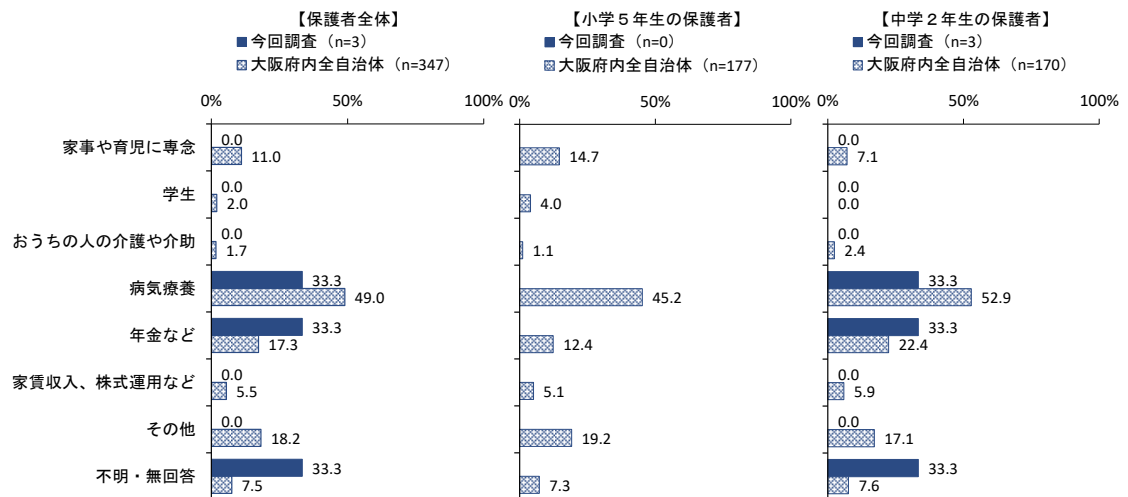


図 8 父親が仕事をさがしていない状況

③ 母親・父親以外に主として家計を支えている人の就業状況【保護者票】

母親・父親以外に主として家計を支えている人については、「いる」が7.2%、「いない」が88.9%となっています。

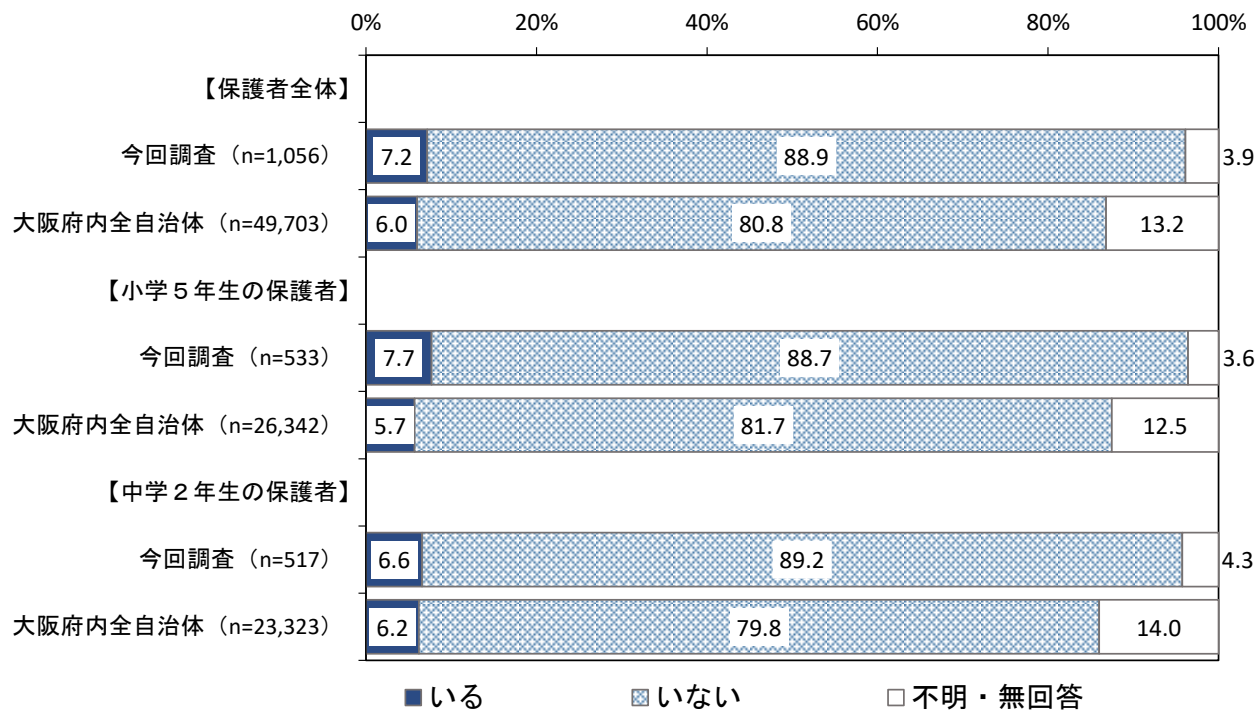


図9 母親・父親以外に主として家計を支えている人がいるか

また、母親・父親以外に主として家計を支えている人の就業状況については、「仕事をさがしていない」が 39.5%で最も高く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が 21.1%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が 17.1%と続いています。

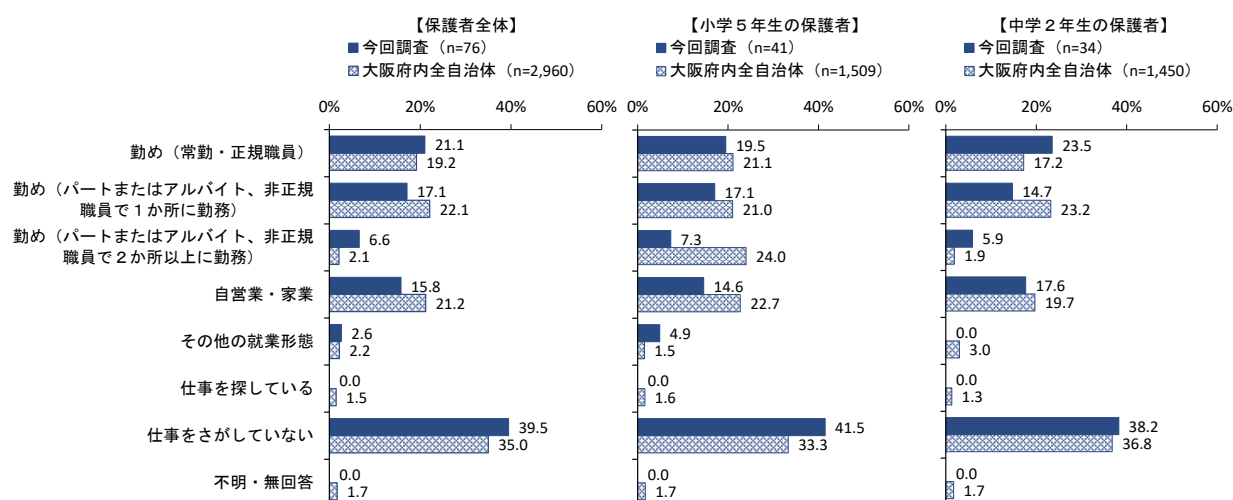


図 10 母親・父親以外に主として家計を支えている人の就業状況

また、母親・父親以外に主として家計を支えている人が仕事をさがしていない状況については、「年金など」が 76.7%で最も高く、次いで「家事や育児に専念」が 10.0%、「家賃収入、株式運用など」、「その他」がいずれも 6.7%と続いています。

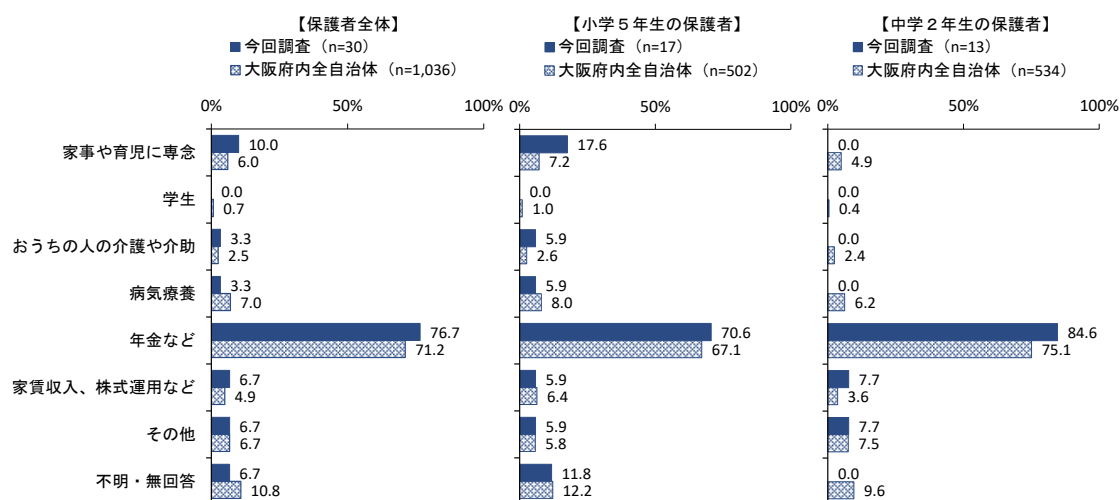


図 11 母親・父親以外に主として家計を支えている人が仕事をさがしていない状況

就労状況の分類について

母親、父親、母親・父親以外に主として家計を支えている人の就業状況により、就労状況について以下の通り分類しました。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれれば「正規群」、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれれば「自営群」、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれれば「非正規群」、
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」、
上記以外を「その他」としています。

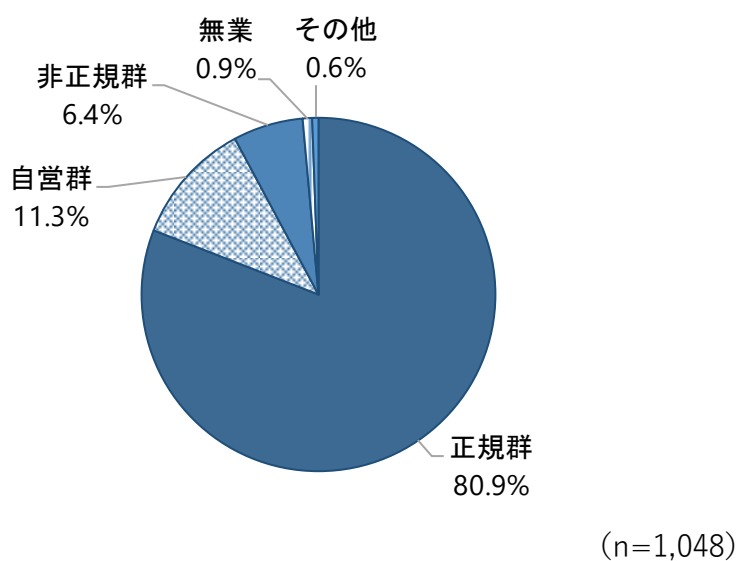


図 12 就労状況

④ 世帯で収入がある人の人数【保護者票】

世帯で収入がある人の人数については、「2人」が65.5%で最も高く、次いで「1人」が26.6%、「3人」が5.4%と続いています。

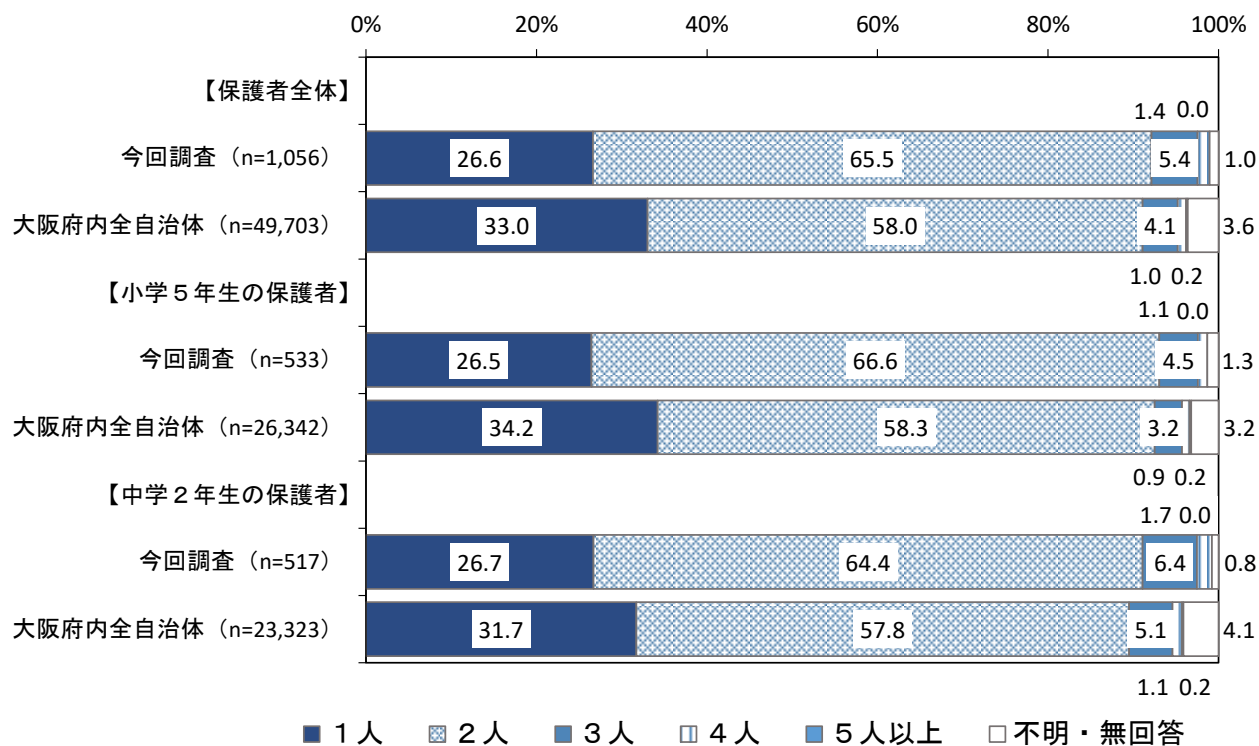


図 13 世帯で収入がある人の人数

⑤ 生計の支えとなる人【保護者票】

生計の支えとなる人については、「お父さん」が80.4%で最も高く、次いで「お母さん」が12.9%、「おじいさん、おばあさん」が1.0%と続いています。

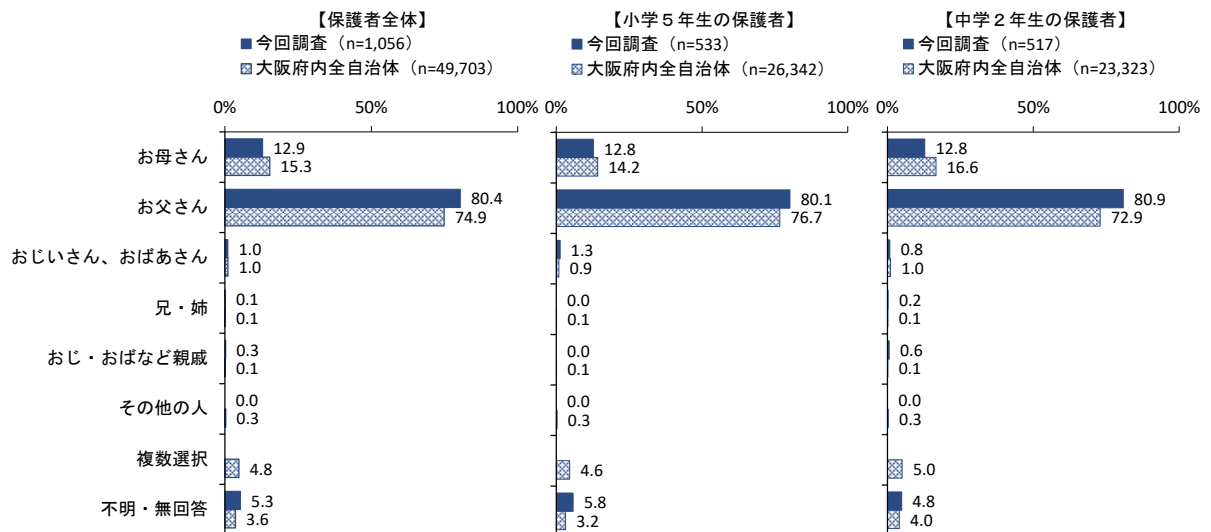


図 14 生計の支えとなる人

⑥ 世帯収入額【保護者票】

世帯収入額については、「わからない」が 11.1%で最も高く、次いで「450～500 万円未満」、「500～550 万円未満」がいずれも 8.4%と続いています。

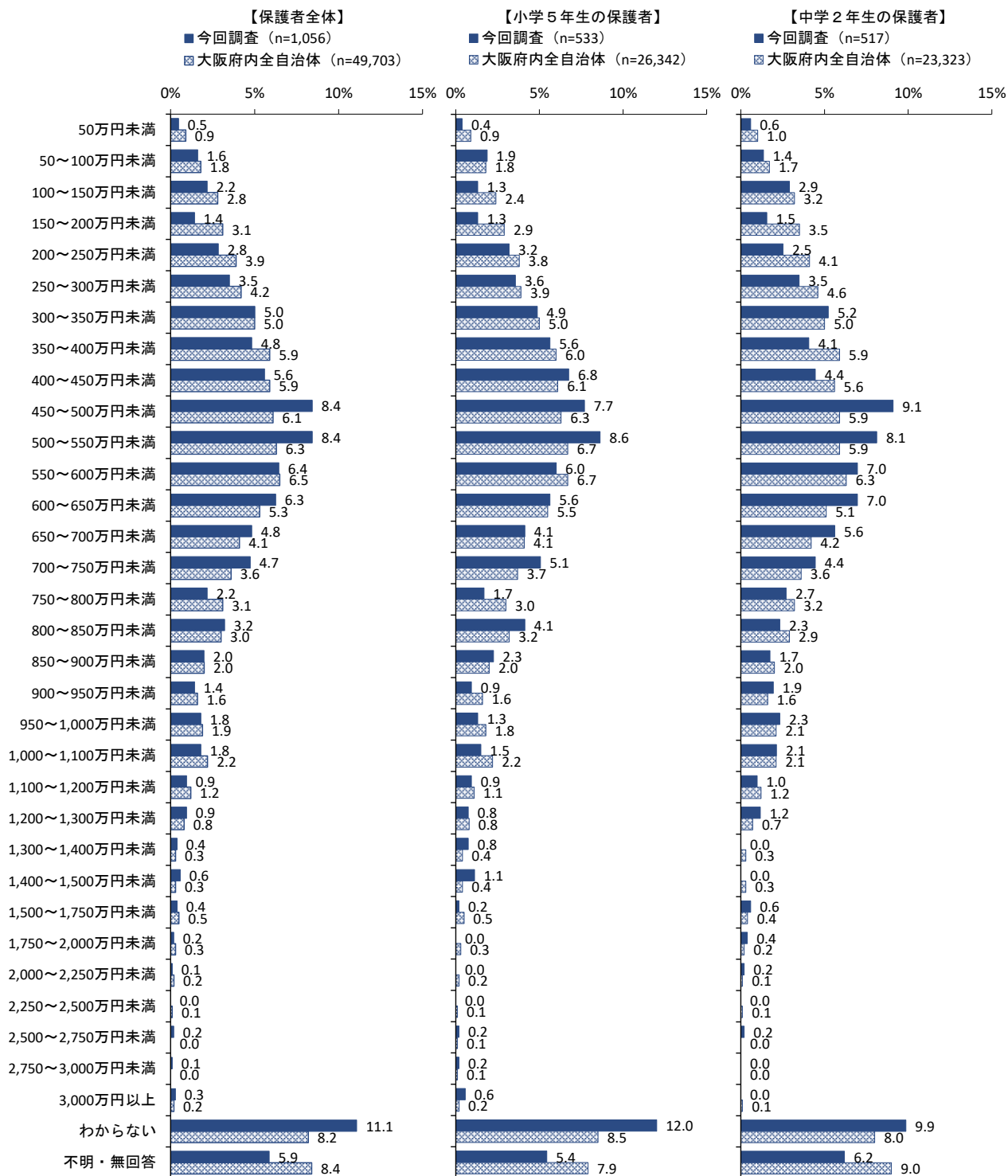


図 15 世帯収入額

世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねていますが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできません。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いています。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいいます。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいいます。

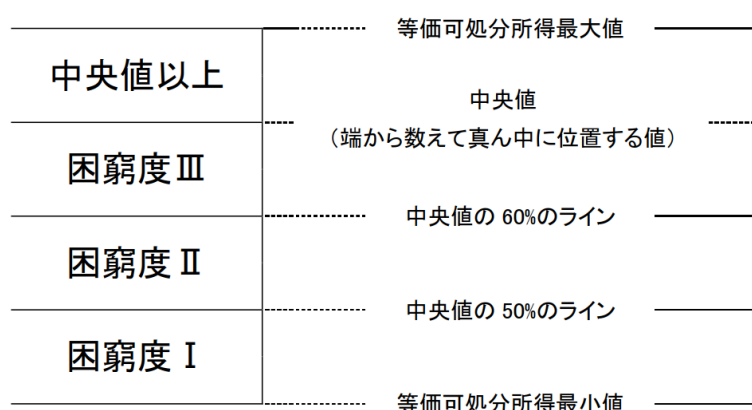


図 16 困窮度の分類と基準

等価可処分所得に基づく困窮度の分類

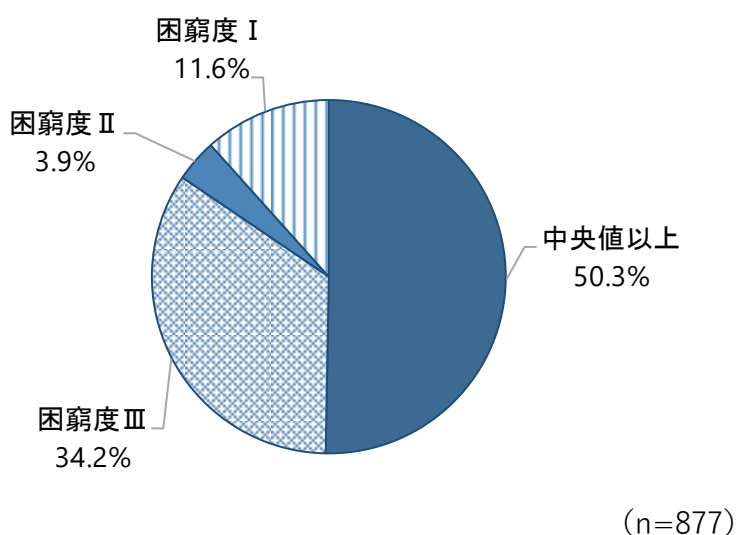


図 17 困窮度の分類

平均値は 280.1 万円、中央値は 262.5 万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は 11.6%でした。

⑦ 経済的な理由による経験【保護者票】

経済的な理由による経験については、「趣味やレジャーの出費を減らした」が43.0%で最も高く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が37.0%、「食費を切りつめた」が32.7%と続いており、「どれにもあてはまらない」は31.3%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「どれにもあてはまらない」では、小学5年生の保護者（34.3%）、中学2年生の保護者（28.2%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

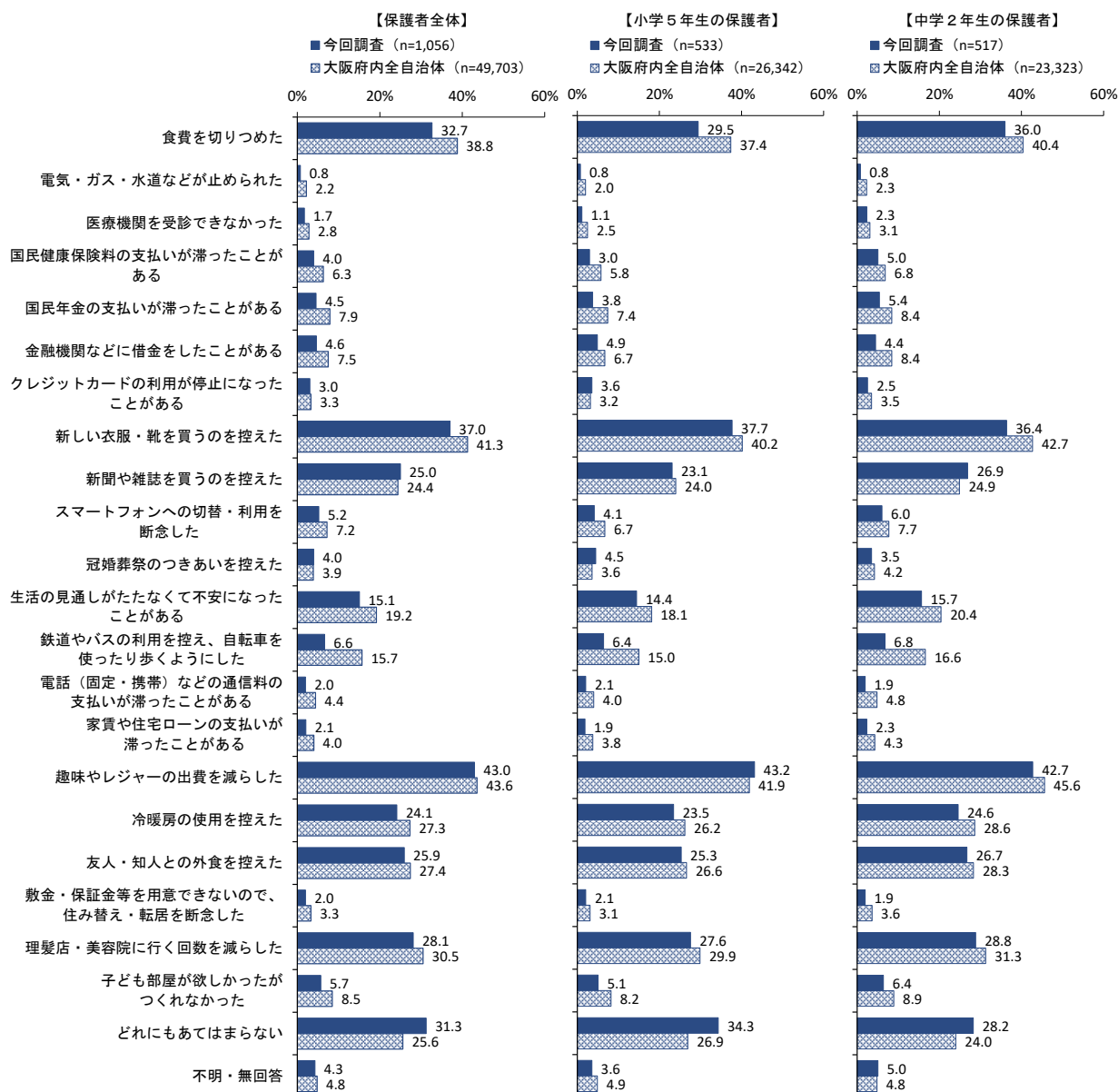


図 18 経済的な理由による経験

⑧ 子どもへの経済的な理由による経験【保護者票】

子どもへの経済的な理由による経験については、「どれにもあてはまらない」が65.7%で最も高く、次いで「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が17.3%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が11.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「どれにもあてはまらない」では、小学5年生の保護者（66.6%）、中学2年生の保護者（64.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

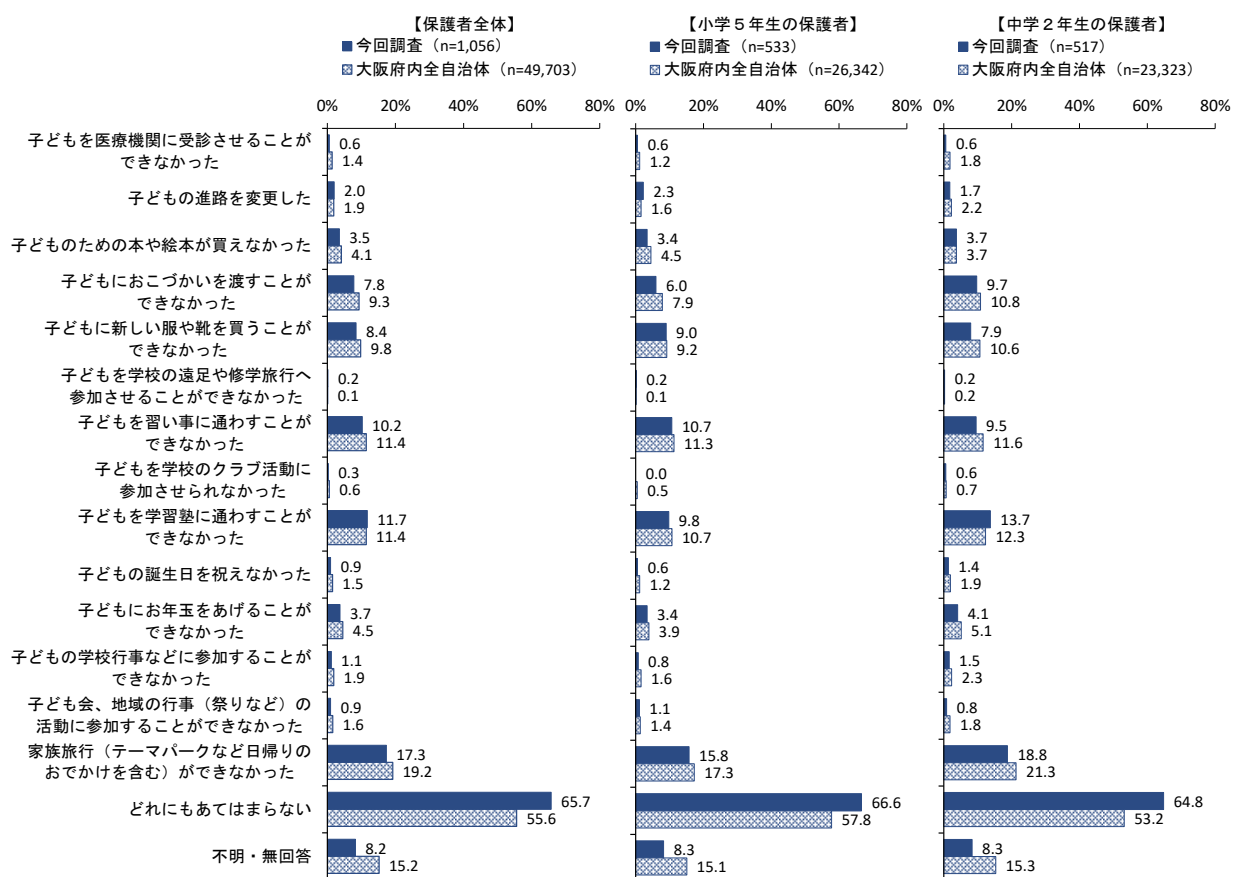


図 19 子どもへの経済的な理由による経験

⑨ 持っているもの、使うことができるもの【子ども票】

持っているもの、使うことができるものについては、「自転車」が84.8%で最も高く、次いで「ゲーム機」が83.1%、「テレビ」が79.1%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「自転車」、「けいたい電話」では、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

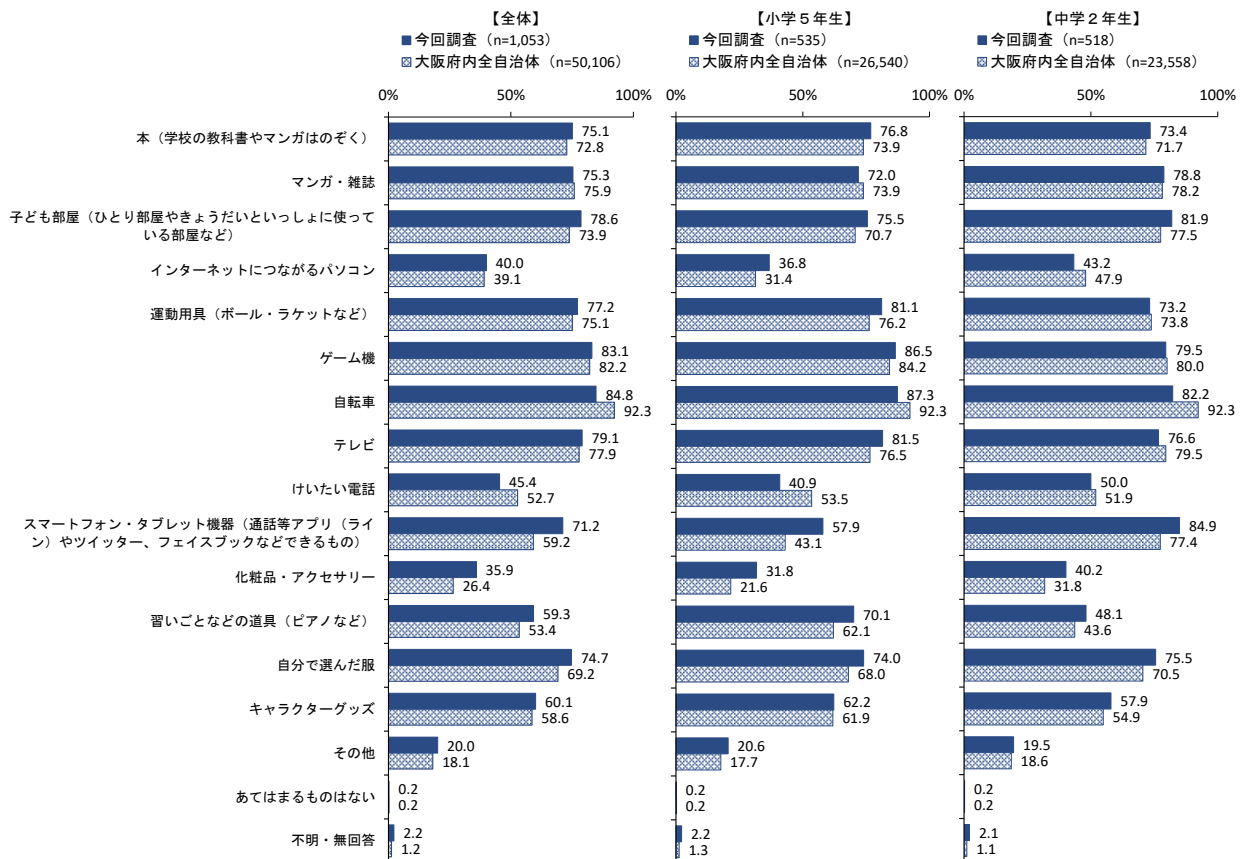


図 20 持っているもの、使うことができるもの

⑩ 家計状況【保護者票】

家計状況については、「貯蓄ができています」が43.1%で最も高く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が30.7%、「赤字である」が20.5%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「赤字である」では、小学5年生の保護者（18.2%）、中学2年生の保護者（23.0%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

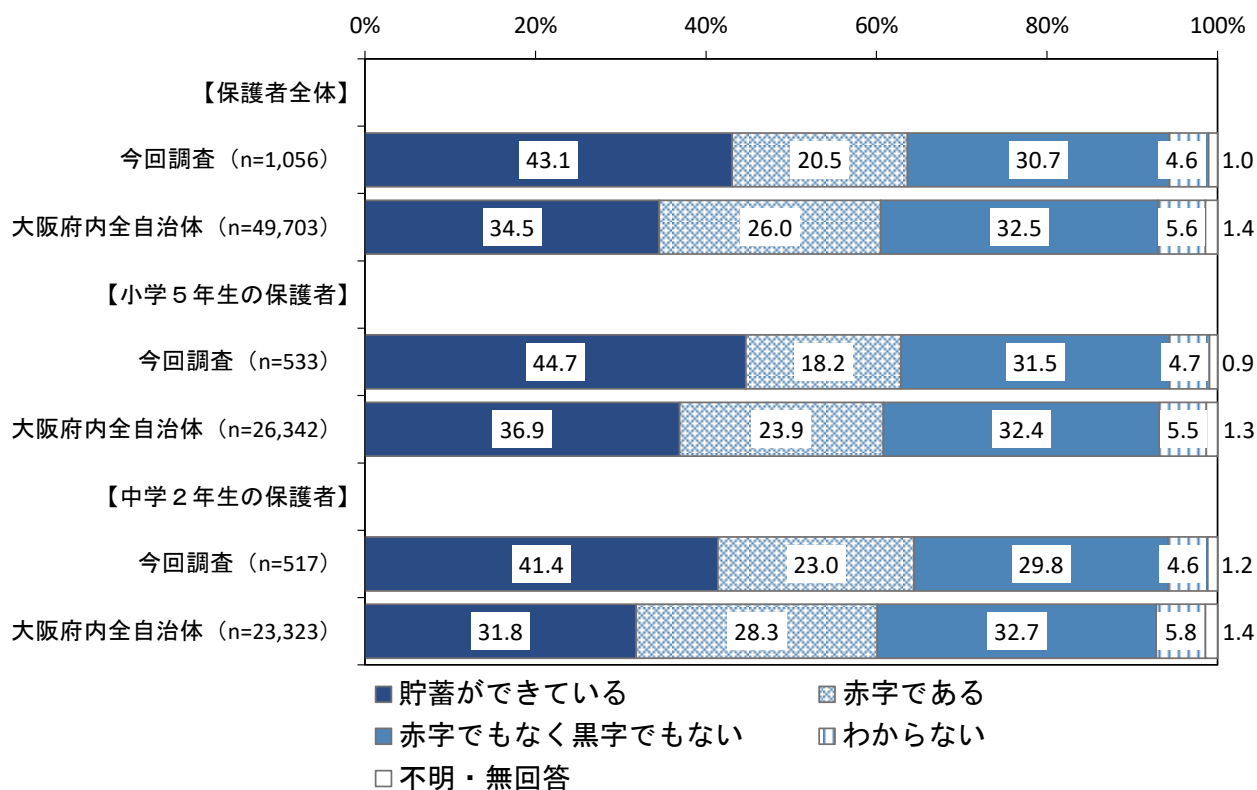


図 21 家計状況

⑪ 赤字の場合の対処【保護者票】

赤字の場合の対処については、「貯金、預金のとりくずし」が65.9%で最も高く、次いで「金融機関等からの借入」が13.8%、「その他」が8.3%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「貯金、預金のとりくずし」では、小学5年生の保護者（64.9%）、中学2年生の保護者（66.4%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

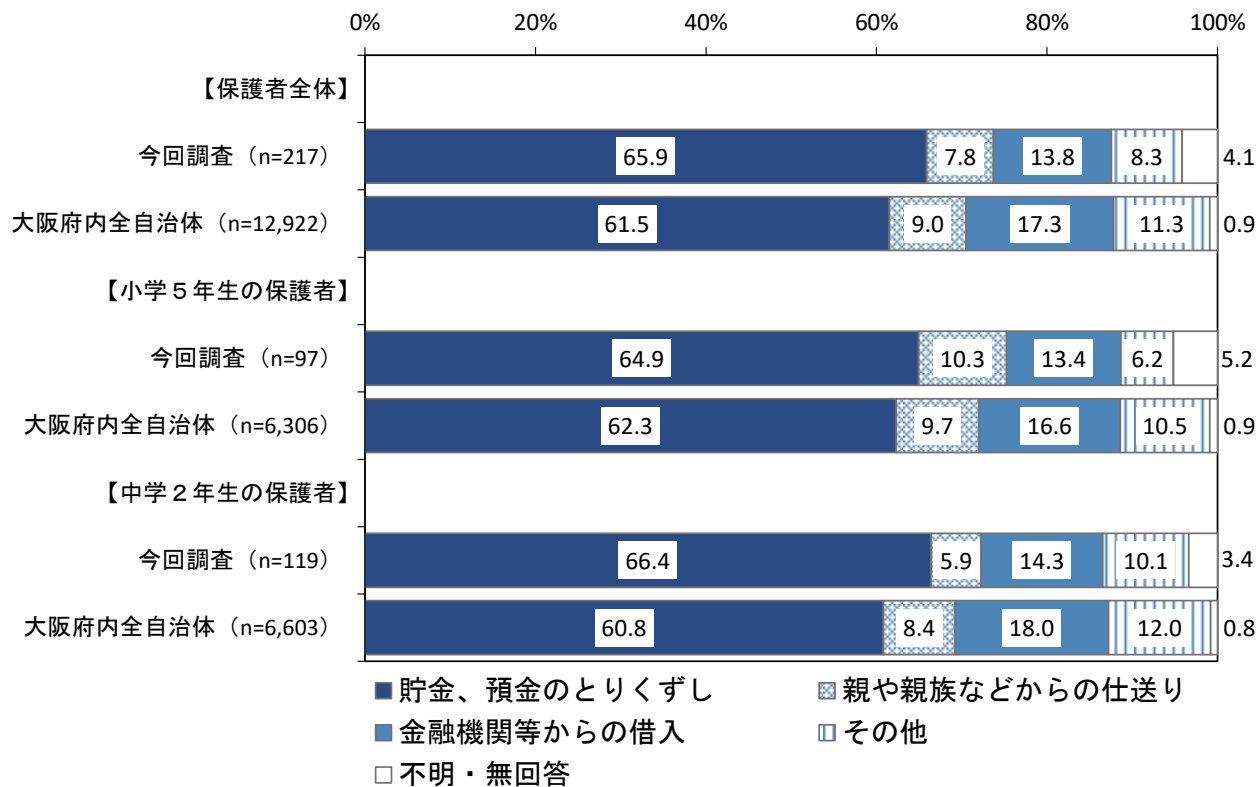


図 22 赤字の場合の対処

⑫ 子どものための貯蓄【保護者票】

子どものための貯蓄については、「貯蓄をしている」が59.0%で最も高く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が29.7%、「貯蓄をするつもりはない」が0.1%となっています。

学年別でみると、「貯蓄をしたいが、できていない」では、小学5年生の保護者(27.6%)に比べ中学2年生の保護者(32.1%)の割合が高くなっています。

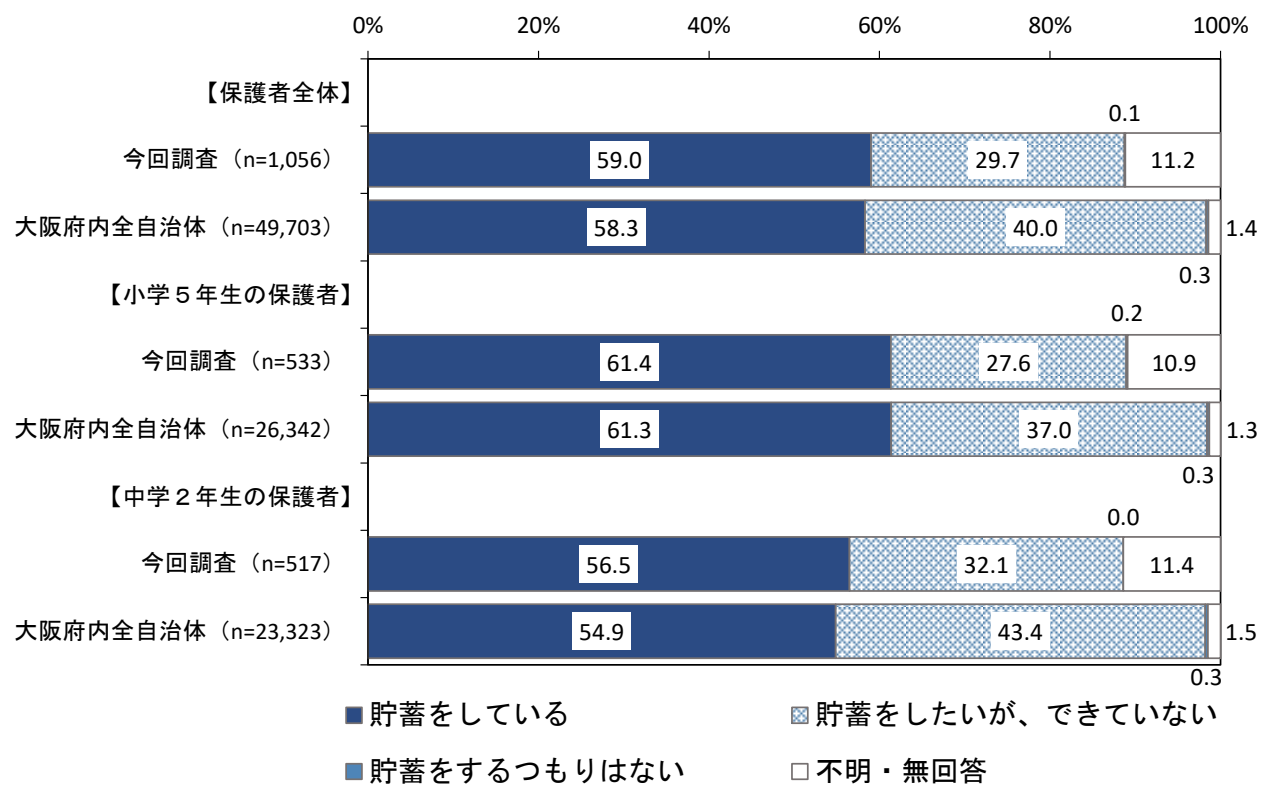


図 23 子どものための貯蓄

⑬ 児童手当【保護者票】

児童手当については、「受けている」が90.1%で最も高く、次いで「受けたことはない」が3.9%、「受けたことがある」が2.4%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「受けている」では、小学5年生の保護者（91.0%）、中学2年生の保護者（89.0%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

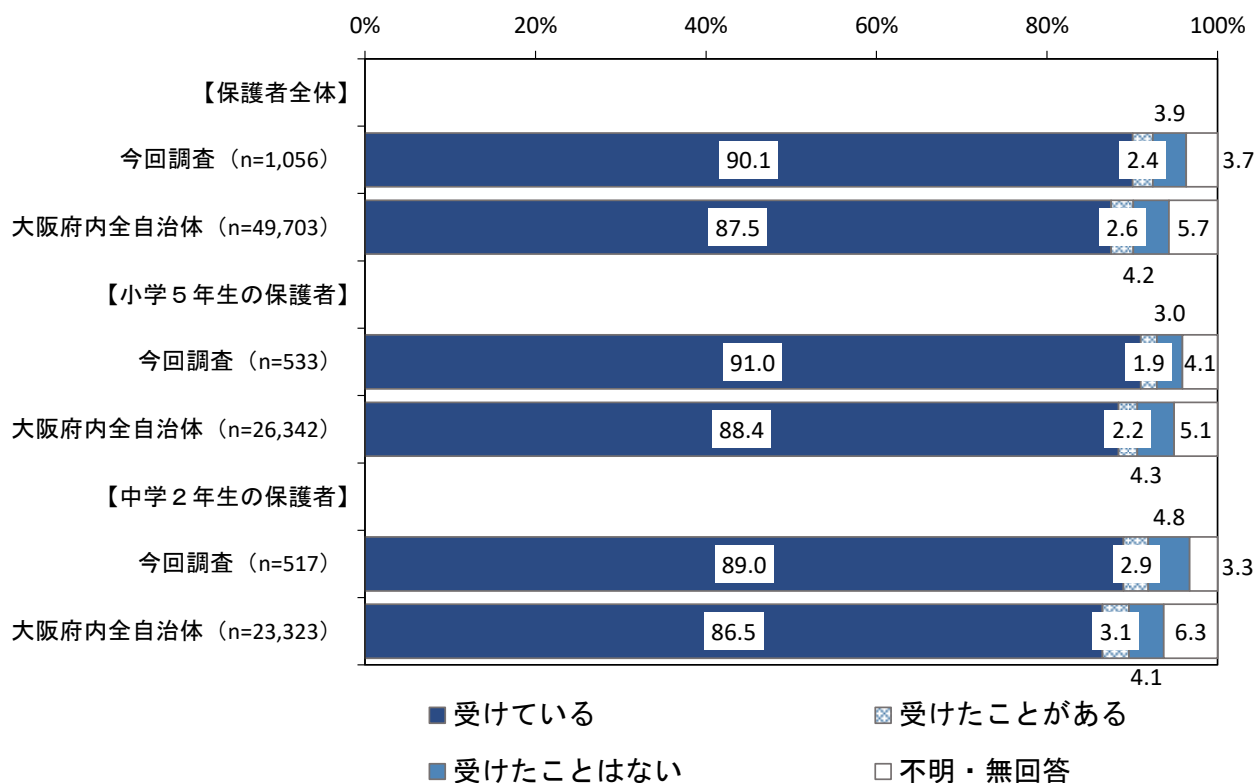


図 24 児童手当

⑭ 就学援助費【保護者票】

就学援助費については、「受けたことはない」が64.8%で最も高く、次いで「受けている」が11.0%、「受けたことがある」が2.7%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「受けたことはない」では、小学5年生の保護者（64.5%）、中学2年生の保護者（65.0%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

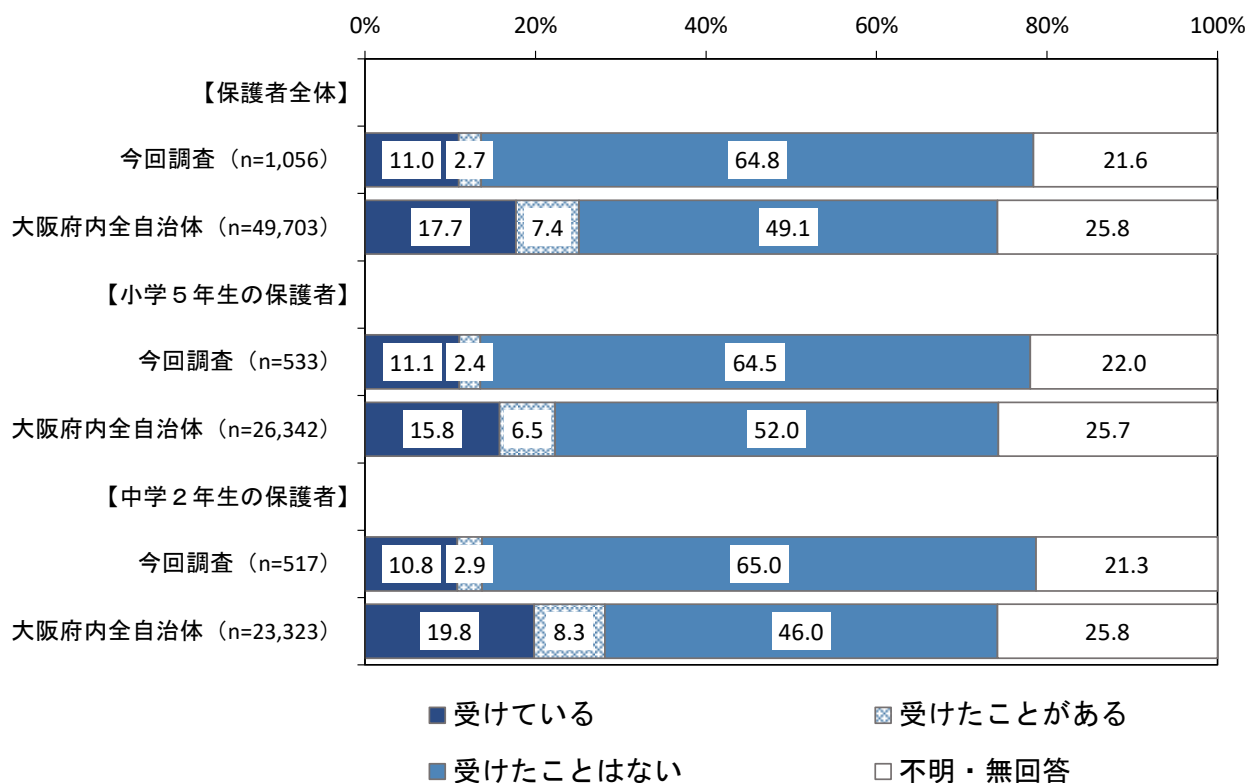


図 25 就学援助費

⑮ 児童扶養手当【保護者票】

児童扶養手当については、「受けたことはない」が65.2%で最も高く、次いで「受けている」が11.3%、「受けたことがある」が11.3%となっています。

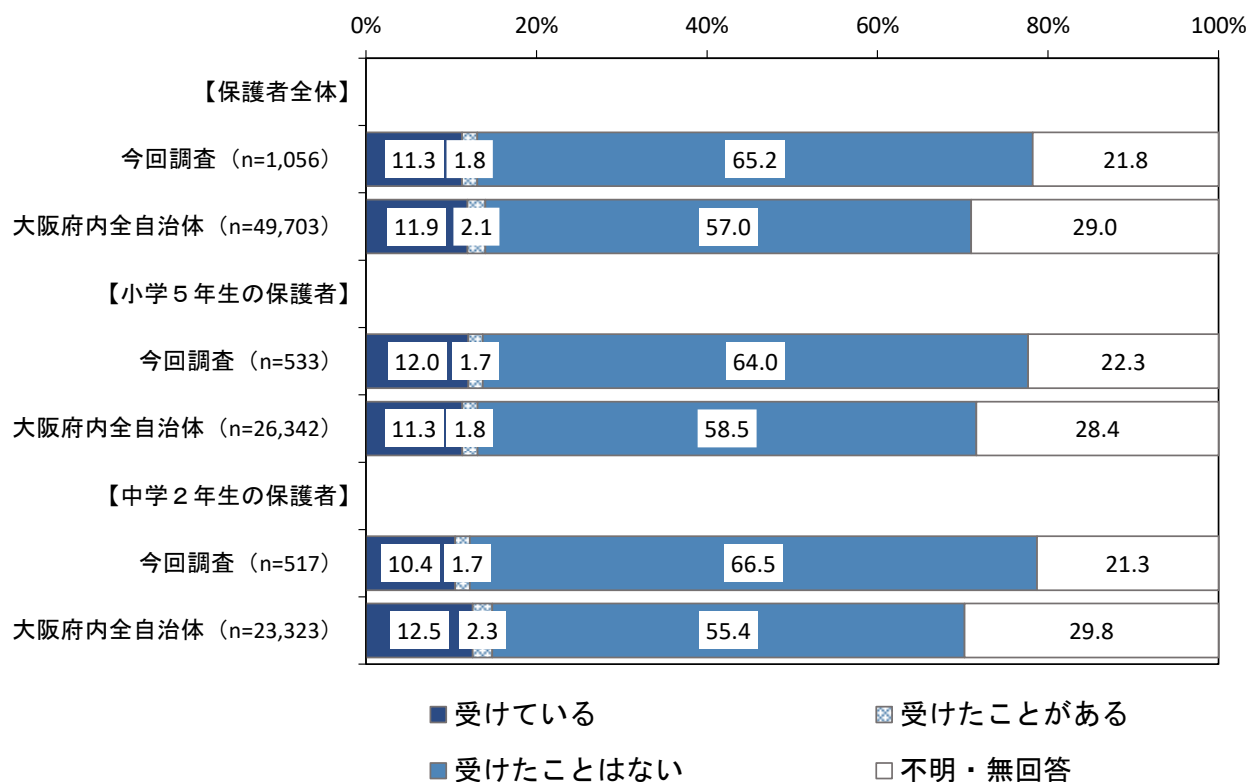


図 26 児童扶養手当

⑮-1 児童扶養手当（ひとり親世帯）

ひとり親世帯の児童扶養手当については、「受けている」が67.6%で最も高く、次いで「受けたことはない」が15.3%、「受けたことがある」が6.3%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「受けている」では、小学5年生の保護者（71.2%）、中学2年生の保護者（64.7%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

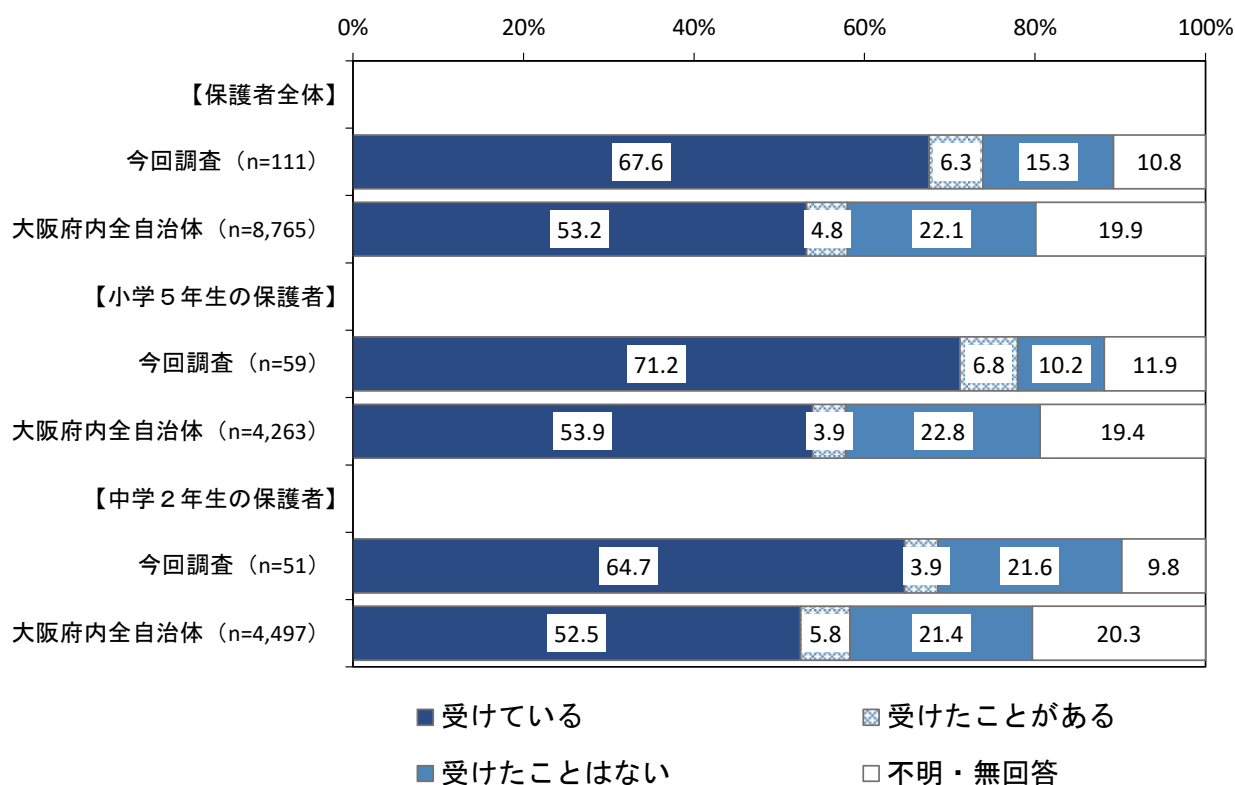


図 27 児童扶養手当（ひとり親世帯）

⑮-2 児童扶養手当（母子世帯）

母子世帯の児童扶養手当については、「受けている」が68.6%で最も高く、次いで「受けたことはない」が15.2%、「受けたことがある」が6.7%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「受けている」では、小学5年生の保護者（71.4%）、中学2年生の保護者（66.7%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

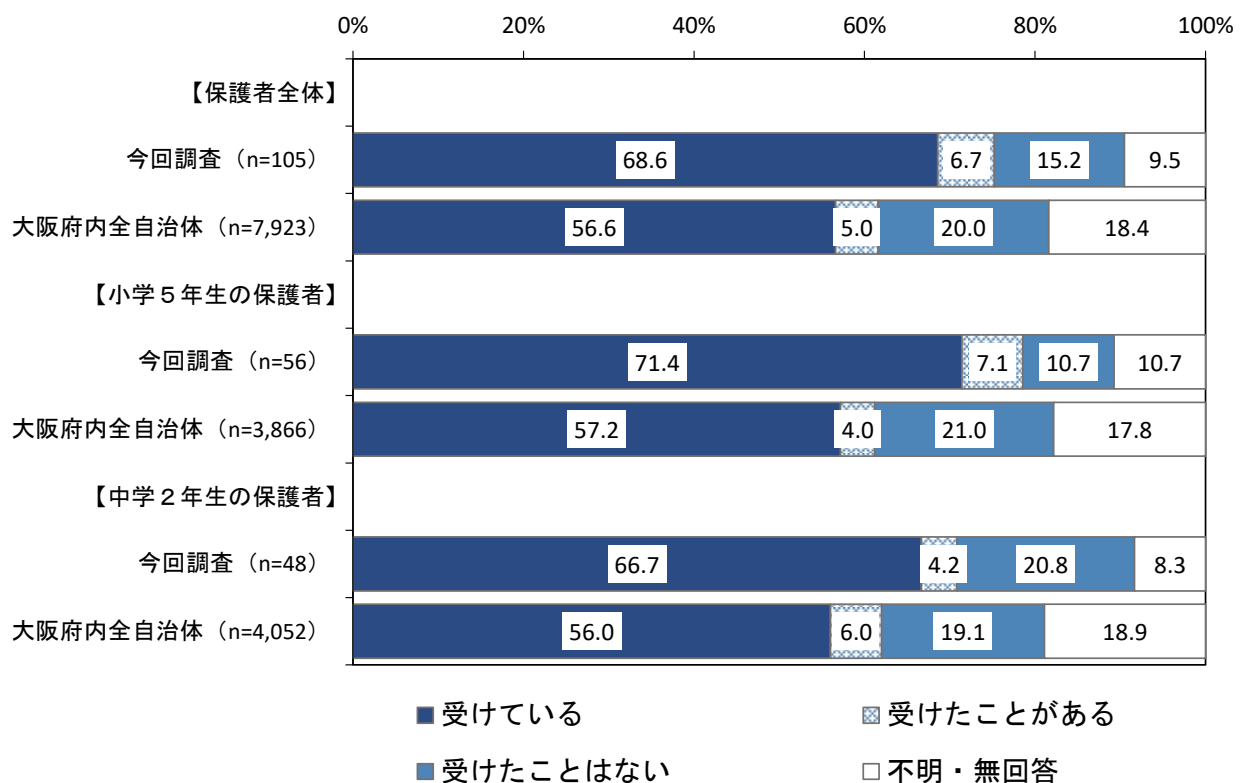


図 28 児童扶養手当（母子世帯）

⑮-3 児童扶養手当（父子世帯）

父子世帯の児童扶養手当については、「受けている」が50.0%、「受けたことはない」が16.7%となっています。

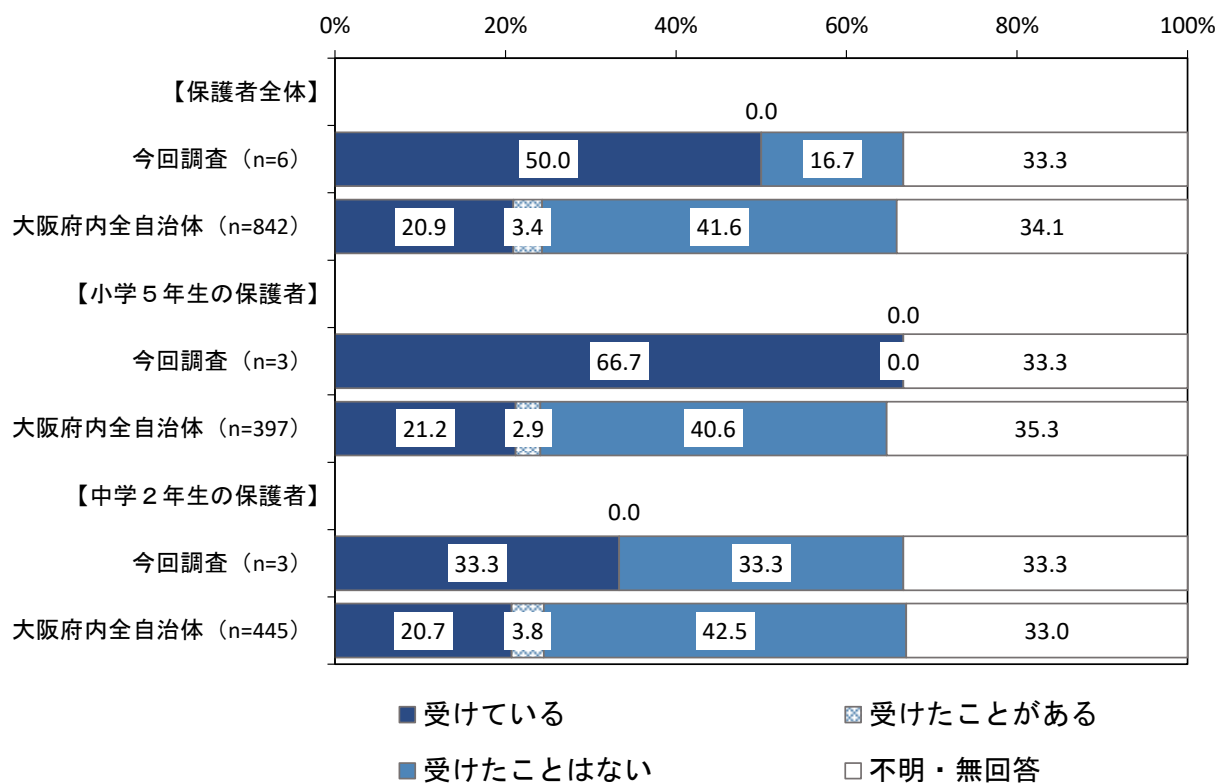


図 29 児童扶養手当（父子世帯）

⑯ 障がいや難病の手当【保護者票】

障がいや難病の手当については、「受けたことはない」が 71.5%で最も高く、次いで「受けている」が 2.7%、「受けたことがある」が 0.9%となっています。

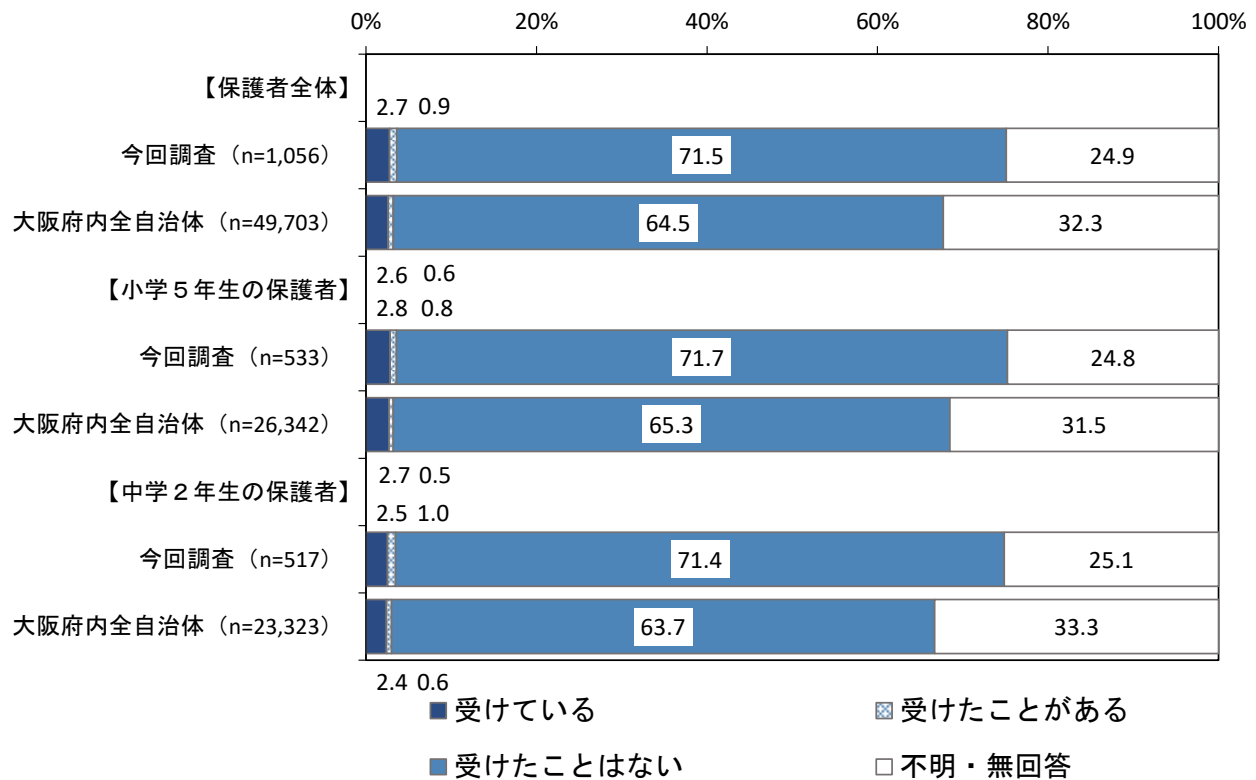


図 30 障がいや難病の手当

⑪ 生活保護【保護者票】

生活保護については、「受けたことはない」が73.6%で最も高く、次いで「受けたことがある」が1.0%、「受けている」が0.6%となっています。

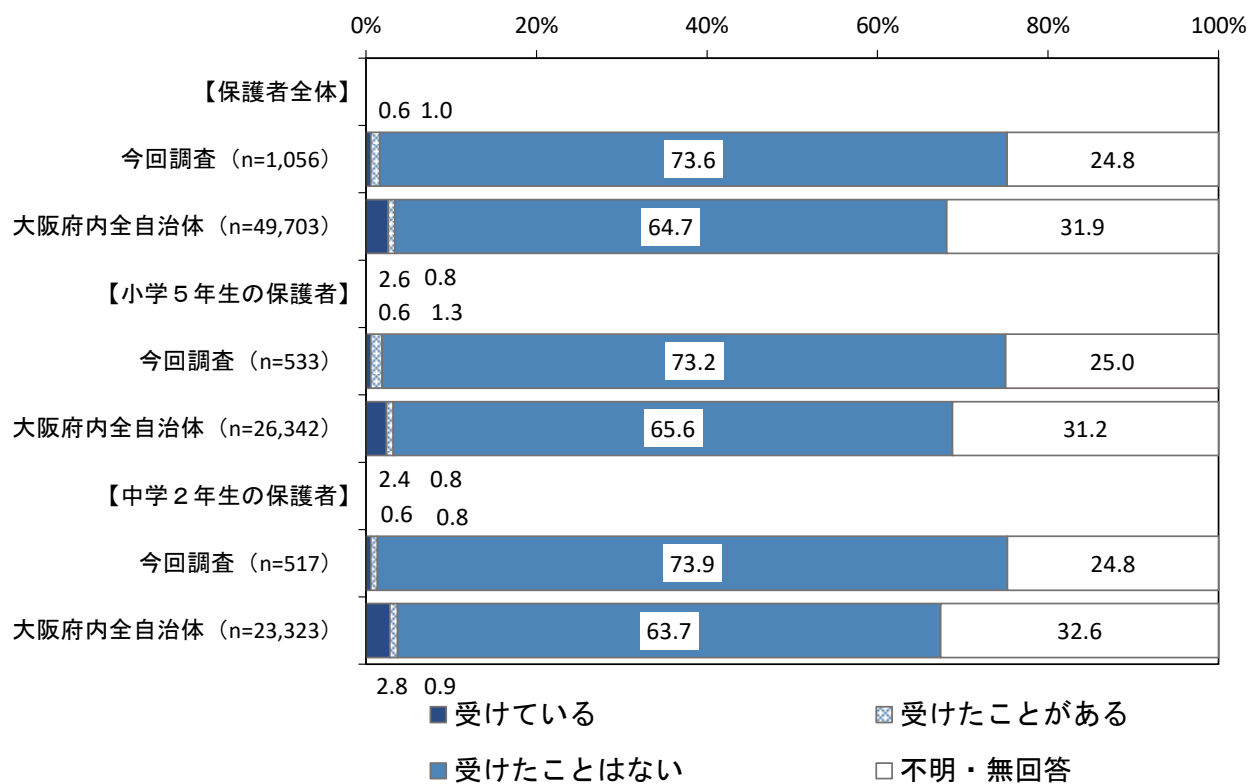


図 31 生活保護

⑱ 公的年金（老齢年金）【保護者票】

公的年金（老齢年金）については、「受けたことはない」が72.6%で最も高く、次いで「受けている」が2.2%、「受けたことがある」が0.1%となっています。

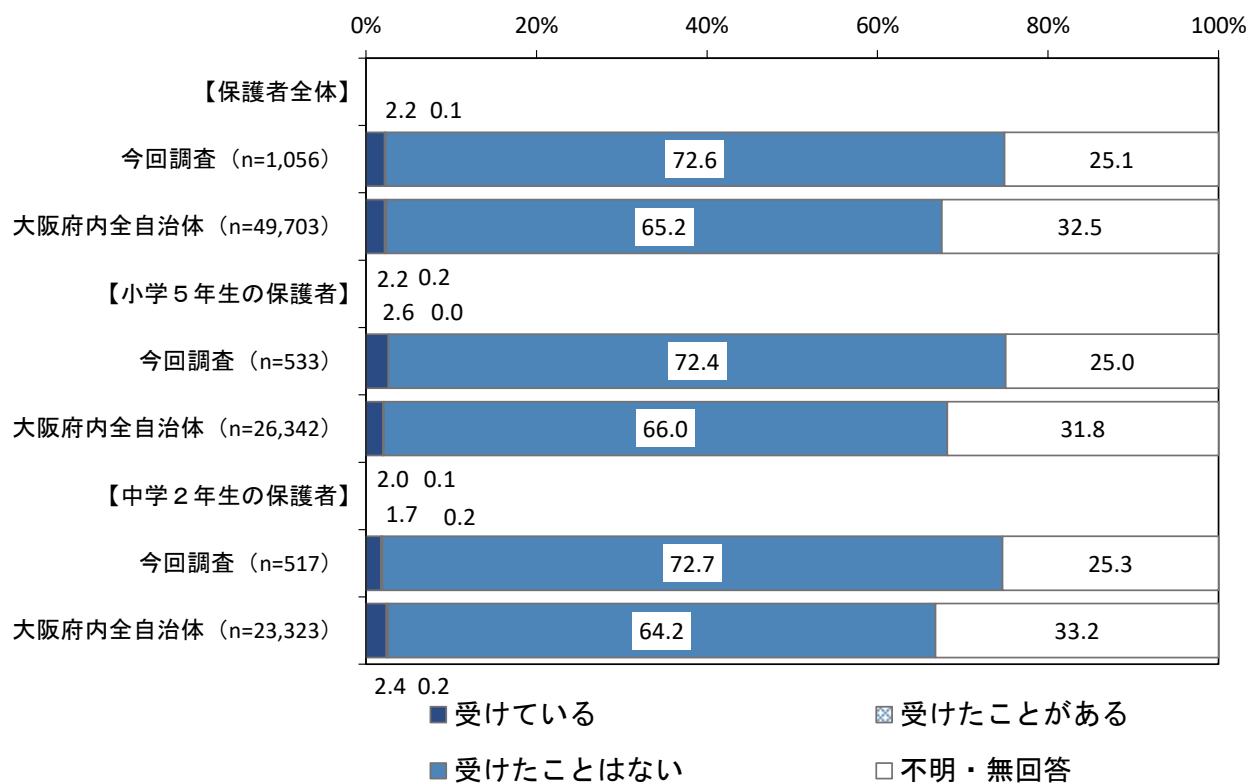


図 32 公的年金（老齢年金）

⑬ 公的年金（遺族年金、障がい年金）【保護者票】

公的年金（遺族年金、障がい年金）については、「受けたことはない」が72.4%で最も高く、次いで「受けている」が2.2%、「受けたことがある」が0.6%となっています。

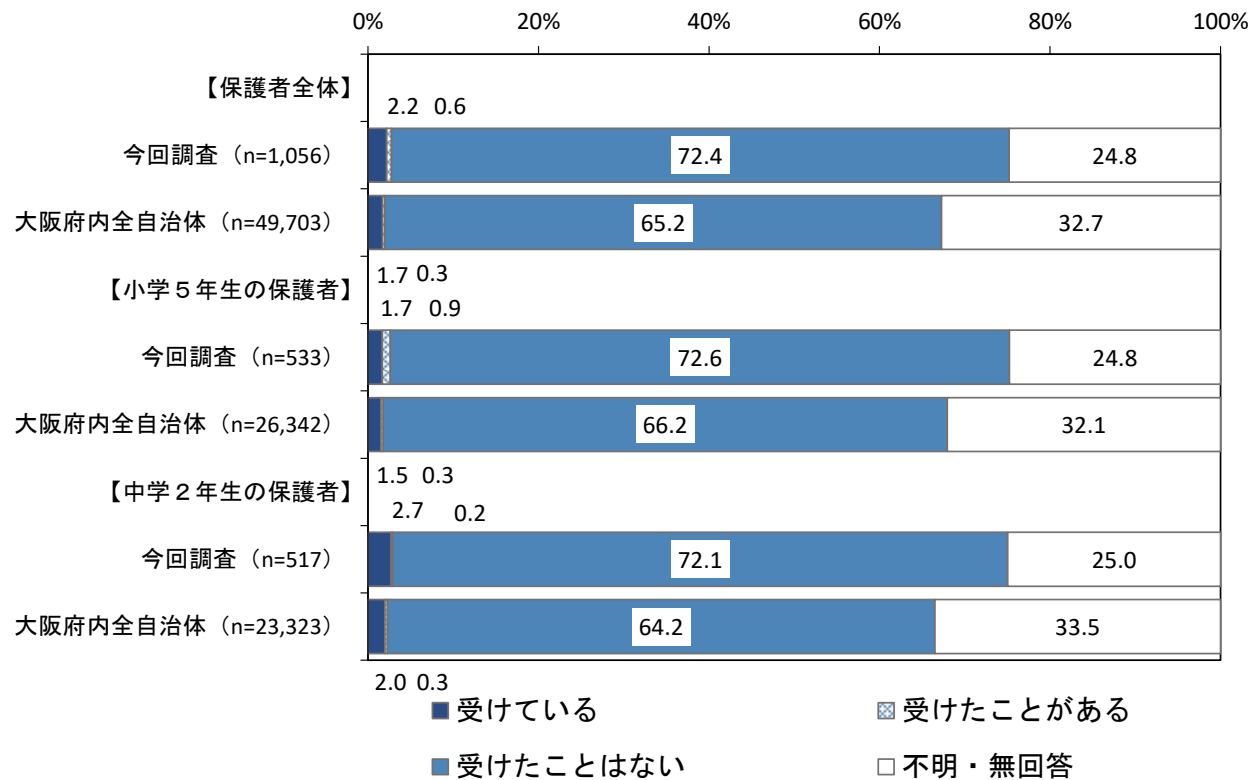


図 33 公的年金（遺族年金、障がい年金）

⑳ 雇用保険（失業保険）【保護者票】

雇用保険（失業保険）については、「受けたことはない」が57.3%で最も高く、次いで「受けたことがある」が16.5%、「受けている」が1.1%となっています。

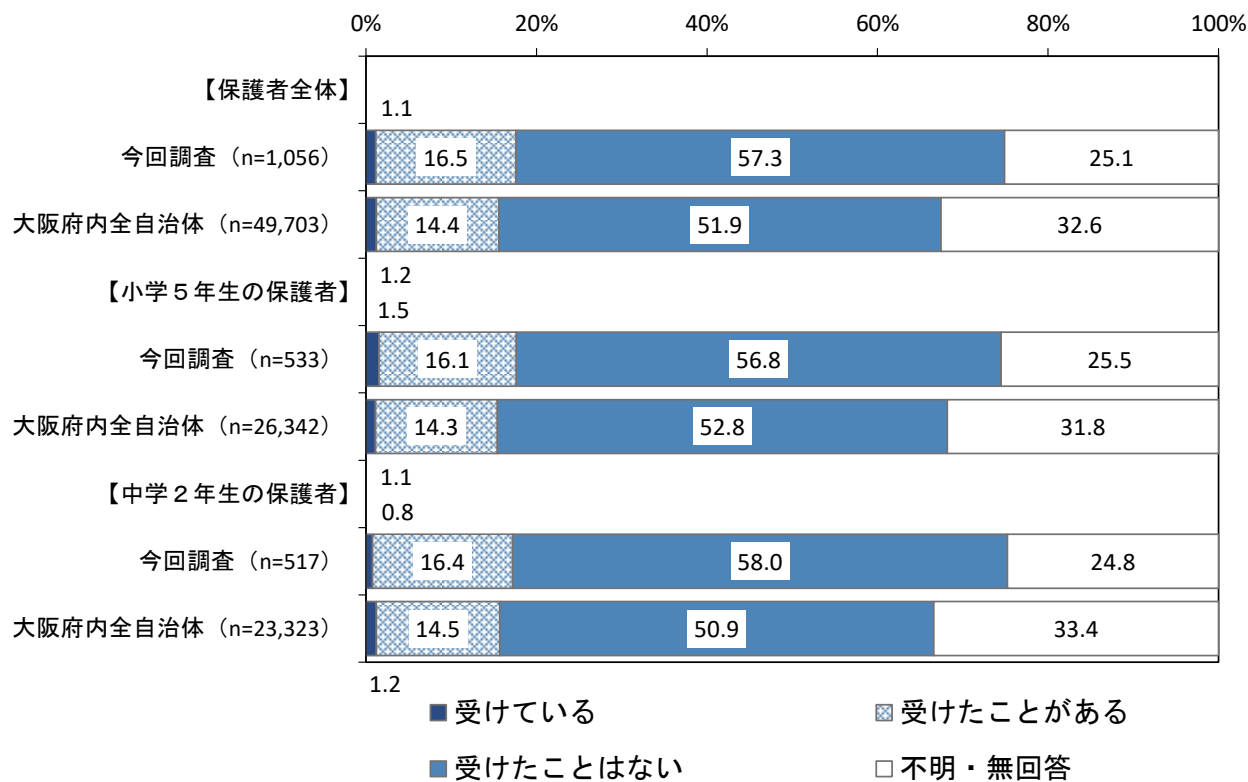


図 34 雇用保険（失業保険）

②① 養育費【保護者票】

養育費については、「受けたことはない」が71.3%で最も高く、次いで「受けている」が3.1%、「受けたことがある」が1.1%となっています。

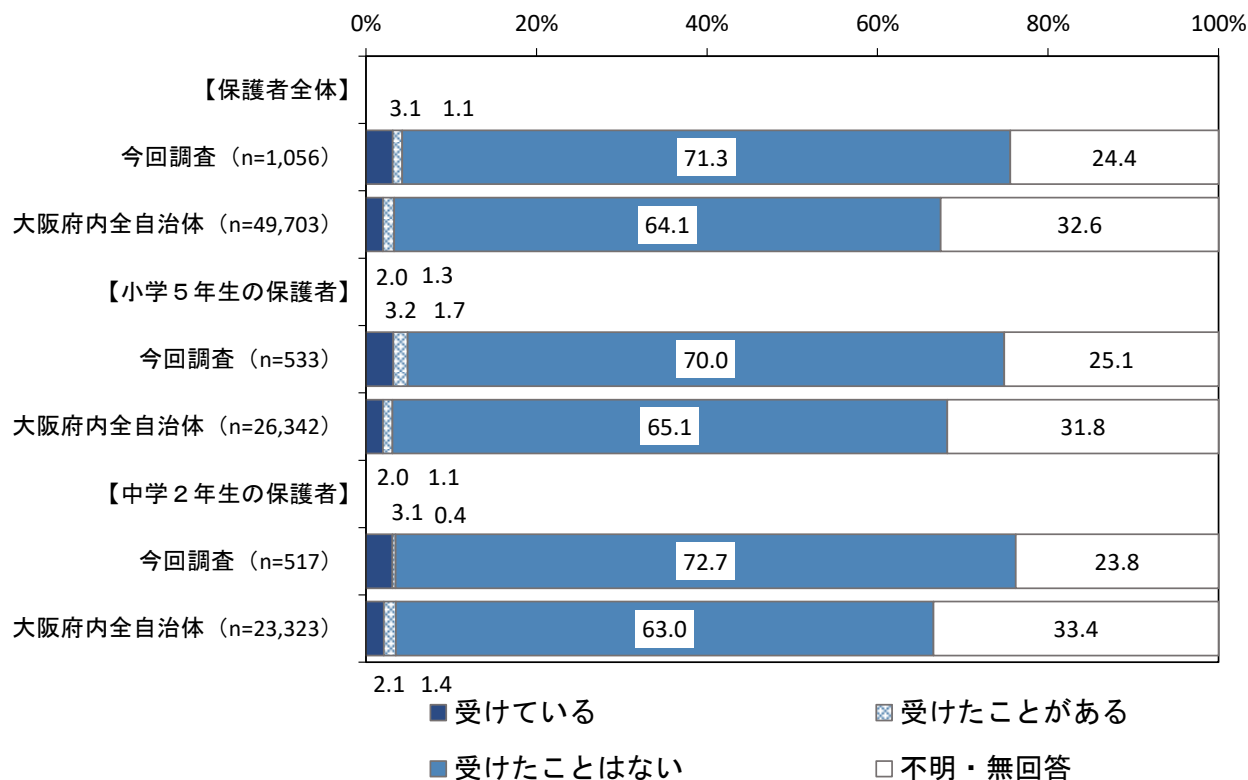


図 35 養育費

②1- 1 養育費（ひとり親世帯）

ひとり親世帯の養育費については、「受けたことはない」が43.2%で最も高く、次いで「受けている」が20.7%、「受けたことがある」が7.2%となっています。

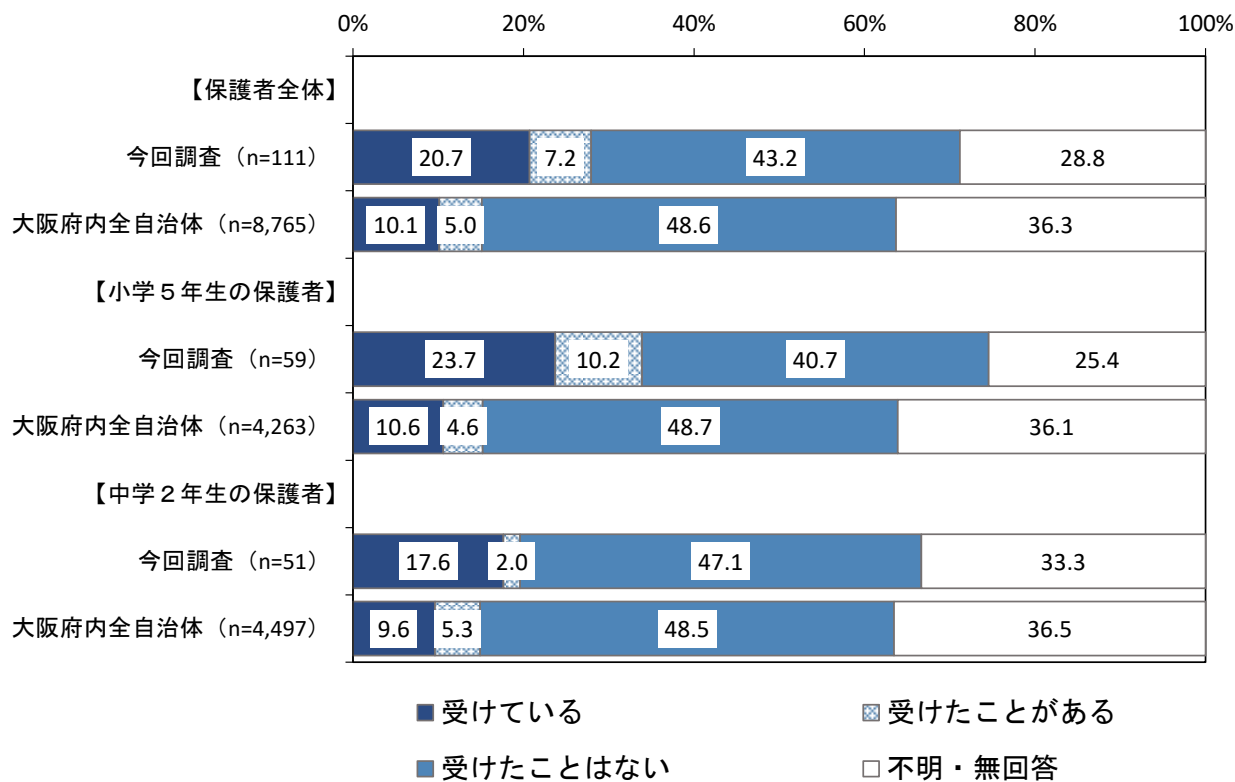


図 36 養育費（ひとり親世帯）

②① - 2 養育費（母子世帯）

母子世帯の養育費については、「受けたことはない」が42.9%で最も高く、次いで「受けている」が21.9%、「受けたことがある」が7.6%となっています。

学年別でみると、「受けたことはない」では、小学5年生の保護者（39.3%）に比べ中学2年生の保護者（47.9%）の割合が高くなっています。

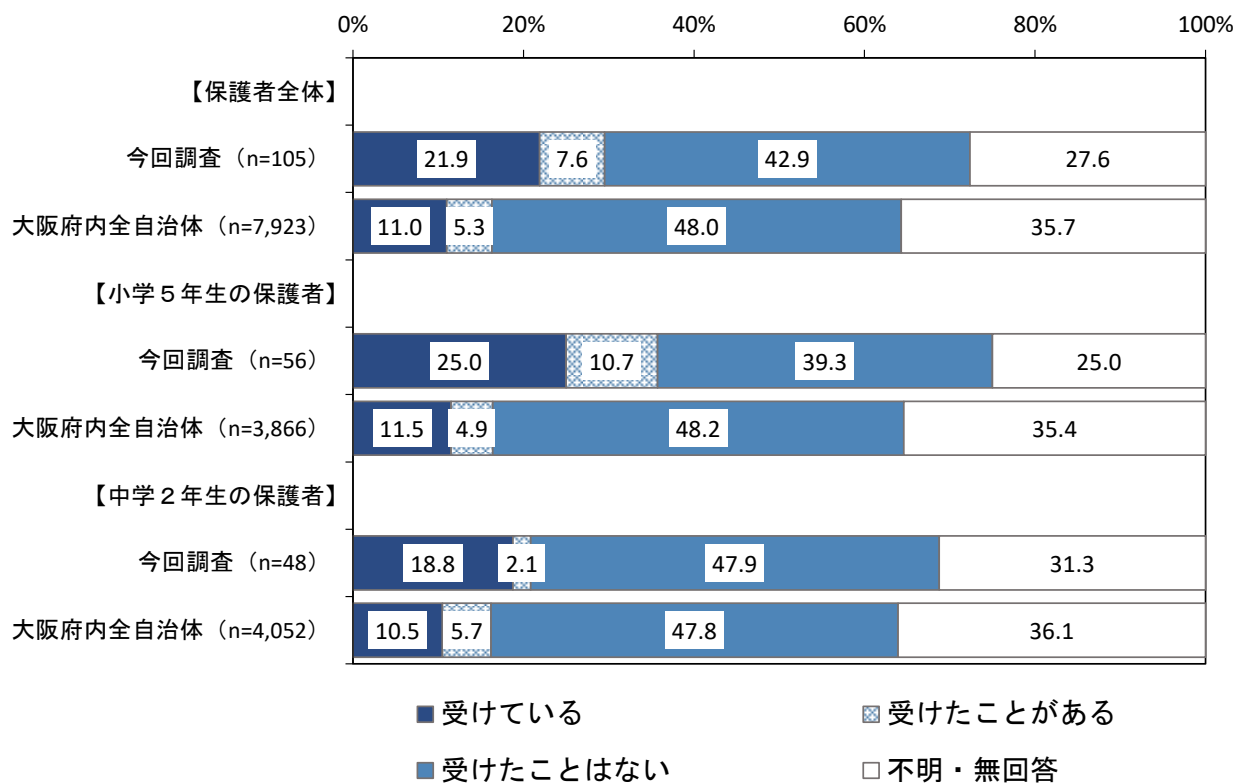


図 37 養育費（母子世帯）

②② 親・親族からの仕送り【保護者票】

親・親族からの仕送りについては、「受けたことはない」が65.1%で最も高く、次いで「受けたことがある」が9.0%、「受けている」が1.5%となっています。

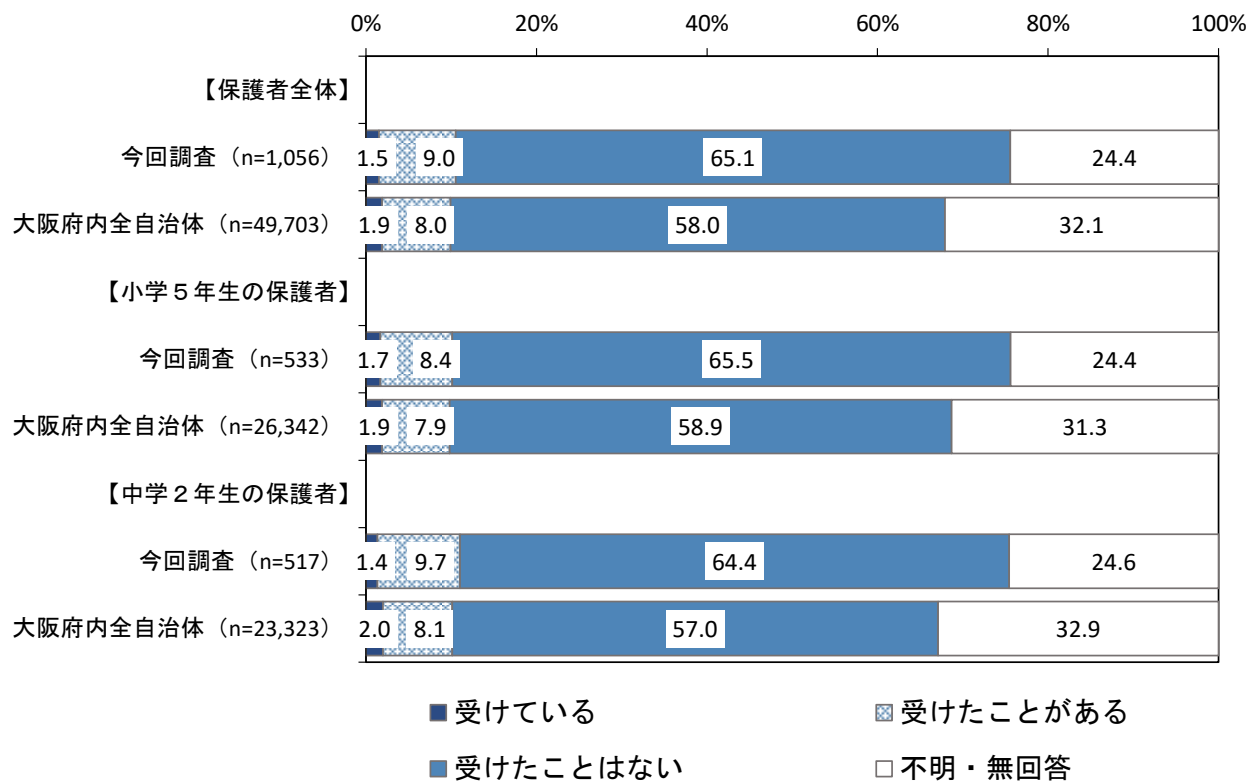


図 38 親・親族からの仕送り

②③ 退職金【保護者票】

退職金については、「受けたことはない」が64.4%で最も高く、次いで「受けたことがある」が10.3%、「受けたことがある」が0.6%となっています。

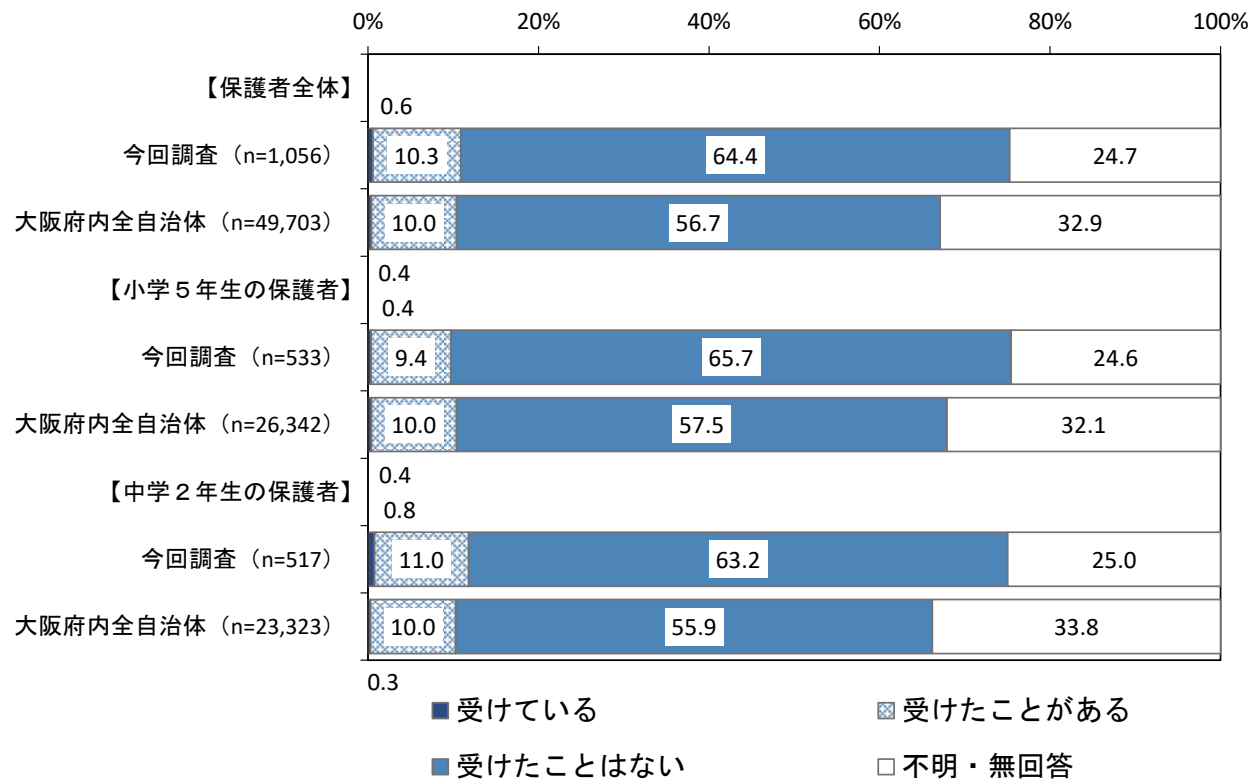


図 39 退職金

②④ その他、株式配当などの副収入【保護者票】

その他、株式配当などの副収入については、「受けたことはない」が 65.5%で最も高く、次いで「受けたことがある」が 6.5%、「受けている」が 3.9%となっています。

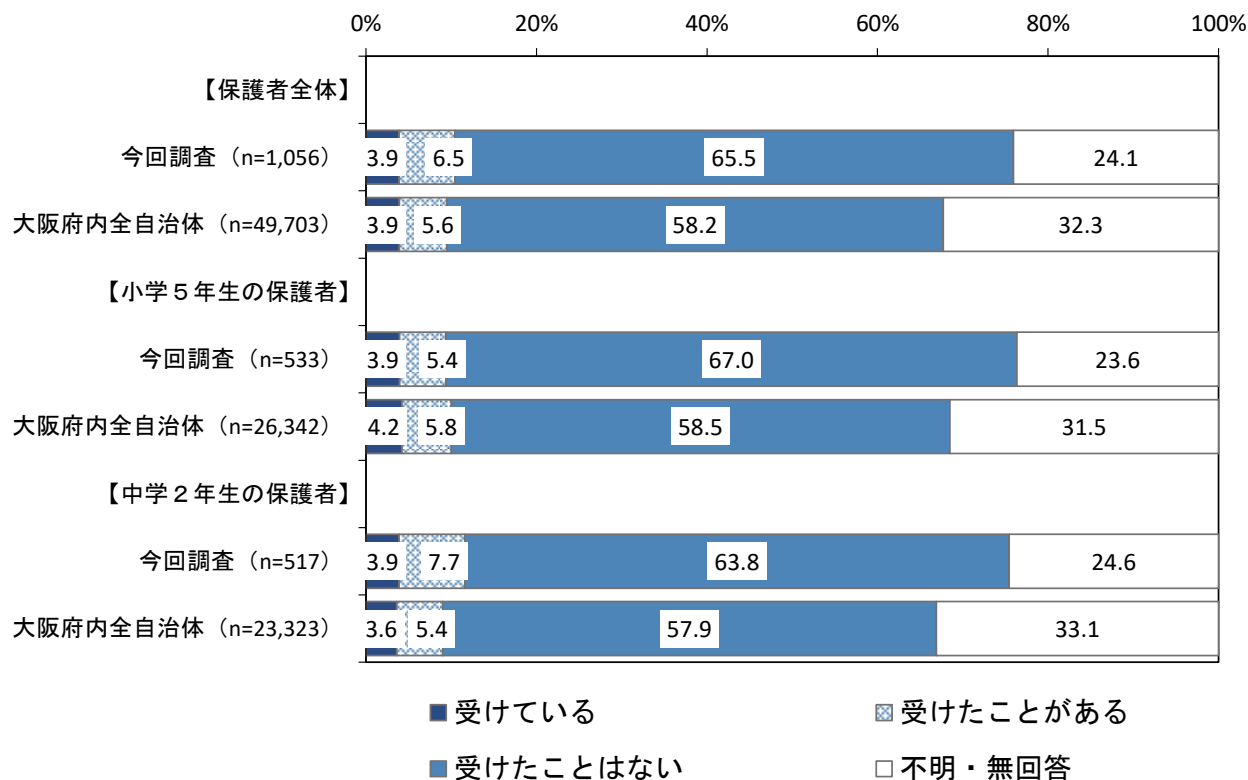


図 40 その他、株式配当などの副収入

②⑤ おこづかいの金額【子ども票】

おこづかいの金額については、「もらっていない」が34.9%で最も高く、次いで「500～999円」が16.2%、「1,000～1,499円」が13.3%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「もらっていない」では、小学5年生（40.2%）、中学2年生（29.3%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

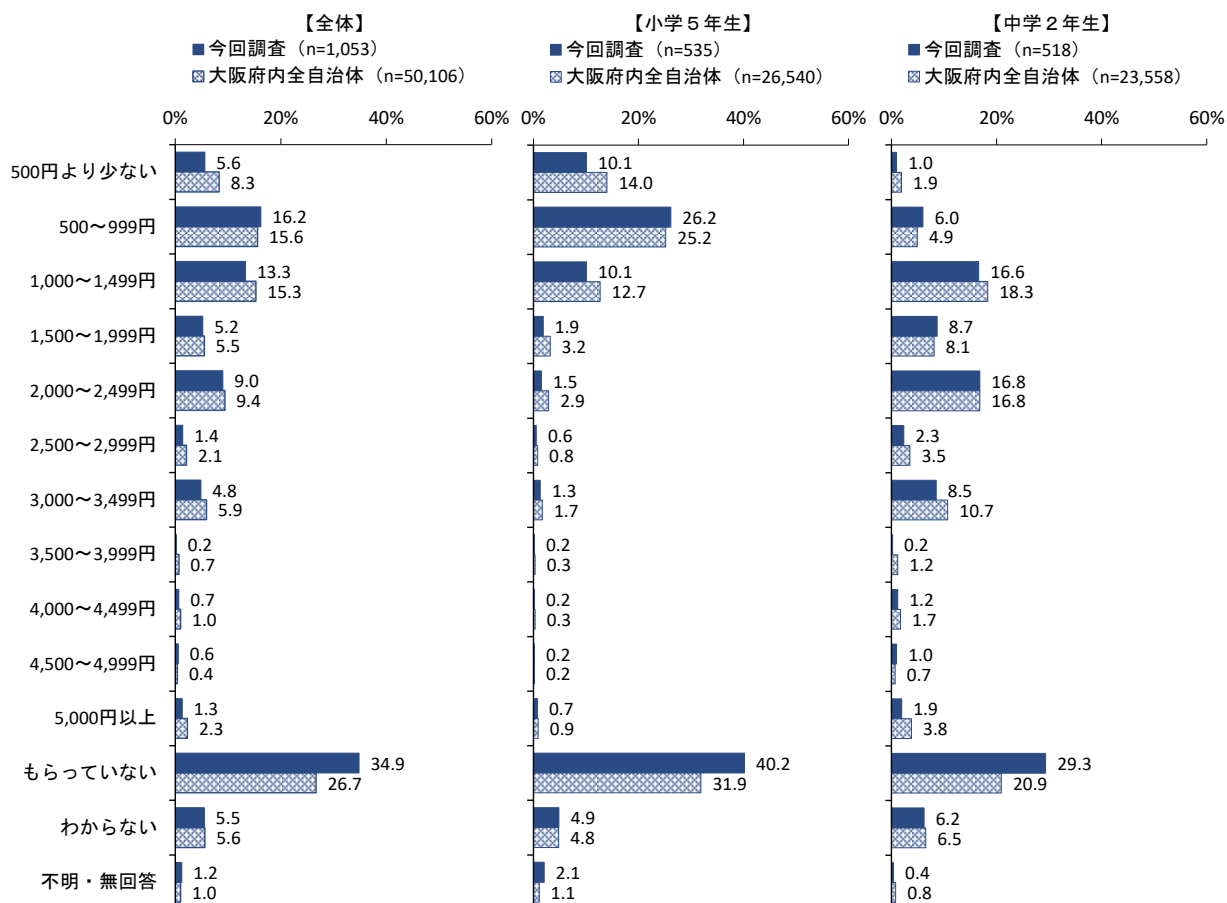


図 41 おこづかいの金額

②⑤-1 毎月のおこづかいは足りているか【子ども票】

毎月のおこづかいは足りているかについては、「十分たりている」が 34.0%で最も高く、次いで「どちらかと言え、たりている」が 15.2%、「ややたりない」が 7.1%と続いています。

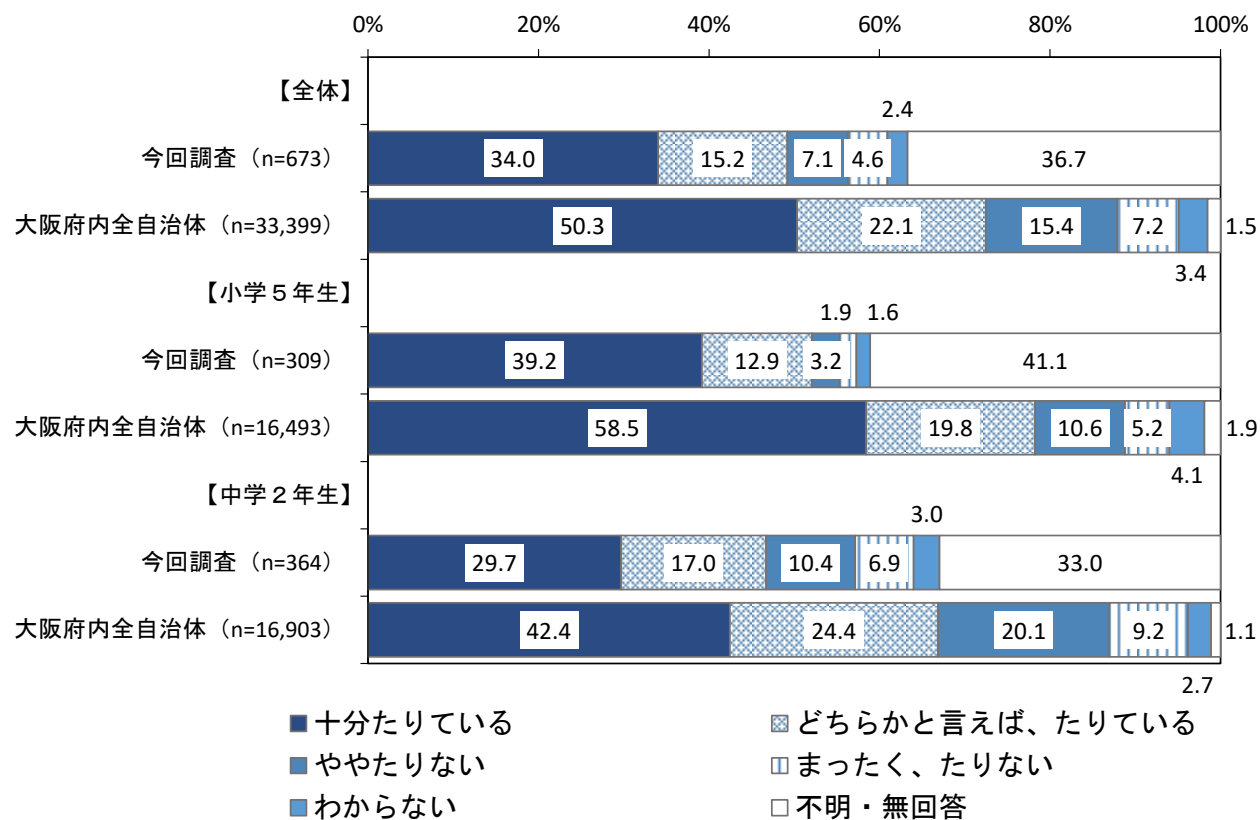


図 42 毎月のおこづかいは足りているか

②5-2 毎月のおこづかいの使い道【子ども票】

毎月のおこづかいの使い道については、「貯金」が44.3%で最も高く、次いで「ともだちとの遊び」が41.8%、「食べ物や飲み物」が39.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「学校で使う必要なもの」、「本」、「ゲーム関連(機器、ソフト、アプリ)」、「音楽関連(CD、DVD、曲のダウンロード)」では、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

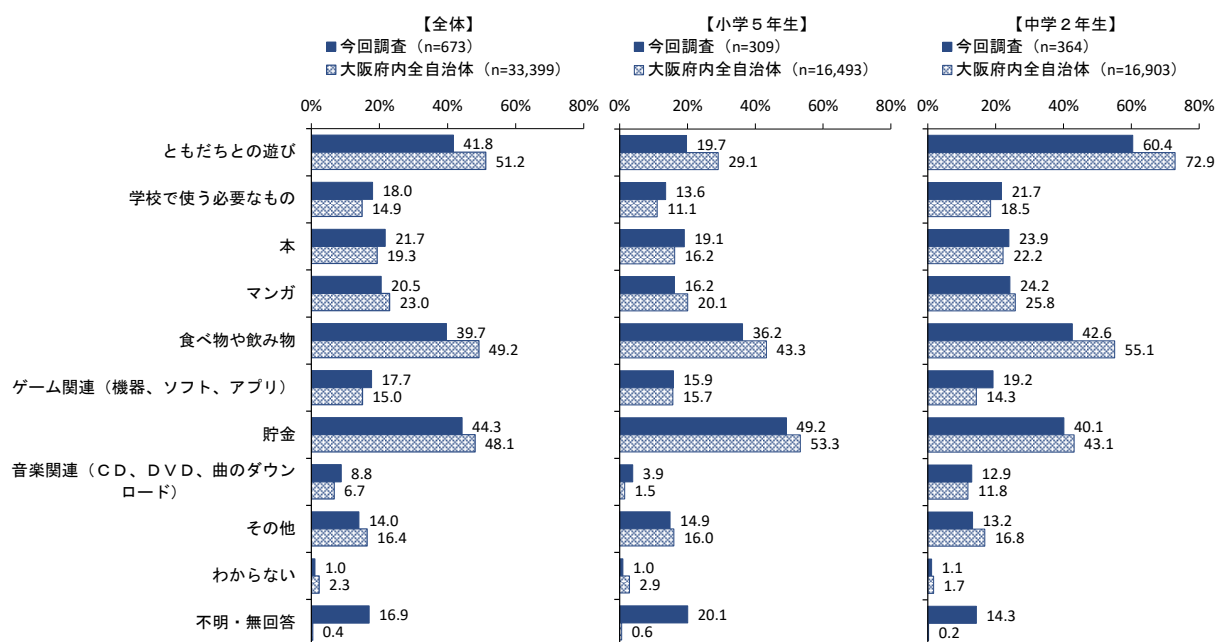


図 43 毎月のおこづかいの使い道

(2) 生活環境

① 世帯員の人数【保護者票】

世帯員の人数については、「4人」が47.0%で最も高く、次いで「5人」が28.2%、「3人」が11.6%と続いています。

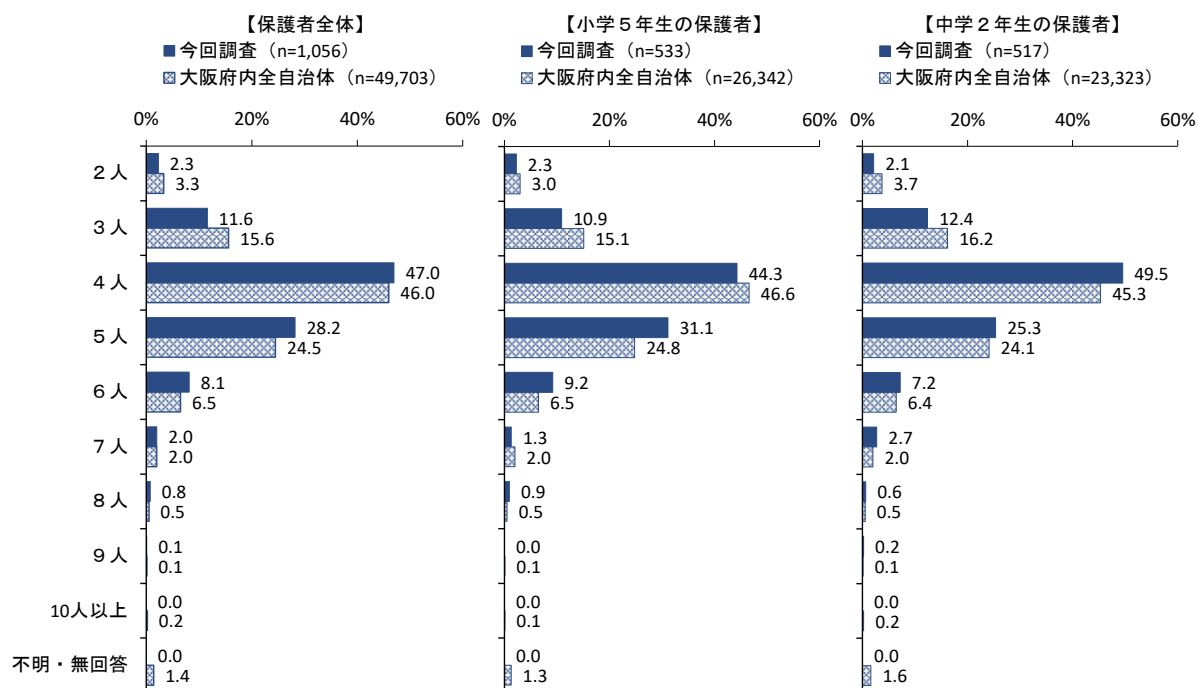


図44 世帯員の人数

② 子どもの人数【保護者票】

子どもの人数については、「2人」が52.4%で最も高く、次いで「3人」が28.4%、「1人」が12.4%と続いています。

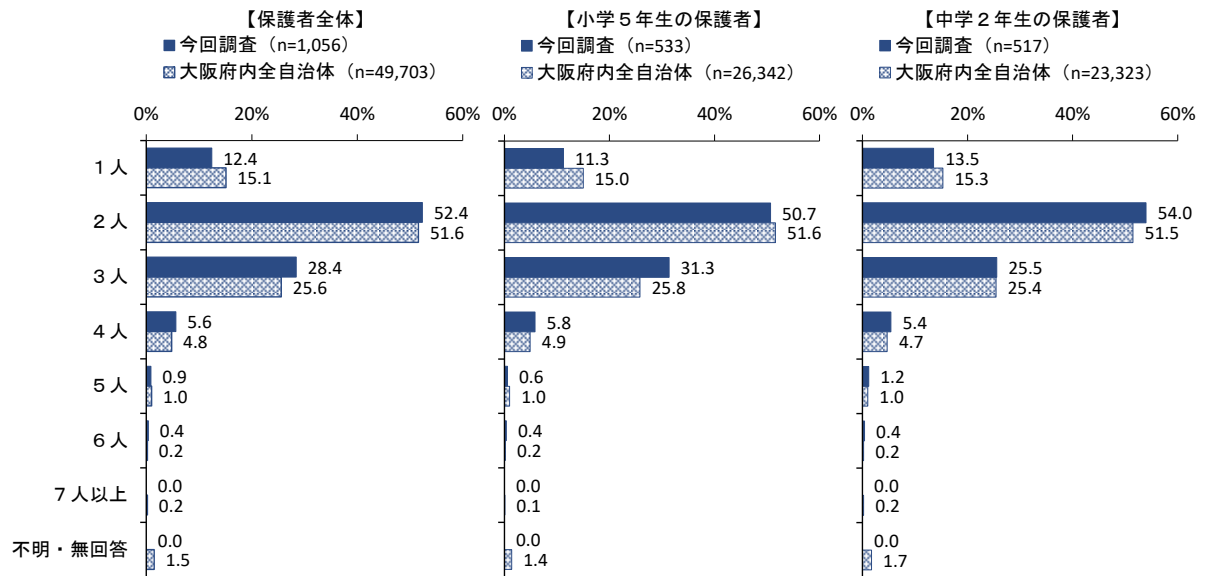


図 45 子どもの人数

②-1 小学校入学前の子どもの人数【保護者票】

小学校入学前の子どもの人数については、「いない」が86.5%で最も高く、次いで「1人」が11.6%、「2人」が1.9%と続いています。

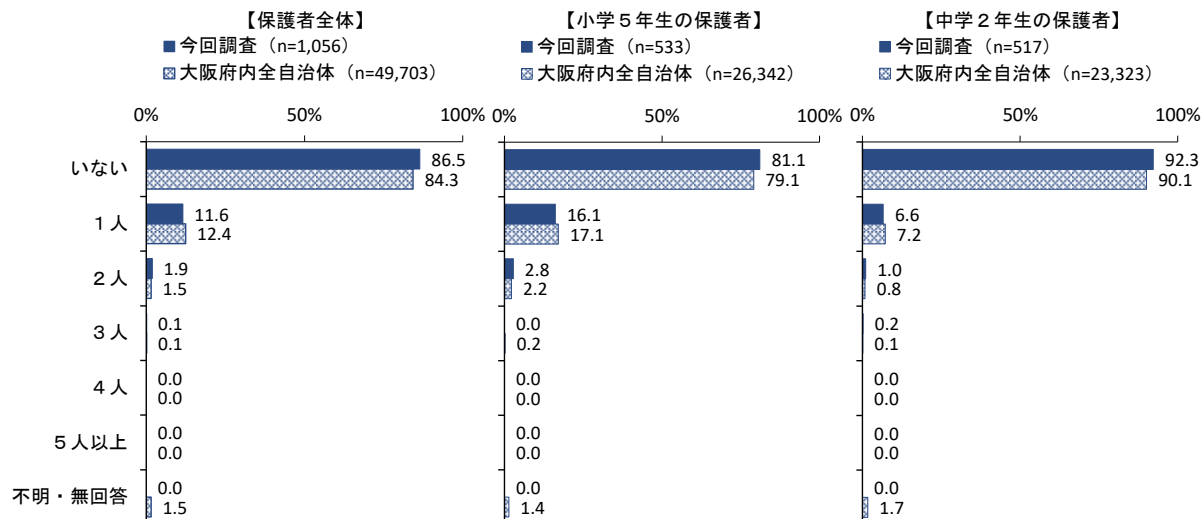


図 46 小学校入学前の子どもの人数

②-2 小学校1年生から18歳未満の子どもの人数【保護者票】

小学校1年生から18歳未満の子どもの人数については、「2人」が55.9%で最も高く、次いで「1人」が24.3%、「3人」が18.2%と続いています。

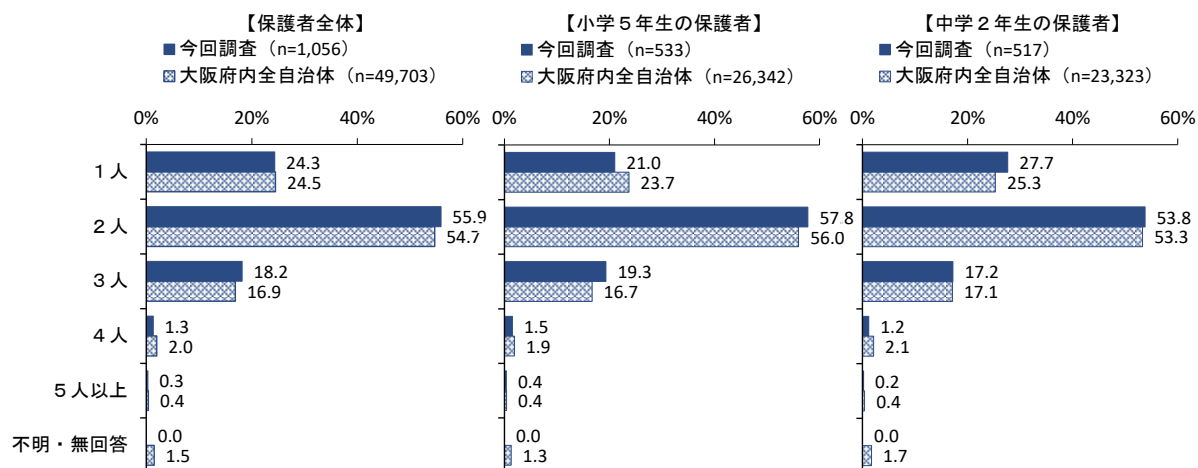


図 47 小学校1年生から18歳未満の子どもの人数

②-3 18歳以上の子どもの人数【保護者票】

18歳以上の子どもの人数については、「いない」が85.3%で最も高く、次いで「1人」が11.4%、「2人」が3.2%と続いています。

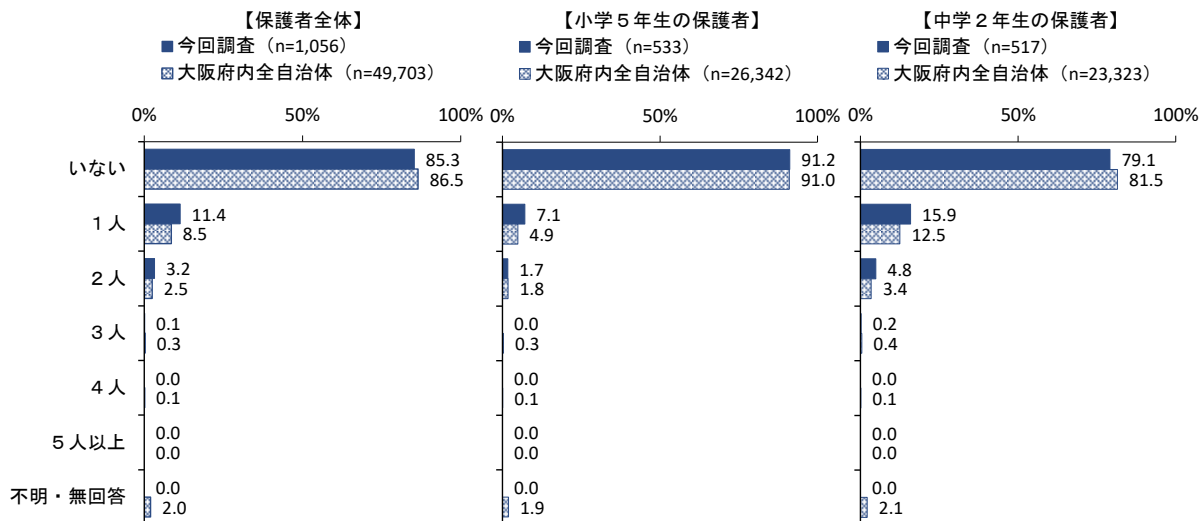


図 48 18歳以上の子どもの人数

③ 世帯員の構成【保護者票】

世帯員の構成については、「この調査票を受け取ったお子さん本人」が 99.5%で最も高く、次いで「お母さん」が 98.4%、「お父さん」が 85.4%と続いています。

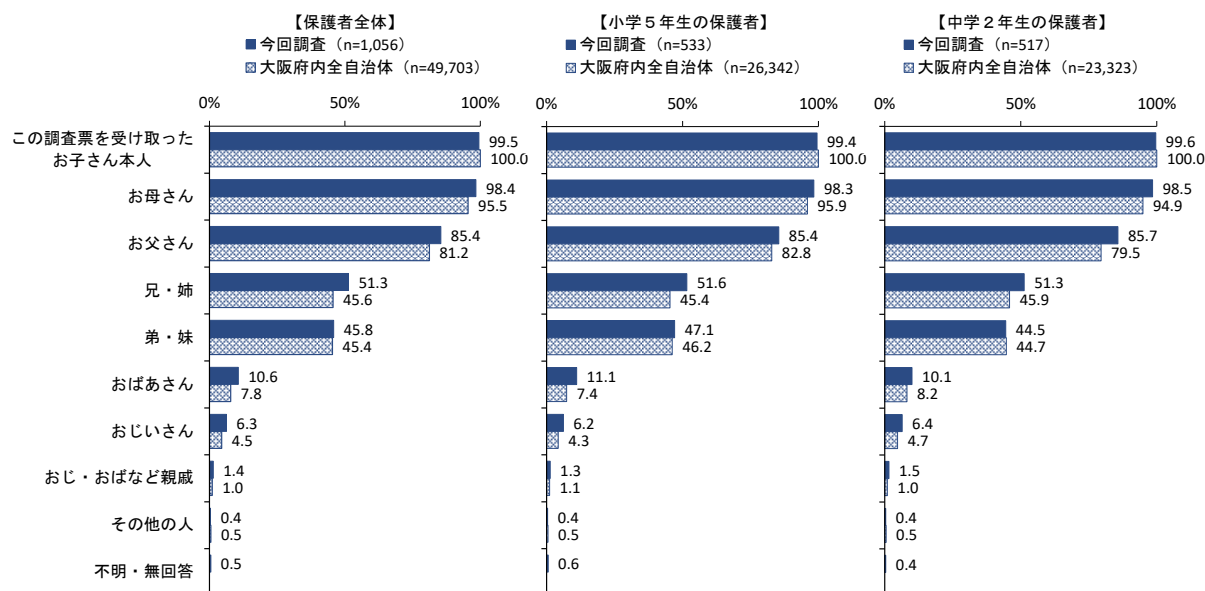


図 49 世帯員の構成

世帯構成の分類について

世帯構成について以下の通り分類しました。

ふたり親世帯：お父さん・お母さんのいる世帯

父子世帯：お父さんがおり、お母さんのいない世帯

母子世帯：お母さんがおり、お父さんのいない世帯

その他世帯：上記以外の世帯

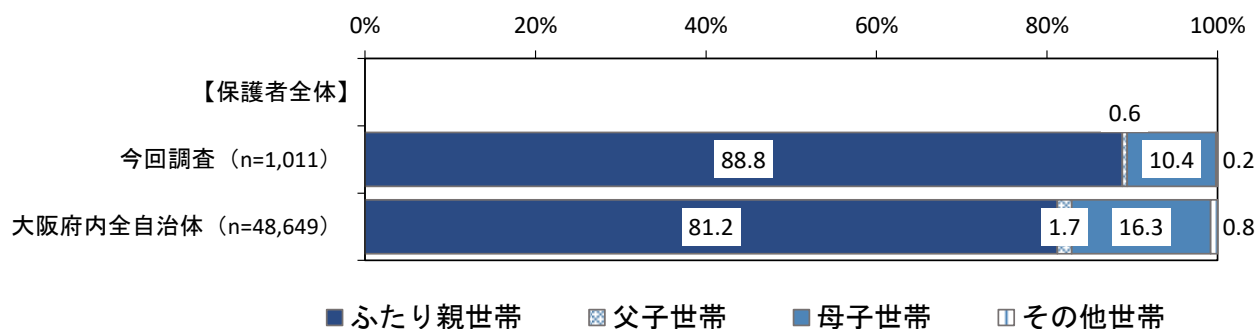


図 50 世帯構成まとめ

④ 住居【保護者票】

住居については、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が 86.6%で最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」が 8.2%、「府営・市営の住宅」が 2.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」では、小学 5 年生の保護者（87.2%）、中学 2 年生の保護者（86.5%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

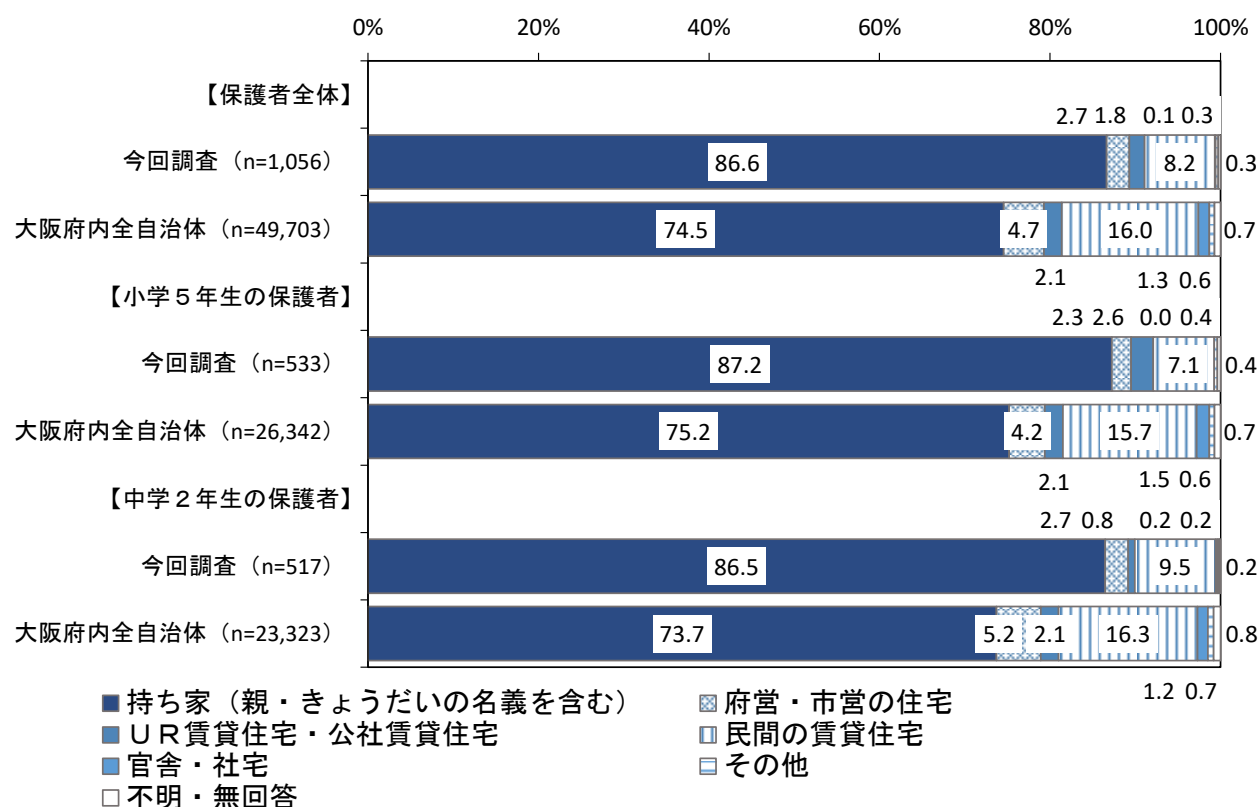


図 51 住居

⑤ 保護者の在宅時間【保護者票】

保護者の在宅時間については、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が50.0%で最も高く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が38.6%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」では、小学5年生の保護者（54.2%）、中学2年生の保護者（45.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

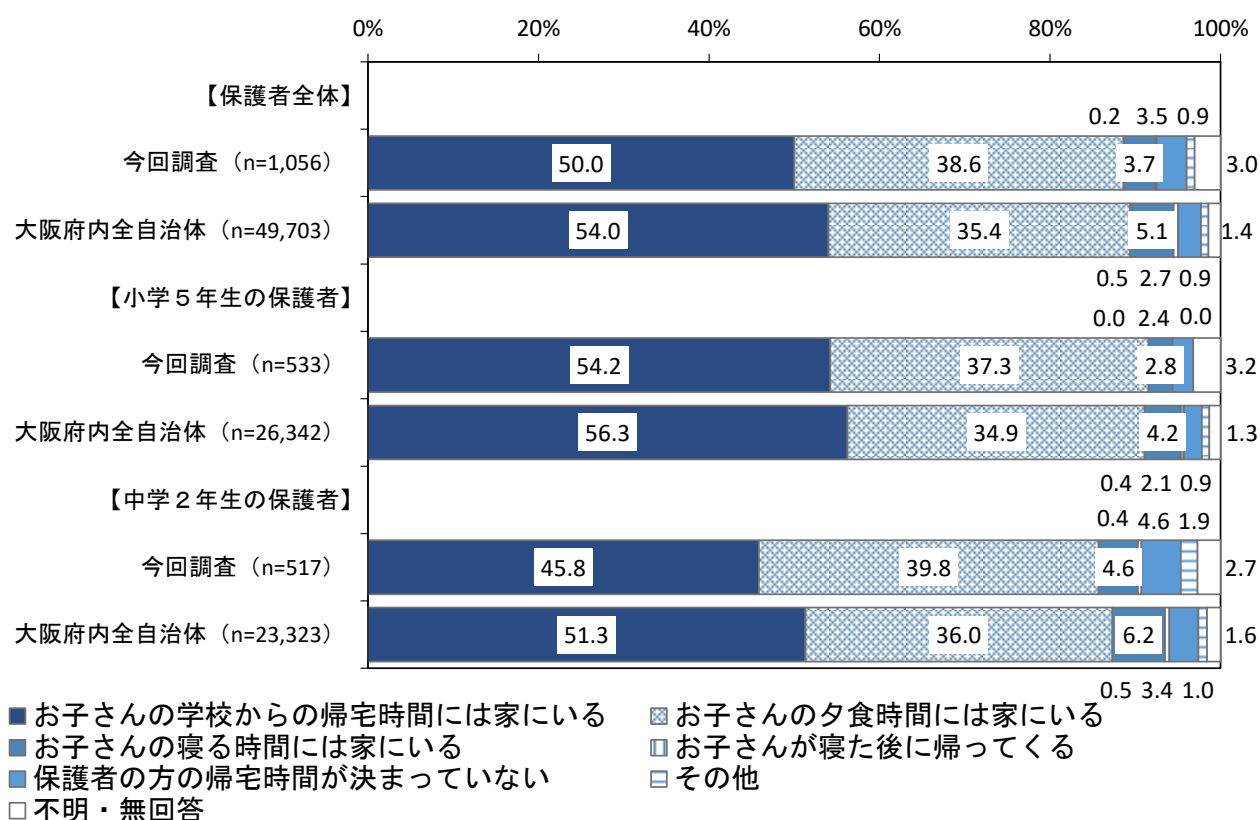


図 52 保護者の在宅時間

⑥ 子どもと過ごす時間が長い人【保護者票】

子どもと過ごす時間が長い人については、「お母さん」が 86.0%で最も高く、次いで「兄・姉」が 22.8%、「弟・妹」が 21.6%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「お父さん」、「兄・姉」、「弟・妹」では、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低く、「おばあさん」、「おじいさん」では、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

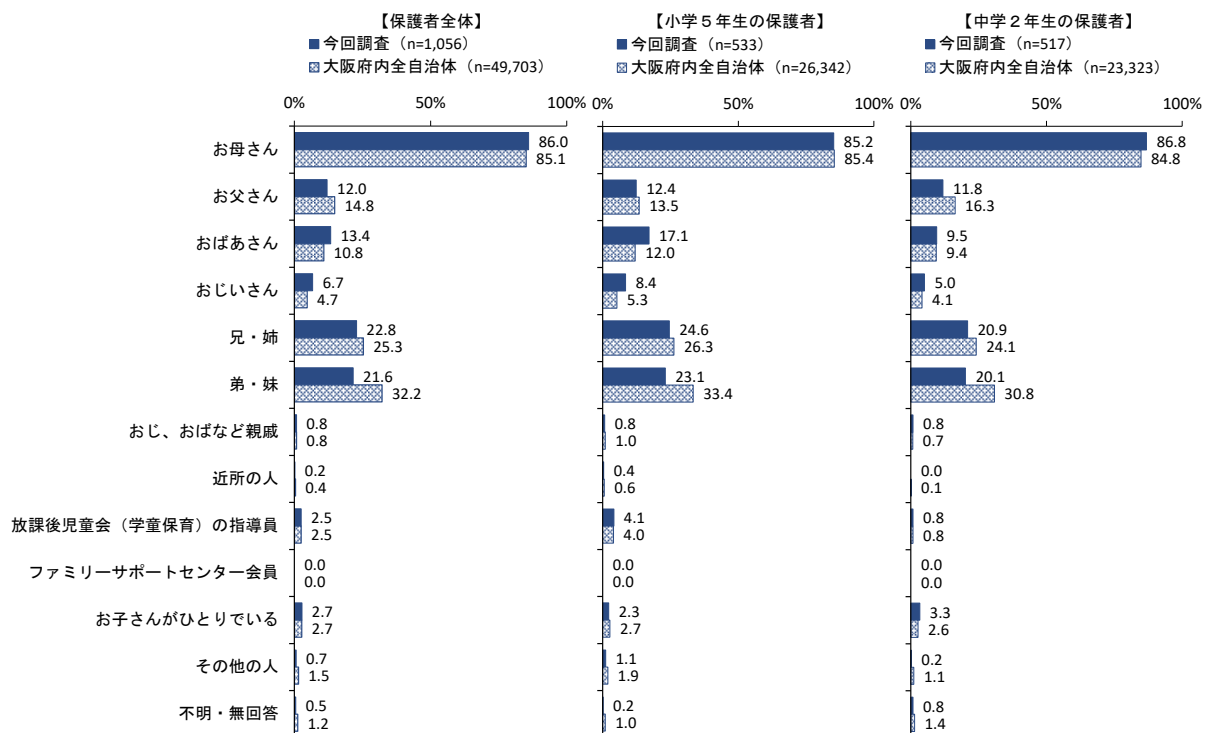


図 53 子どもと過ごす時間が長い人

⑦ 子どもへの信頼度【保護者票】

子どもへの信頼度については、「とても信頼している」が 53.7%で最も高く、次いで「信頼している」が 41.9%、「あまり信頼していない」が 3.5%と続いており、『信頼している』（「とても信頼している」と「信頼している」の合計）は 95.5%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「とても信頼している」では、小学5年生の保護者が 60.8%で、大阪府内全自治体（51.0%）に比べ割合が高くなっています。

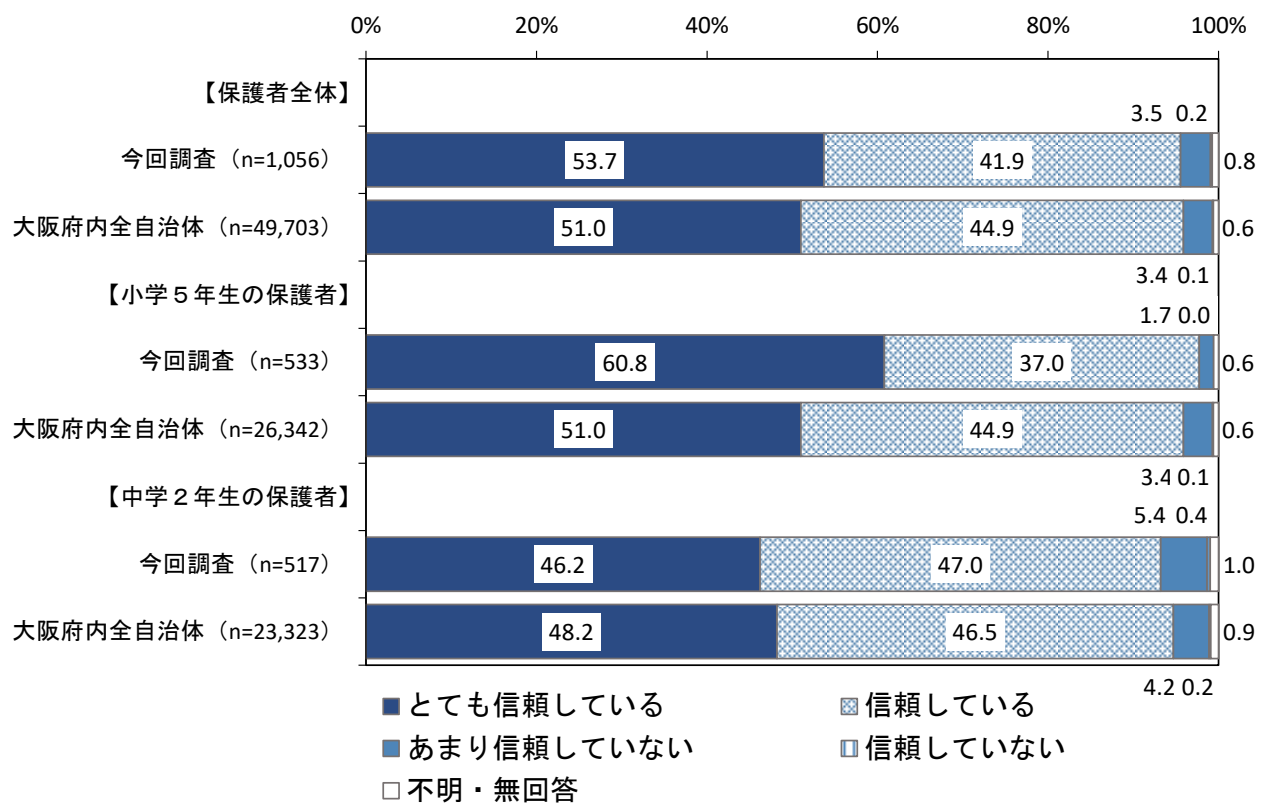


図 54 子どもへの信頼度

⑧ 子どもと会話【保護者票】

子どもと会話については、「よくする」が63.5%で最も高く、次いで「する」が33.7%、「あまりしない」が2.5%と続いており、『する』（「よくする」と「する」の合計）は97.3%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「よくする」では、中学2年生の保護者が56.7%で、大阪府内全自治体（61.5%）に比べ割合が低くなっています。

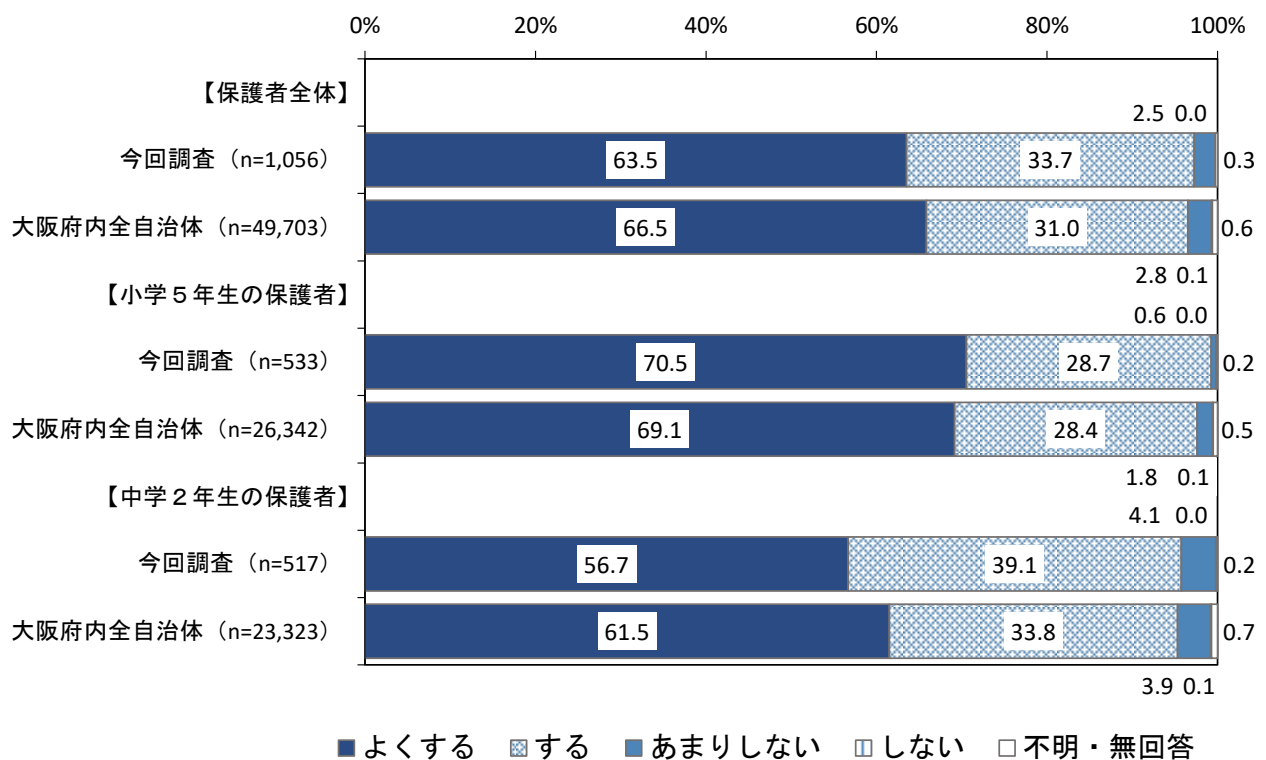


図 55 子どもと会話

⑨ 子どもと一緒にいる時間（平日）【保護者票】

平日の子どもと一緒にいる時間については、「1時間～2時間未満」が24.2%で最も高く、次いで「2時間～3時間未満」が16.7%、「30分～1時間未満」が16.4%と続いています。

学年別でみると、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者いずれも「1時間～2時間未満」の割合が最も高く、小学5年生の保護者では次いで「2時間～3時間未満」(17.6%)が高く、中学2年生の保護者では次いで「30分～1時間未満」(19.1%)が高くなっています。

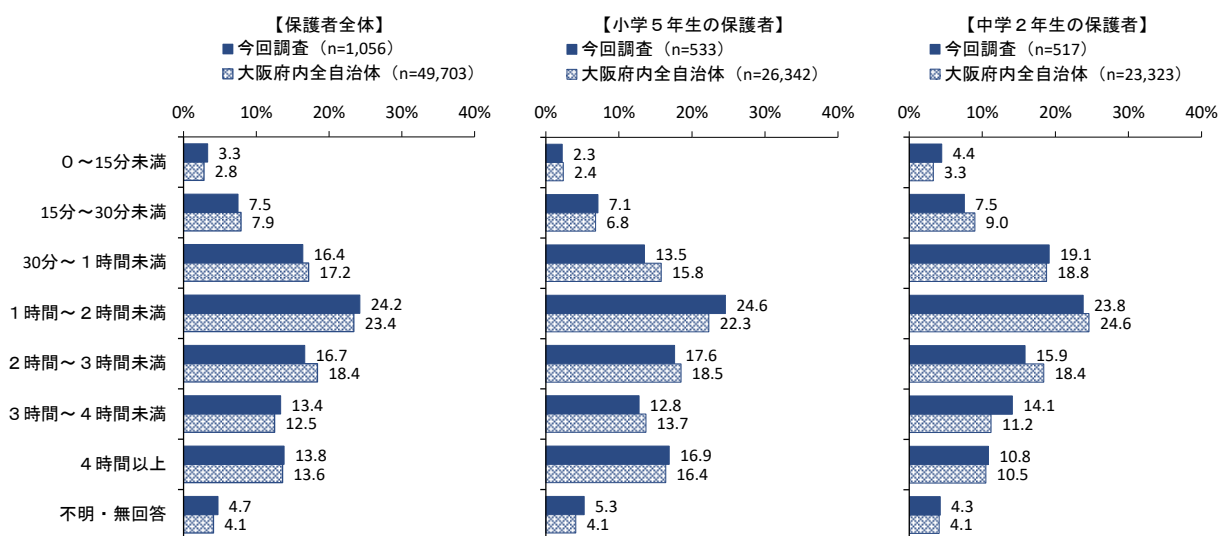


図 56 子どもと一緒にいる時間（平日）

⑩ 子どもと一緒にいる時間（休日）【保護者票】

休日の子どもと一緒にいる時間については、「10 時間以上」が 18.4%で最も高く、次いで「2 時間～4 時間未満」が 17.8%、「4 時間～6 時間未満」が 15.6%と続いています。

学年別でみると、小学 5 年生の保護者では「10 時間以上」(23.8%) の割合が最も高く、中学 2 年生の保護者では「2 時間～4 時間未満」(18.8%) の割合が最も高くなっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「10 時間以上」では、小学 5 年生の保護者 (23.8%)、中学 2 年生の保護者 (13.0%) いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

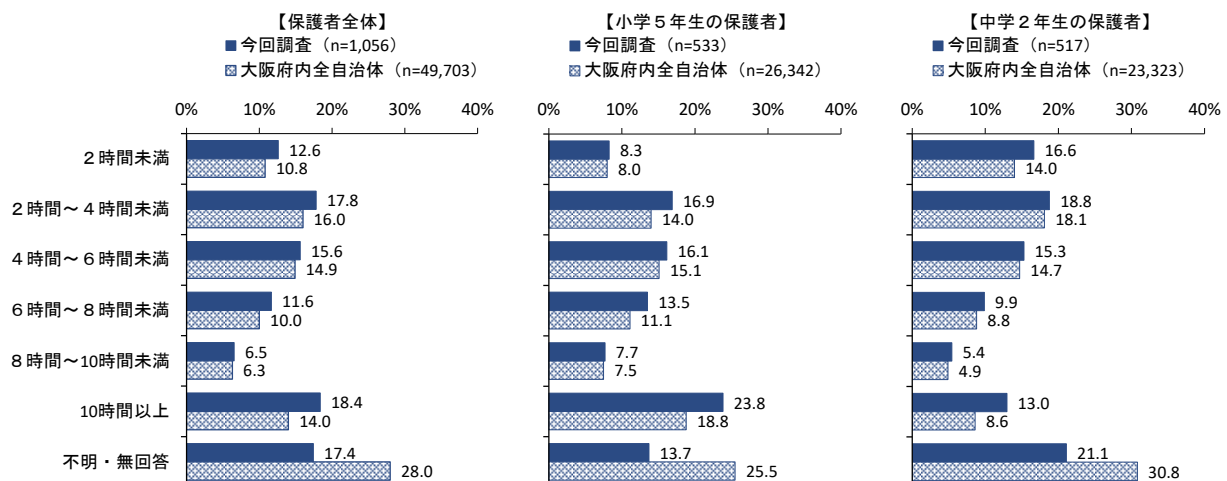


図 57 子どもと一緒にいる時間（休日）

⑪ 子どもへの将来の期待【保護者票】

子どもへの将来の期待については、「期待している」が65.0%で最も高く、次いで「とても期待している」が20.7%、「あまり期待していない」が12.0%と続いており、『期待している』（「とても期待している」と「期待している」の合計）は85.7%となっています。

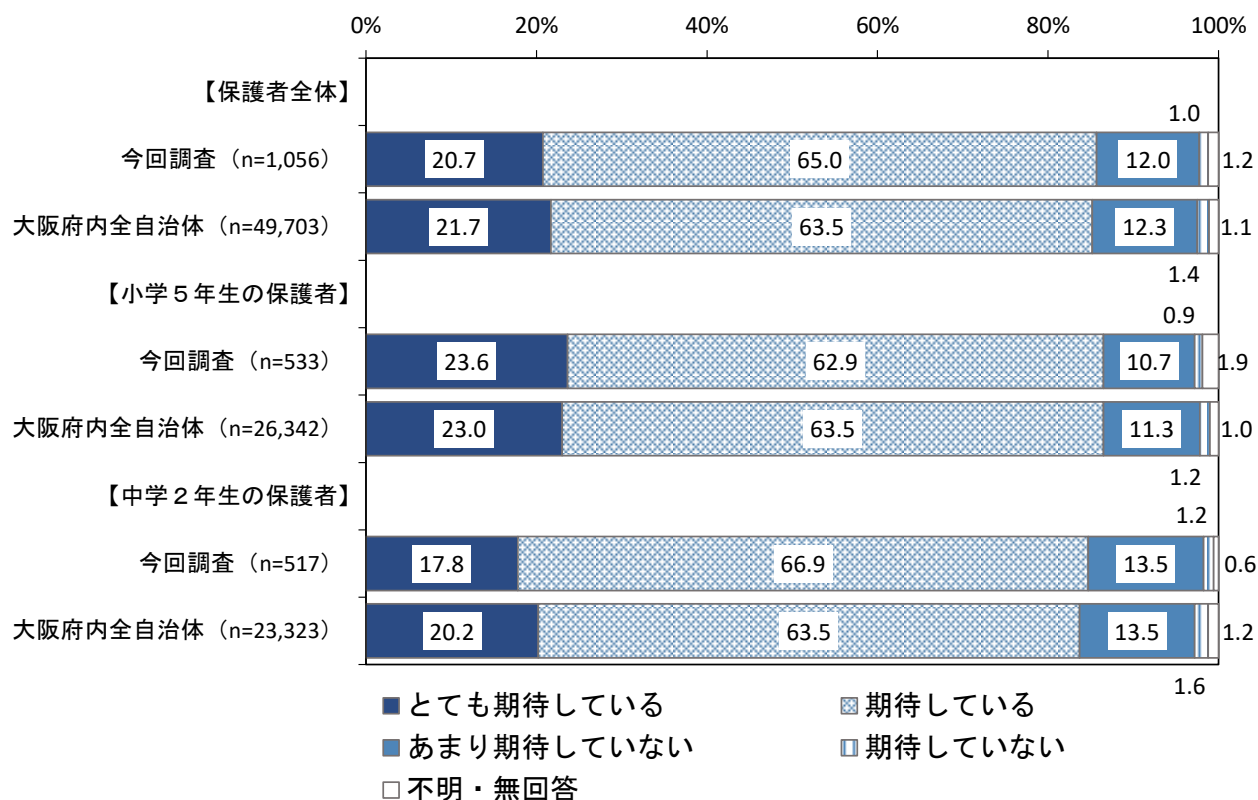


図 58 子どもへの将来の期待

⑫ 初めて親となった年齢【保護者票】

初めて親となった年齢については、「27～30 歳」が 35.6%で最も高く、次いで「24～26 歳」が 23.2%、「31～34 歳」が 19.2%と続いています。

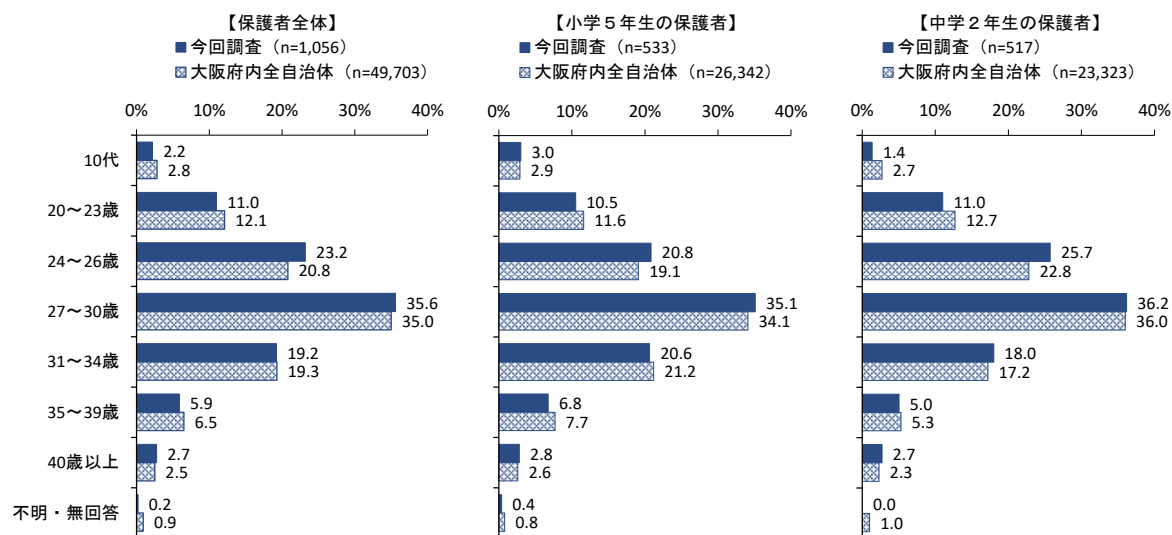


図 59 初めて親となった年齢

⑬ 起床時間の規則性【子ども票】

起床時間の規則性（平日にほぼ同じ時刻に起きているか）については、「起きている」が56.8%で最も高く、次いで「どちらかといえば、起きている」が34.4%、「あまり、起きていない」が5.9%と続いており、『起きている』（「起きている」と「どちらかといえば、起きている」の合計）は91.2%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「起きている」では、小学5年生（55.9%）、中学2年生（57.7%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

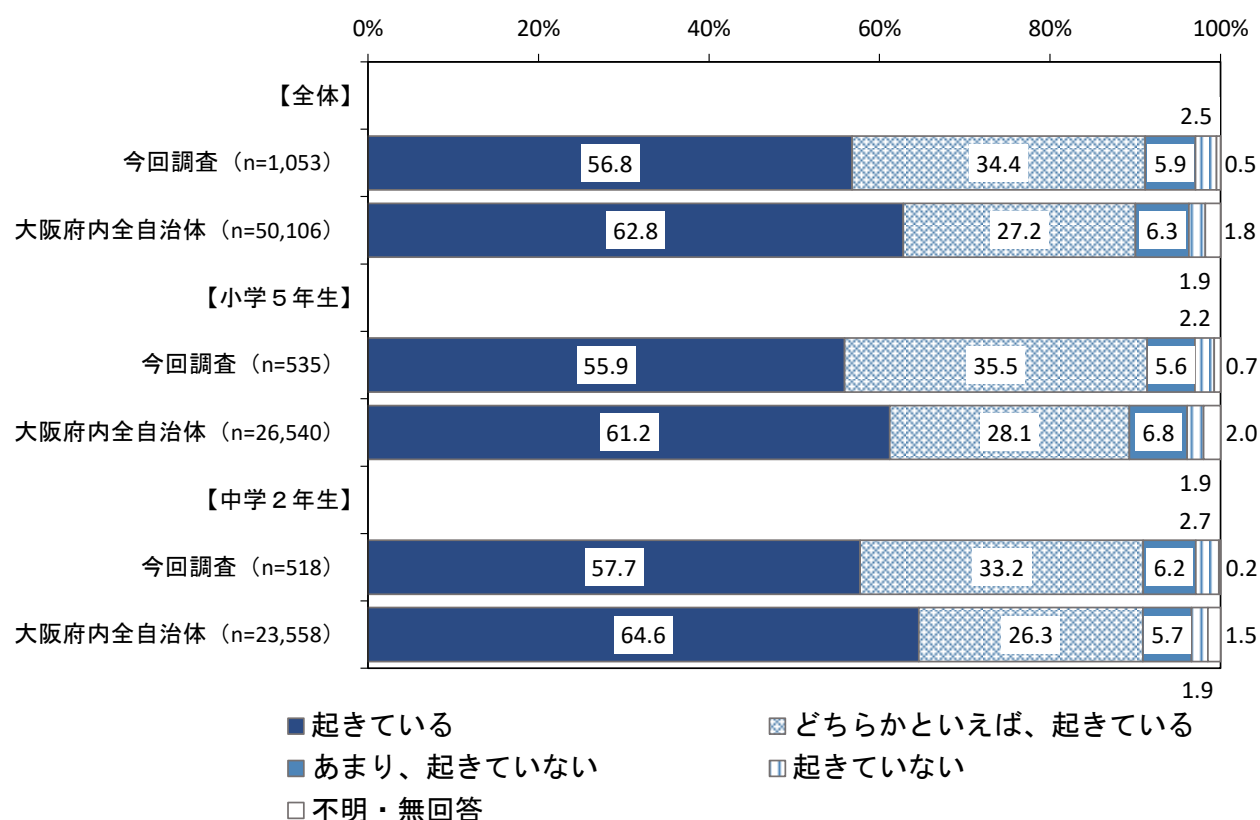


図 60 起床時間の規則性

⑭ 就寝時間【子ども票】

就寝時間（平日に何時に寝ているか）については、「午後10時台」が31.7%で最も高く、次いで「午後11時台」が24.0%、「午後9時台」が14.8%と続いています。

学年別でみると、小学5年生では「午後10時台」（44.5%）の割合が最も高く、中学2年生では「午後11時台」（33.2%）の割合が最も高くなっています。

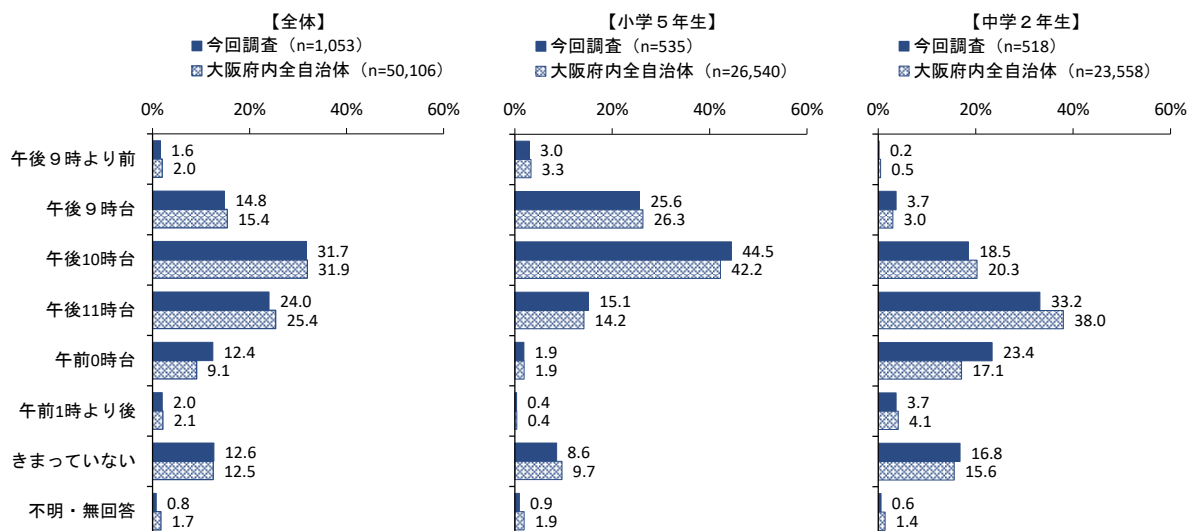


図 61 就寝時間

⑮ 睡眠時間【子ども票】

睡眠時間（平日に何時間くらい寝ているか）については、「8時間～8時間59分」が29.9%で最も高く、次いで「7時間～7時間59分」が26.0%、「9時間～9時間59分」が17.8%と続いています。

学年別でみると、小学5年生では「8時間～8時間59分」（41.9%）の割合が最も高く、中学2年生では「7時間～7時間59分」（34.9%）の割合が最も高くなっています。

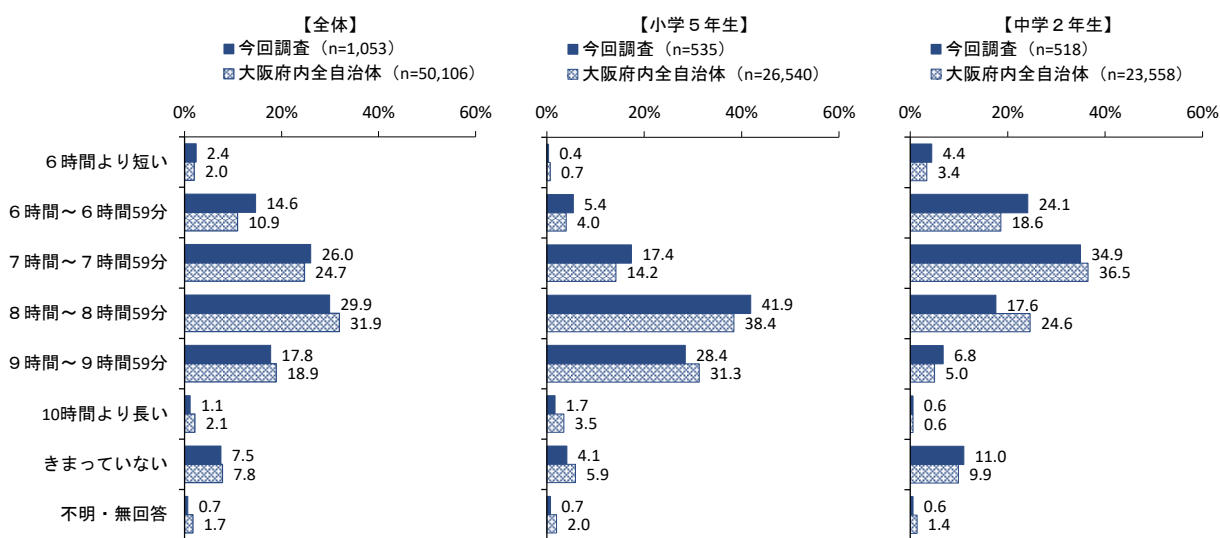


図 62 睡眠時間

⑩ 朝食の頻度【子ども票】

朝食の頻度については、「ほぼ毎日食べている」が89.4%で最も高く、次いで「週に4～5回」が4.5%、「週に2～3回」が2.2%と続いています。

学年別でみると、「ほぼ毎日食べている」では、小学5年生が93.1%、中学2年生が85.5%となっています。

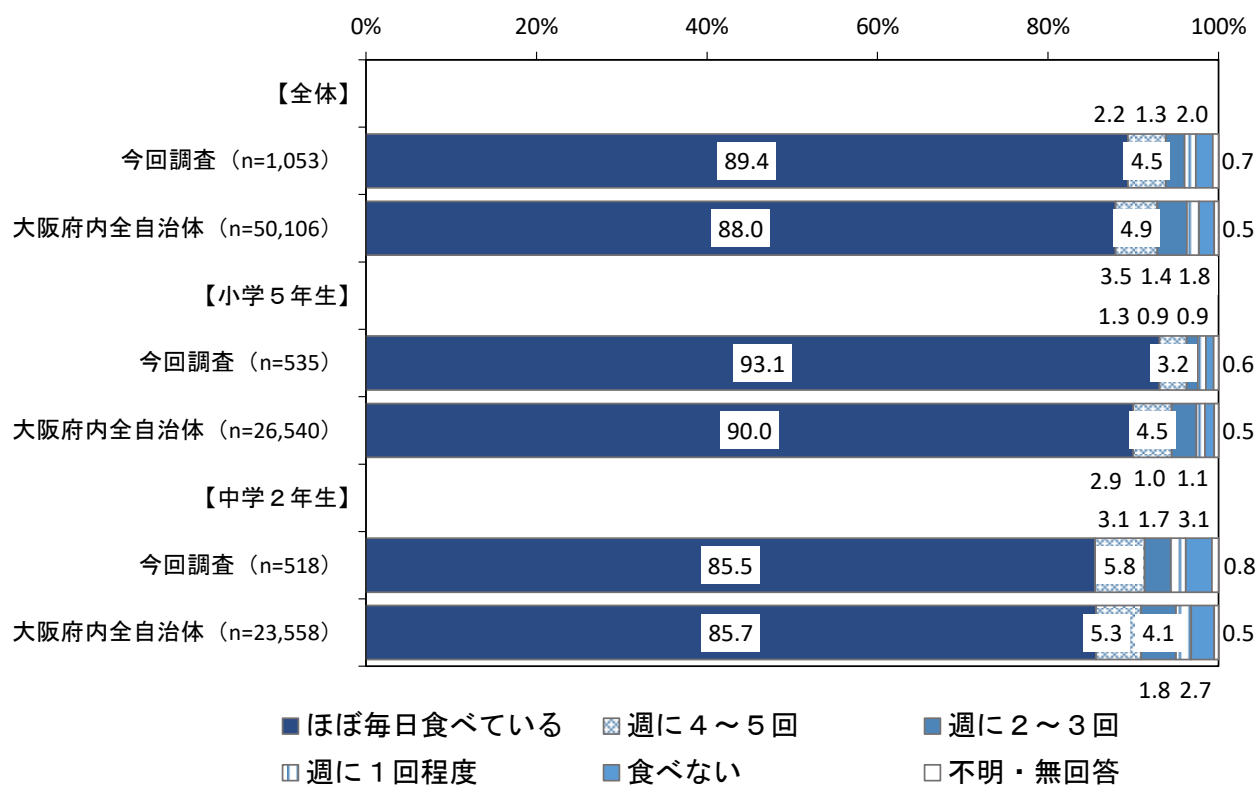


図 63 朝食の頻度

⑯-1 朝食を食べない理由【子ども票】

朝食を食べない理由については、「時間がない」が41.9%で最も高く、次いで「おなかですいていない」が37.1%、「食べる習慣がない」、「わからない」がいずれも5.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「時間がない」では、小学5年生（38.2%）、中学2年生（43.7%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

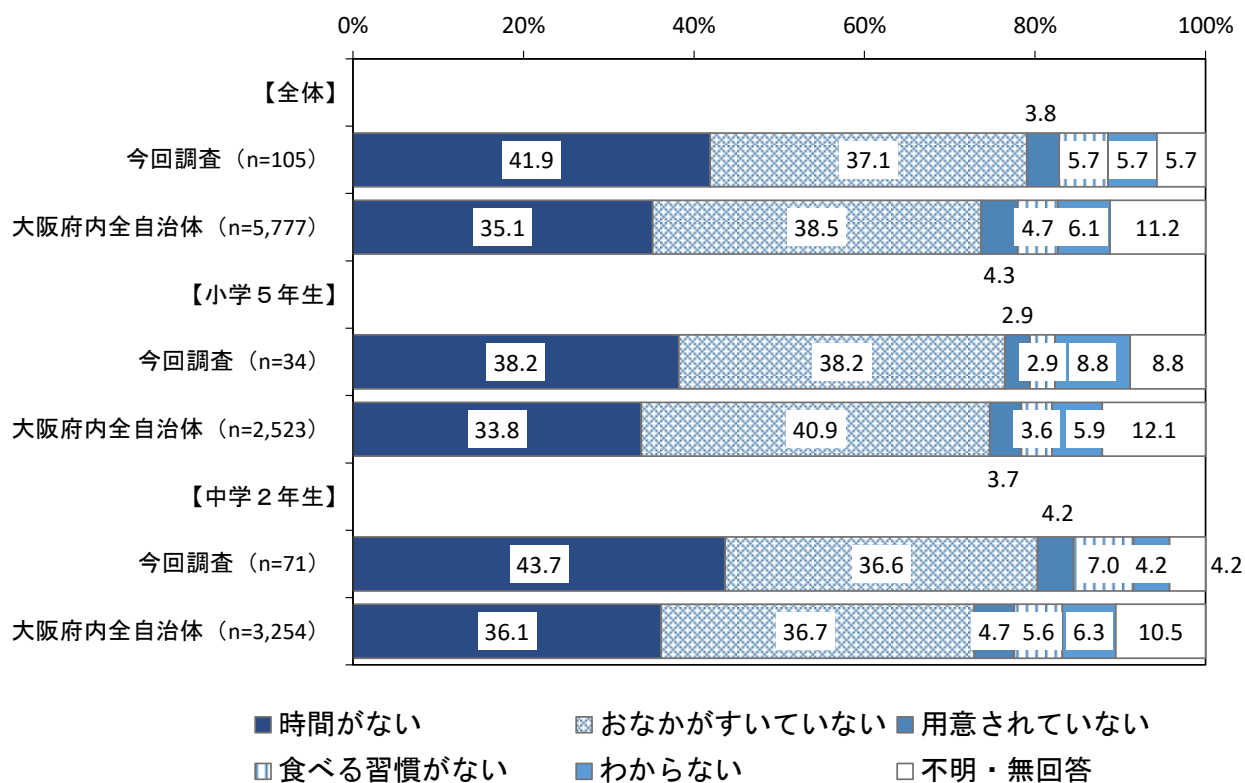


図 64 朝食を食べない理由

⑪ 夕食の頻度【子ども票】

夕食の頻度については、「ほぼ毎日食べている」が 97.8%、「週に 4～5 回」が 0.7% となっています。

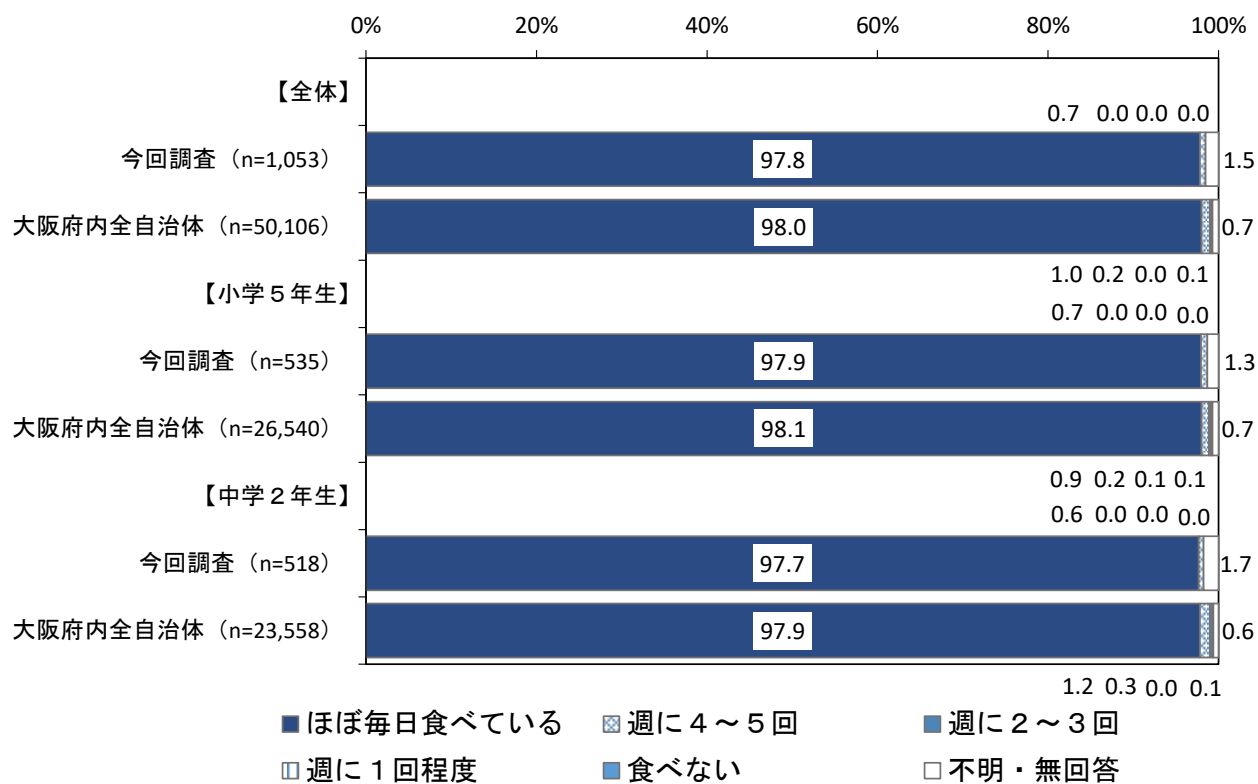


図 65 夕食の頻度

⑪-1 夕食を食べない理由【子ども票】

夕食を食べない理由については、「おなかがすいていない」、「わからない」が28.6%と
なっています。

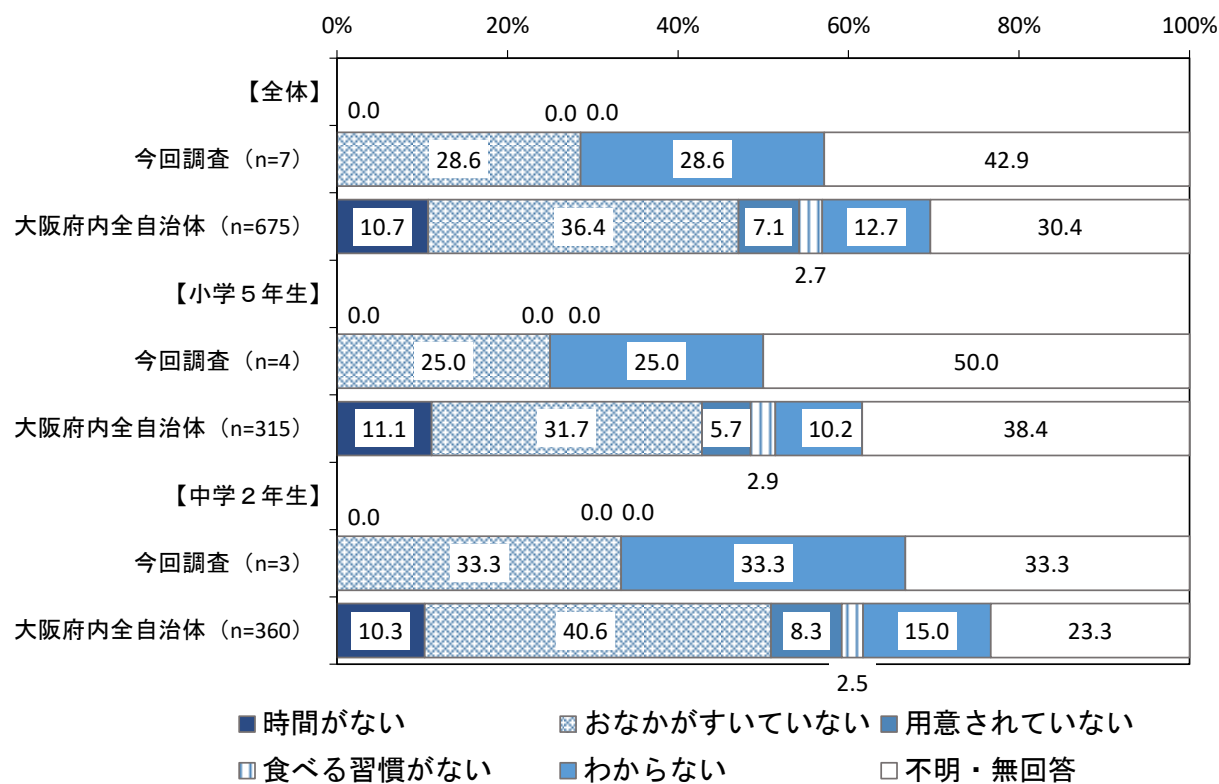


図 66 夕食を食べない理由

⑱ 学校への遅刻【子ども票】

学校への遅刻については、「ほぼ遅刻はしない」が86.5%で最も高く、次いで「週に1回程度遅刻することがある」が3.5%、「ほぼ毎日遅刻している」、「週に2～3回遅刻している」がいずれも0.9%と続いています。

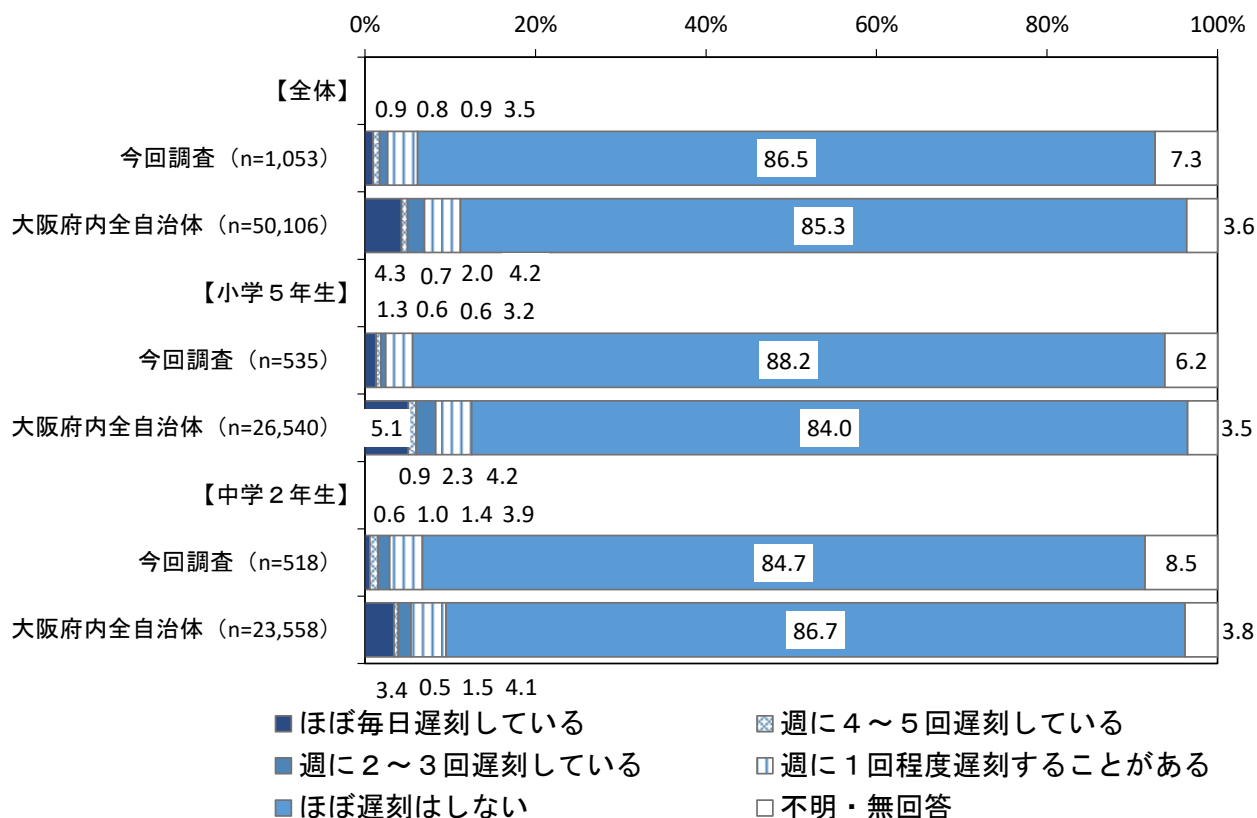


図 67 学校への遅刻

⑬ おうちの大人と朝食を食べるか【子ども票】

おうちの大人と朝食を食べるかについては、「ほとんど毎日」が43.2%で最も高く、次いで「ほとんどない」が17.5%、「まったくない」が14.2%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「ほとんど毎日」では、小学5年生（50.3%）、中学2年生（35.9%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

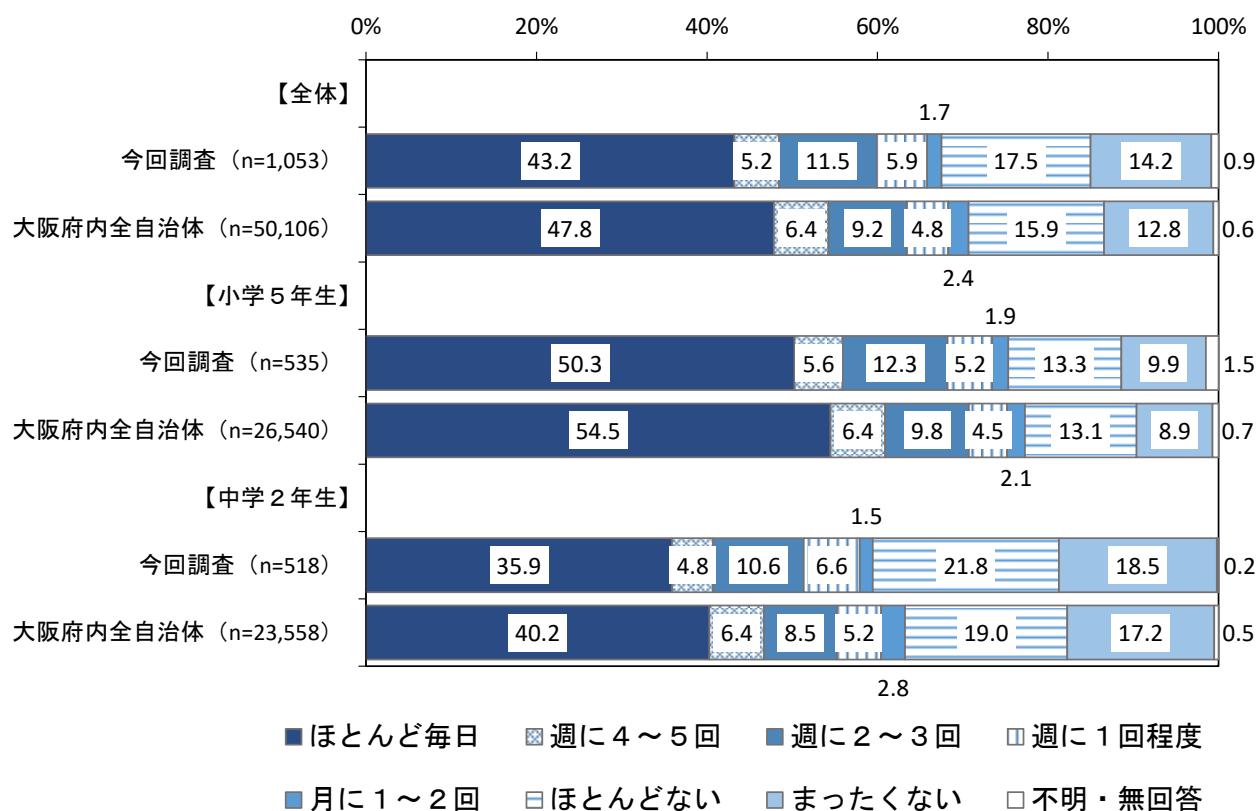


図 68 おうちの大人と朝食を食べるか

⑳ おうちの大人と夕食を食べるか【子ども票】

おうちの大人と夕食を食べるかについては、「ほとんど毎日」が79.2%で最も高く、次いで「週に4～5回」が8.7%、「週に2～3回」が6.4%と続いています。

学年別でみると、「ほとんど毎日」では、小学5年生が85.4%、中学2年生が72.8%となっています。

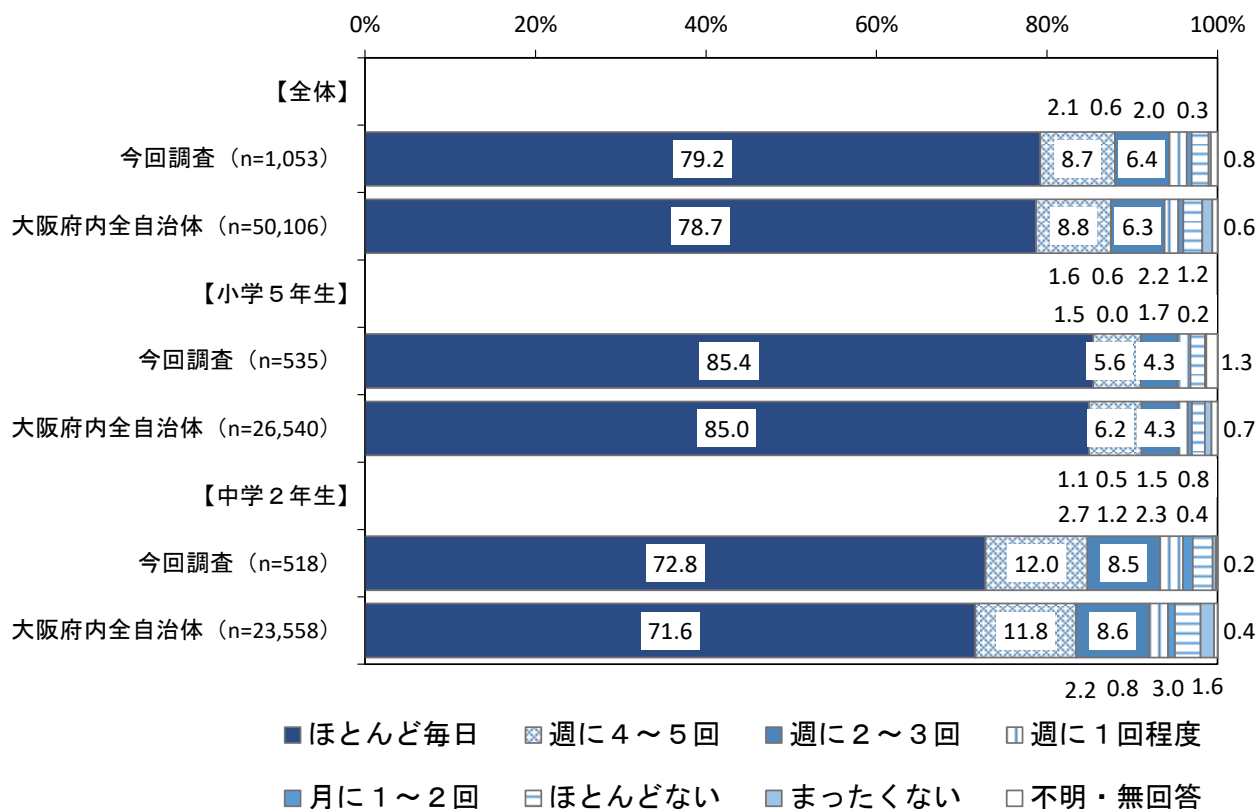


図 69 おうちの大人と夕食を食べるか

②① おうちの大人に朝、起こされるか【子ども票】

おうちの大人に朝、起こされるかについては、「ほとんど毎日」が49.3%で最も高く、次いで「週に4～5回」が13.9%、「ほとんどない」が12.0%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「ほとんど毎日」では、小学5年生（52.7%）、中学2年生（45.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

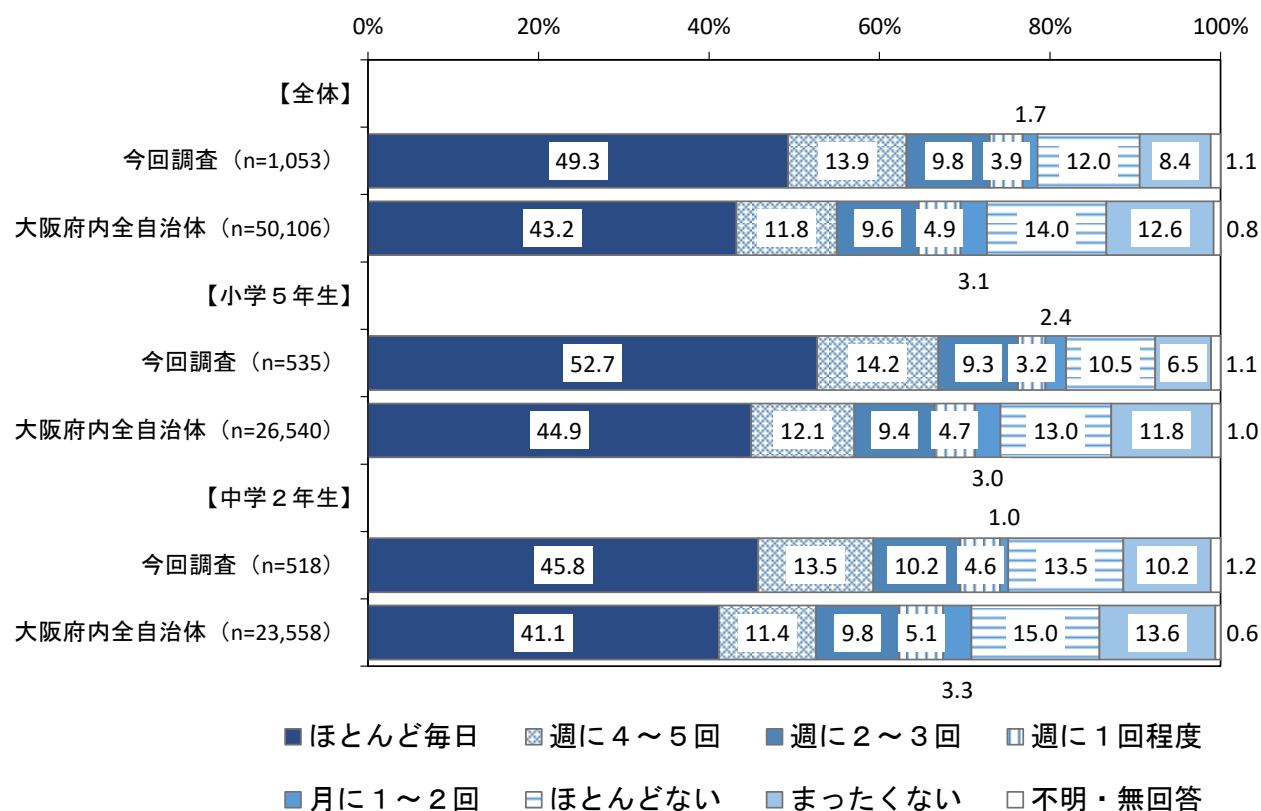


図 70 おうちの大人に朝、起こされるか

② 家の手伝いをするか【子ども票】

家の手伝いをするかについては、「ほとんど毎日」が25.5%で最も高く、次いで「週に2～3回」が19.8%、「週に4～5回」が13.9%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「ほとんど毎日」では、小学5年生（28.6%）、中学2年生（22.2%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

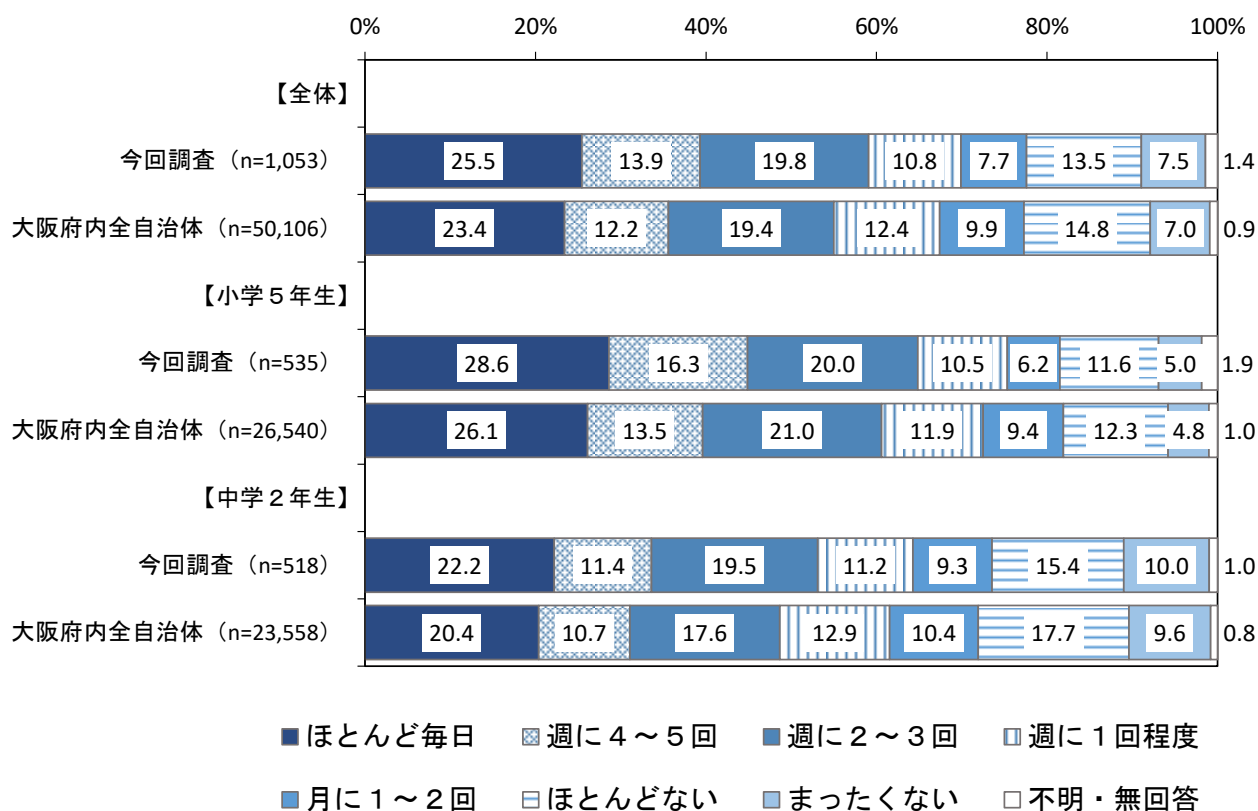


図 71 家の手伝いをするか

②③ おうちの大人に宿題をみてもらうか【子ども票】

おうちの大人に宿題をみてもらうかについては、「まったくない」が 30.0%で最も高く、次いで「ほとんどない」が 28.2%、「ほとんど毎日」が 13.3%と続いています。

学年別でみると、小学5年生では「ほとんどない」(25.0%)の割合が最も高く、中学2年生では「まったくない」(45.6%)の割合が最も高くなっています。

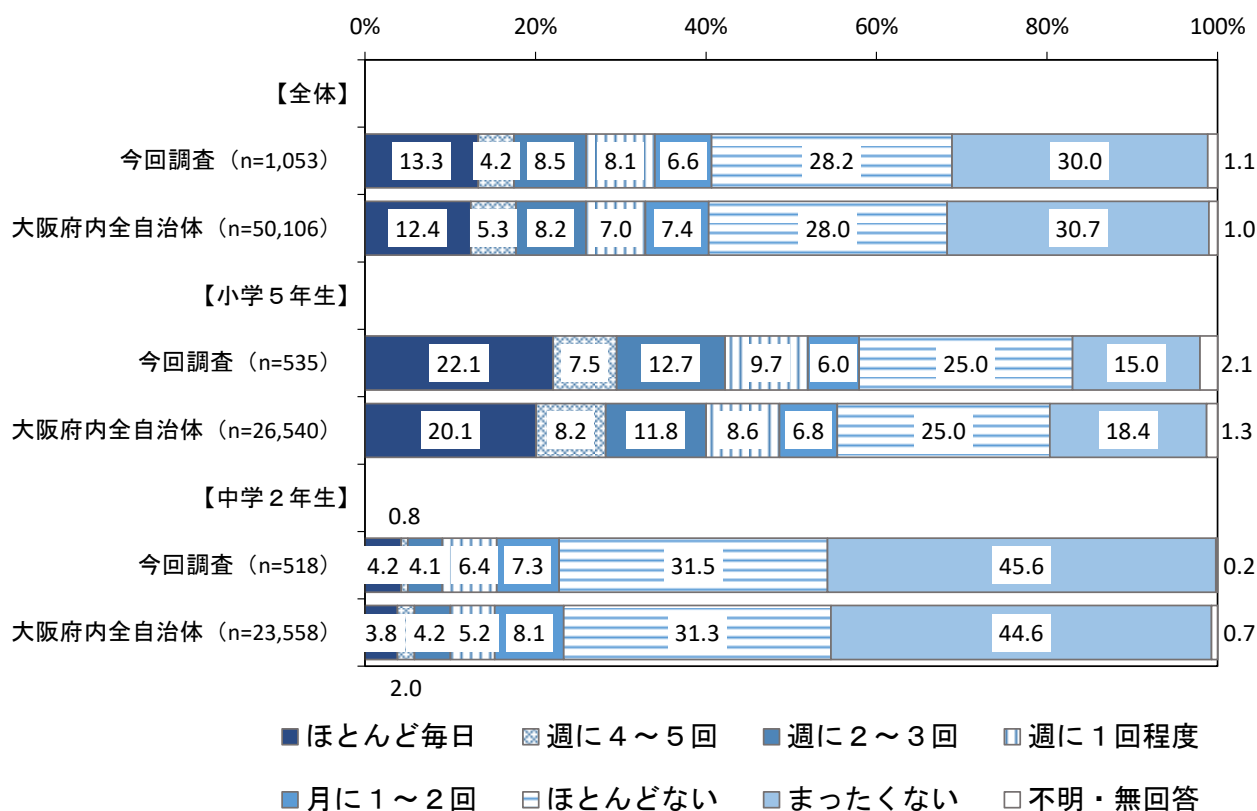


図 72 おうちの大人に宿題をみてもらうか

②④ おうちの大人と学校の話をするか【子ども票】

おうちの大人と学校の話をするかについては、「ほとんど毎日」が41.1%で最も高く、次いで「週に4～5回」が16.4%、「週に2～3回」が14.2%と続いています。

学年別でみると、「ほとんど毎日」では、小学5年生が48.2%、中学2年生が33.8%となっています。

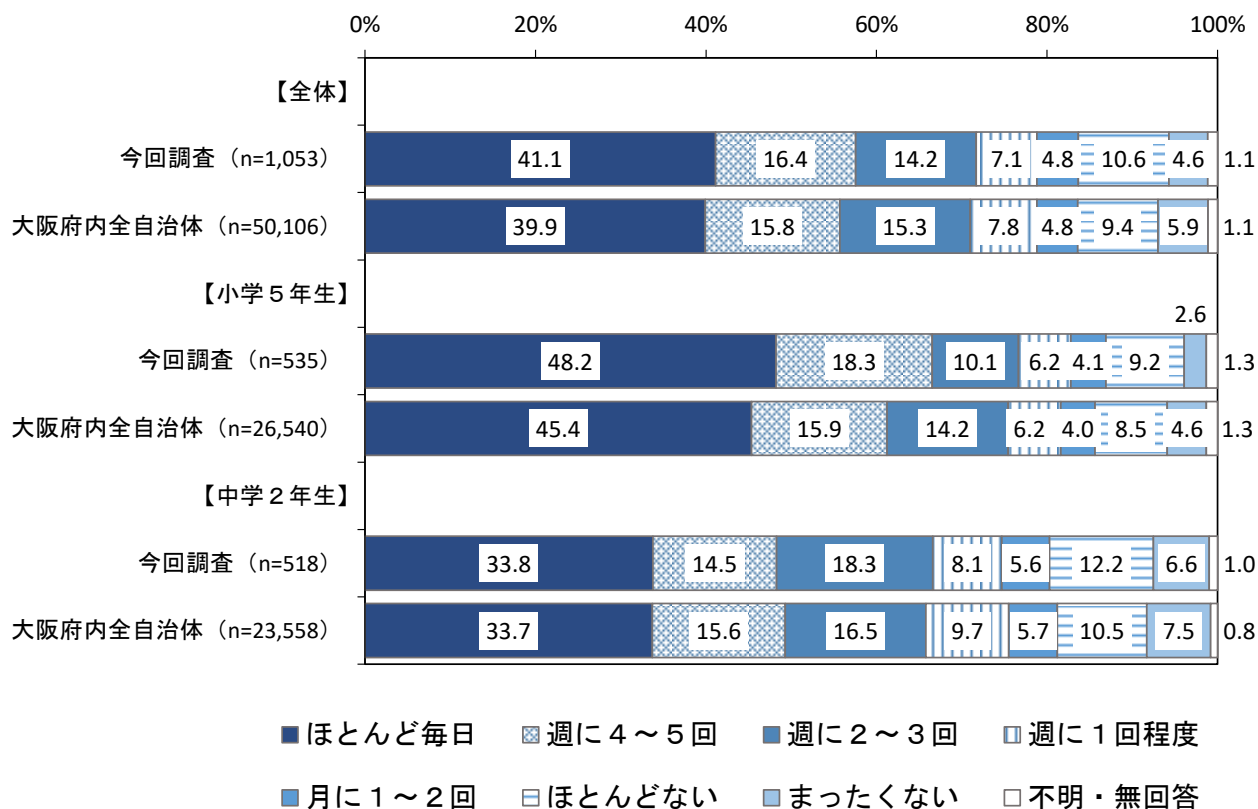


図 73 おうちの大人と学校の話をするか

②⑤ おうちの大人と遊んだり、体を動かすか【子ども票】

おうちの大人と遊んだり、体を動かすかについては、「ほとんどない」が24.7%で最も高く、次いで「まったくない」が17.8%、「ほとんど毎日」が13.3%と続いています。

学年別でみると、小学5年生では「ほとんど毎日」(17.8%)の割合が最も高く、中学2年生では「ほとんどない」(32.8%)の割合が最も高くなっています。

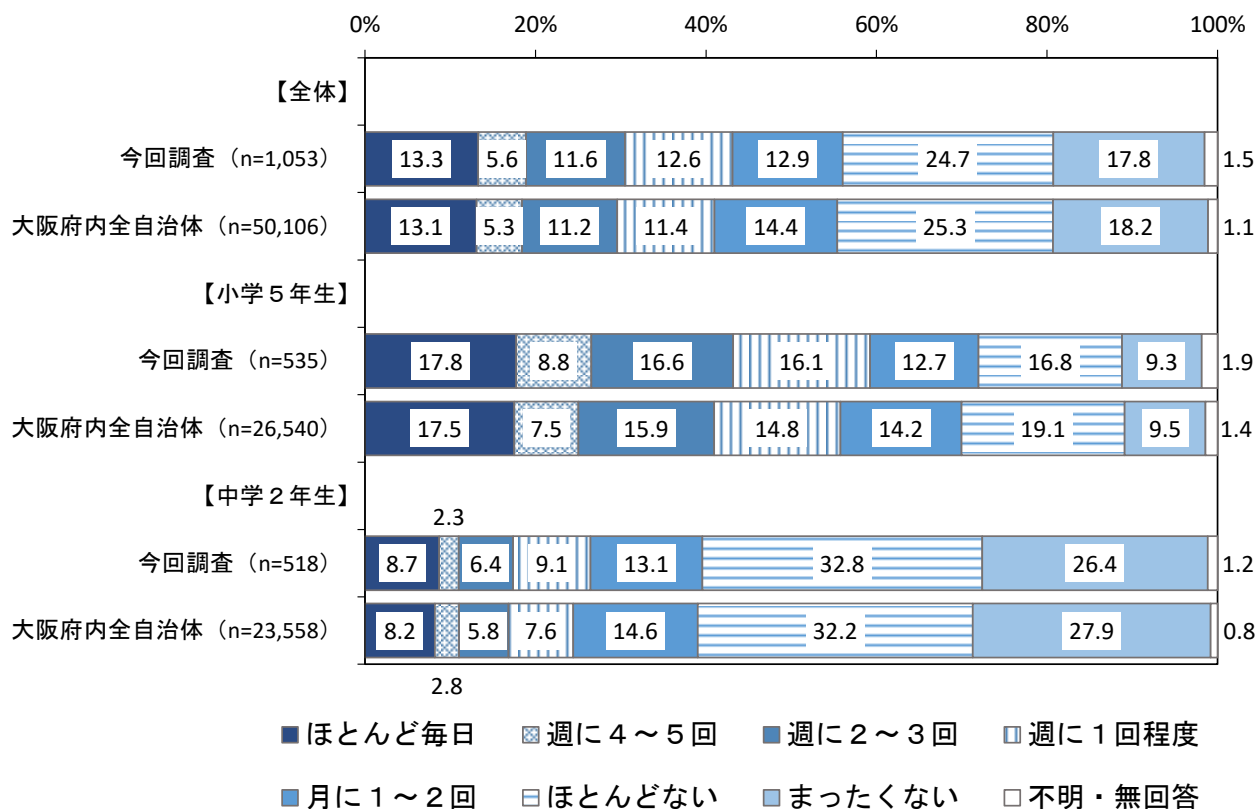


図 74 おうちの大人と遊んだり、体を動かすか

②⑥ おうちの大人と社会のできごとを話すか【子ども票】

おうちの大人と社会のできごとを話すかについては、「ほとんどない」が19.0%で最も高く、次いで「ほとんど毎日」が18.0%、「週に2～3回」が17.1%と続いています。

学年別でみると、小学5年生では「ほとんど毎日」(21.3%)の割合が最も高く、中学2年生では「ほとんどない」(20.7%)の割合が最も高くなっています。

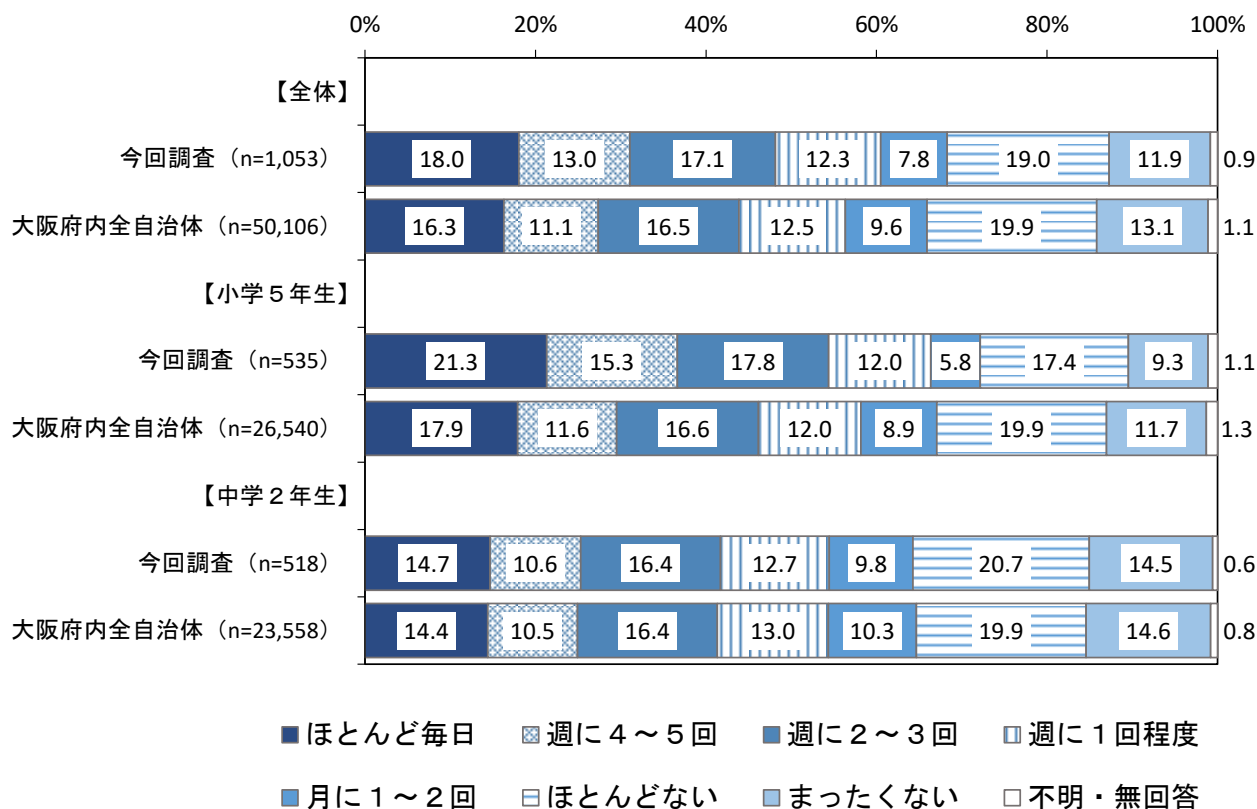


図 75 おうちの大人と社会のできごとを話すか

②⑦ おうちの大人と一緒に外出するか【子ども票】

おうちの大人と一緒に外出するかについては、「週に2～3回」が26.8%で最も高く、次いで「週に1回程度」が24.7%、「月に1～2回」が19.6%と続いています。

学年別でみると、小学5年生では「週に2～3回」(33.8%)の割合が最も高く、中学2年生では「月に1～2回」(27.6%)の割合が最も高くなっています。

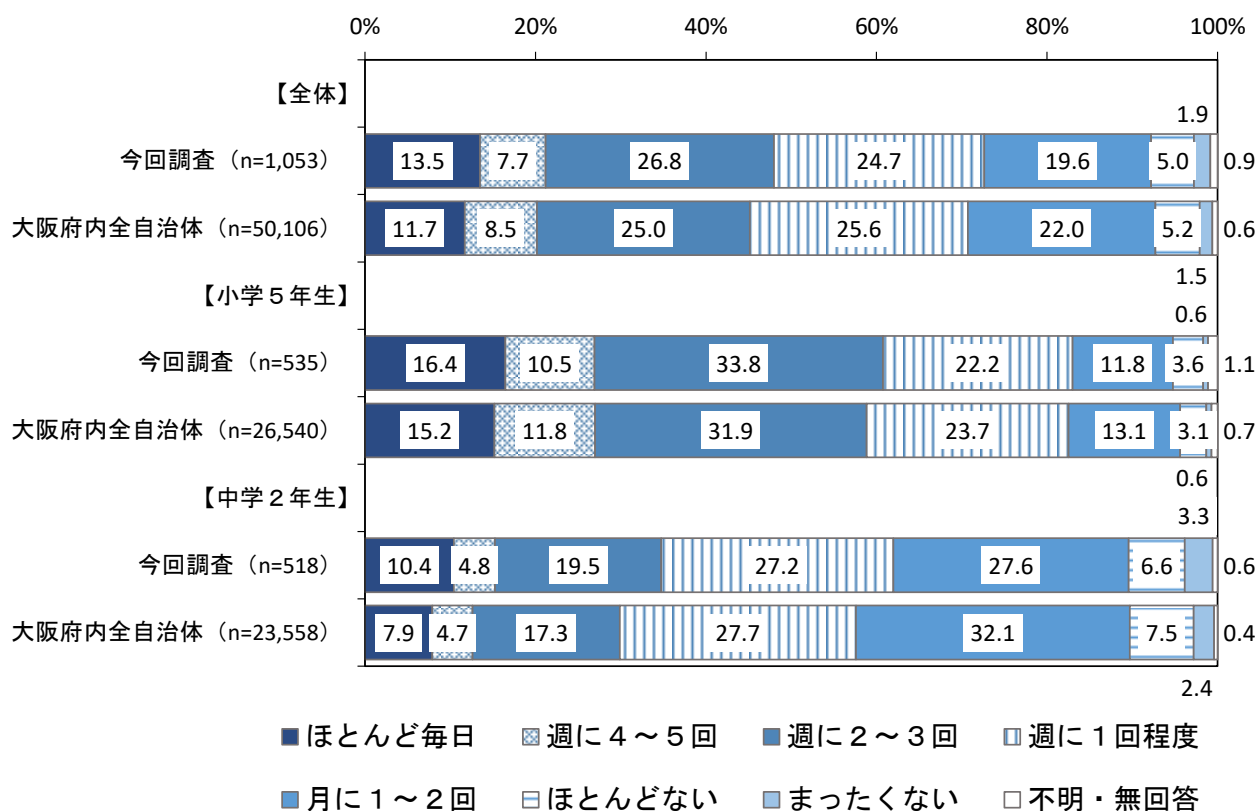


図 76 おうちの大人と一緒に外出するか

②⑧ 放課後一緒に過ごす人【子ども票】

放課後一緒に過ごす人については、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が 67.4%で最も高く、次いで「きょうだい」が 55.6%、「学校のともだち」が 55.1%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「ひとりでのいる」では、小学5年生（19.6%）、中学2年生（33.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

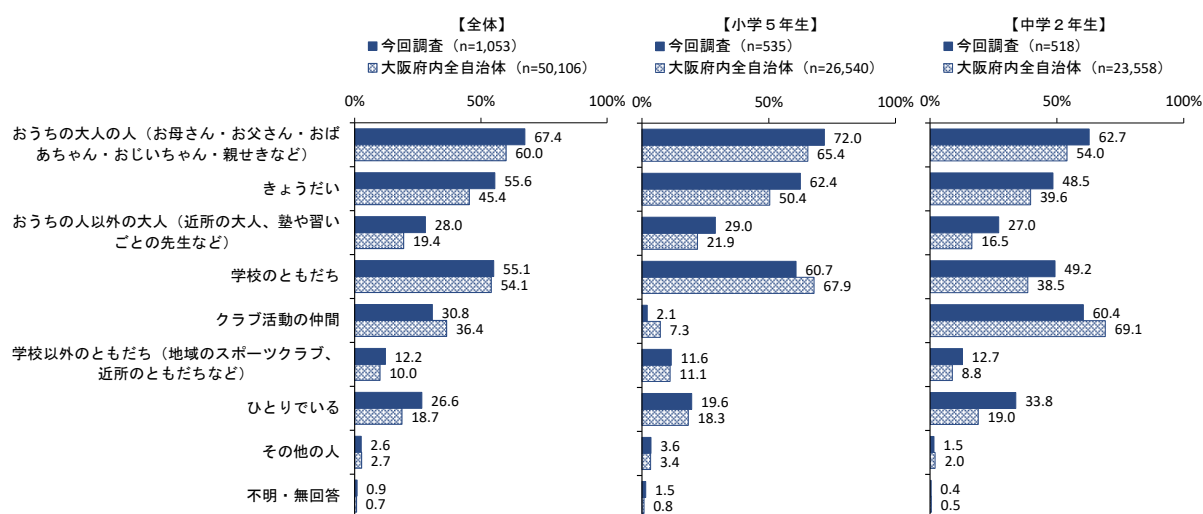


図 77 放課後一緒に過ごす人

② 放課後に過ごす場所【子ども票】

放課後に過ごす場所については、「自分の家」が88.9%で最も高く、次いで「習いごと」が41.8%、「ともだちの家」が32.9%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「自分の家」、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」、「ともだちの家」、「塾」、「習いごと」、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）」では、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

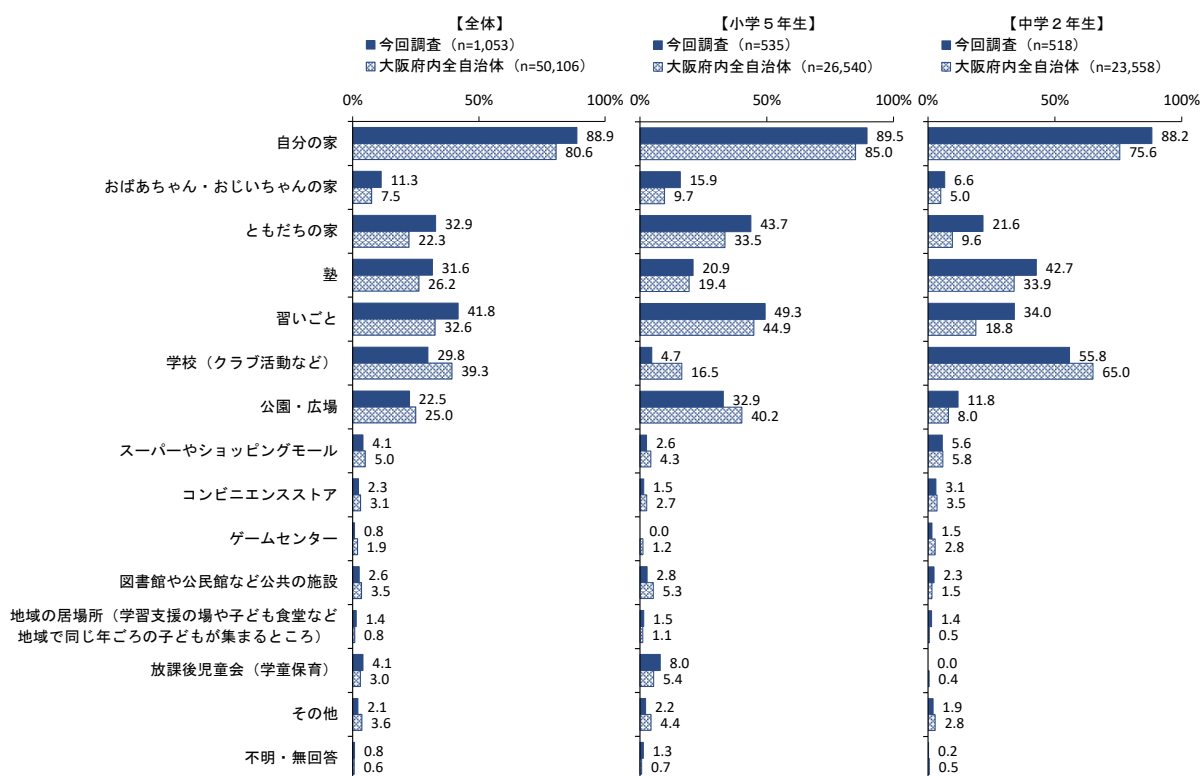


図 78 放課後に過ごす場所

③⑩ 自分の体や気持ちで気になること（子ども）【子ども票】

自分の体や気持ちで気になること（子ども）については、「とくに気になるところはない」が 33.0%で最も高く、次いで「やる気が起きない」が 23.4%、「イライラする」が 18.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「とくに気になるところはない」では、小学5年生（38.9%）、中学2年生（27.0%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

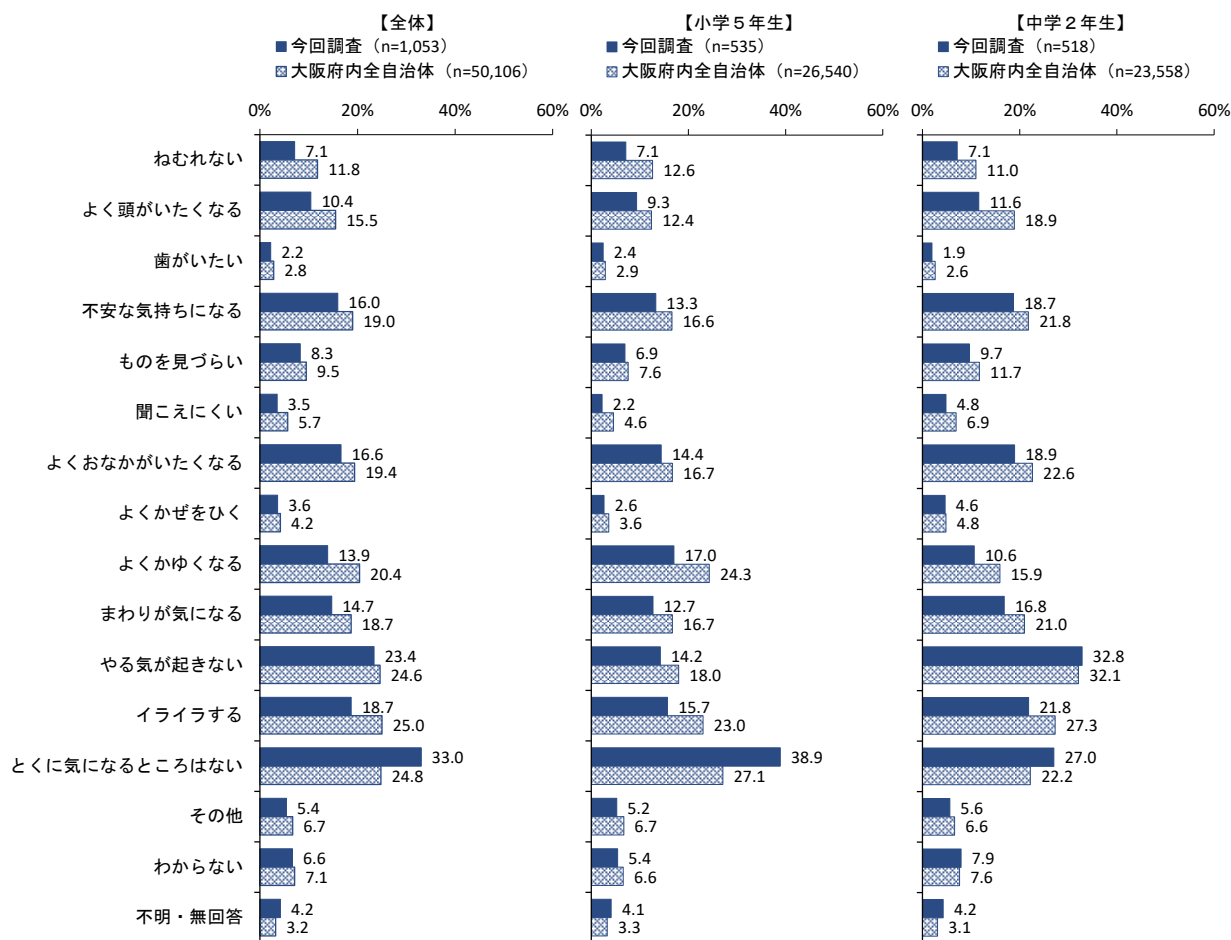


図 79 自分の体や気持ちで気になること（子ども）

③① 自分の体や気持ちで気になること（保護者）【保護者票】

自分の体や気持ちで気になること（保護者）については、「よく肩がこる」が46.5%で最も高く、次いで「イライラする」が28.1%、「よく腰がいたくなる」が26.1%と続いております。

大阪府内全自治体と比較すると、「とくに気になるところはない」では、小学5年生の保護者（15.6%）、中学2年生の保護者（15.1%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

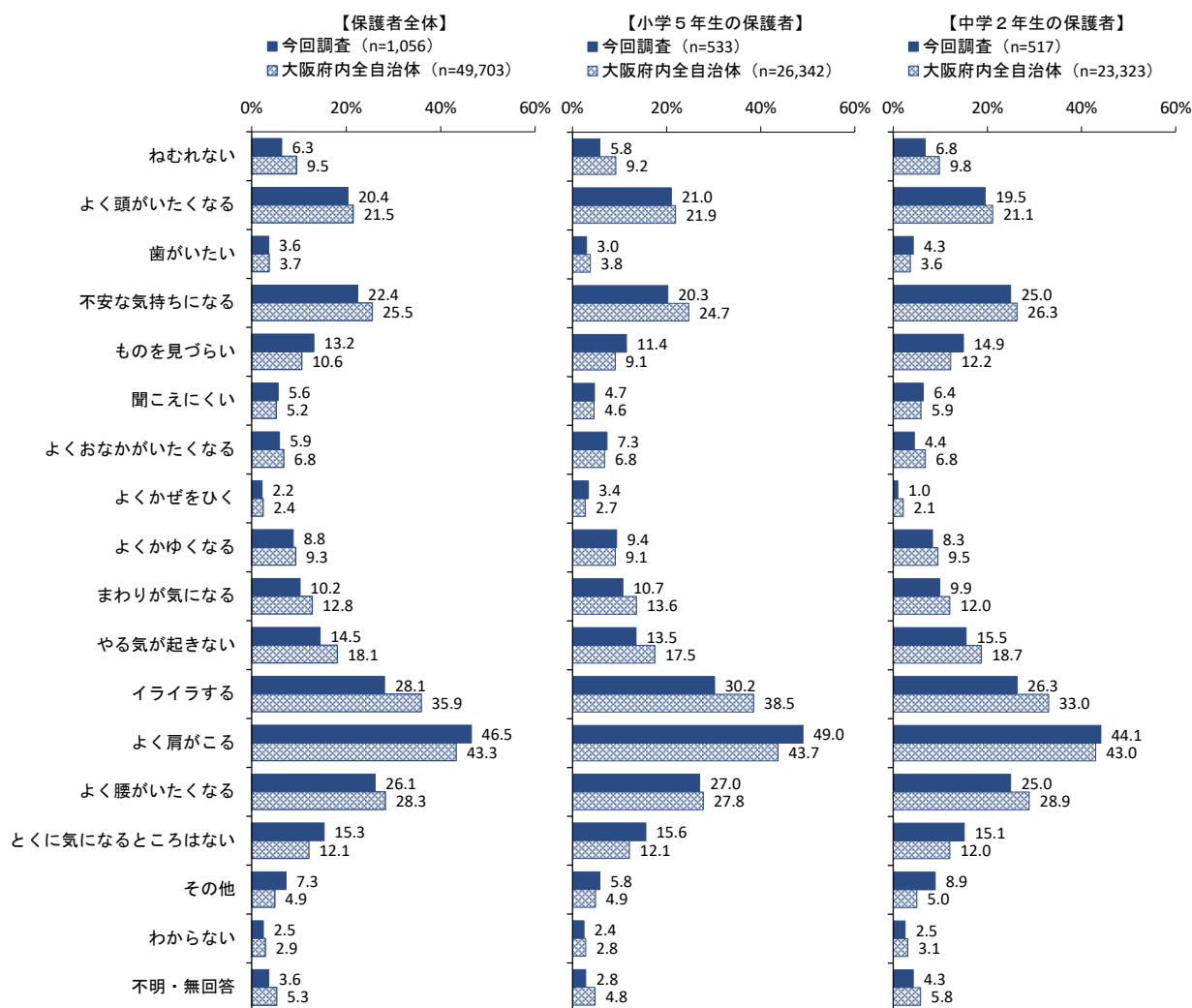


図 80 自分の体や気持ちで気になること（保護者）

③② 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと【保護者票】

不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことについては、「時々ある」が61.3%で最も高く、次いで「ほとんどない」が24.3%、「ない」が5.7%と続いており、『ある』（「よくある」と「時々ある」の合計）は66.5%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、『ある』では、小学5年生の保護者（70.2%）、中学2年生の保護者（63.1%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

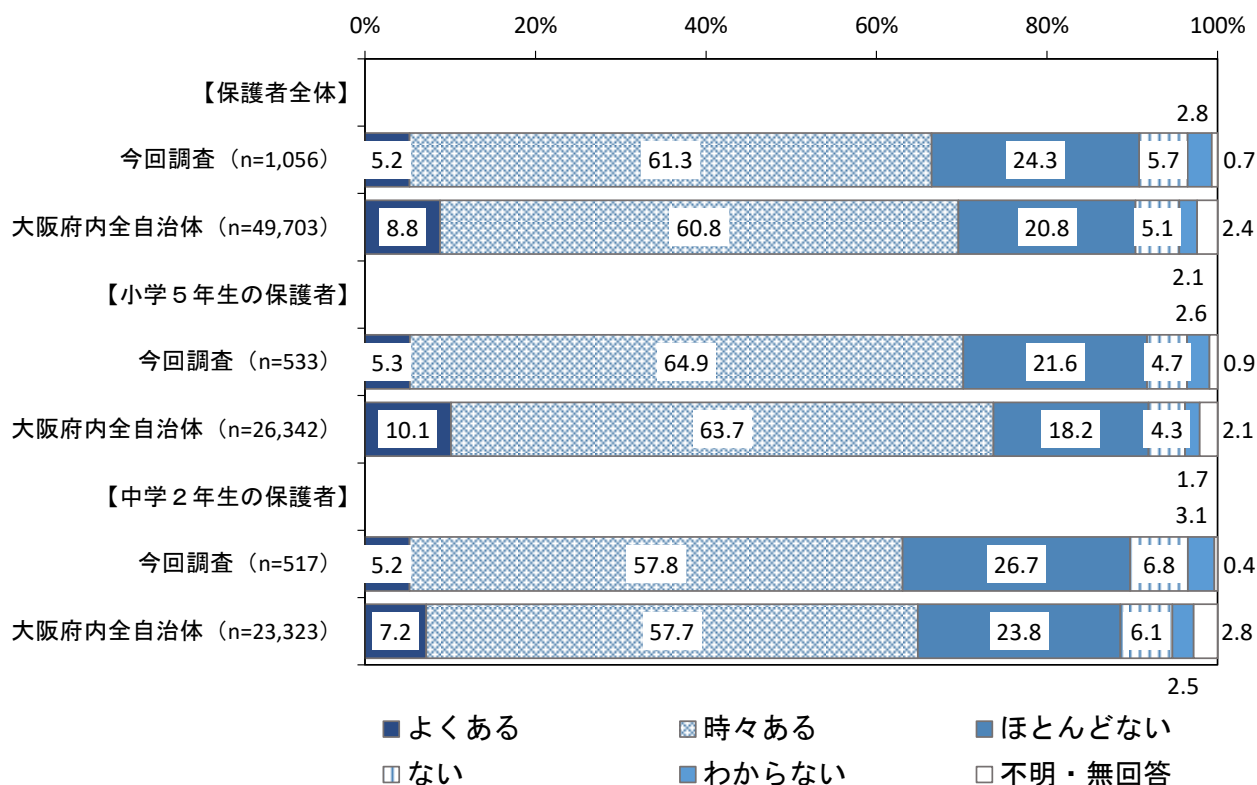


図 81 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

③③ 定期的な健康診断の受診【保護者票】

定期的な健康診断の受診（定期的に健康診断を受けているか）については、「はい」が66.2%、「いいえ」が33.0%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「はい」では、小学5年生の保護者（66.6%）、中学2年生の保護者（66.0%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

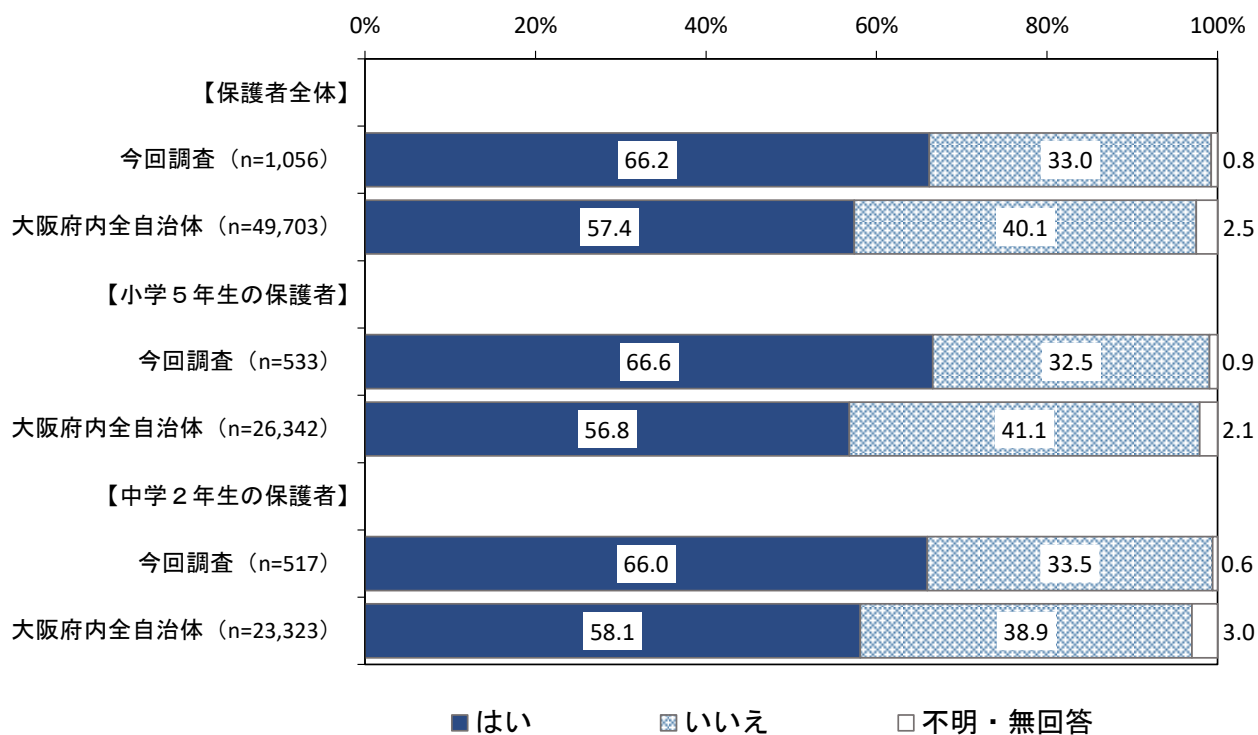


図 82 定期的な健康診断の受診

③④ 自分が立てた目標や計画はうまくできる自信があると思うか【保護者票】

自分が立てた目標や計画はうまくできる自信があると思うかについては、「まあそう思う」が48.0%で最も高く、次いで「あまり思わない」が32.2%、「そう思う」が6.9%と続いています。

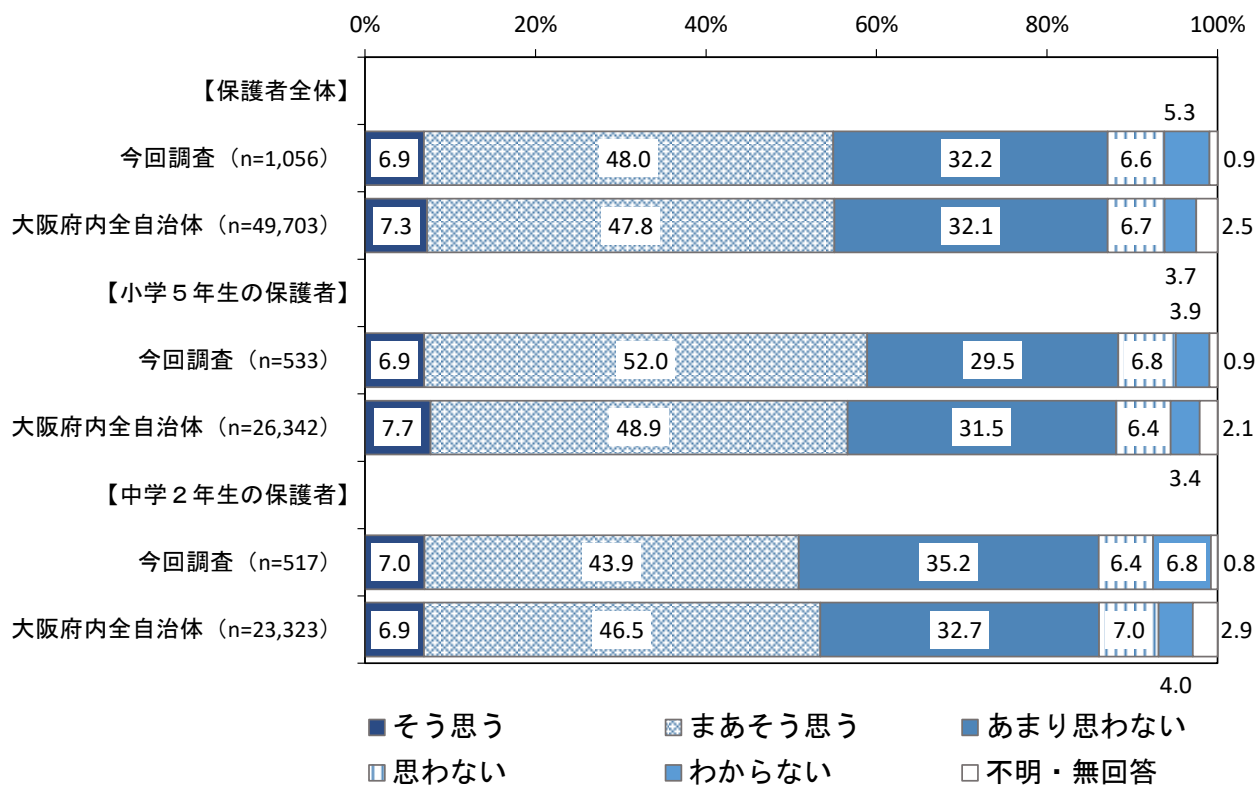


図 83 自分が立てた目標や計画はうまくできる自信があると思うか

③⑤ はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続けると思うか【保護者票】

はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続けると思うかについては、「まあそう思う」が54.4%で最も高く、次いで「あまり思わない」が22.9%、「そう思う」が12.3%と続いています。

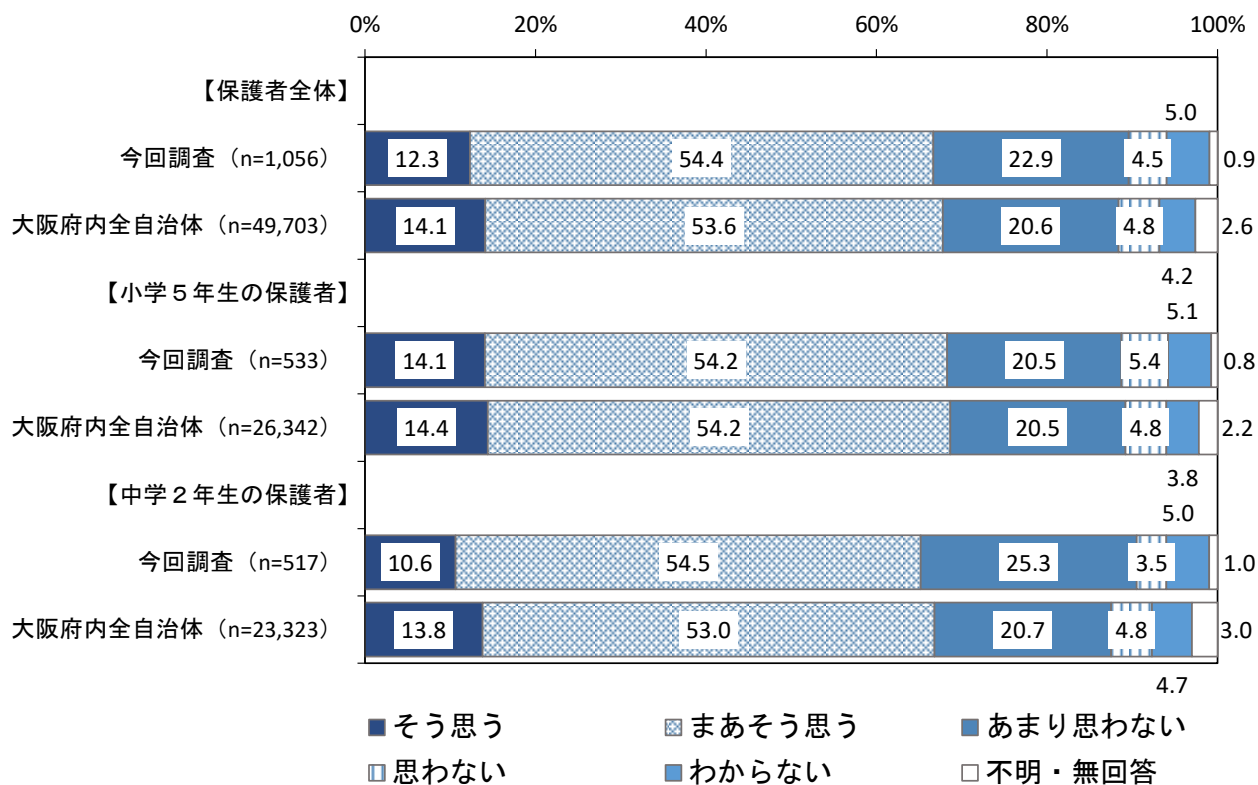


図 84 はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続けると思うか

③⑥ 人の集まりの中では、うまくふるまえないと思うか【保護者票】

人の集まりの中では、うまくふるまえないと思うかについては、「あまり思わない」が41.3%で最も高く、次いで「まあそう思う」が21.6%、「思わない」が20.9%と続いています。

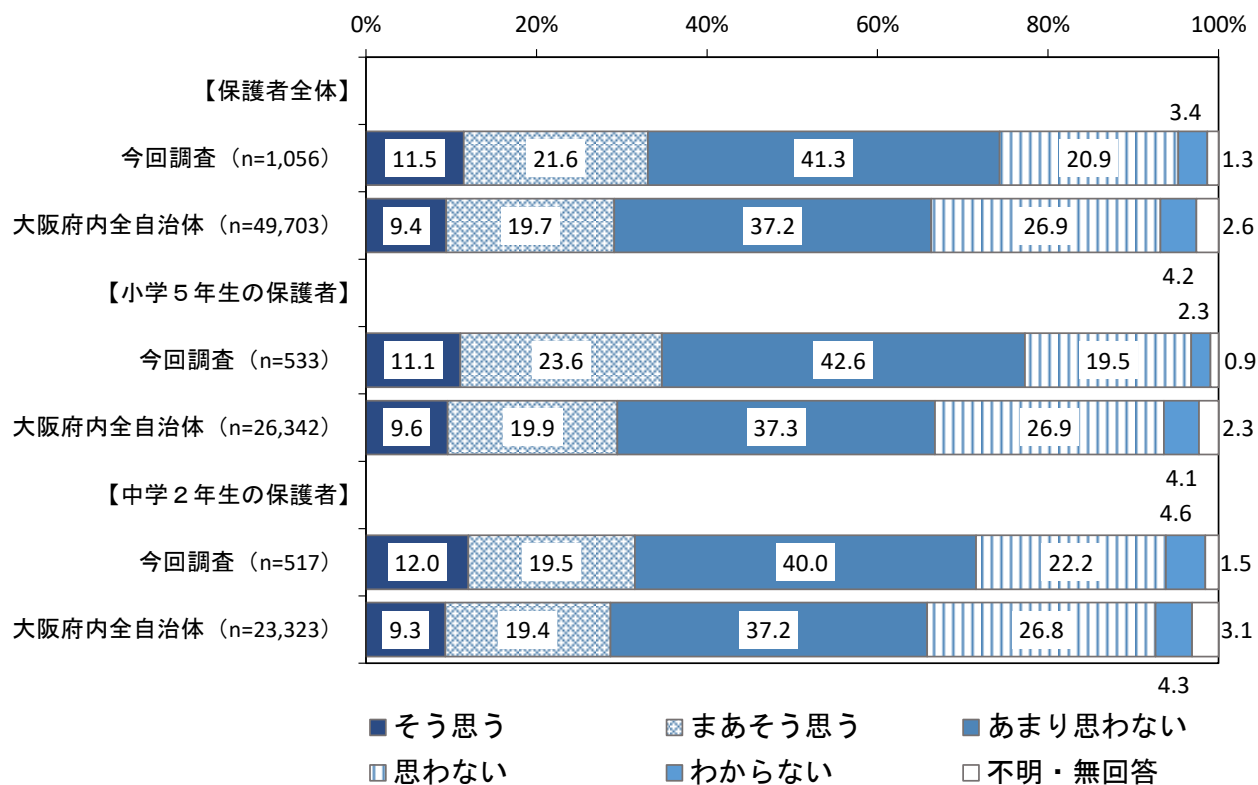


図 85 人の集まりの中では、うまくふるまえないと思うか

③⑦ 私は自分から友だちを作るのがうまいと思うか【保護者票】

私は自分から友だちを作るのがうまいと思うかについては、「あまり思わない」が37.7%で最も高く、次いで「まあそう思う」が28.2%、「思わない」が21.0%と続いています。

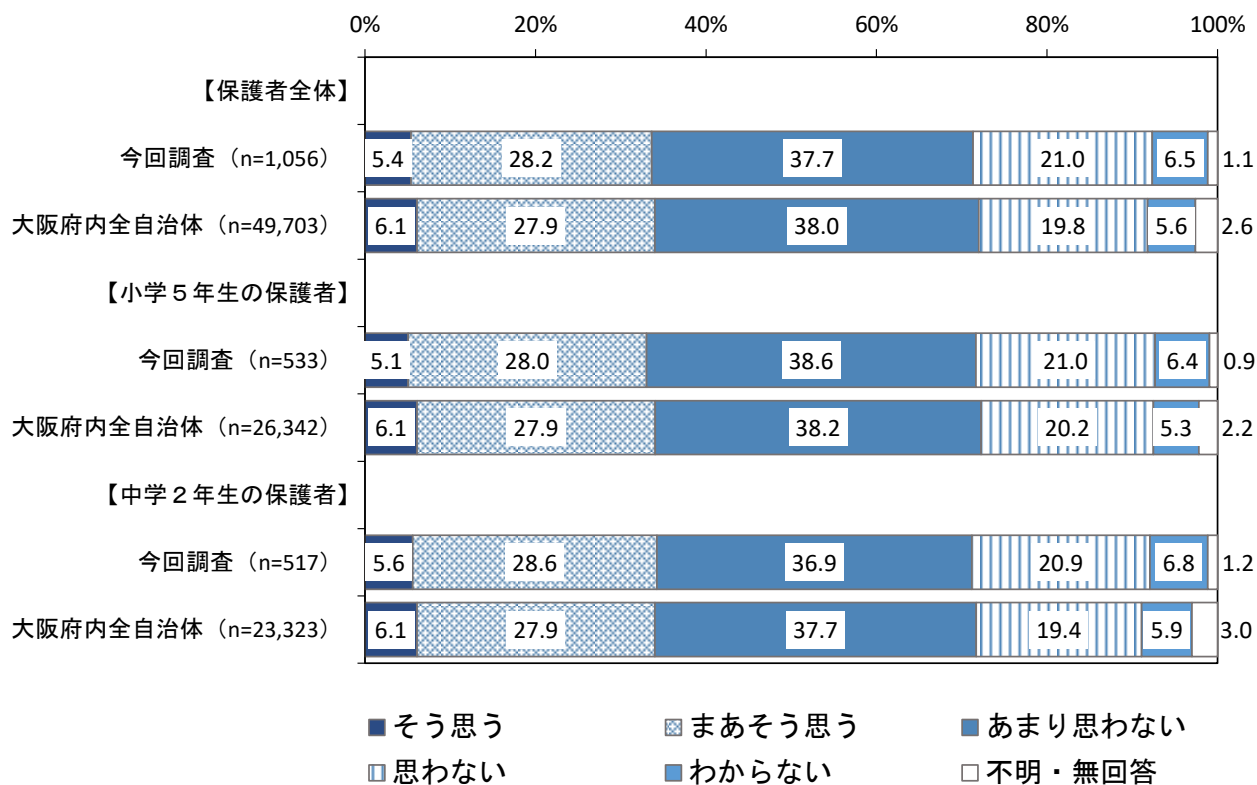


図 86 私は自分から友だちを作るのがうまいと思うか

③⑧ 人生で起きる問題の多くは自分では解決できないと思うか【保護者票】

人生で起きる問題の多くは自分では解決できないと思うかについては、「あまり思わない」が42.7%で最も高く、次いで「思わない」が26.9%、「まあそう思う」が13.4%と続いています。

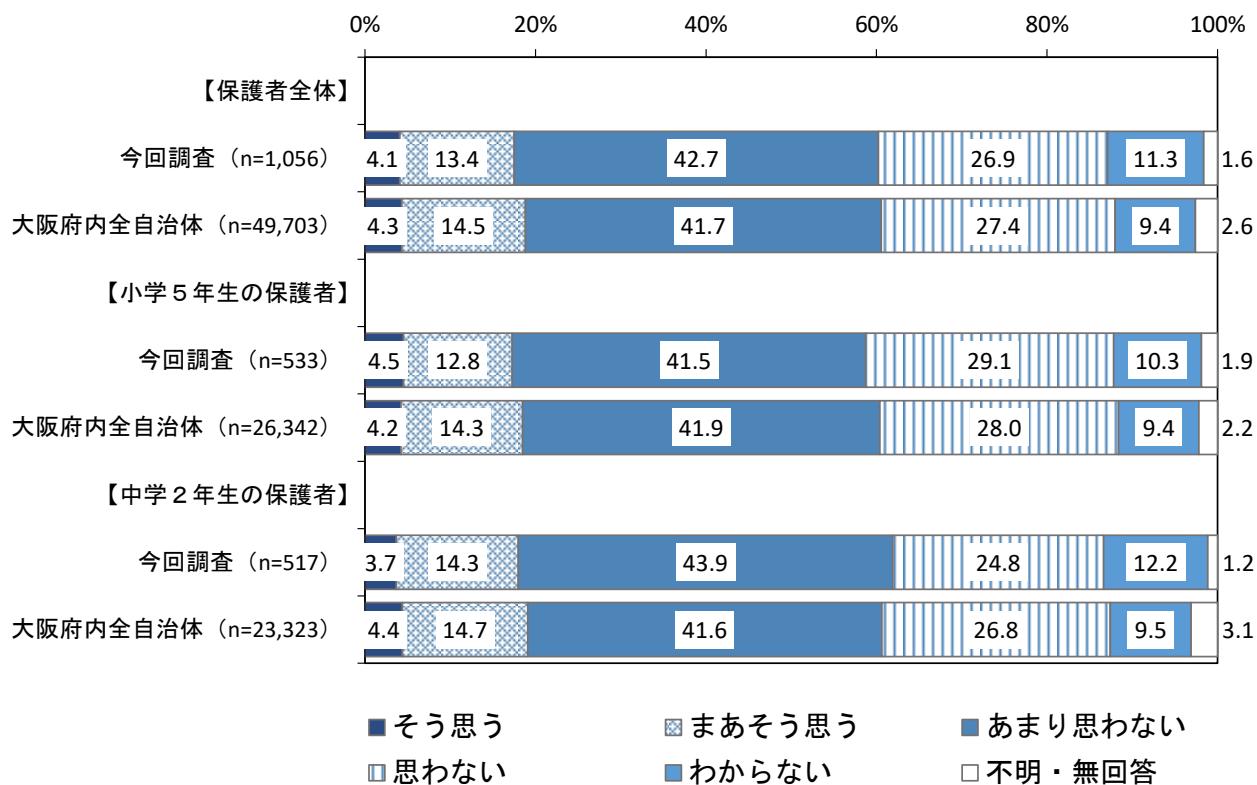


図 87 人生で起きる問題の多くは自分では解決できないと思うか

③⑨ 自分に自信があるか【子ども票】

自分に自信があるかについては、「どちらかというところ」が38.2%で最も高く、次いで「どちらかというところない」が27.5%、続いて「ない」が16.4%と続いており、『ある』（「ある」と「どちらかというところ」の合計）は53.3%となっています。

学年別でみると、『ある』では、中学2年生（45.2%）に比べ小学5年生（61.1%）の割合が高くなっています。

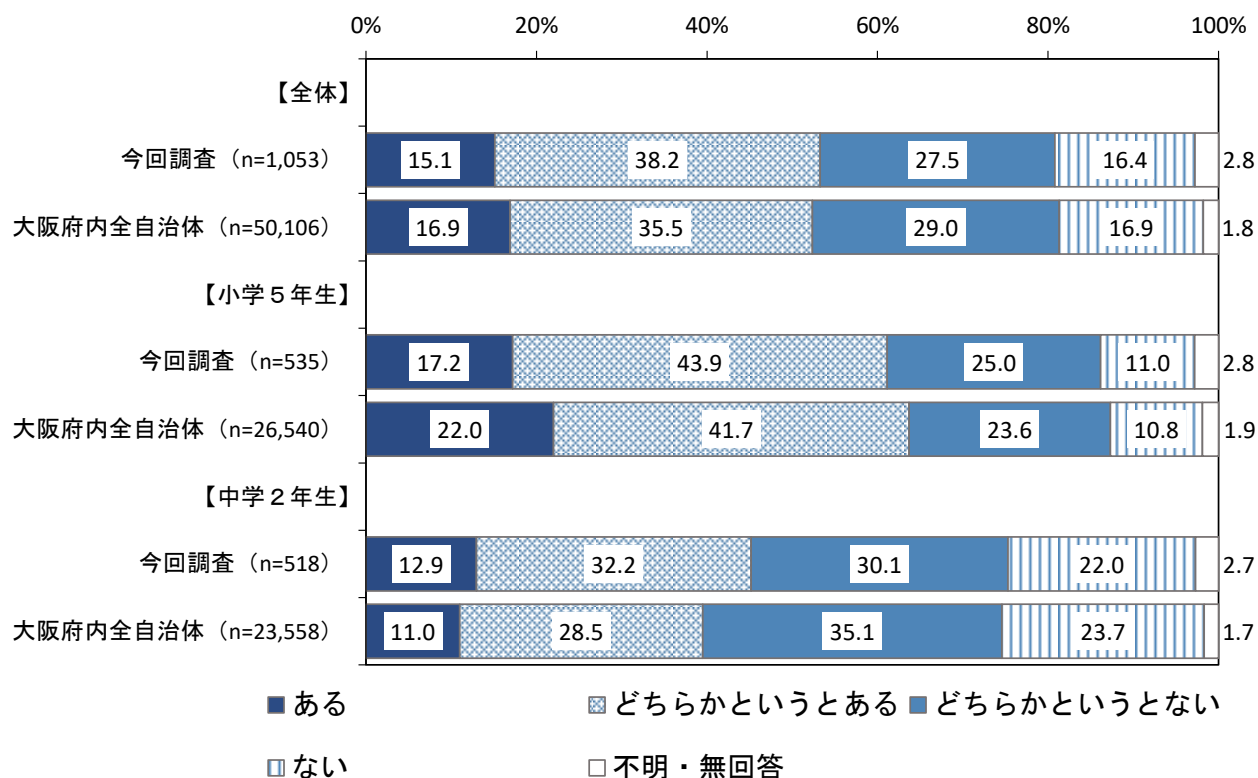


図 88 自分に自信があるか

④⑩ 考えを相手に伝えることができるか【子ども票】

考えを相手に伝えることができるかについては、「どちらかというところできる」が42.1%で最も高く、次いで「できる」が25.4%、「どちらかというところできない」が22.8%と続いており、『できる』（「できる」と「どちらかというところできる」の合計）は67.4%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、『できる』では、小学5年生（68.0%）、中学2年生（66.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

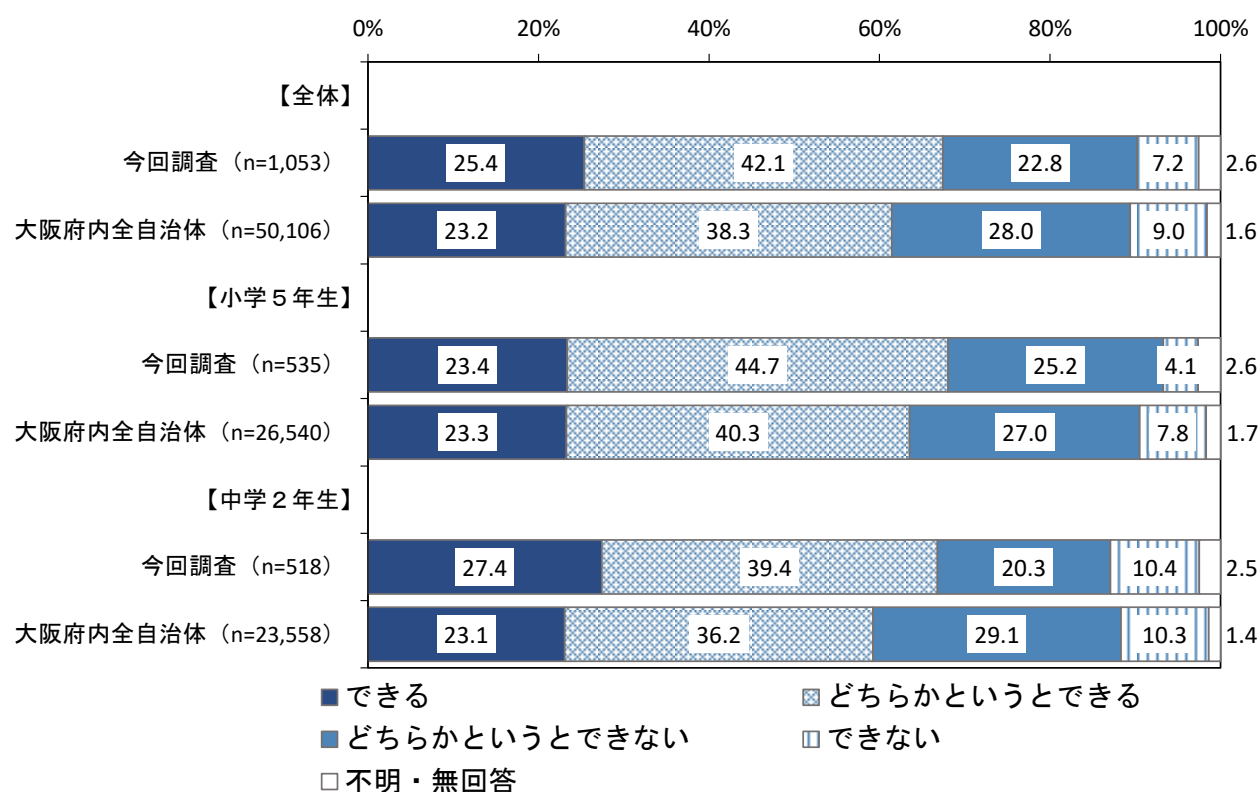


図 89 考えを相手に伝えることができるか

④1 大人は信用できるか【子ども票】

大人は信用できるかについては、「どちらかというと思う」が45.3%で最も高く、次いで「そう思う」が30.2%、「どちらかというと思わない」が14.0%と続いており、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）は75.5%となっています。

学年別でみると、『そう思う』では、中学2年生（66.0%）に比べ小学5年生（84.7%）の割合が高くなっています。

大阪府内全自治体と比較すると、『そう思う』では、小学5年生（84.7%）、中学2年生（66.0%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

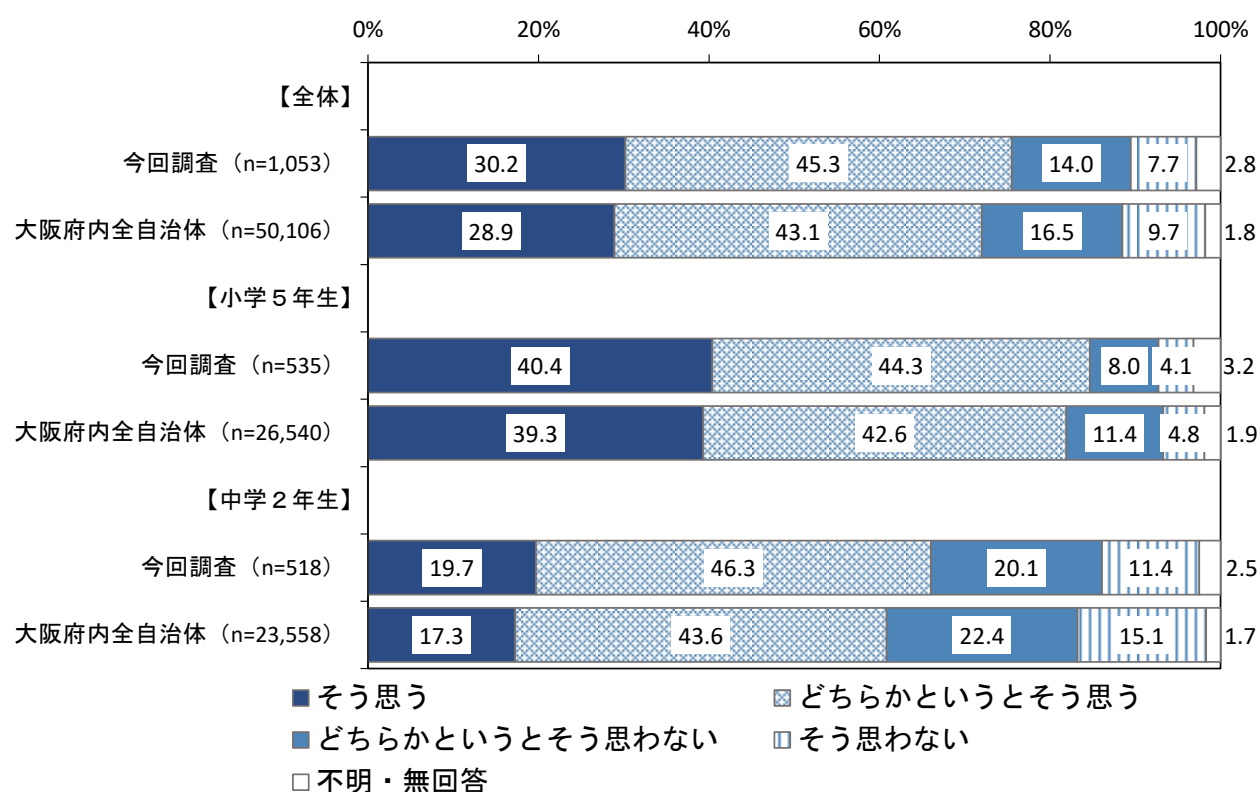


図 90 大人は信用できるか

④② 将来の夢や目標を持っているか【子ども票】

将来の夢や目標を持っているかについては、「持っている」が46.4%で最も高く、次いで「どちらかというを持っている」が22.5%、「持っていない」が14.9%と続いており、『持っている』（「持っている」と「どちらかというを持っている」の合計）は68.9%となっています。

学年別でみると、『持っている』では、中学2年生（61.8%）に比べ小学5年生（75.9%）の割合が高くなっています。

大阪府内全自治体と比較すると、『持っている』では、小学5年生（75.9%）、中学2年生（61.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

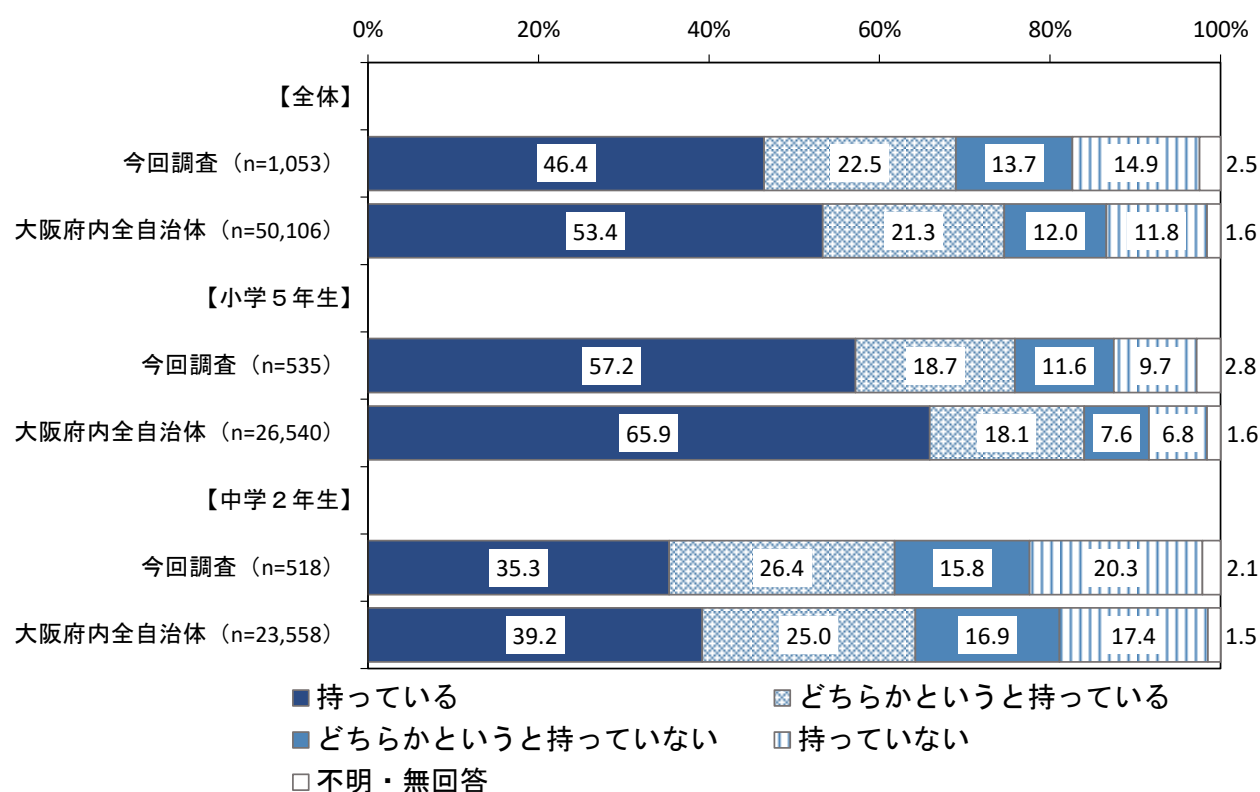


図 91 将来の夢や目標を持っているか

④③ 将来のためにも、今、頑張りたいか【子ども票】

将来のためにも、今、頑張りたいかについては、「そう思う」が55.7%で最も高く、次いで「どちらかというと思う」が28.5%、「どちらかというと思わない」が7.9%と続いており、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）は84.1%となっています。

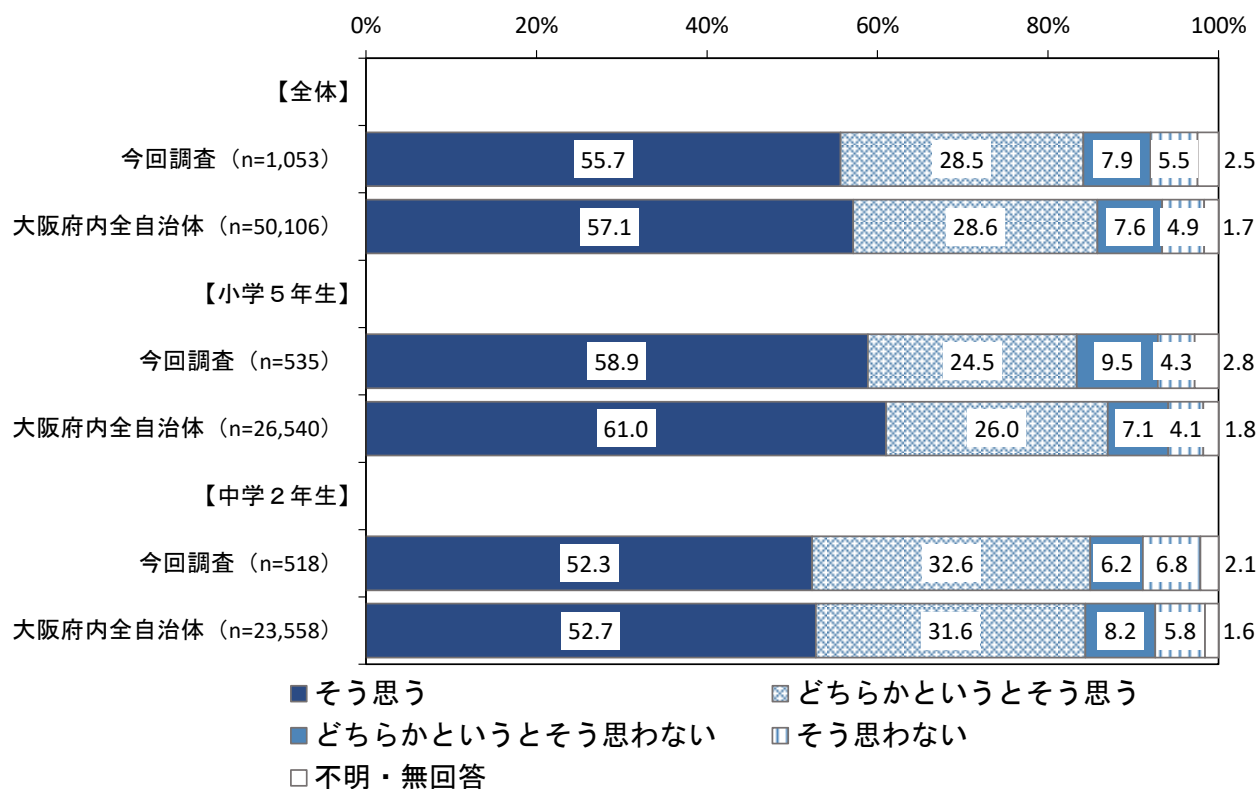


図 92 将来のためにも、今、頑張りたいか

④ 将来、働きたいか【子ども票】

将来、働きたいかについては、「そう思う」が82.1%で最も高く、次いで「どちらかというと思う」が11.6%、「そう思わない」が2.0%と続いており、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）は93.6%となっています。

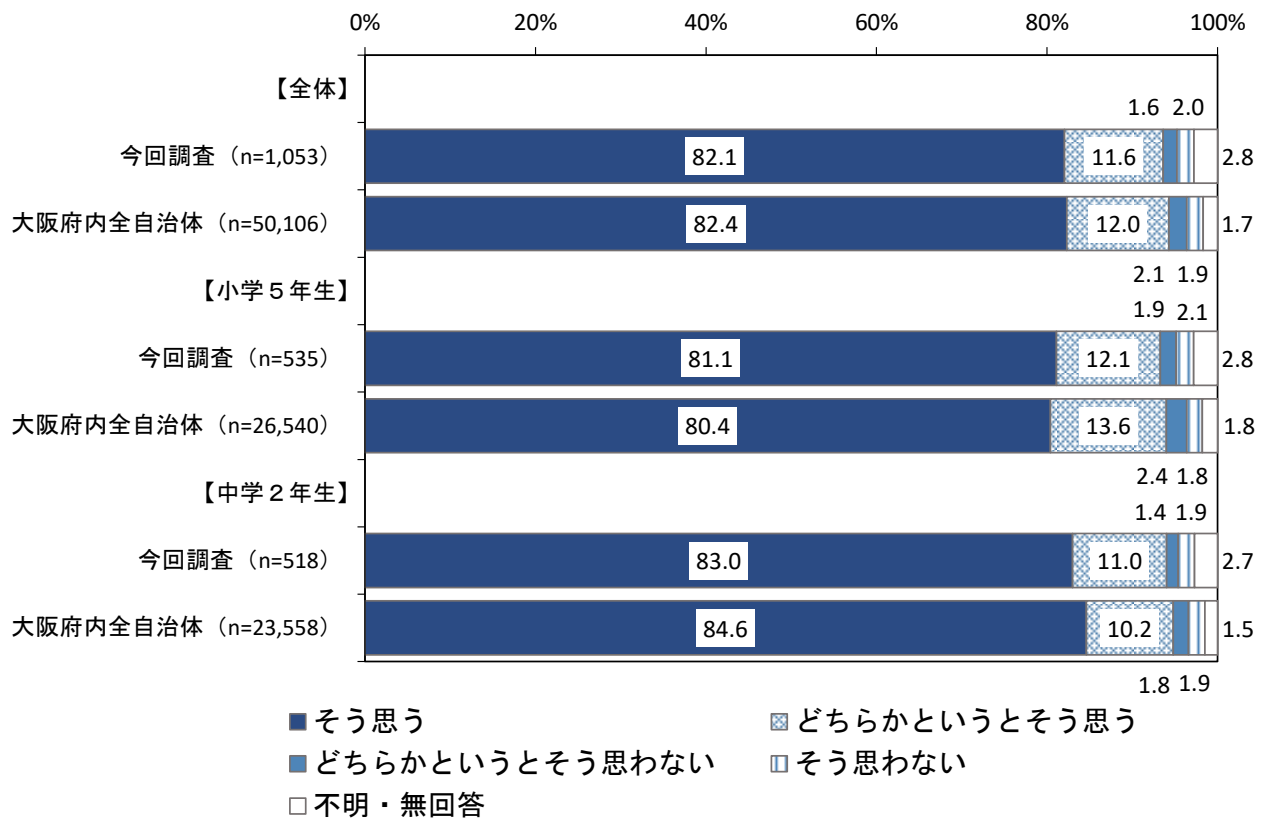


図 93 将来、働きたいか

④⑤ 自家用車の所有【保護者票】

自家用車の所有については、「持っている」が 97.7%、「持っていない」が 2.3%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「持っている」では、小学5年生の保護者（97.7%）、中学2年生の保護者（97.7%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

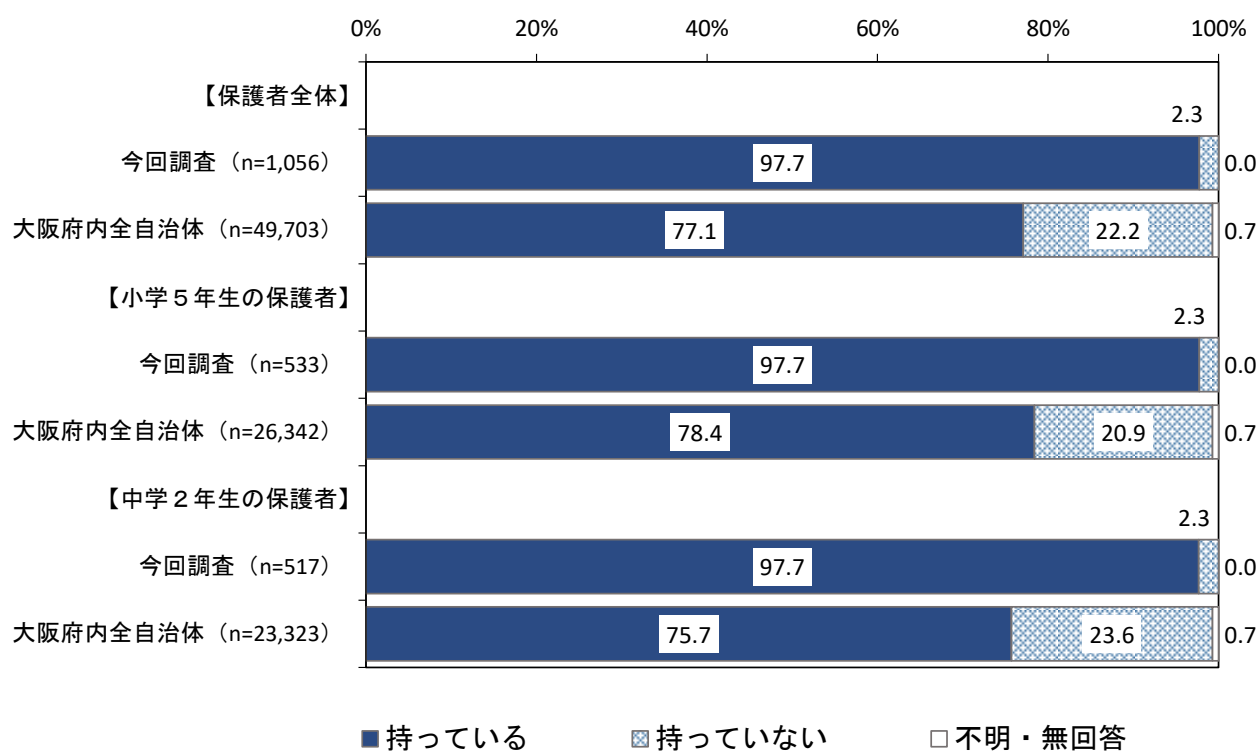


図 94 自家用車の所有

④⑥ 生活を楽しんでいるか【保護者票】

生活を楽しんでいるかについては、「楽しんでいる」が58.1%で最も高く、次いで「とても楽しんでいる」が18.8%、「あまり楽しんでいない」が12.2%と続いており、『楽しんでいる』（「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の合計）は77.0%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、『楽しんでいる』では、小学5年生の保護者（80.9%）、中学2年生の保護者（73.1%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

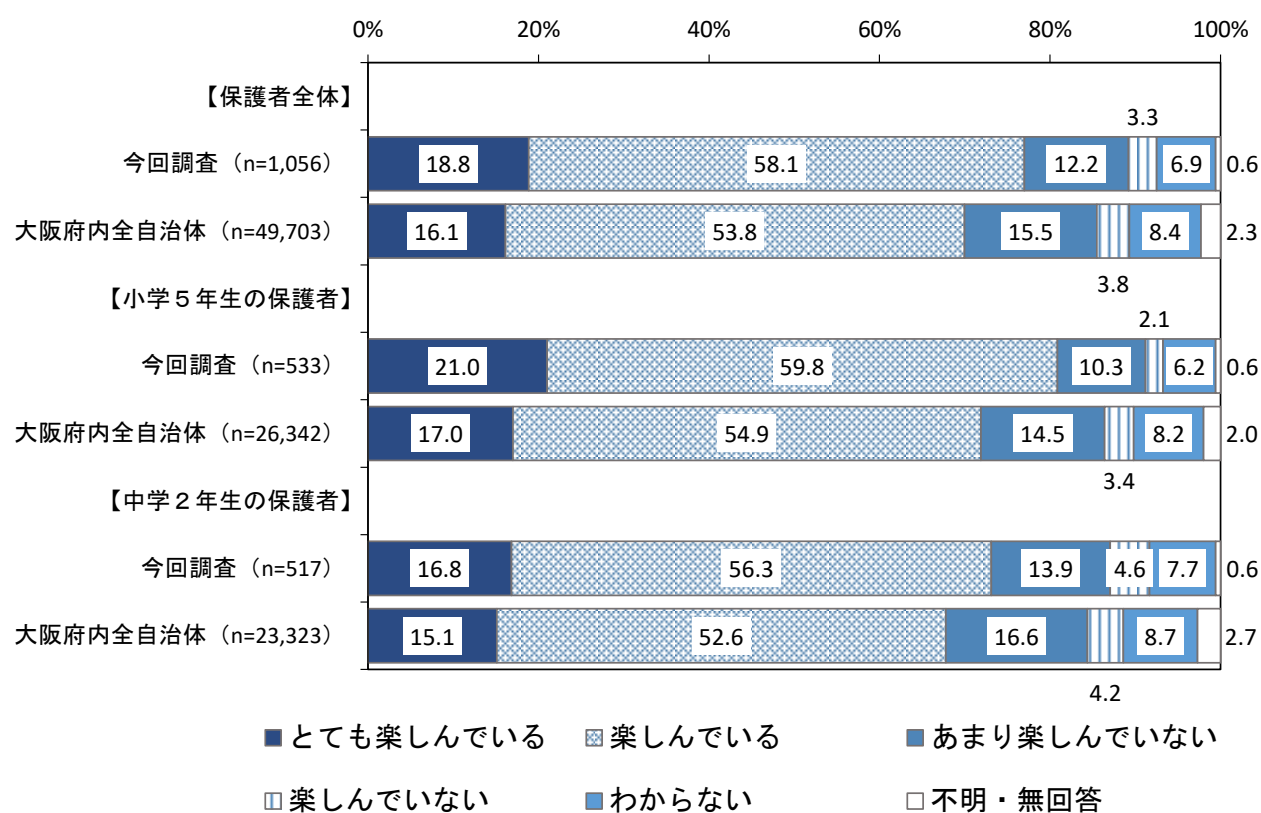


図 95 生活を楽しんでいるか

④⑦ 将来への希望【保護者票】

将来への希望については、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が 53.0% で最も高く、次いで「希望が持てる」が 32.1%、「わからない」が 9.2%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「希望が持てる」では、小学 5 年生の保護者 (32.5%)、中学 2 年生の保護者 (31.7%) いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

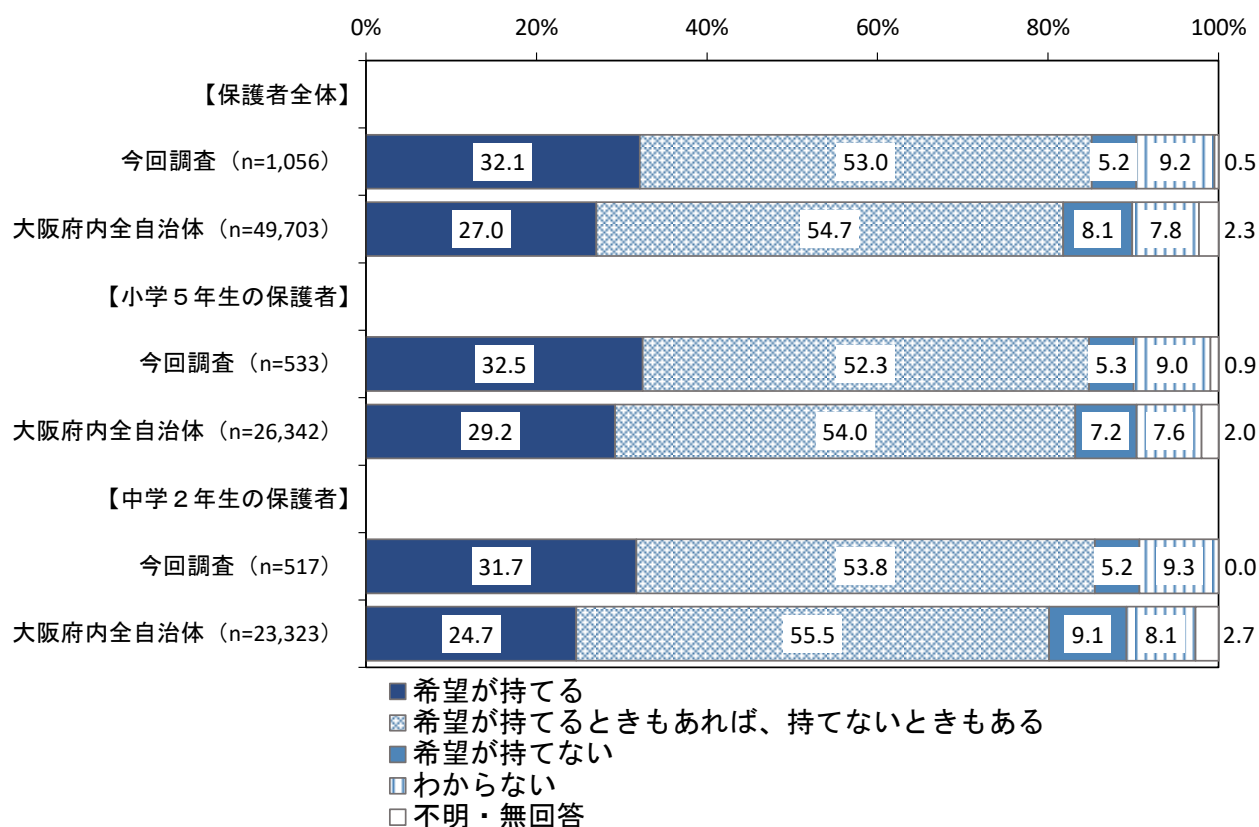


図 96 将来への希望

④⑧ ストレス発散できるもの【保護者票】

ストレス発散できるものについては、「あるときもあれば、ないときもある」が45.8%で最も高く、次いで「ある」が41.9%、「ない」が7.3%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「ある」では、小学5年生の保護者（43.0%）、中学2年生の保護者（40.6%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

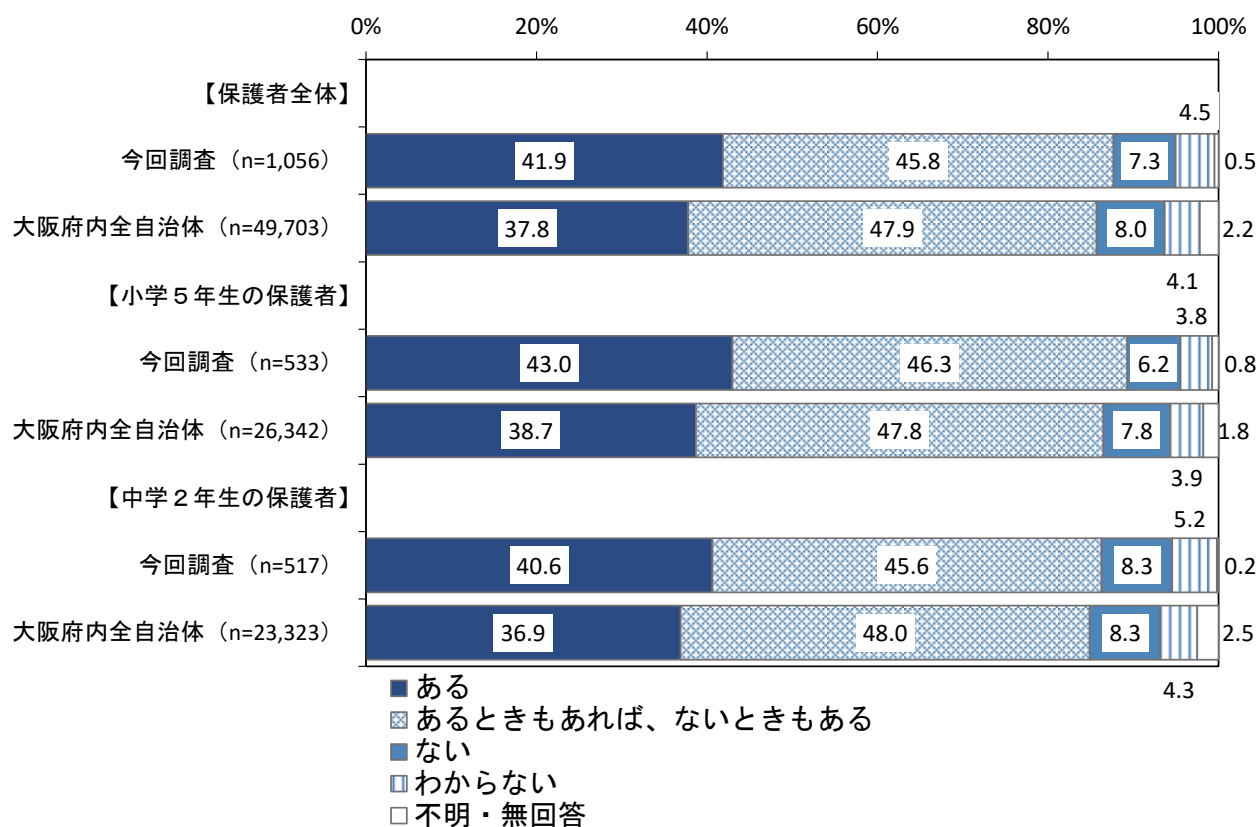


図 97 ストレス発散できるもの

④9 幸せだと思うか【保護者票】

幸せだと思うかについては、「幸せだと思う」が55.5%で最も高く、次いで「とても幸せだと思う」が30.6%、「わからない」が6.3%と続いており、『幸せだと思う』（「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」の合計）は86.1%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、『幸せだと思う』では、小学5年生の保護者（90.2%）、中学2年生の保護者（82.0%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

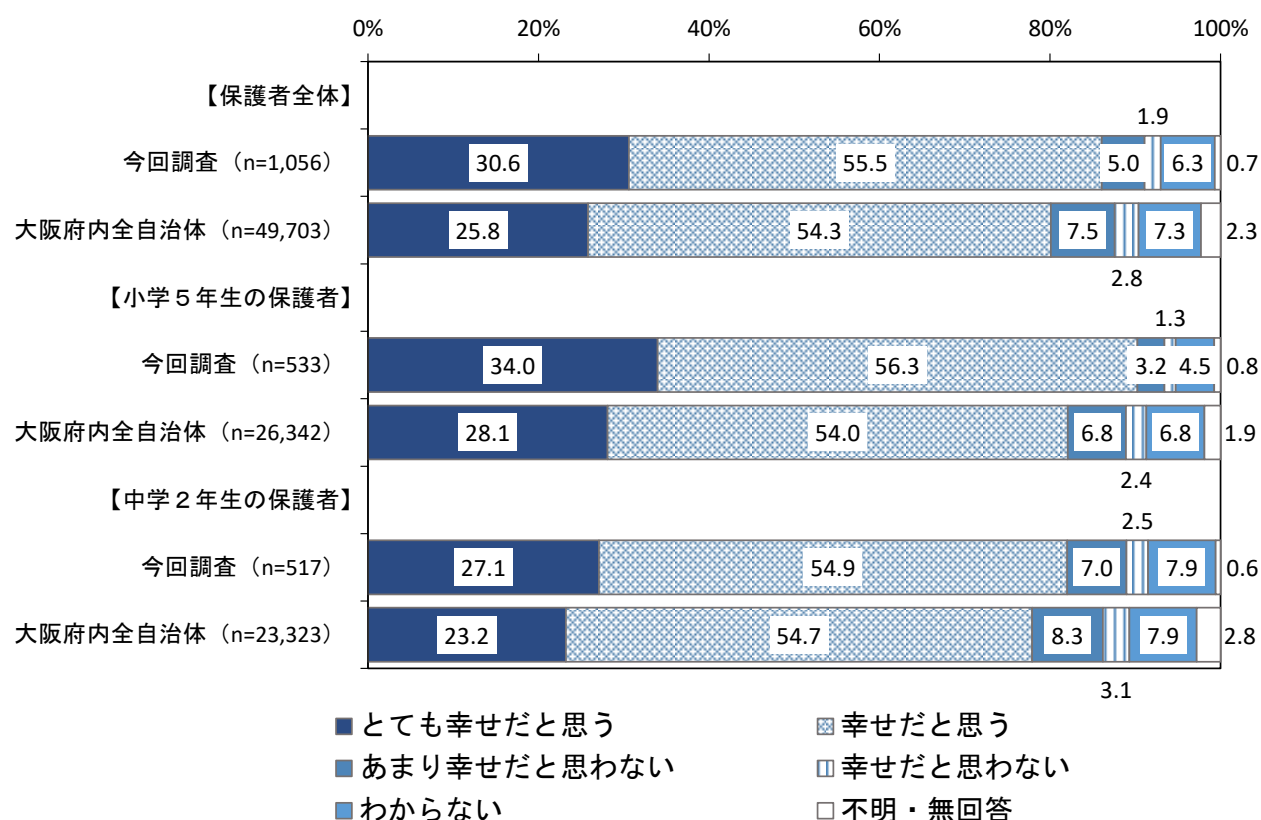


図 98 幸せだと思うか

(3) 教育環境

① 母親の最終学歴【保護者票】

母親の最終学歴については、「高専、短大、専門学校等卒業」が52.1%で最も高く、次いで「高等学校卒業」が23.1%、「大学卒業」が16.2%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「高専、短大、専門学校等卒業」では、小学5年生の保護者（50.7%）、中学2年生の保護者（53.1%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

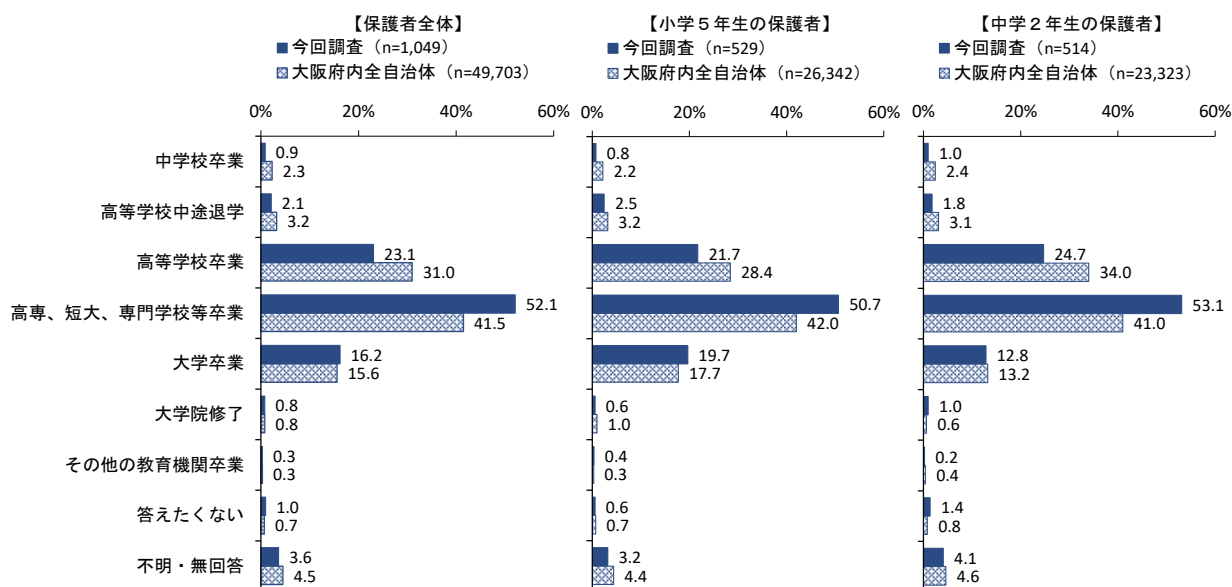


図 99 母親の最終学歴

② 父親の最終学歴【保護者票】

父親の最終学歴については、「大学卒業」が39.1%で最も高く、次いで「高等学校卒業」が27.0%、「高専、短大、専門学校等卒業」が18.4%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「大学卒業」では、小学5年生の保護者（41.8%）、中学2年生の保護者（36.3%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

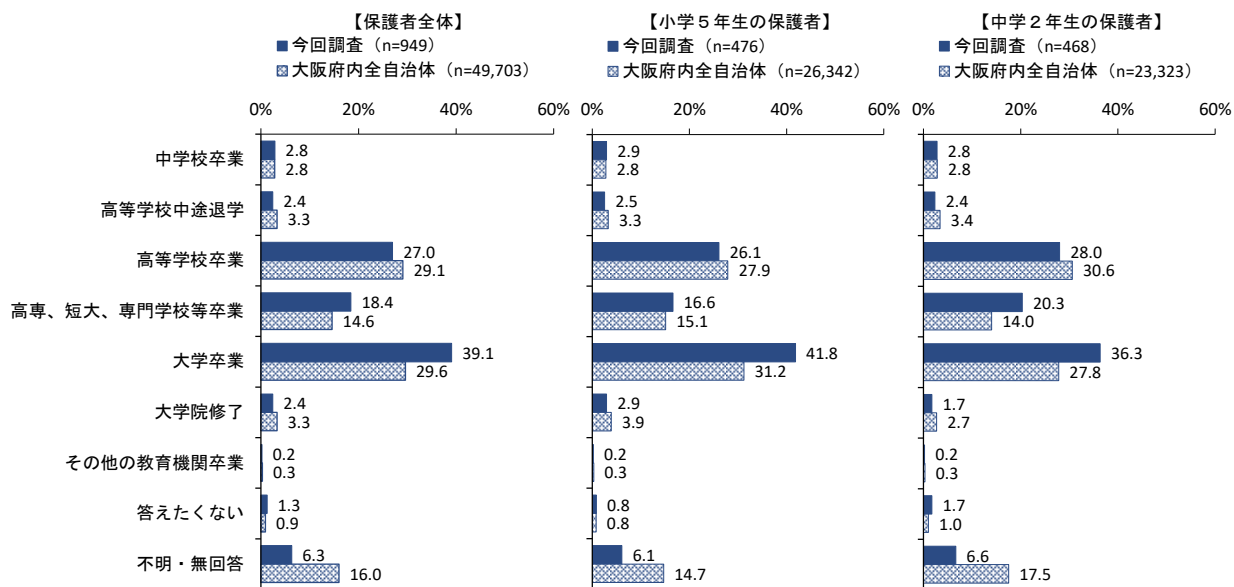


図 100 父親の最終学歴

③ 授業以外の勉強時間【子ども票】

授業以外の勉強時間については、「1時間～1時間59分」が27.6%で最も高く、次いで「30分～59分」が22.5%、「30分より少ない」が13.2%と続いています。

学年別でみると、「まったくしない」では、小学5年生(4.7%)に比べ中学2年生(9.7%)の割合が高くなっています。

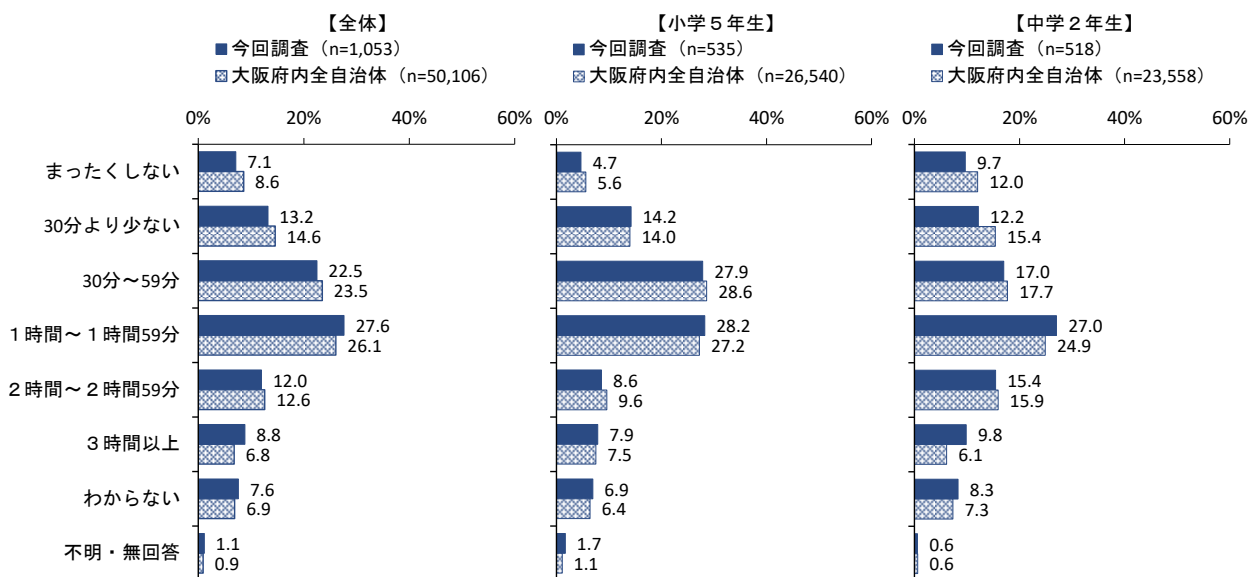


図 101 授業以外の勉強時間

④ 学校の勉強で気持ちに近いもの【子ども票】

学校の勉強で気持ちに近いものについては、「だいたいわかる」が 59.2%で最も高く、次いで「よくわかる」が 27.6%、「あまりわからない」が 9.0%と続いており、『わかる』（「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計）が 86.8%となっています。

学年別でみると、『わかる』では、小学5年生が 92.3%、中学2年生が 81.1%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、『わかる』では、小学5年生（92.3%）、中学2年生（81.1%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

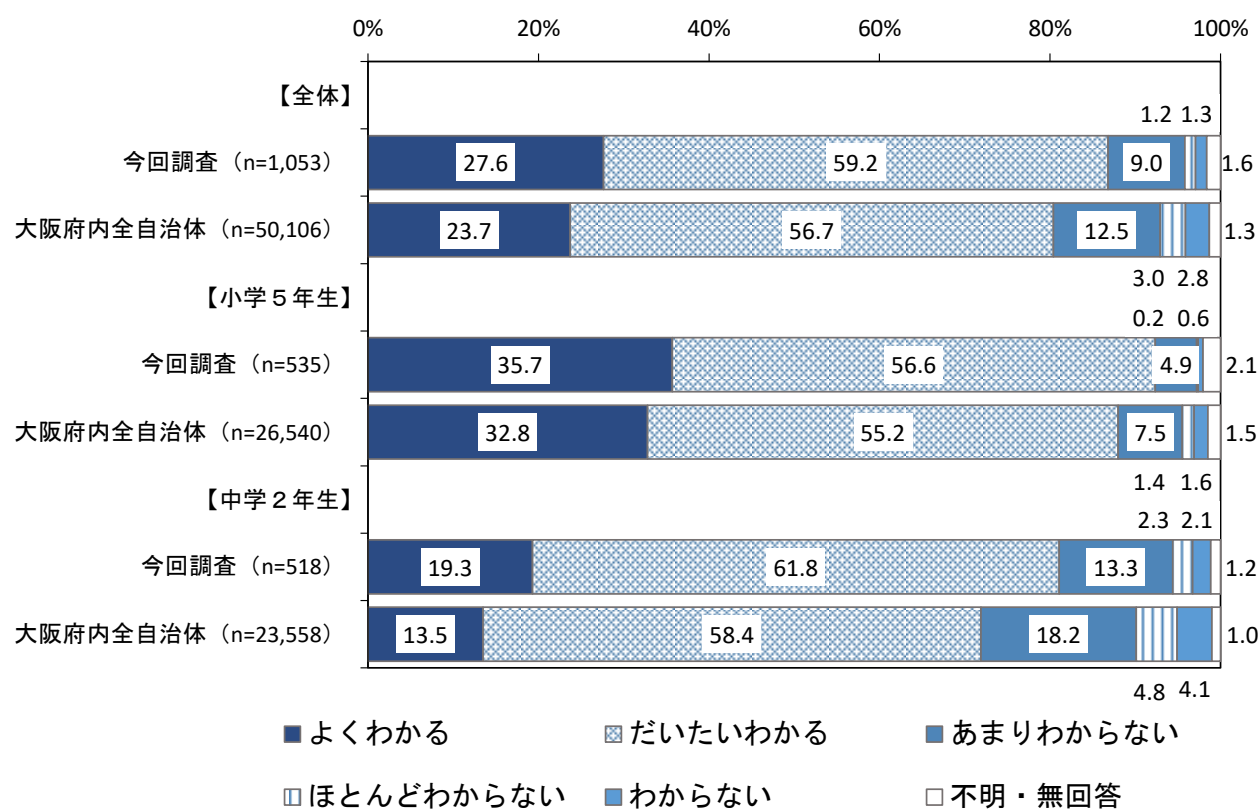


図 102 学校の勉強で気持ちに近いもの

⑤ 授業以外の読書時間【子ども票】

授業以外の読書時間については、「まったくしない」が34.5%で最も高く、次いで「30分より少ない」が32.9%、「30分～59分」が16.4%と続いています。

学年別でみると、小学5年生では「30分より少ない」(34.6%)の割合が最も高く、中学2年生では「まったくしない」(43.1%)の割合が最も高くなっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「まったくしない」では、小学5年生(26.2%)、中学2年生(43.1%)いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

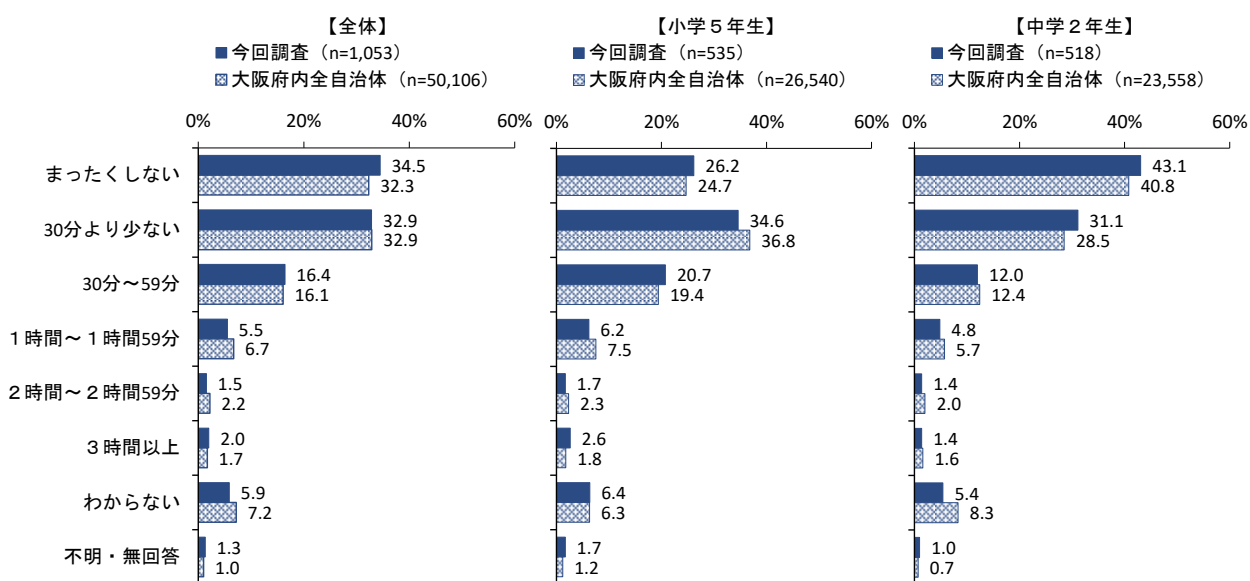


図 103 授業以外の読書時間

⑥ 希望する進学先【子ども票】

希望する進学先については、「大学・短期大学」が41.0%で最も高く、次いで「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）」が15.0%、「高校」が12.6%と続いています。

学年別でみると、小学5年生、中学2年生いずれも「大学・短期大学」の割合が最も高く、小学5年生では次いで「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）」（17.9%）の割合が高く、中学2年生では次いで「高校」（13.3%）の割合が高くなっています。

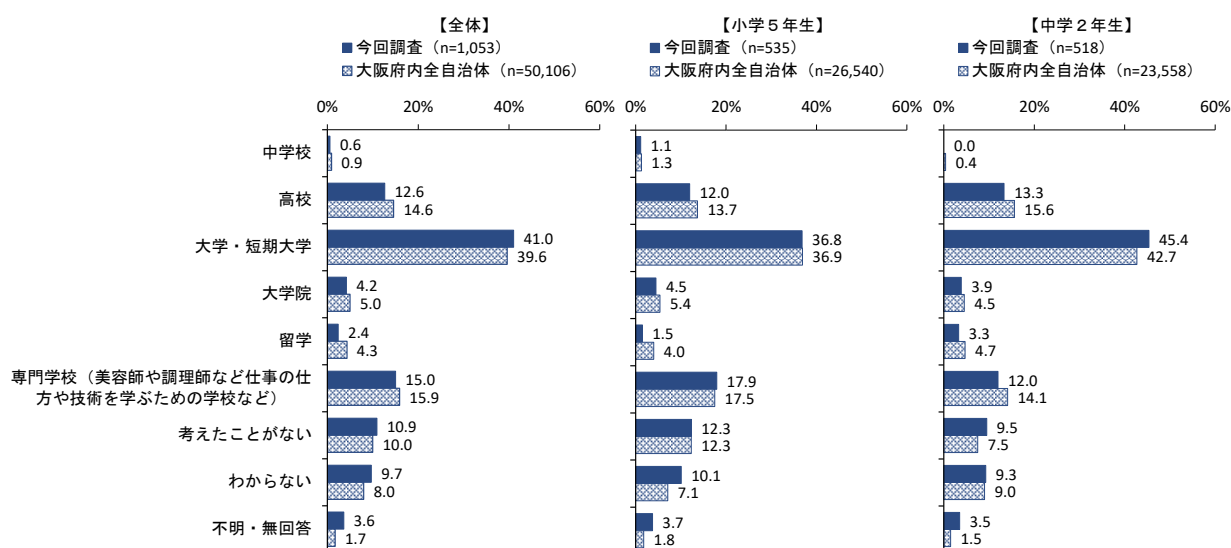


図 104 希望する進学先

⑦ 子どもの進学予測【保護者票】

子どもの進学予測については、「大学・短期大学」が63.6%で最も高く、次いで「高校」が12.8%、「わからない」が10.1%と続いています。

学年別でみると、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者いずれも「大学・短期大学」の割合が最も高く、小学5年生の保護者では次いで「わからない」(11.1%)の割合が高く、中学2年生の保護者では次いで「高校」(14.5%)の割合が高くなっています。

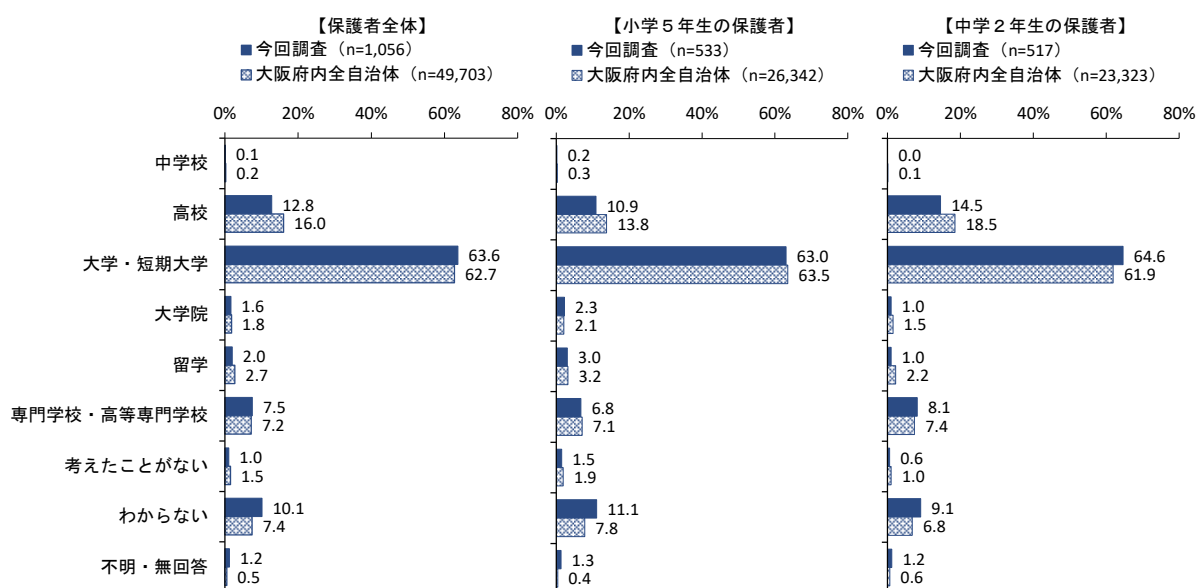


図 105 子どもの進学予測

⑦- 1 子どもの進学達成予測【保護者票】

子どもの進学達成予測（希望どおりの学校まで進むことになると思うか）については、「思う」が51.8%で最も高く、次いで「わからない」が43.1%、「思わない」が4.5%と続いています。

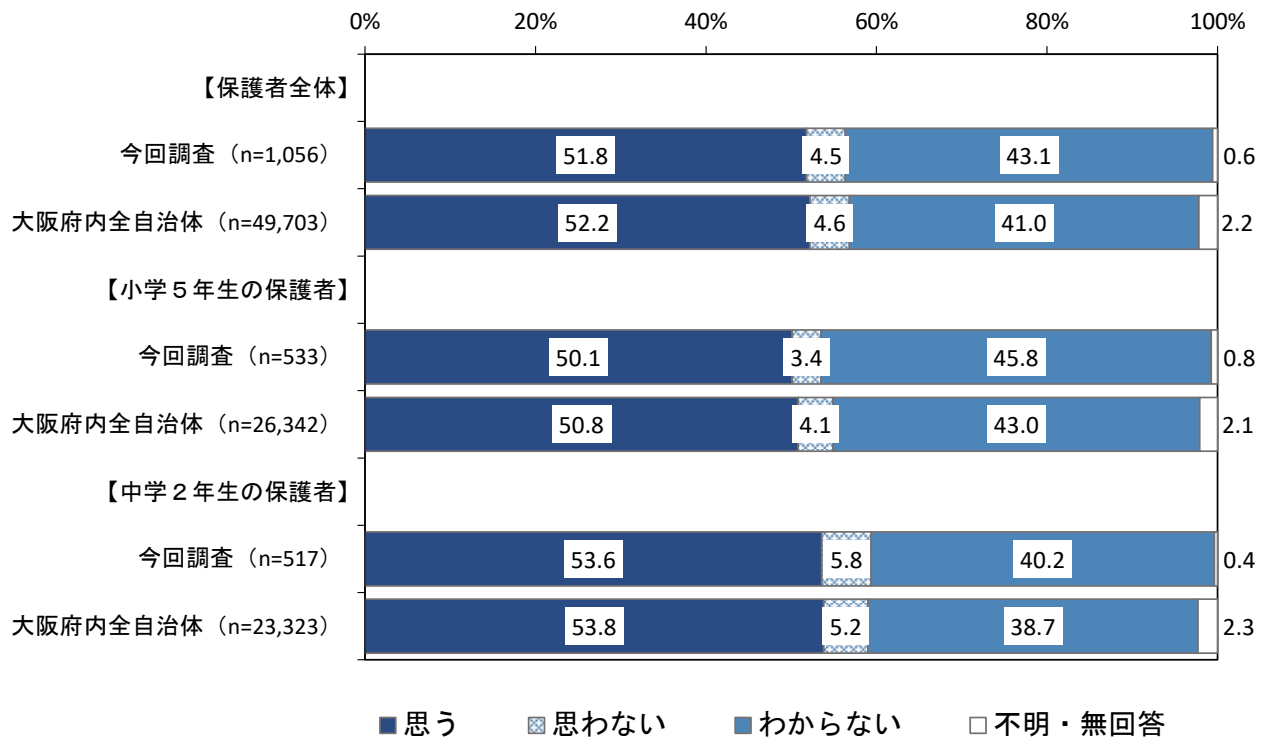


図 106 子どもの進学達成予測

⑦-2 子どもの進学達成「思わない」理由【保護者票】

子どもの進学達成「思わない」理由については、「お子さんの学力から考えて」が56.3%で最も高く、次いで「経済的な余裕がないから」が37.5%、「お子さんの希望と異なるから」が25.0%と続いています。

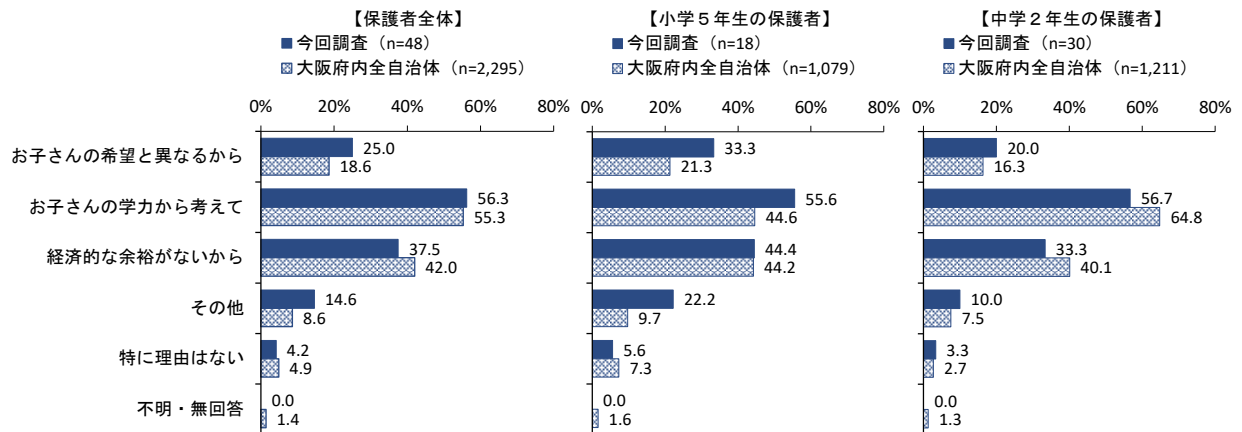


図 107 子どもの進学達成「思わない」理由

⑧ 子どもの通学状況【保護者票】

子どもの通学状況については、「ほぼ毎日通っている」が 92.0%で最も高く、次いで「欠席は年間 30 日未満である」が 3.0%、「欠席が年間 60 日以上続いている」が 0.5%と続いています。

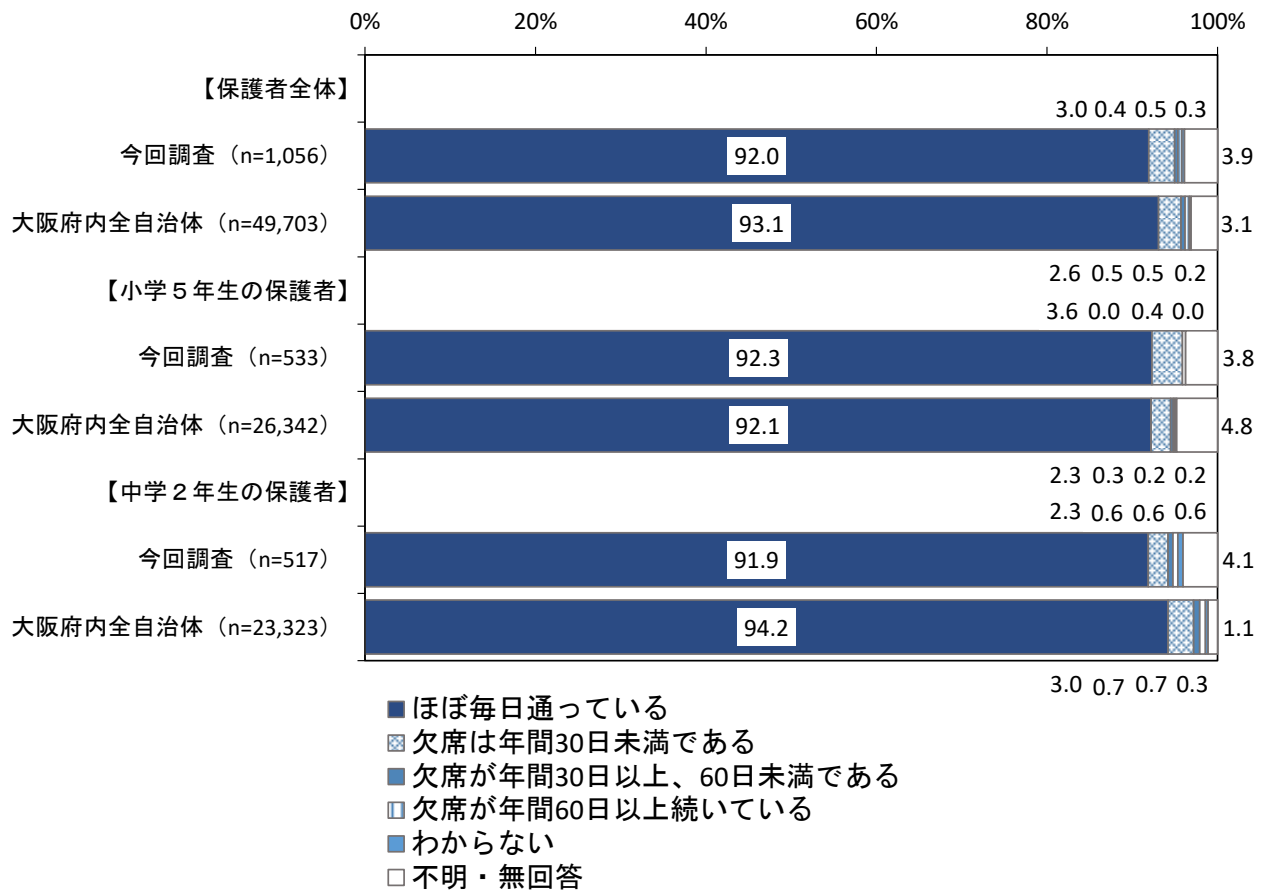


図 108 子どもの通学状況

（４）社会環境

① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人【保護者票】

心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人については、「いる」が90.4%で最も高く、次いで「わからない」が5.3%、「いない」が3.6%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いる」では、小学5年生の保護者（89.3%）、中学2年生の保護者（91.5%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

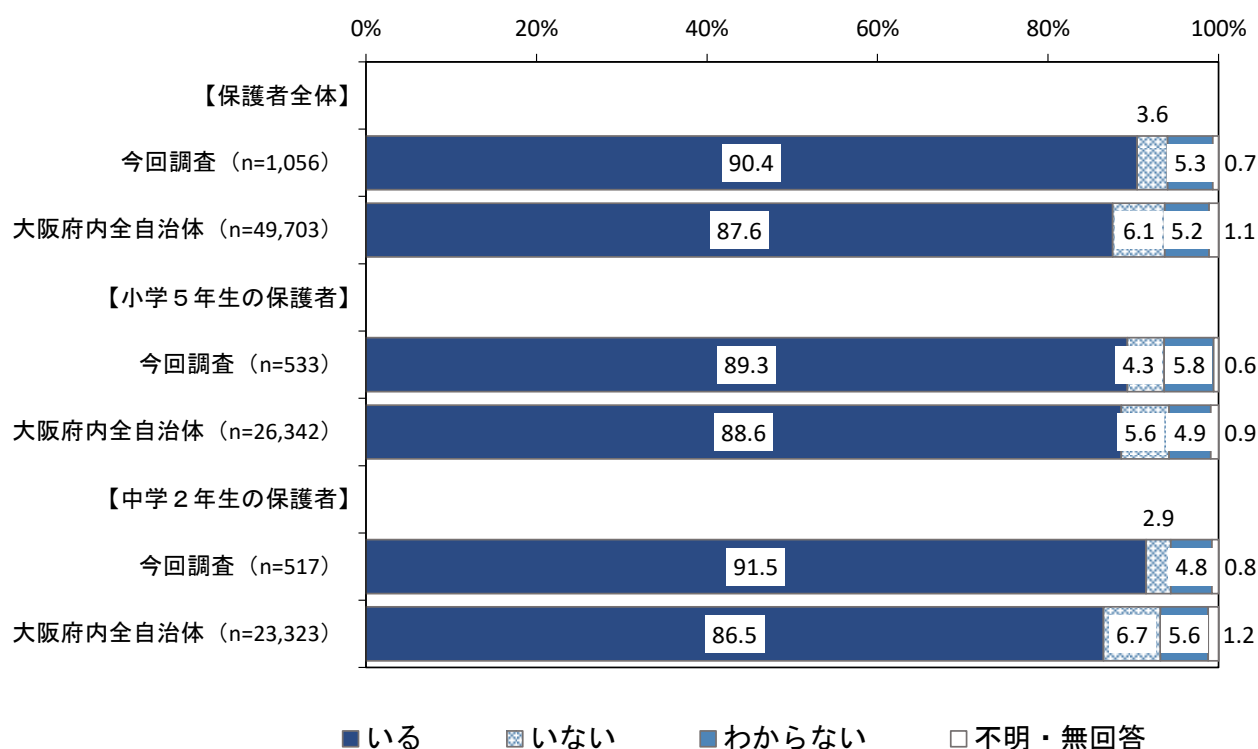


図 109 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人【保護者票】

あなたの気持ちを察して思いやってくれる人については、「いる」が 85.2%で最も高く、次いで「わからない」が 9.1%、「いない」が 5.1%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いる」では、小学5年生の保護者（86.1%）、中学2年生の保護者（84.3%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

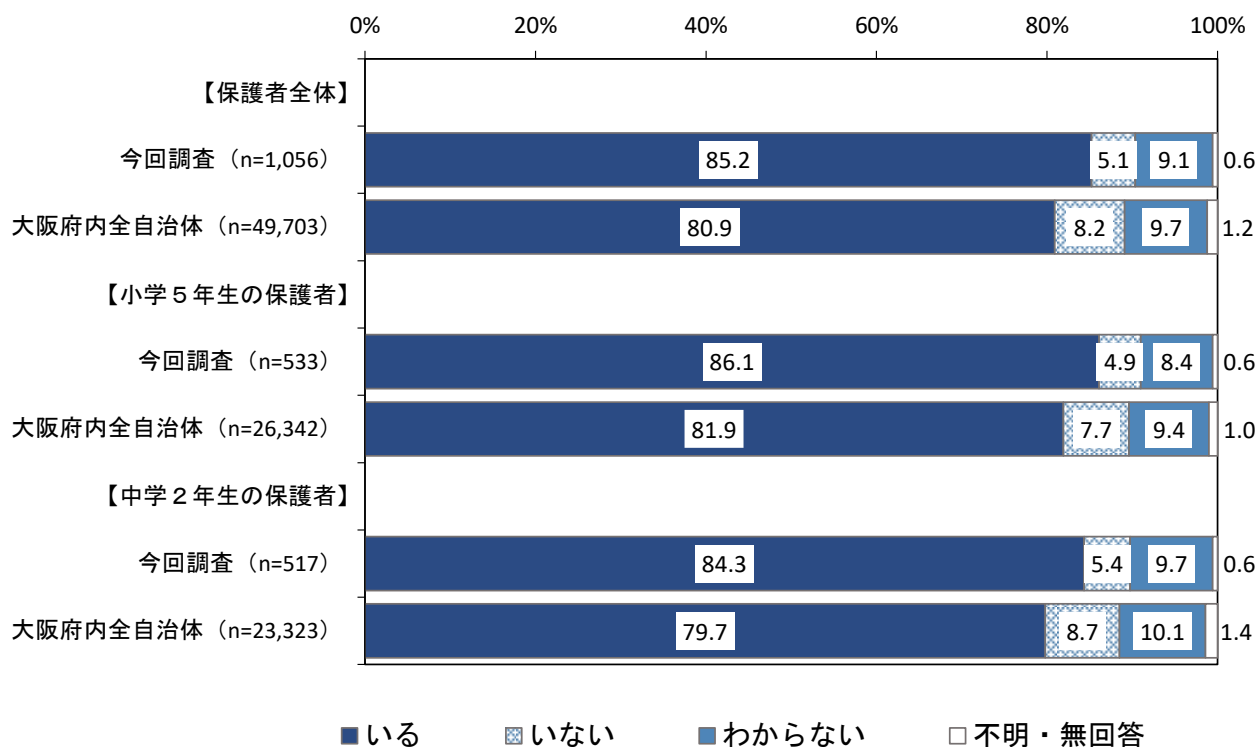


図 110 あなたの気持ちを察して思いやってくれる人

③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人【保護者票】

趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人については、「いる」が83.0%で最も高く、次いで「いない」が8.6%、「わからない」が7.7%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いる」では、小学5年生の保護者（83.5%）、中学2年生の保護者（82.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

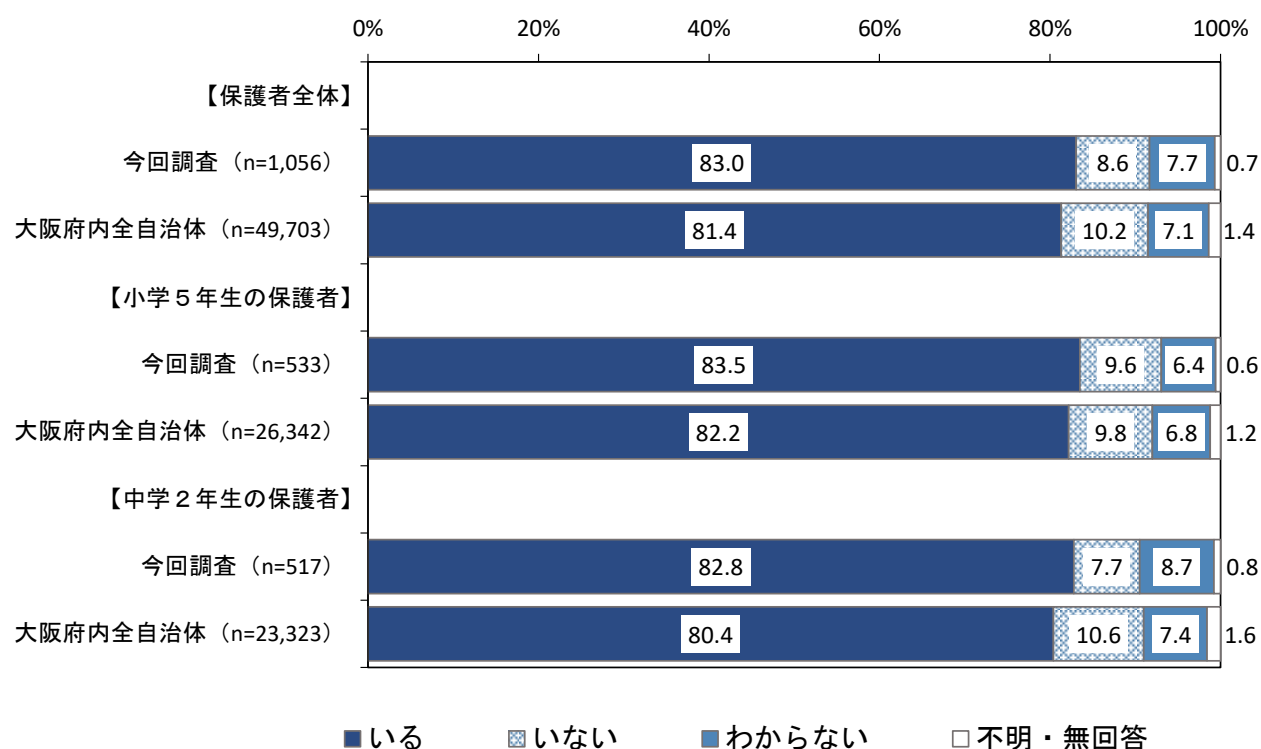


図 111 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

④ 子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人【保護者票】

子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人については、「いる」が81.5%で最も高く、次いで「わからない」が11.9%、「いない」が5.9%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いる」では、小学5年生の保護者（81.6%）、中学2年生の保護者（81.4%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

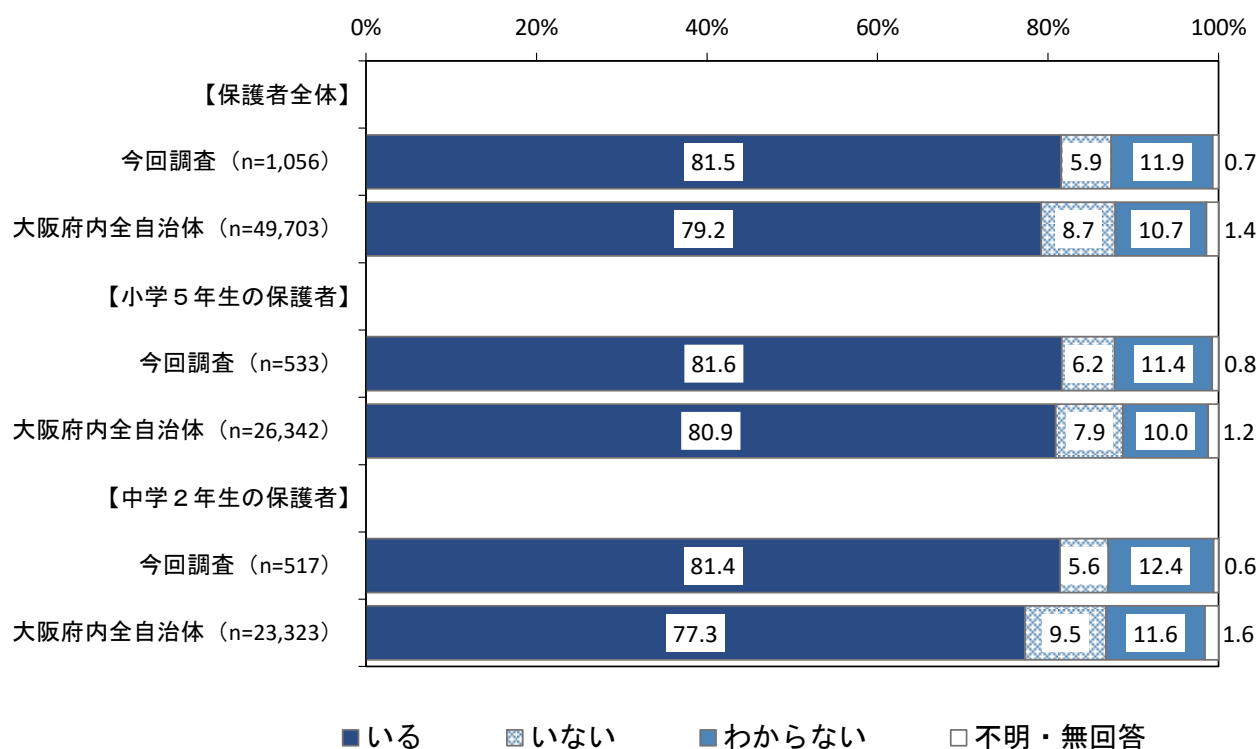


図 112 子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

⑤ 子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人【保護者票】

子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人については、「いる」が71.9%で最も高く、次いで「わからない」が16.8%、「いない」が10.6%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いる」では、小学5年生の保護者（73.9%）、中学2年生の保護者（69.8%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

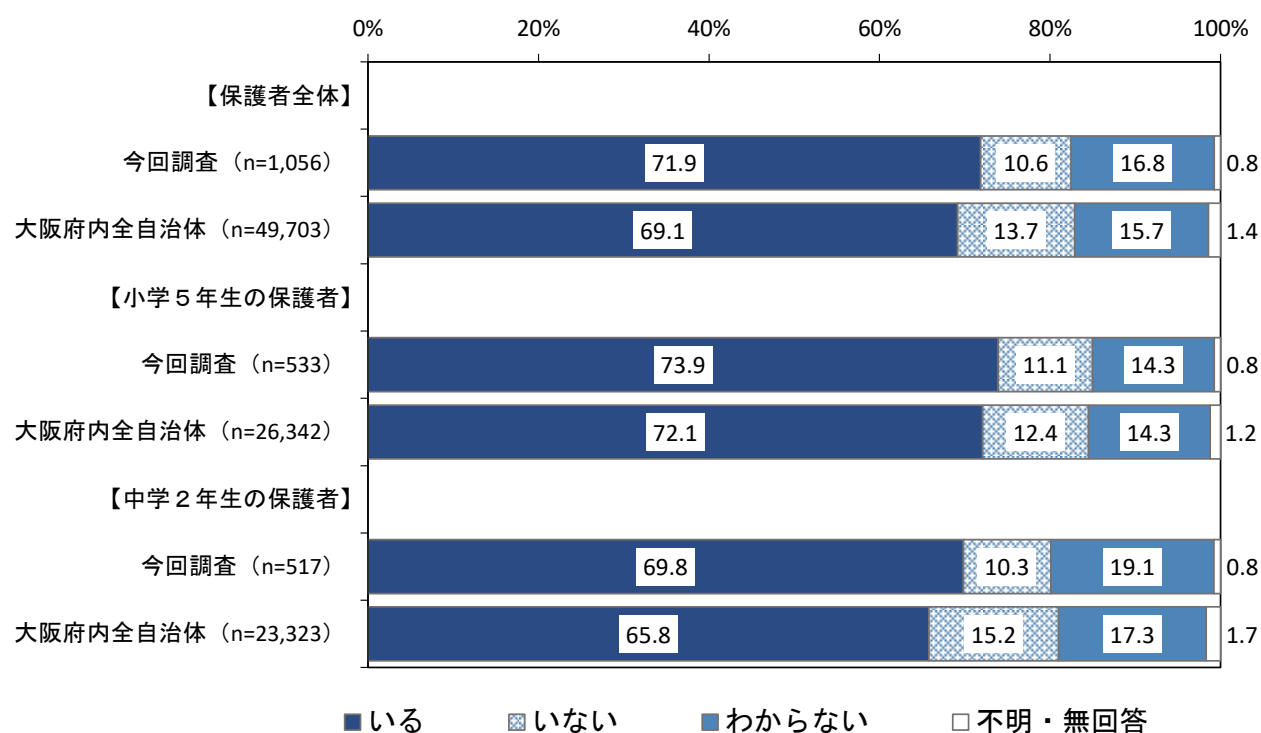


図 113 子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人

⑥ 子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人【保護者票】

子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人については、「いる」が72.3%で最も高く、次いで「いない」が21.3%、「わからない」が5.8%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いる」では、小学5年生の保護者（74.3%）、中学2年生の保護者（70.2%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

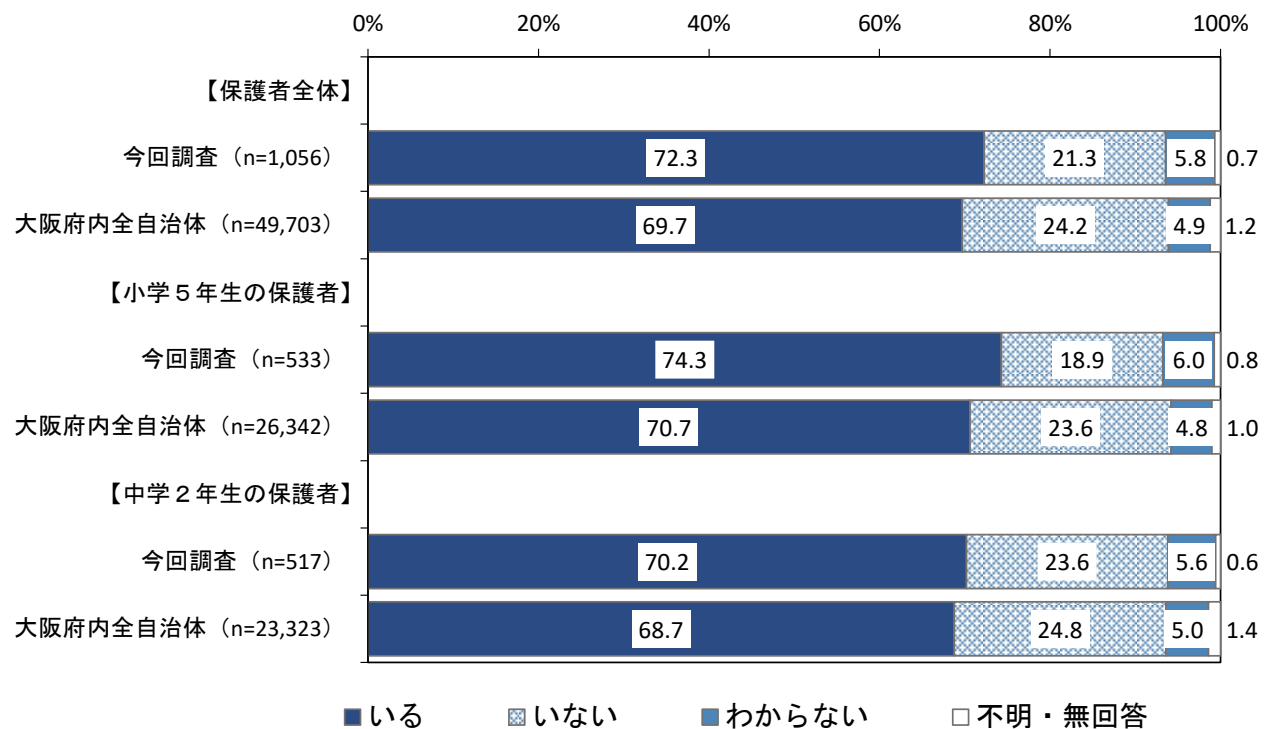


図 114 子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

⑦ 留守を頼める人【保護者票】

留守を頼める人については、「いる」が72.3%で最も高く、次いで「いない」が22.4%、「わからない」が4.6%となっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いる」では、小学5年生の保護者（74.3%）、中学2年生の保護者（70.4%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

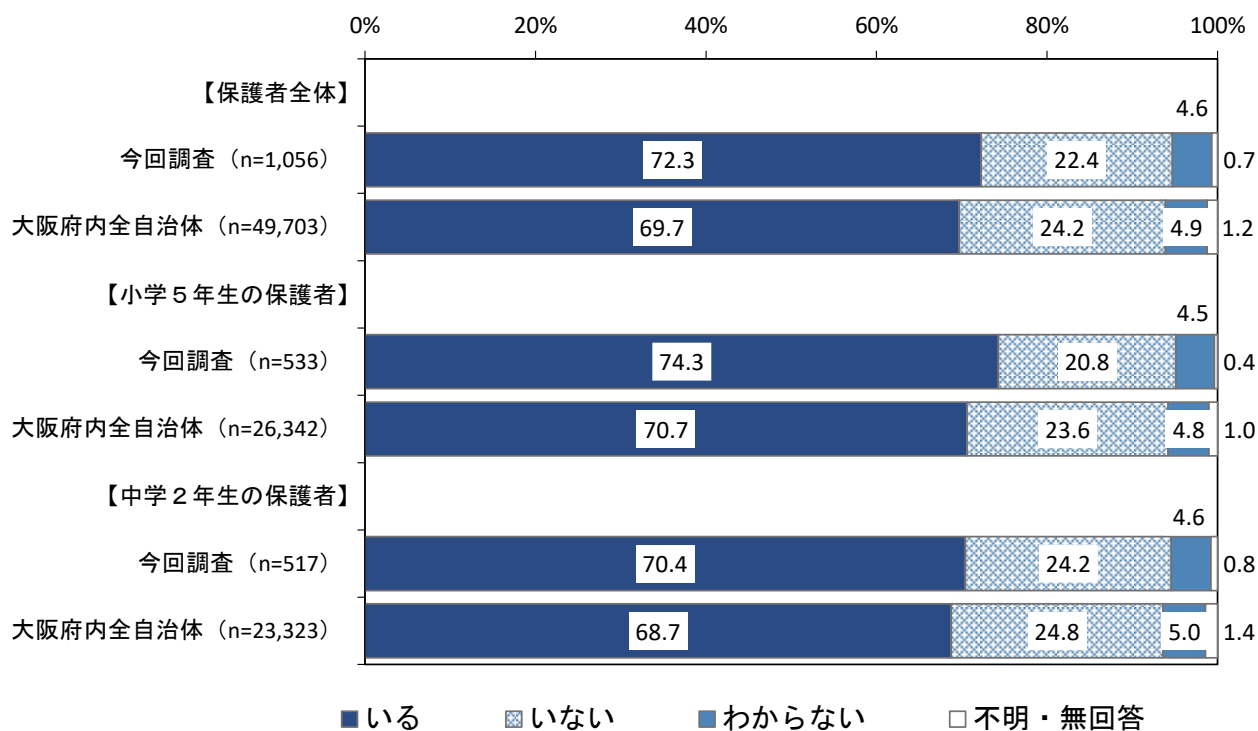


図 115 留守を頼める人

⑧ 困ったときの相談先【保護者票】

困ったときの相談先については、「配偶者・パートナー」が73.0%で最も高く、次いで「自分の親」が70.4%、「近隣に住む知人や友人」が42.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「自分の親」、「きょうだい・その他の親戚」、「近隣に住んでいない知人や友人」、「職場関係者」では、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高く、「配偶者・パートナー」、「近隣に住む知人や友人」、「学校の先生やスクールカウンセラー」、「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」、「公的機関や役所の相談員」、「放課後児童会（学童保育）の指導員」、「地域の民生委員・児童委員」、「民間の支援団体」、「相談できる相手がいない」では、小学5年生の保護者、中学2年生の保護者いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

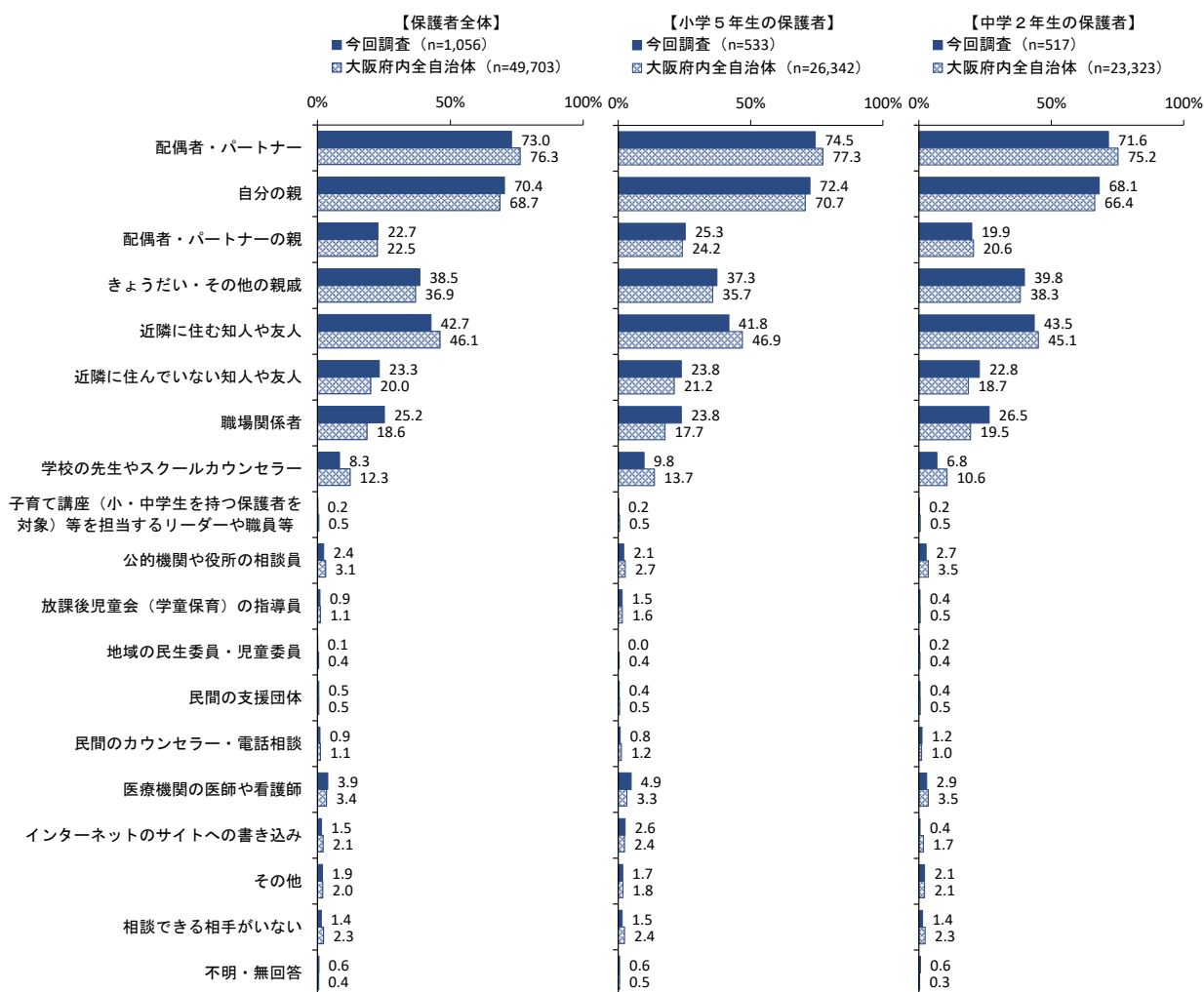


図 116 困ったときの相談先

⑨ 悩んでいること【子ども票】

悩んでいることについては、「いやなことや悩んでいることはない」が41.1%で最も高く、次いで「進学・進路のこと」が21.7%、「学校や勉強のこと」が20.7%と続いています。

学年別でみると、「その他のこと」、「いやなことや悩んでいることはない」以外の項目で、小学5年生に比べ中学2年生の割合が高くなっています。

大阪府内全自治体と比較すると、「いやなことや悩んでいることはない」では、小学5年生（50.8%）、中学2年生（31.1%）いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

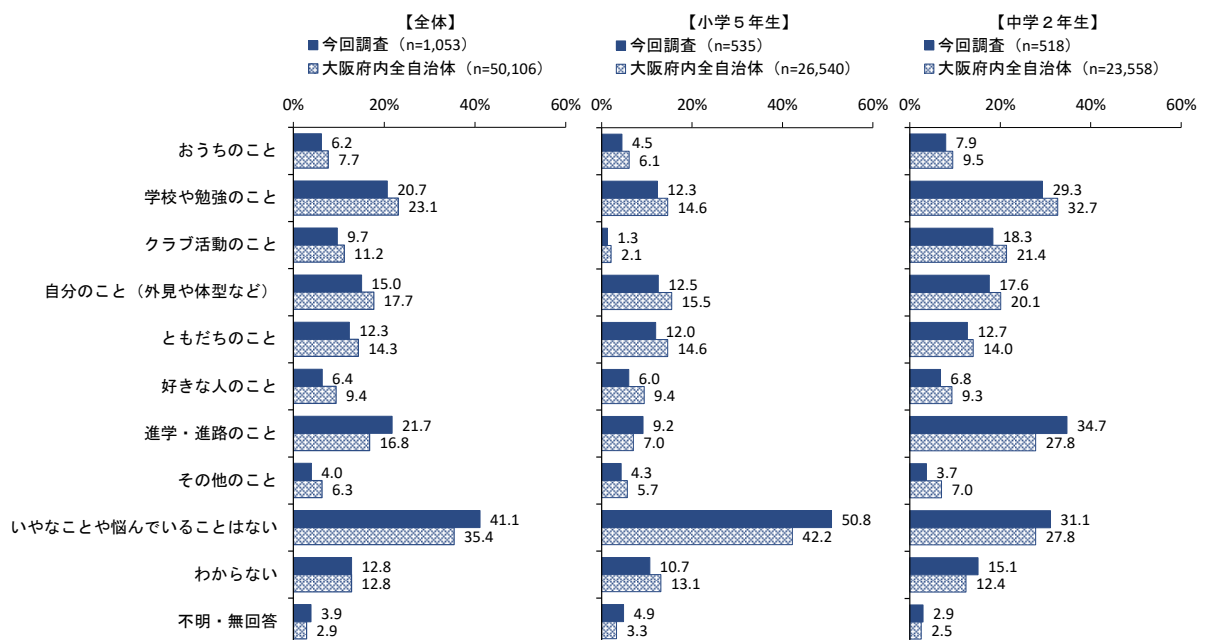


図 117 悩んでいること

⑩ 嫌なことや悩んでいるときの相談相手【子ども票】

嫌なことや悩んでいるときの相談相手については、「親」が67.8%で最も高く、次いで「学校のともだち」が57.3%、「担任の先生や他のクラスの先生」が22.0%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「だれにも相談できない」、「だれにも相談したくない」では、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が低くなっています。

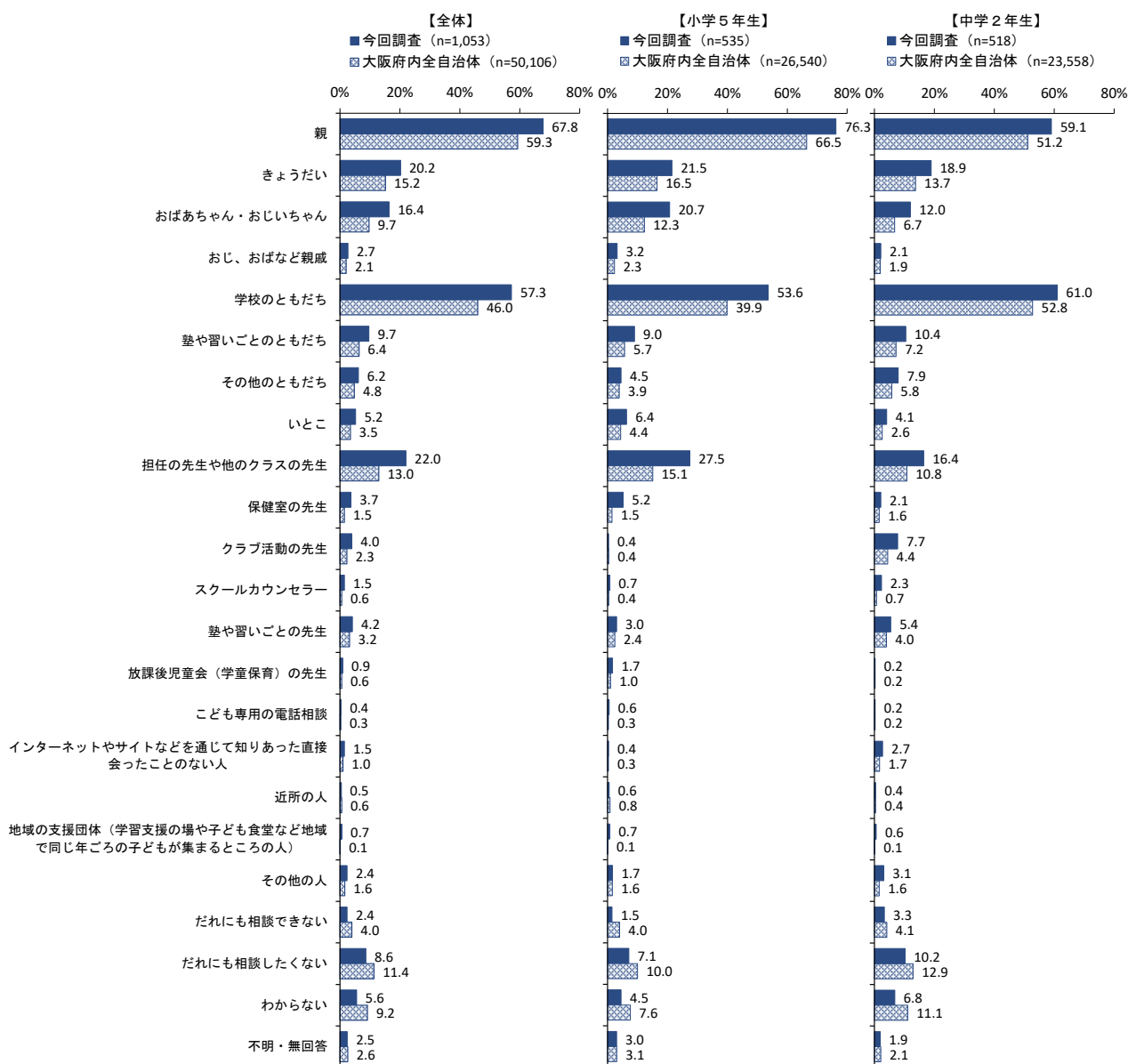


図 118 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

⑪ 失敗したときに助けてくれる人【子ども票】

失敗したときに助けてくれる人については、「お母さん」が76.2%で最も高く、次いで「ともだち」が68.5%、「お父さん」が52.9%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「誰もいない」、「わからない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

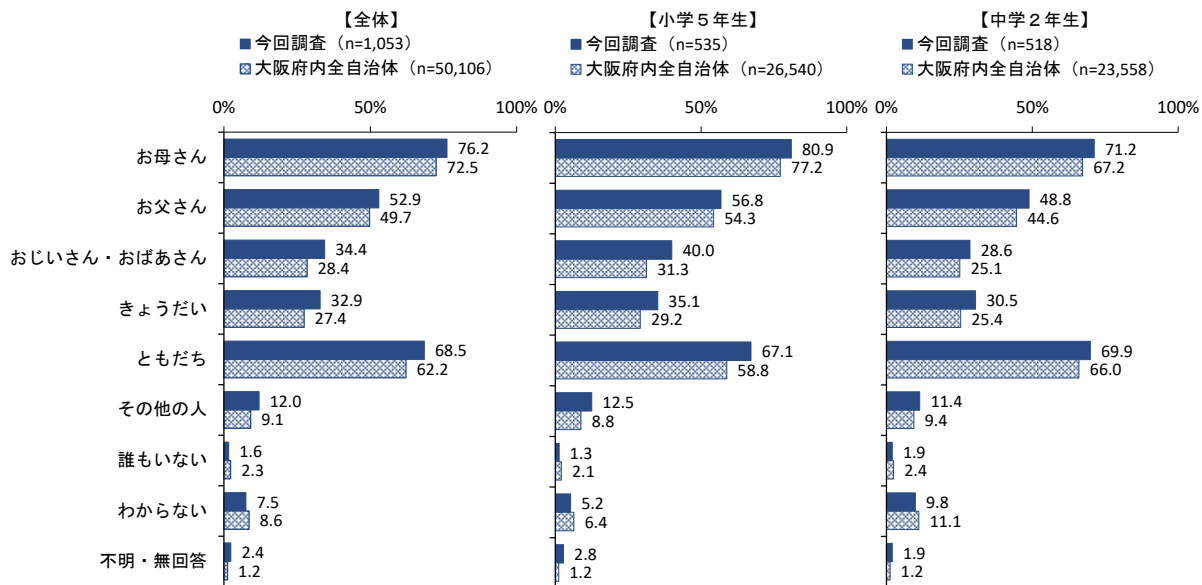


図 119 失敗したときに助けてくれる人

⑫ 頑張ったときにほめてくれる人【子ども票】

頑張ったときにほめてくれる人については、「お母さん」が82.9%で最も高く、次いで「お父さん」が65.1%、「ともだち」が50.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「その他の人」、「誰もいない」、「わからない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

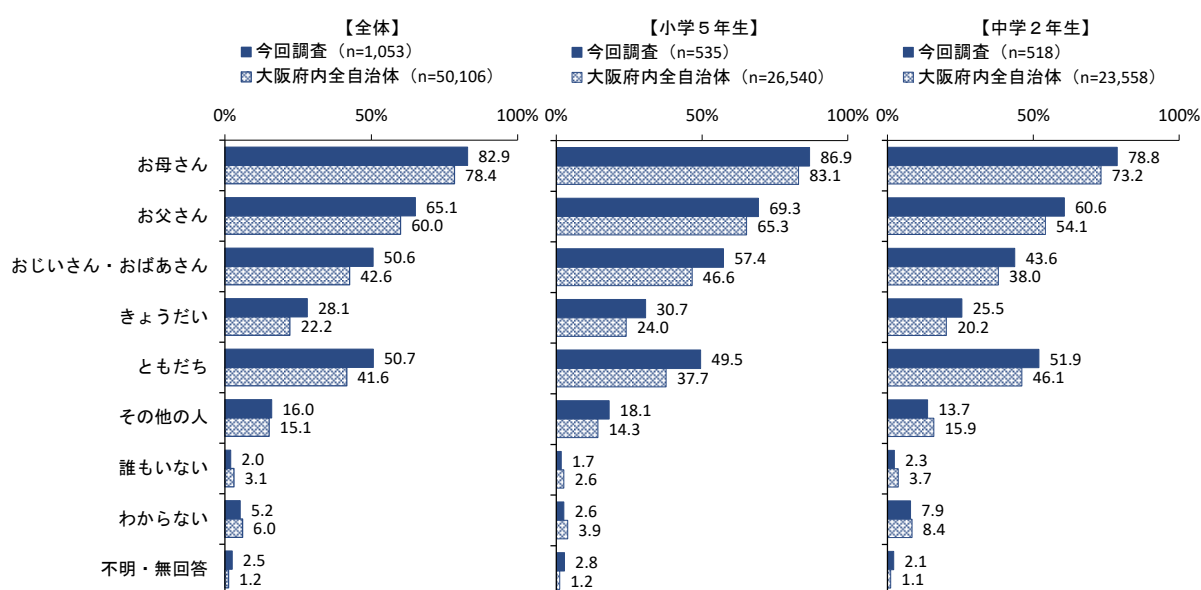


図 120 頑張ったときにほめてくれる人

⑬ 一人でできないときに手伝ってくれる人【子ども票】

一人でできないときに手伝ってくれる人については、「ともだち」が 66.5%で最も高く、次いで「お母さん」が 65.3%、「お父さん」が 44.3%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「その他の人」、「誰もいない」、「わからない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

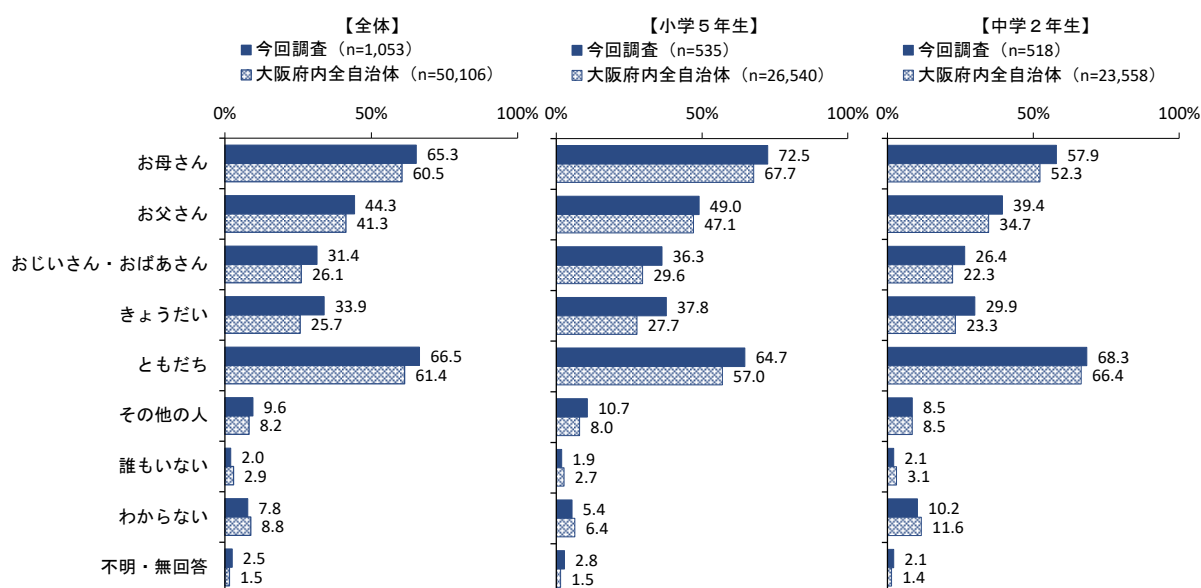


図 121 一人でできないときに手伝ってくれる人

⑭ あなたの気持ちをわかってくれる人【子ども票】

あなたの気持ちをわかってくれる人については、「お母さん」が70.2%で最も高く、次いで「ともだち」が48.1%、「お父さん」が46.3%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「誰もいない」、「わからない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

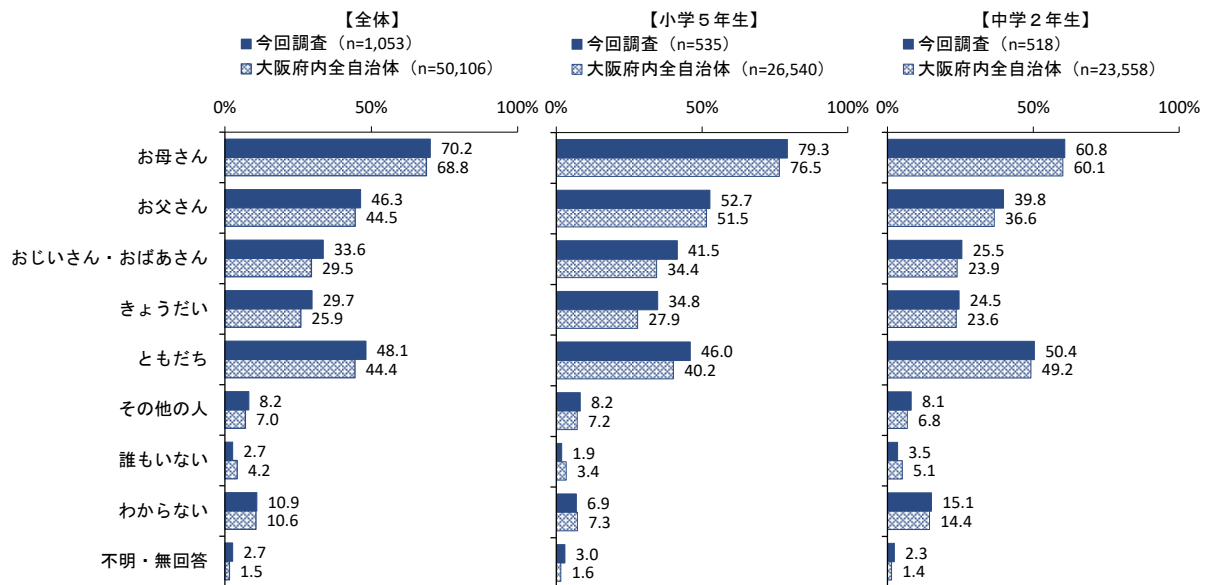


図 122 あなたの気持ちをわかってくれる人

⑮ あなたのことを信じてくれる人【子ども票】

あなたのことを信じてくれる人については、「お母さん」が70.1%で最も高く、次いで「お父さん」が55.4%、「ともだち」が45.5%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「ともだち」、「誰もいない」、「わからない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

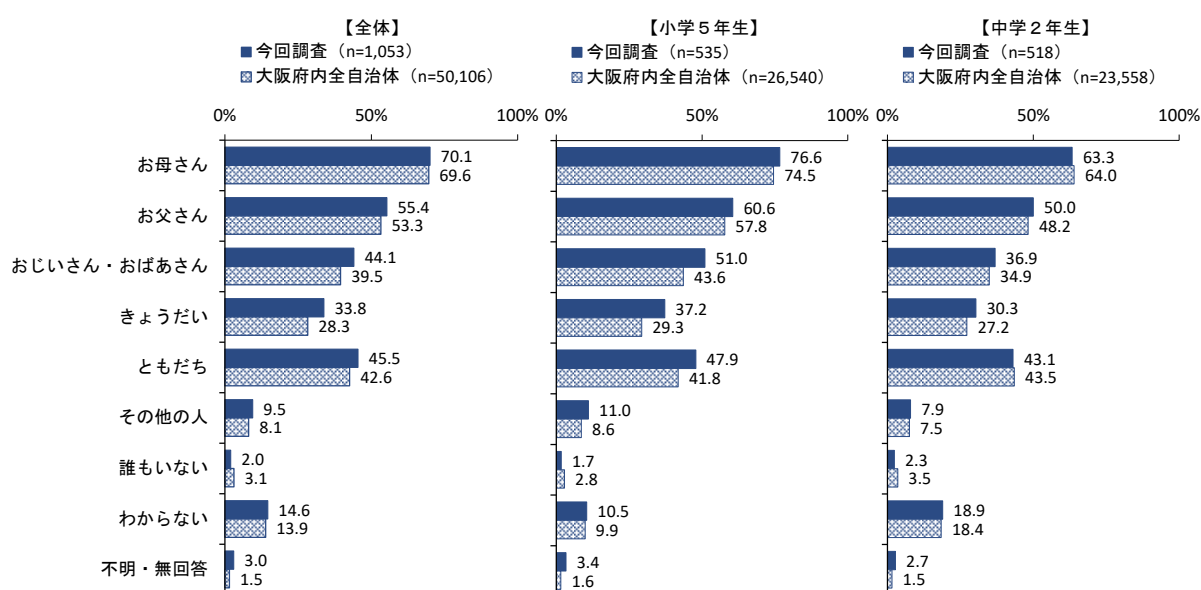


図 123 あなたのことを信じてくれる人

⑯ 悩んだときの対処を教えてください【子ども票】

悩んだときの対処を教えてください人については、「お母さん」が72.6%で最も高く、次いで「ともだち」が54.0%、「お父さん」が47.2%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「誰もいない」、「わからない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

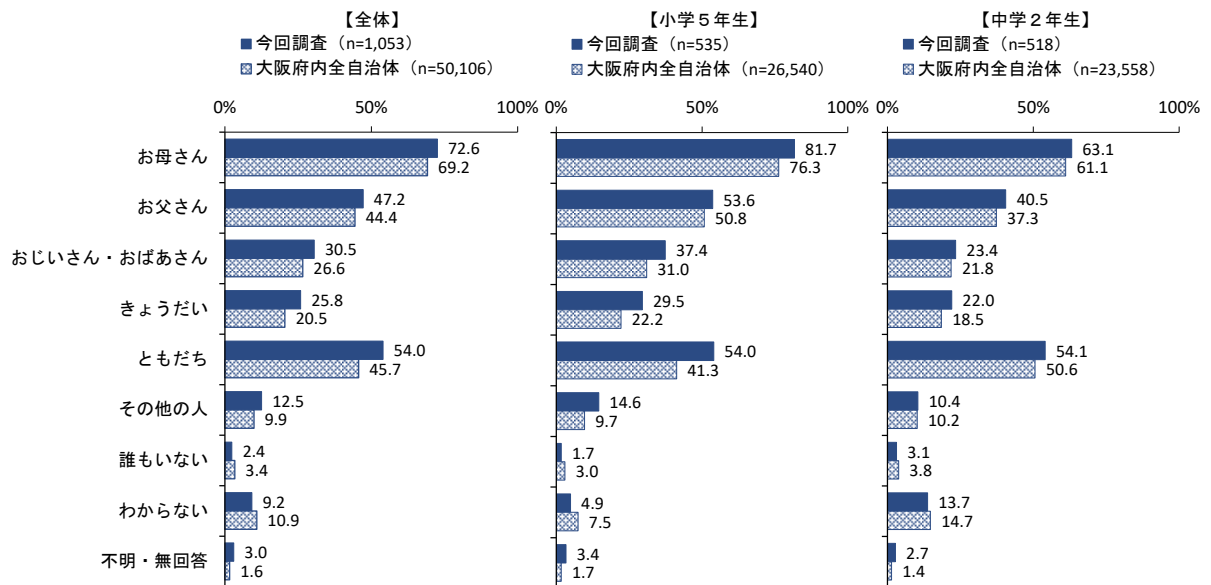


図 124 悩んだときの対処を教えてください人

⑪ 良いところ、良くないところをわかってくれる人【子ども票】

良いところ、良くないところをわかってくれる人については、「お母さん」が78.4%で最も高く、次いで「お父さん」が58.4%、「ともだち」が48.7%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「お母さん」、「お父さん」、「誰もいない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

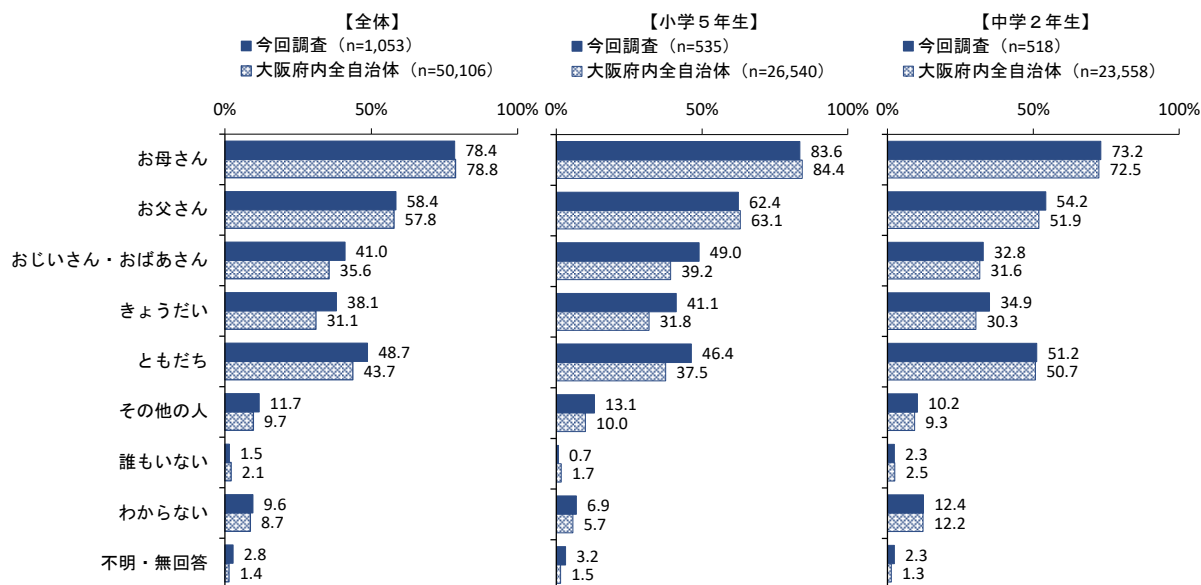


図 125 良いところ、良くないところをわかってくれる人

⑱ あなたのことを大切にしてくれる人【子ども票】

あなたのことを大切にしてくれる人については、「お母さん」が83.1%で最も高く、次いで「お父さん」が70.9%、「おじいさん・おばあさん」が63.5%と続いています。

大阪府内全自治体と比較すると、「お母さん」、「お父さん」、「その他の人」、「誰もいない」以外の項目で、小学5年生、中学2年生いずれも大阪府内全自治体に比べ割合が高くなっています。

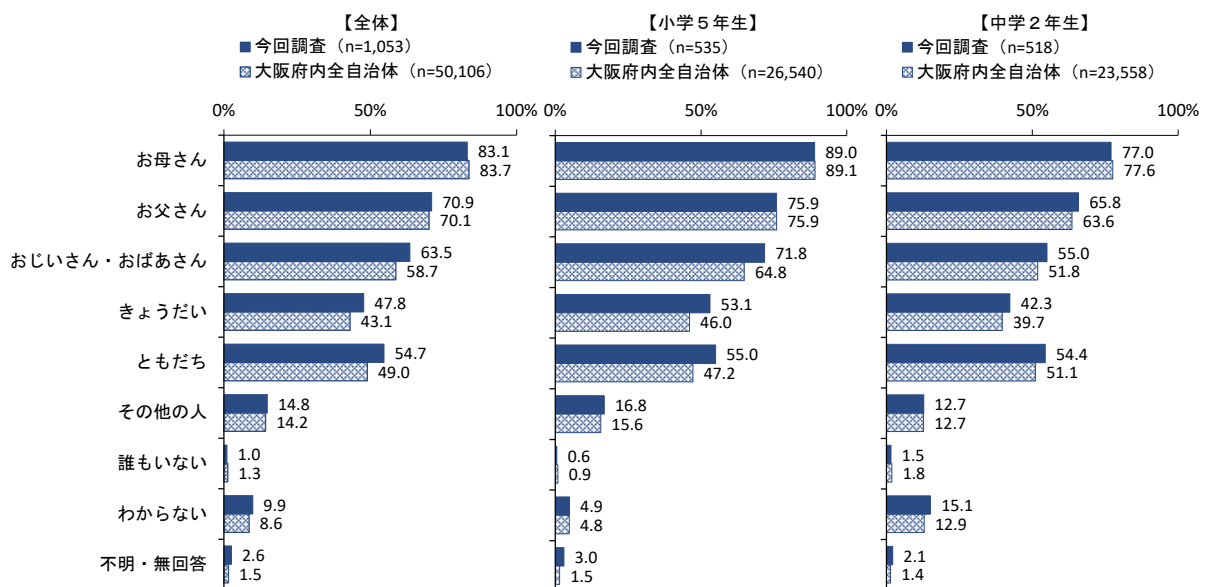


図 126 あなたのことを大切にしてくれる人

Ⅲ クロス集計および分析結果

1 基本情報

(1) 経済状況

① 困窮度別 経済的な理由による経験

経済的な理由による経験について困窮度別にみると、「食費を切りつめた」、「医療機関を受診できなかった」、「国民年金の支払いが滞ったことがある」、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」、「新聞や雑誌を買うのを控えた」、「スマートフォンへの切替・利用を断念した」、「冠婚葬祭のつきあいを控えた」、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」、「鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした」、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」、「趣味やレジャーの出費を減らした」、「友人・知人との外食を控えた」、「敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した」、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」では、困窮度が高くなるにつれて割合が高くなっています。

また、中央値以上群では「どれにもあてはまらない」(41.0%)の割合が最も高いのに対し、困窮度Ⅰ群では「食費を切りつめた」(61.8%)の割合が最も高く、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅱ群では「趣味やレジャーの出費を減らした」(困窮度Ⅲ群 54.3%、困窮度Ⅱ群 55.9%)の割合が最も高くなっています。

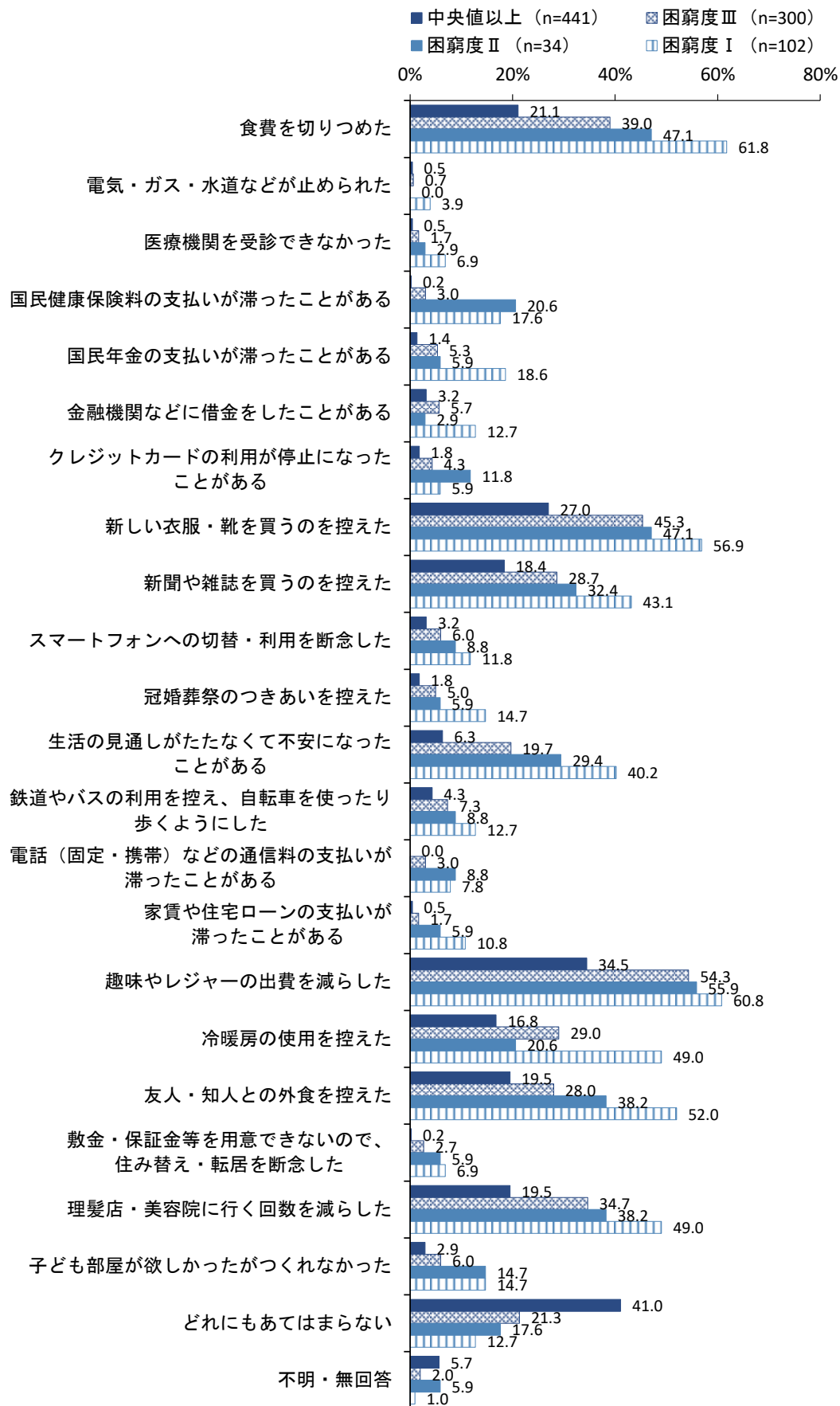


図 127 困窮度別 経済的な理由による経験

② 困窮度別 子どもへの経済的な理由による経験

子どもへの経済的な理由による経験について困窮度別にみると、「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」、「子どもを習い事に通わすことができなかった」、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」では、困窮度が高くなるにつれて割合が高くなっています。

また、中央値以上群、困窮度Ⅲ群では「どれにもあてはまらない」(中央値以上群 77.6%、困窮度Ⅲ群 59.0%) の割合が最も高いのに対し、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群では「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」(困窮度Ⅱ群 44.1%、困窮度Ⅰ群 39.2%) の割合が最も高くなっています。

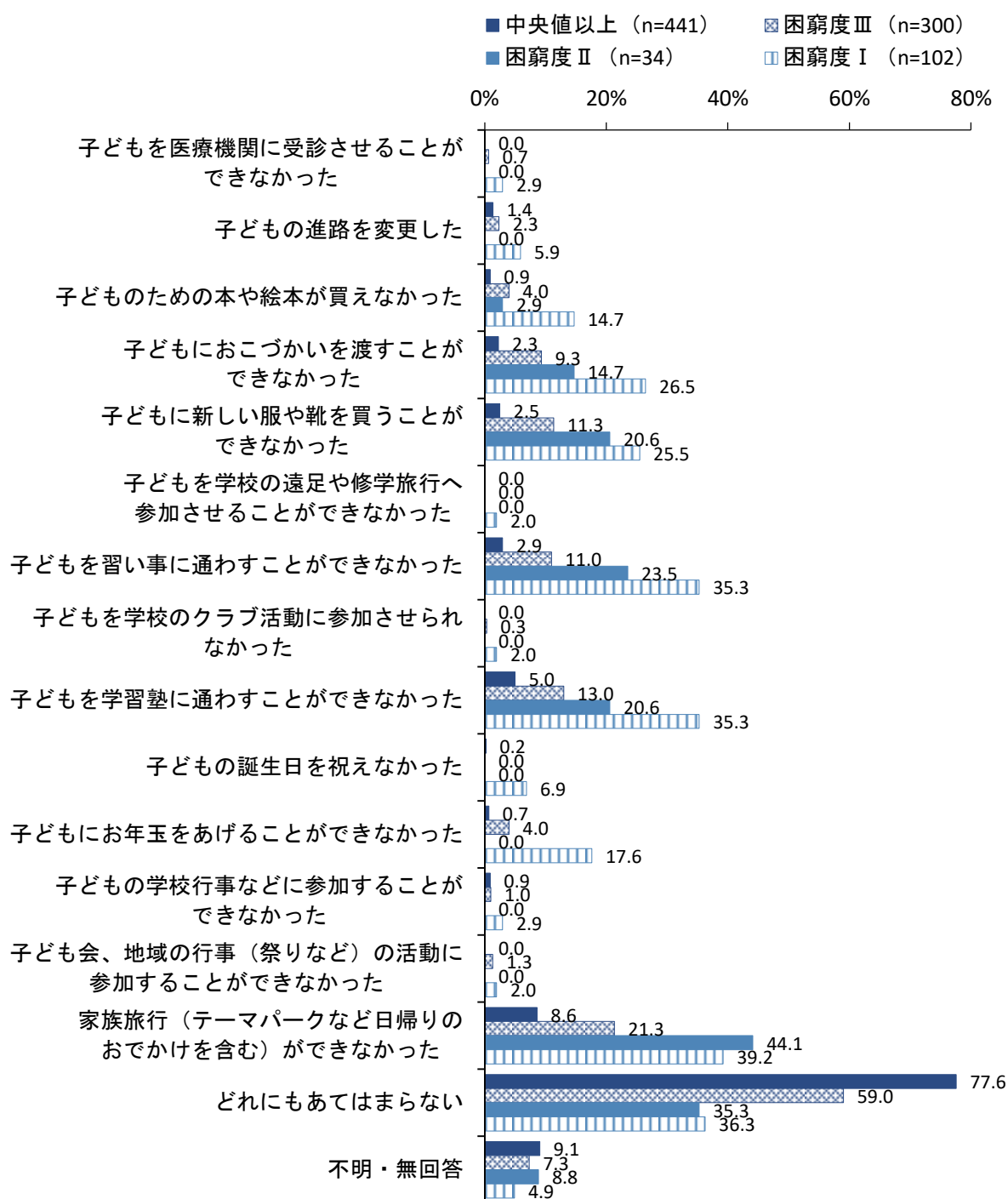


図 128 困窮度別 子どもへの経済的な理由による経験

③ 困窮度別 持っているもの、使うことができるもの

持っているもの、使うことができるものについて困窮度にみると、「本（学校の教科書やマンガはのぞく）」、「マンガ・雑誌」、「化粧品・アクセサリ」、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」では、困窮度が高くなるにつれて割合が低くなっています。

また、中央値以上群、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅱ群では「自転車」（中央値以上群 84.3%、困窮度Ⅲ群 86.0%、困窮度Ⅱ群 85.3%）の割合が最も高いのに対し、困窮度Ⅰ群では「ゲーム機」（82.2%）の割合が最も高くなっています。

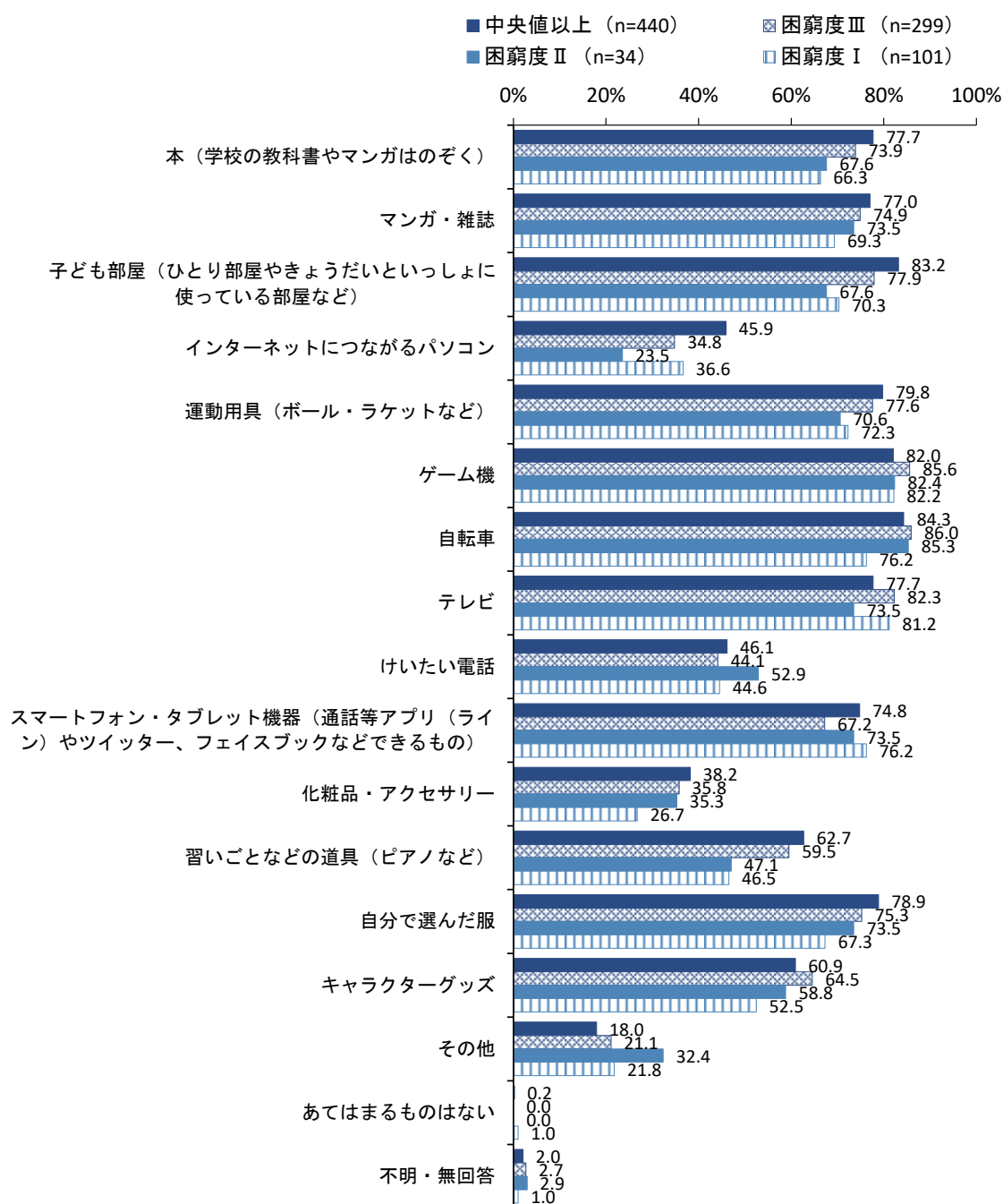


図 129 困窮度別 持っているもの、使うことができるもの

④ 困窮度別 経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験 21 個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出しました。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数が多くなっています。

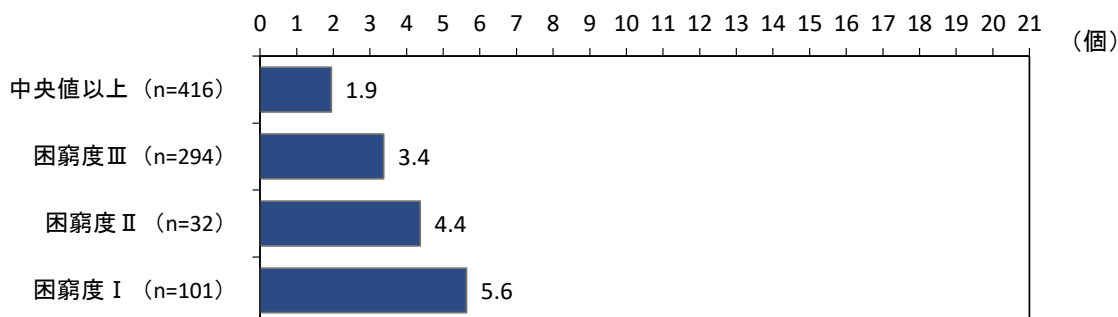


図 130 困窮度別 経済的な理由による経験の該当数の平均

⑤ 困窮度別 子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもへの経済的な理由による経験 14 個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出しました。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数が多くなっています。

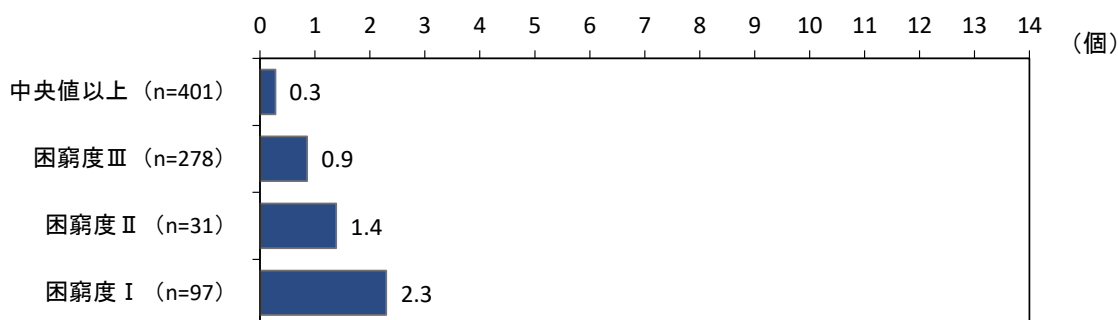


図 131 困窮度別 子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

⑥ 困窮度別 持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるもの 14 個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出しました。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、子どもの持ちもの、使えるものの該当数が少なくなっています。

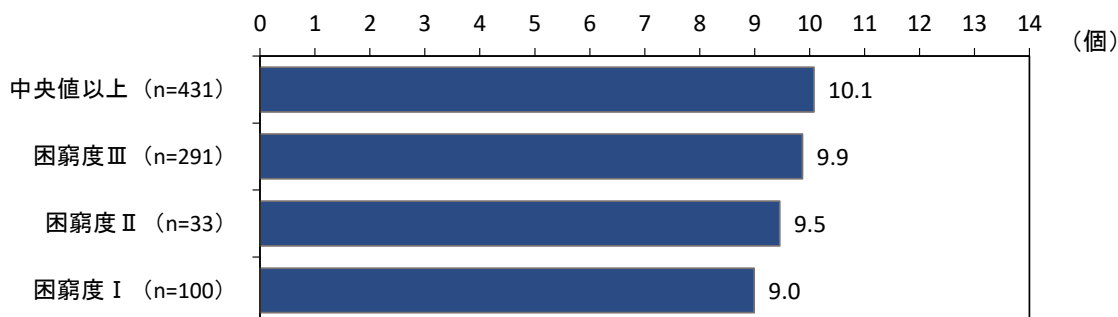


図 132 困窮度別 持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

⑦ 困窮度別 世帯員の構成

世帯員の構成について困窮度別にみると、「母子世帯」では、困窮度が高くなるにつれ、割合が高くなり、困窮度Ⅰ群では 50.5%となっています。

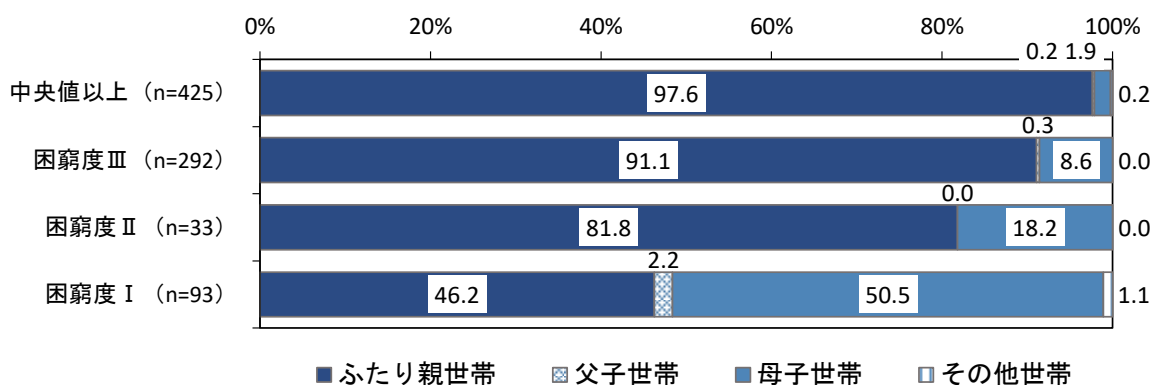


図 133 困窮度別 世帯員の構成

⑧ 世帯構成別 家計状況

家計状況について世帯構成別にみると、「貯蓄ができています」では、ふたり親世帯が45.9%なのに対して、母子世帯は23.8%となっています。また、「赤字である」では、ふたり親世帯が18.7%なのに対して、父子世帯は50.0%、母子世帯は35.2%となっています。

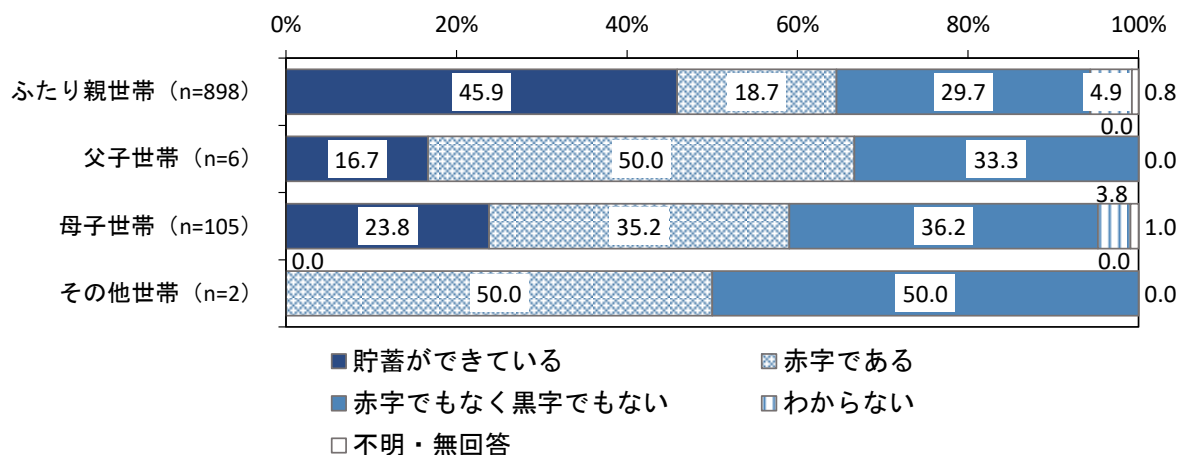


図 134 世帯構成別 家計状況

⑨ 困窮度別 子どもの人数

子どもの人数について困窮度別にみると、『3人以上』では、中央値以上群が26.5%なのに対し、困窮度Ⅲ群では41.7%、困窮度Ⅱ群では61.8%、困窮度Ⅰ群では39.2%となっています。

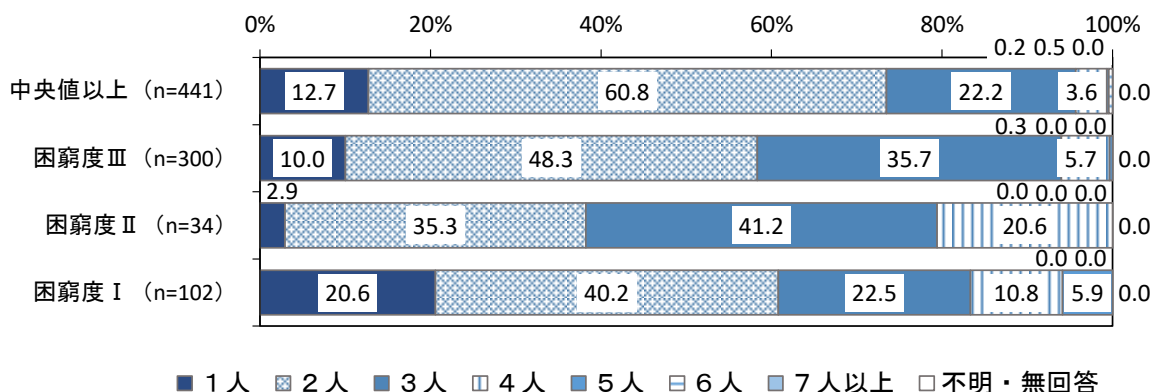


図 135 困窮度別 子どもの人数

⑩ 困窮度別 住居

住居について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」の割合が低くなり、「民間の賃貸住宅」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群では「民間の賃貸住宅」が24.5%となっています。

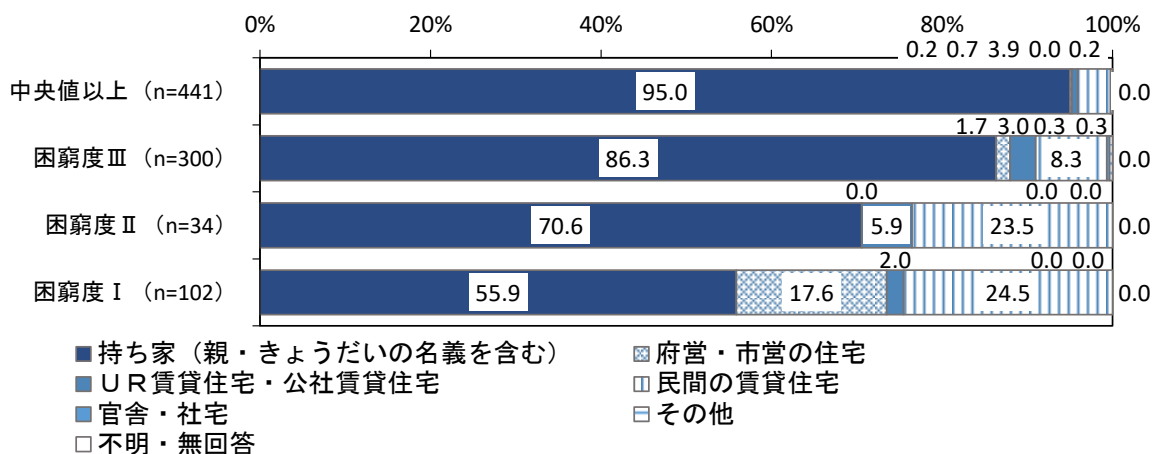


図 136 困窮度別 住居

⑪ 困窮度別 自家用車の所有

自家用車の所有について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「持っている」の割合が低くなっています。

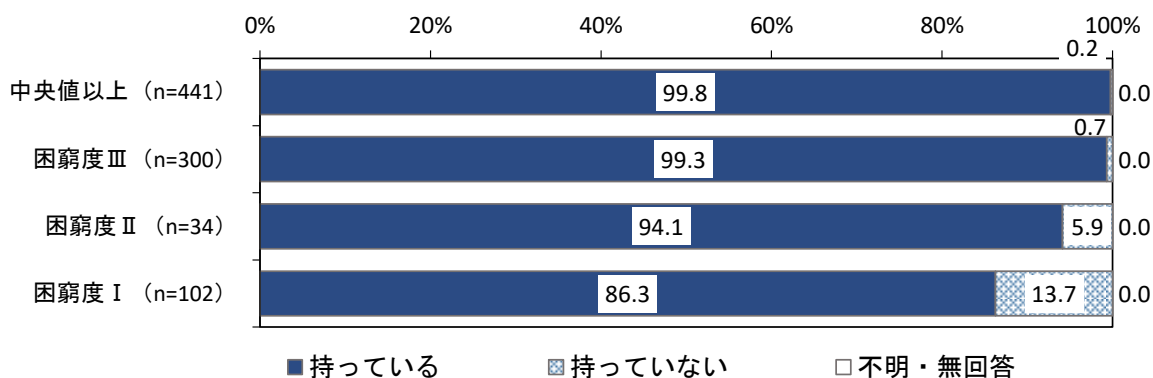


図 137 困窮度別 自家用車の所有

⑫ 困窮度別 家計状況

家計状況について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「貯蓄ができている」の割合が低くなり、「赤字である」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群では「赤字である」が51.0%となっています。

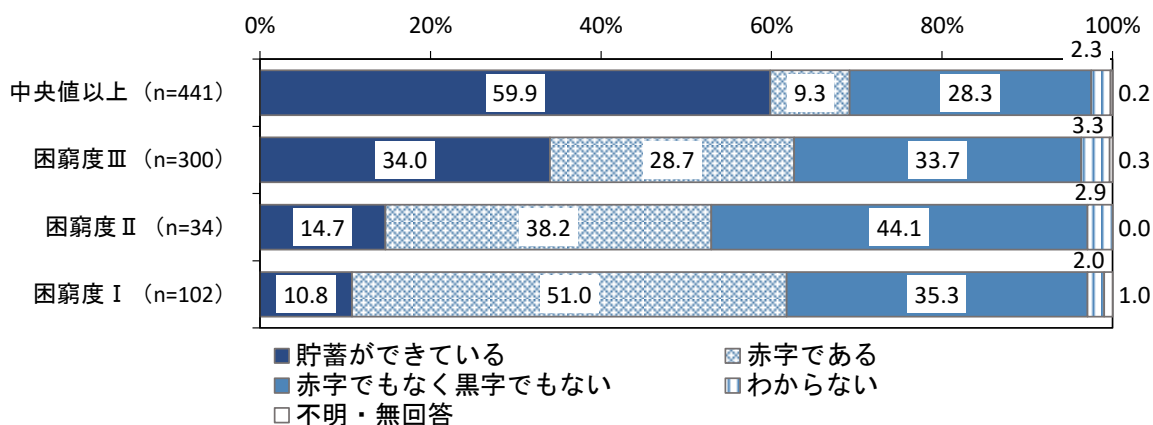


図 138 困窮度別 家計状況

⑬ 困窮度別 子どものための貯蓄

子どものための貯蓄について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「貯蓄をしている」の割合が低くなり、「貯蓄をしたいが、できていない」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群では「貯蓄をしたいが、できていない」が58.8%となっています。

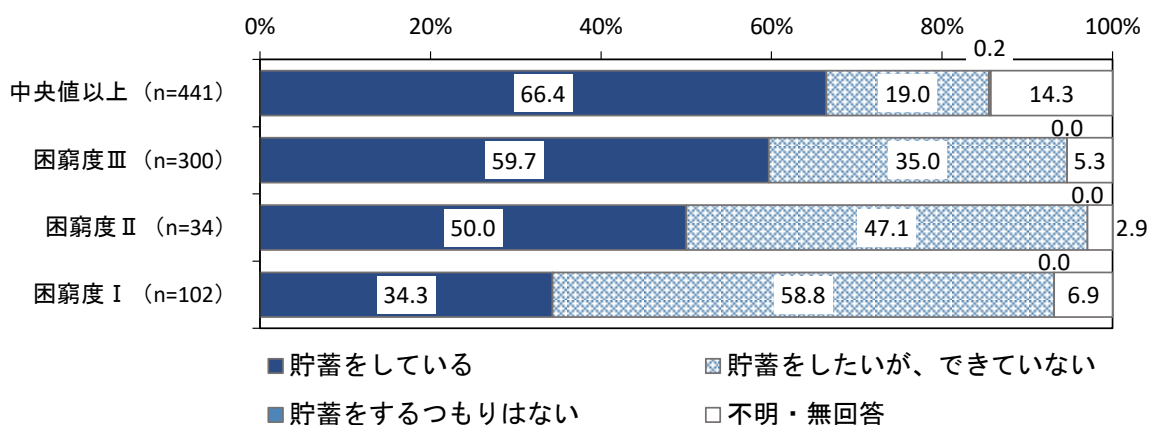


図 139 困窮度別 子どものための貯蓄

⑭ 困窮度別 おこづかいの金額

おこづかいの金額について困窮度にみると、困窮度による大きな差はみられませんでした。

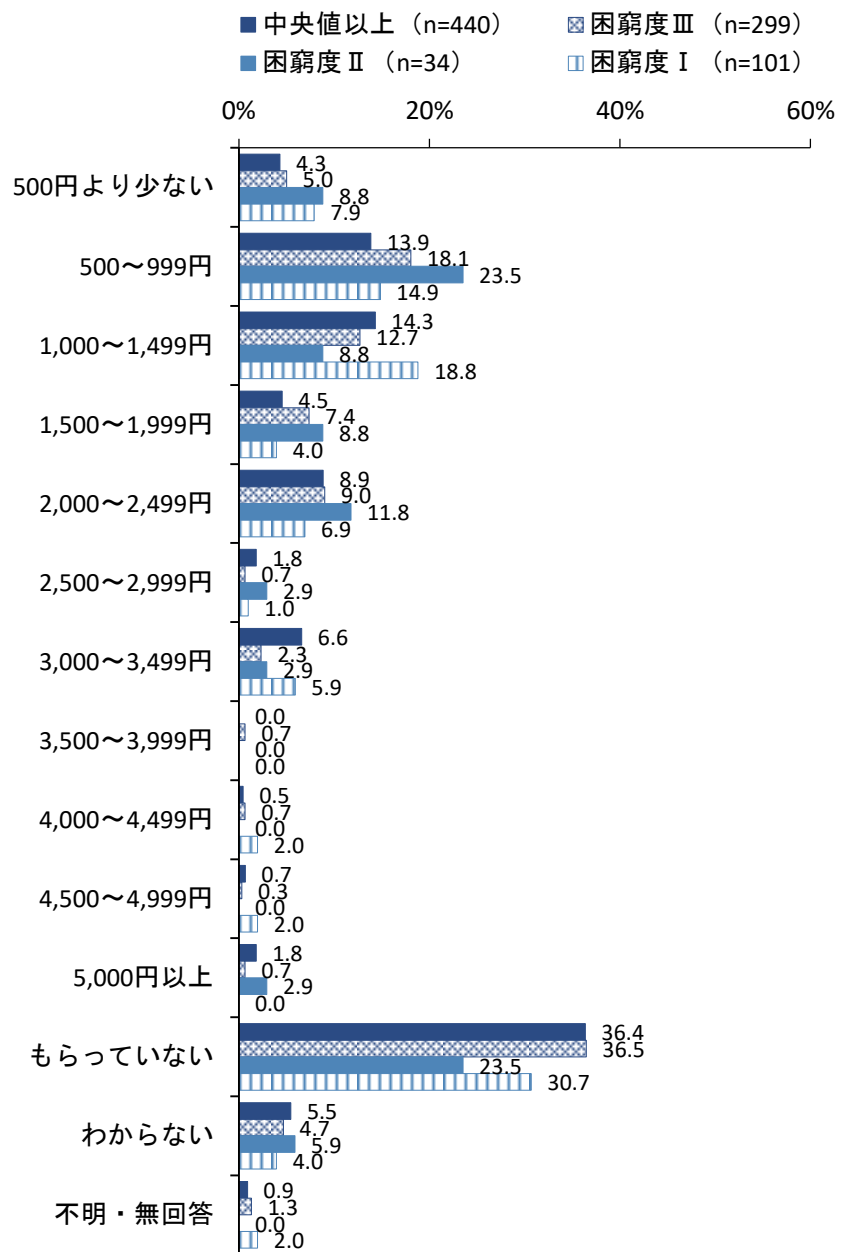


図 140 困窮度別 おこづかいの金額

⑮ 困窮度別 おこづかいの使い方

おこづかいの使い方について困窮度別にみると、「貯金」では、困窮度Ⅰ群が55.9%で最も高くなっています。

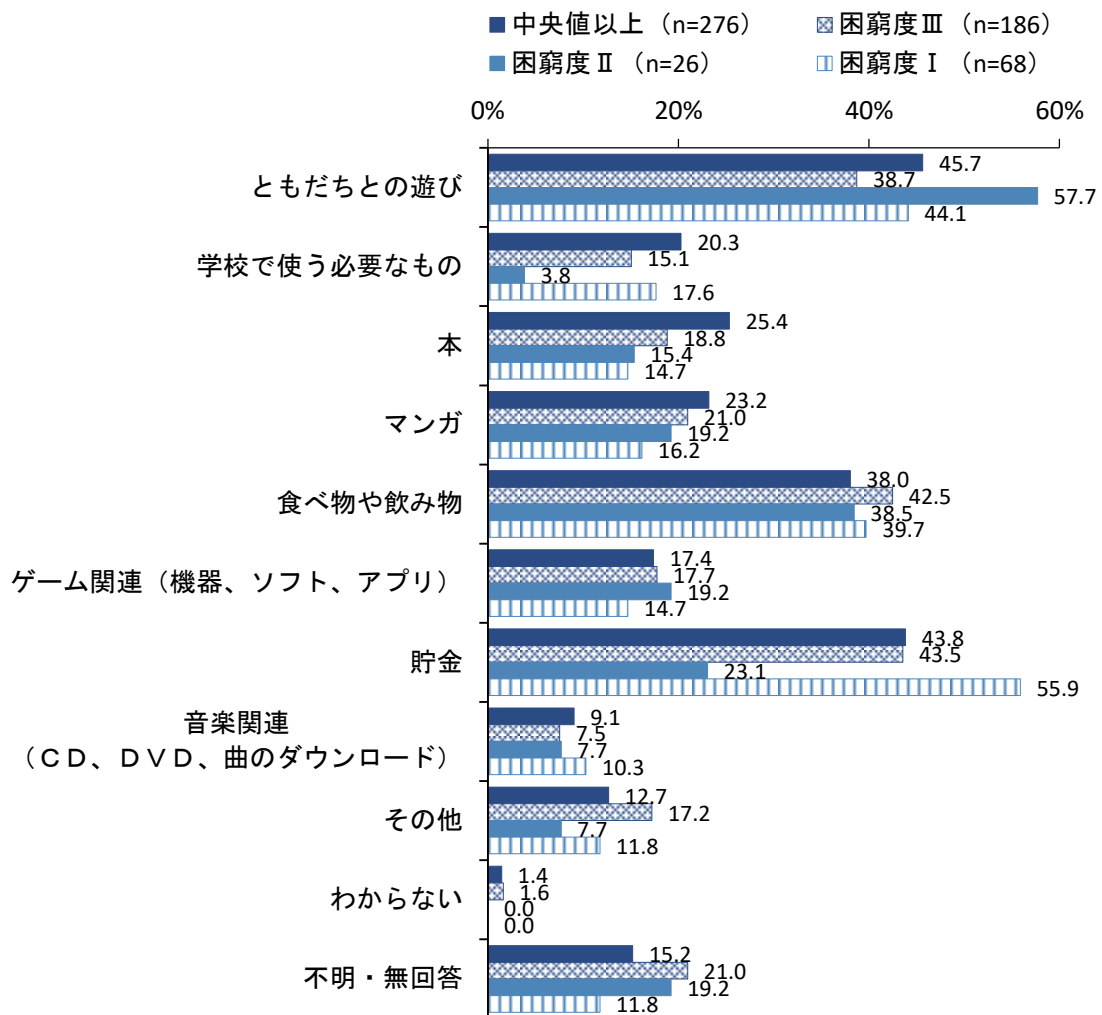


図 141 困窮度別 おこづかいの使い方

(2) 家庭状況（制度等）

① 困窮度別 児童手当

児童手当について困窮度別にみると、受給率は困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、94.0%から96.1%となっています。

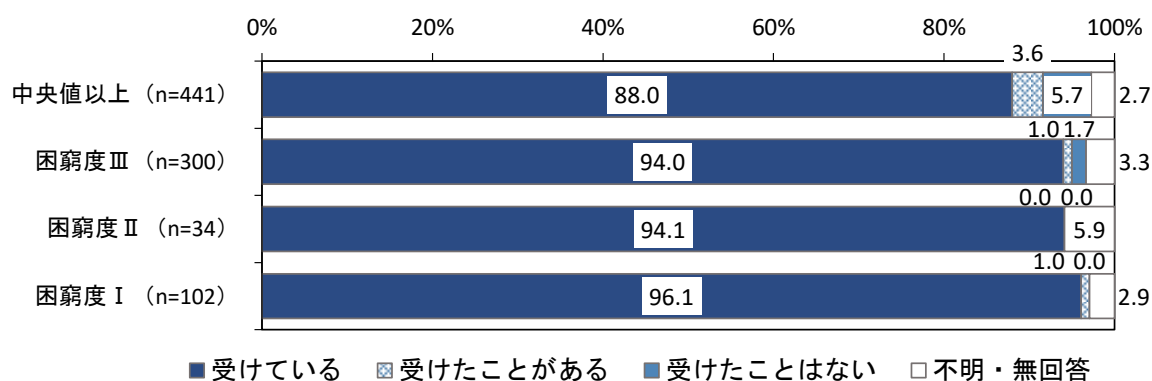


図 142 困窮度別 児童手当

② 困窮度別 就学援助費

就学援助費について困窮度別にみると、受給率は、困窮度が高くなるにつれて、「受けている」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群で52.9%となっています。

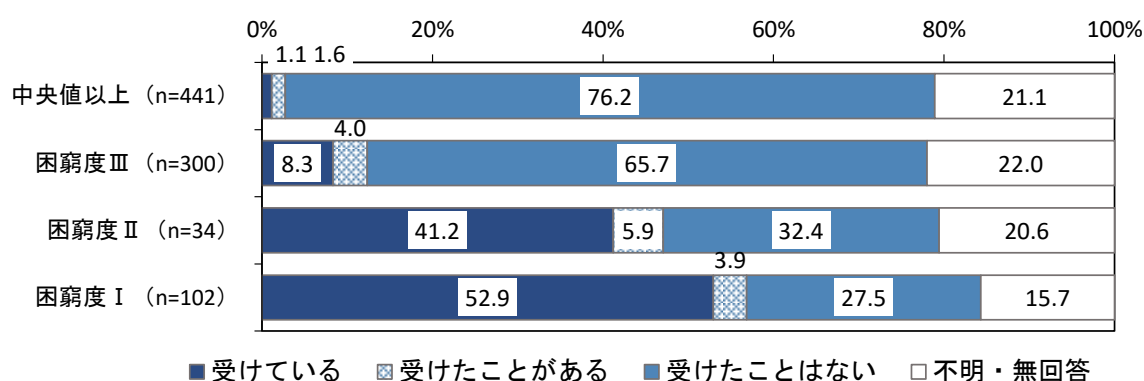


図 143 困窮度別 就学援助費

③ 困窮度別 児童扶養手当

児童扶養手当について困窮度別にみると、受給率は、困窮度が高くなるにつれて、「受けている」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群で52.0%となっています。

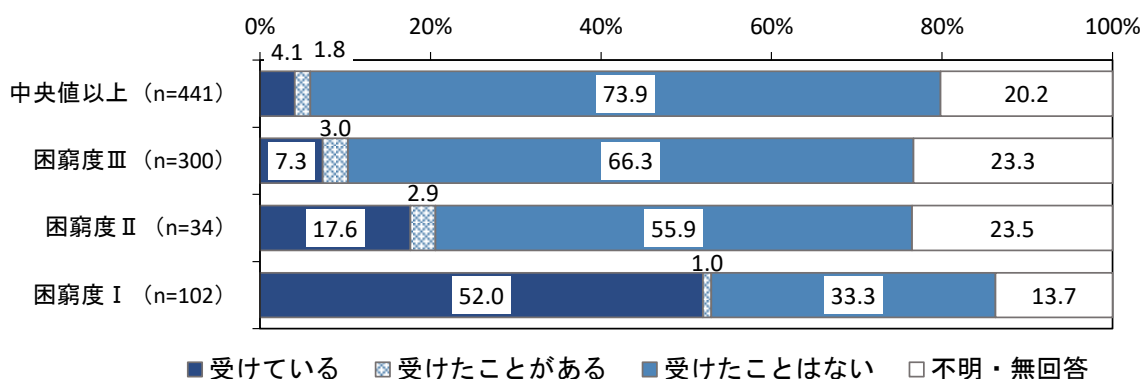


図 144 困窮度別 児童扶養手当

ひとり親世帯における児童扶養手当について困窮度別にみると、受給率は、困窮度が高くなるにつれて、「受けている」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群で87.8%となっています。

また、「受けたことがない」では、困窮度Ⅰ群で6.1%となっています。

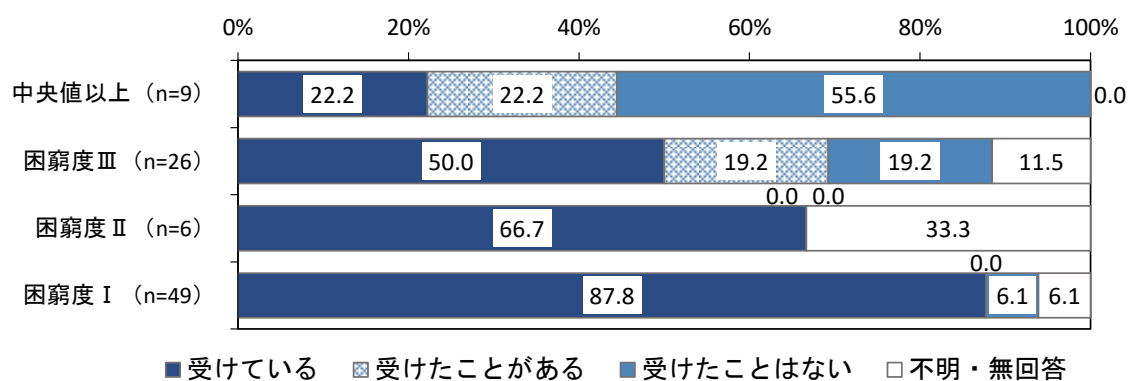


図 145 困窮度別 児童扶養手当（ひとり親）

④ 困窮度別 生活保護

生活保護について困窮度別にみると、受給率は、困窮度Ⅰ群で3.9%となっています。

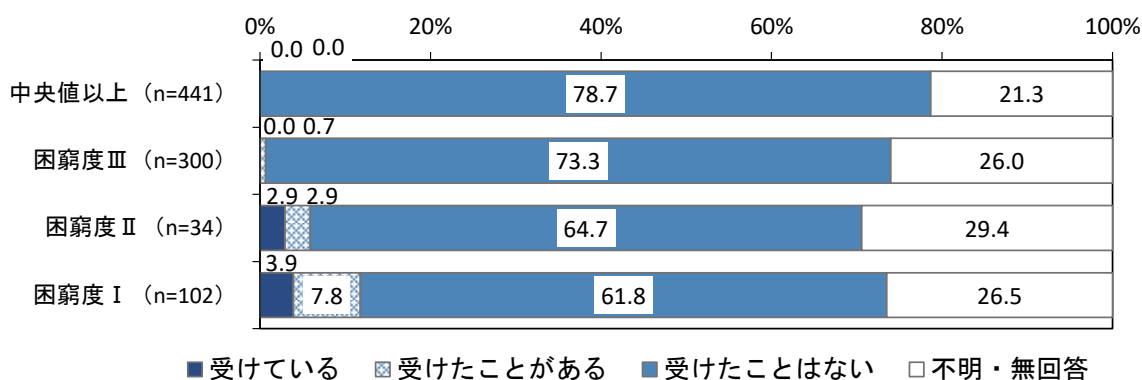


図 146 困窮度別 生活保護

⑤ 困窮度別 公的年金（遺族年金、障がい年金）

公的年金（遺族年金、障がい年金）について困窮度別にみると、受給率は、困窮度Ⅲ群が最も高く3.0%となっています。

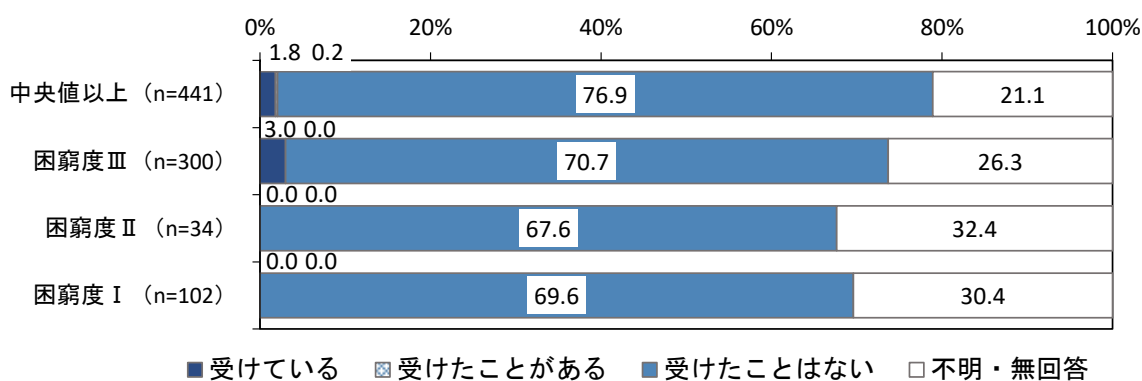


図 147 困窮度別 公的年金（遺族年金、障がい年金）

⑥ 困窮度別 養育費

養育費について困窮度別にみると、受給率は、困窮度Ⅰ群が最も高く 15.7%となっています。

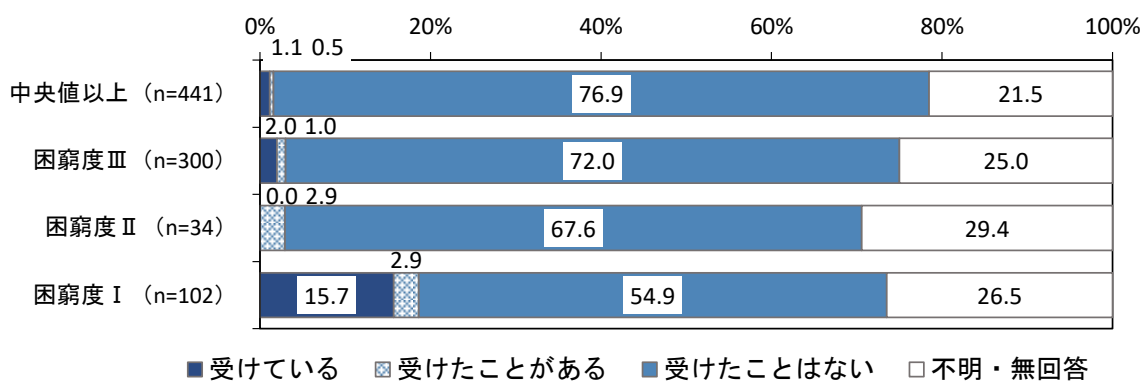


図 148 困窮度別 養育費

ひとり親世帯における養育費について困窮度別にみると、受給率は、困窮度Ⅰ群で 22.4%となっており、「受けたことはない」は 42.9%となっています。

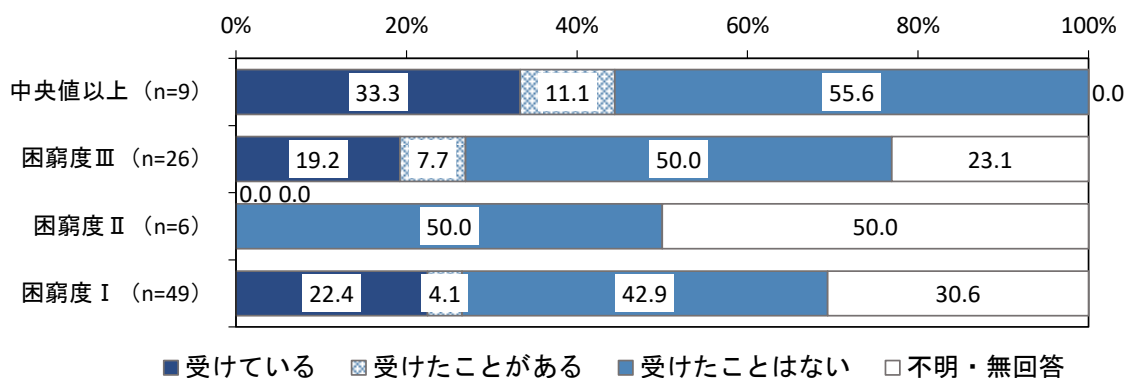


図 149 困窮度別 養育費（ひとり親）

⑦ 困窮度別 初めて親となった年齢

初めて親となった年齢について困窮度別にみると、困窮度が高まるにつれ、「10代」、「20～23歳」の割合が高くなっています。

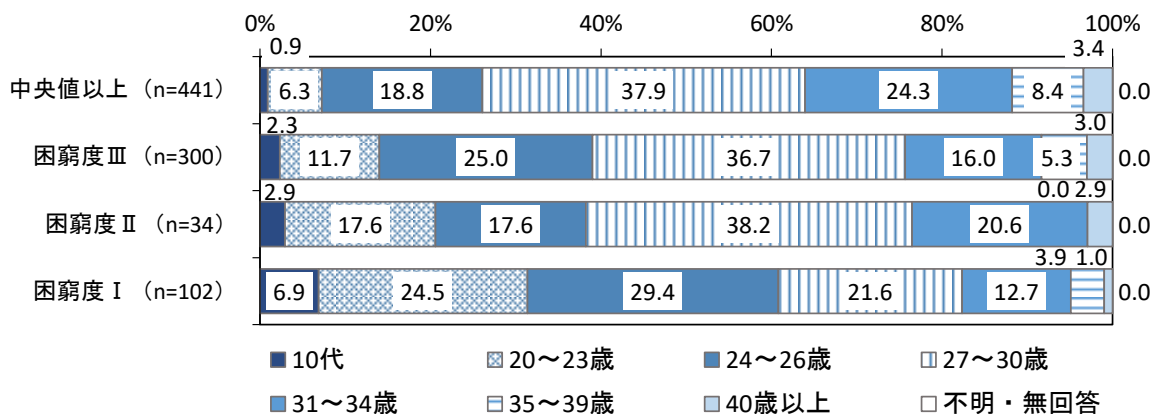


図 150 困窮度別 初めて親となった年齢

⑦-1 困窮度別 初めて親となった年齢（母親が回答者の場合に限定）

初めて親となった年齢（母親が回答者の場合に限定）について困窮度別にみると、困窮度が高まるにつれ、「10代」、「20～23歳」の割合が高くなっています。

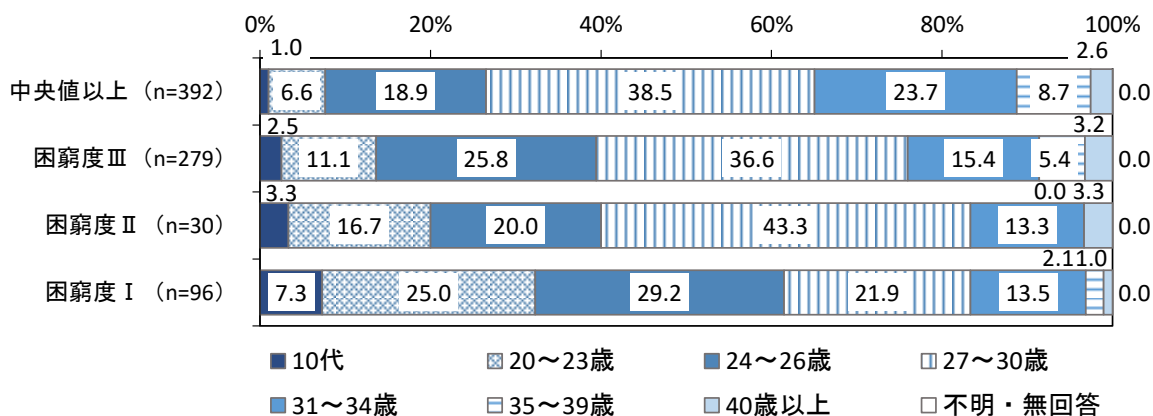


図 151 困窮度別 初めて親となった年齢（母親が回答者の場合に限定）

⑧ 初めて親となった年齢別 母親の最終学歴（母親が回答者の場合に限定）

母親の最終学歴について初めて親となった年齢別（母親が回答者の場合に限定）にみると、10代群では、「高等学校中途退学」の割合が最も高く 40.9%となっています。

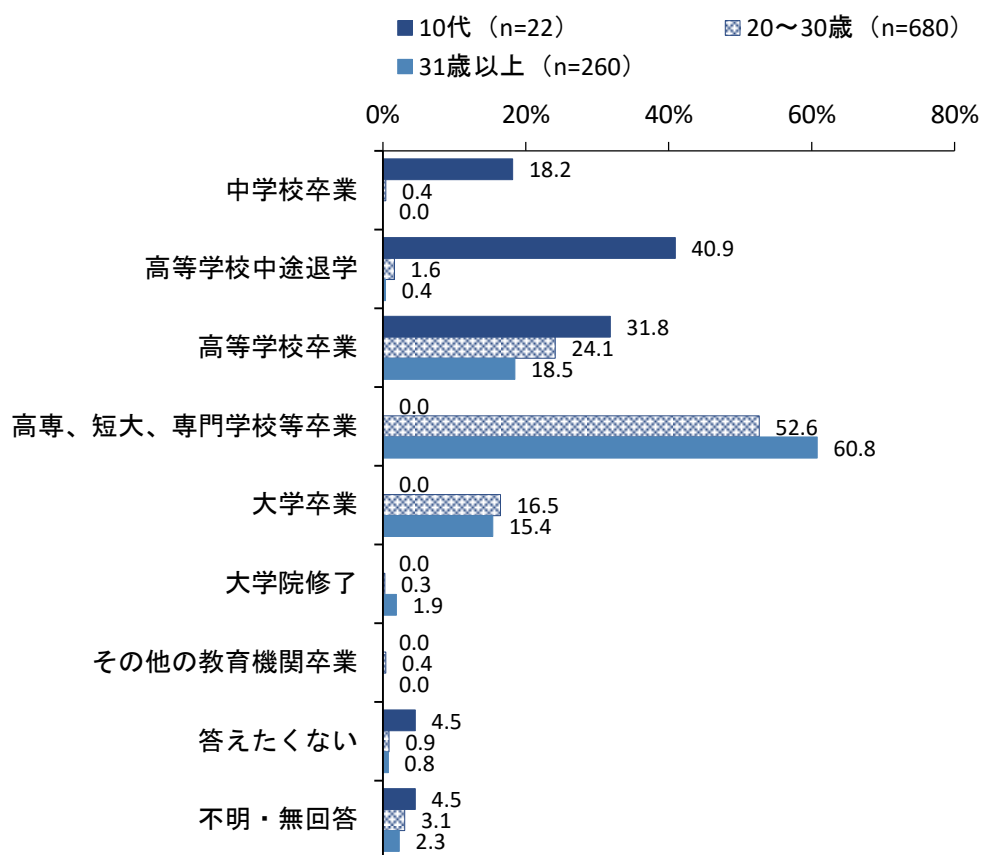


図 152 初めて親となった年齢別 母親の最終学歴（母親が回答者の場合に限定）

⑨ 初めて親となった年齢別 父親の最終学歴（母親が回答者の場合に限定）

父親の最終学歴について初めて親となった年齢別（母親が回答者の場合に限定）にみると、10代群では、「高等学校卒業」の割合が最も高く 35.3%となっています。

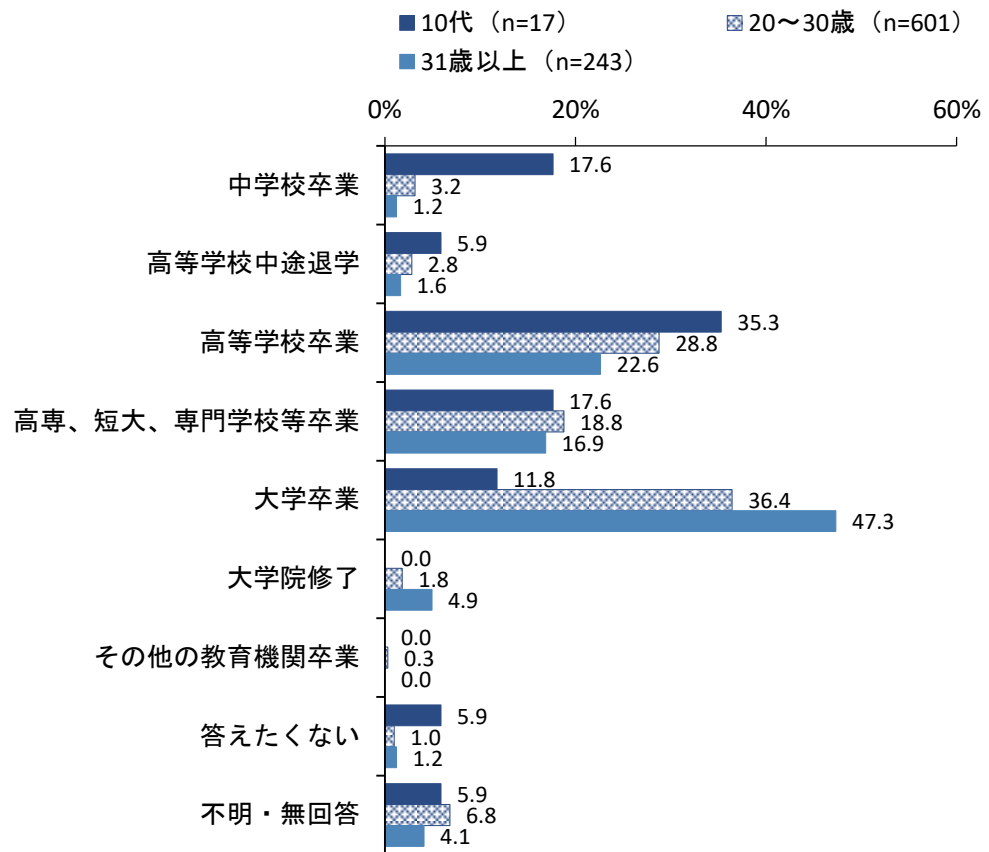


図 153 （母親が回答者の場合に限定）

⑩ 初めて親となった年齢別 就労状況（母親が回答者の場合に限定）

就労状況について初めて親となった年齢別（母親が回答者の場合に限定）にみると、10代群では、20～30歳群、31歳以上群に比べ「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高くなっています。

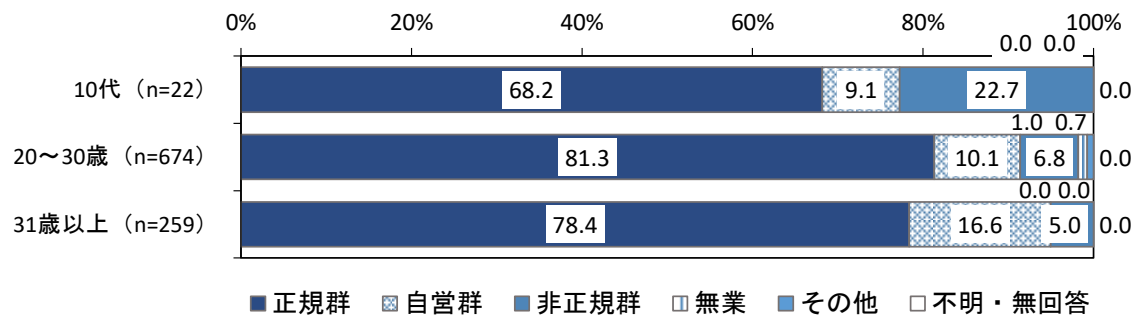


図 154 初めて親となった年齢別 就労状況（母親が回答者の場合に限定）

⑪ 初めて親となった年齢別 自分の体や気持ちで気になること（母親が回答者の場合に限定）

自分の体や気持ちで気になることについて初めて親となった年齢別（母親が回答者の場合に限定）にみると、10代群は、他の群に比べ、自分の体や気持ちで気になると回答した個数が多くなっています。

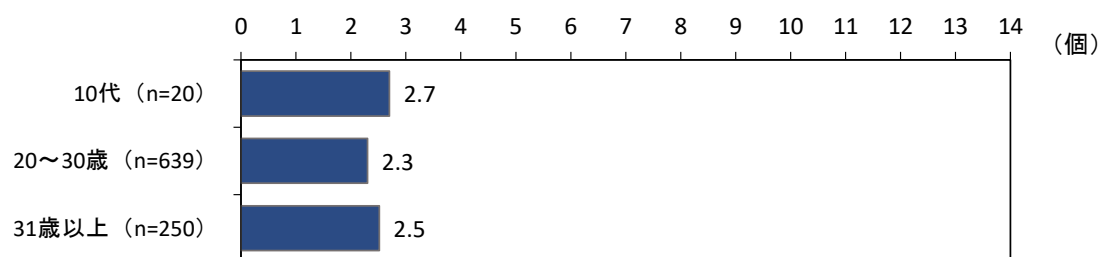


図 155 初めて親となった年齢別 自分の体や気持ちで気になること（母親が回答者の場合に限定）

⑫ 初めて親となった年齢別 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
(母親が回答者の場合に限定)

不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことについて初めて親となった年齢別(母親が回答者の場合に限定)にみると、『ある』では、20～30歳群が最も高く 69.7% となっています。

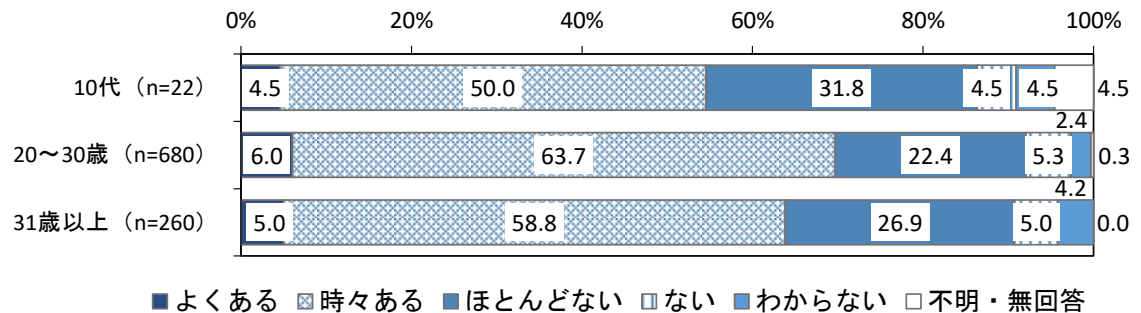


図 156 初めて親となった年齢別 不安やイライラなどの感情を子どもに向けて
しまうこと (母親が回答者の場合に限定)

⑬ 初めて親となった年齢別 自分の体や気持ちで気になること
(母親が回答者の場合に限定)

自分の体や気持ちで気になることについて初めて親となった年齢別(母親が回答者の場合に限定)にみると、自分の体や気持ちで気になることの該当数は、10代群が 2.5 個で、他の群に比べ多くなっています。

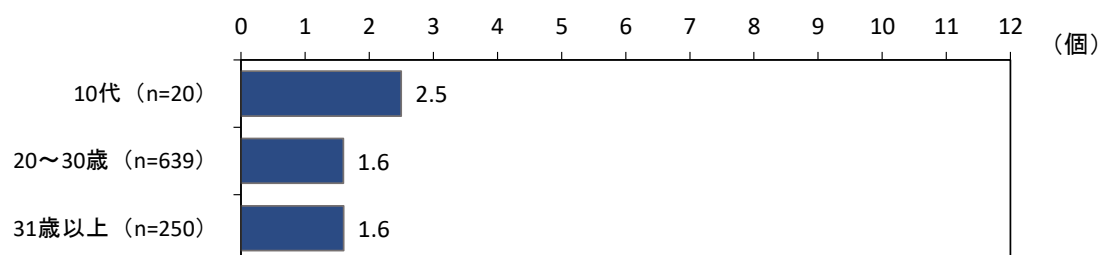


図 157 初めて親となった年齢別 自分の体や気持ちで気になること
(母親が回答者の場合に限定)

⑭ 住居別 家計状況

家計状況について住居別にみると、「赤字である」では、府営・市営の住宅群が 57.1% で最も高く、次いでUR賃貸住宅・公社賃貸住宅群が 47.4%、民間の賃貸住宅群が 40.2% で、持ち家群は 17.0%となっています。

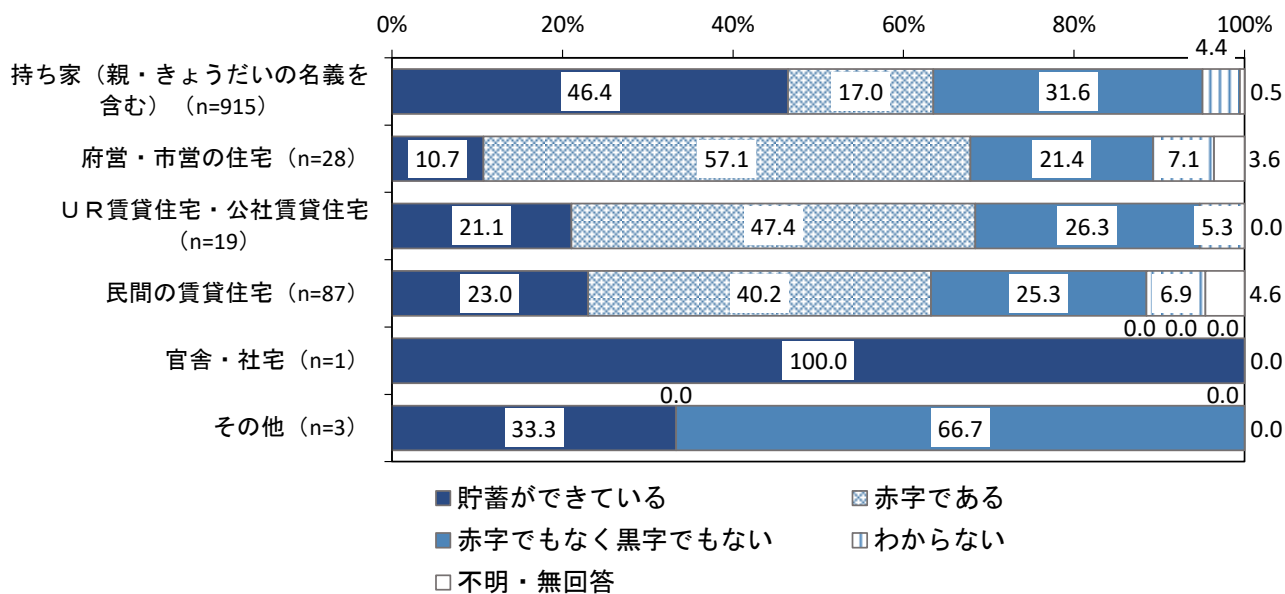


図 158 住居別 家計状況

⑮ 住居別 子どものための貯蓄

子どものための貯蓄について住居別にみると、「貯蓄をしたいが、できていない」では、府営・市営の住宅群が60.7%で最も高く、次いでUR賃貸住宅・公社賃貸住宅群が52.6%、民間の賃貸住宅群が48.3%と続いており、持ち家群は26.7%となっています。

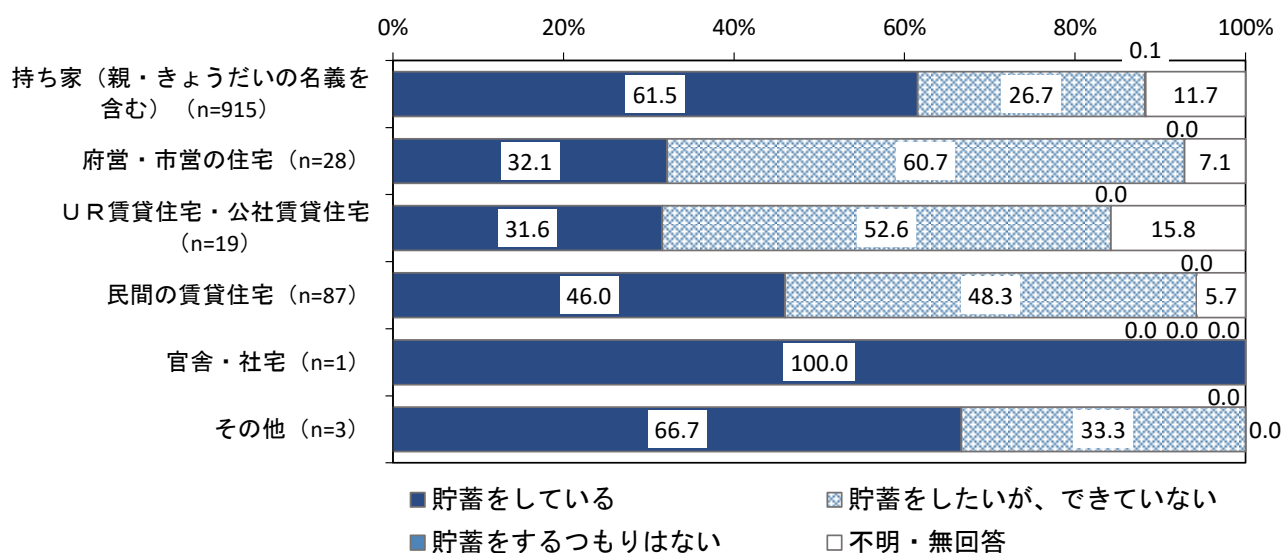


図 159 住居別 子どものための貯蓄

2 雇用

① 困窮度別 就労状況

就労状況について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「正規群」の割合が低くなり、「自営群」、「非正規群」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群において「非正規群」が32.0%、「無業」が3.0%となっています。

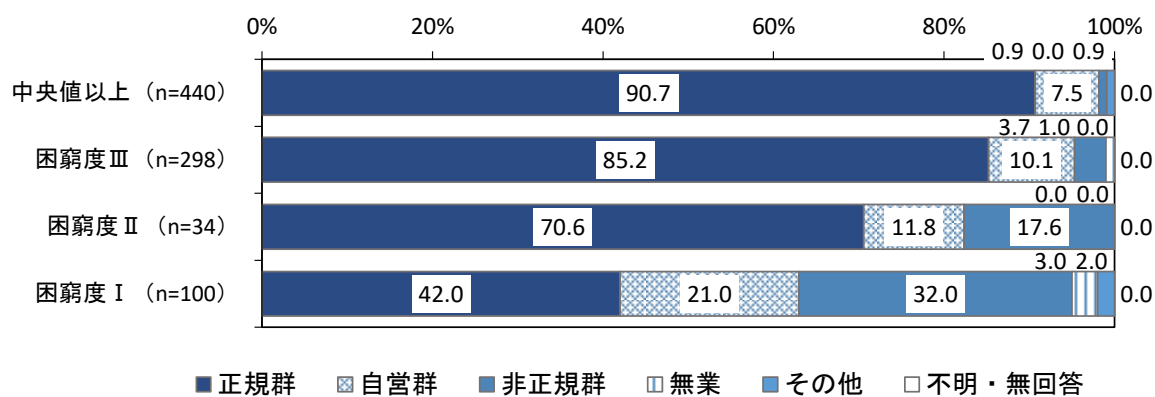


図 160 困窮度別 就労状況

② 困窮度別 母親の最終学歴

母親の最終学歴について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「高等学校中途退学」、「高等学校卒業」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低くなっています。

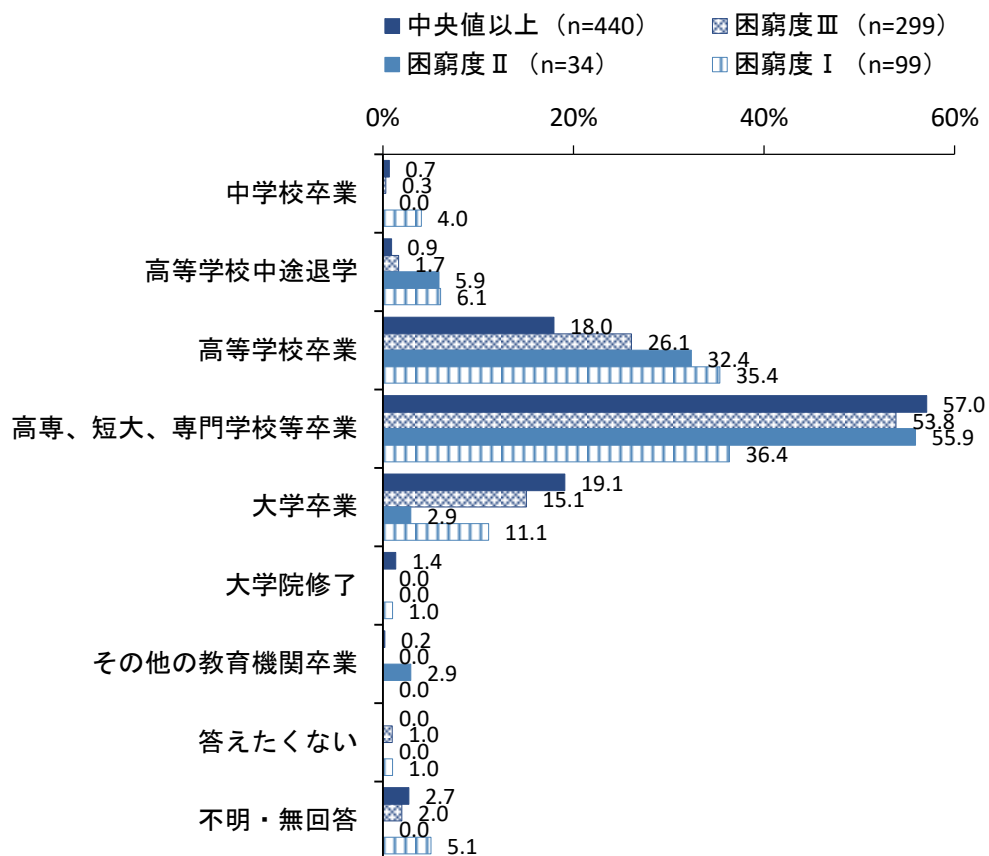


図 161 困窮度別 母親の最終学歴

③ 困窮度別 父親の最終学歴

父親の最終学歴について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「高等学校中途退学」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低くなっています。

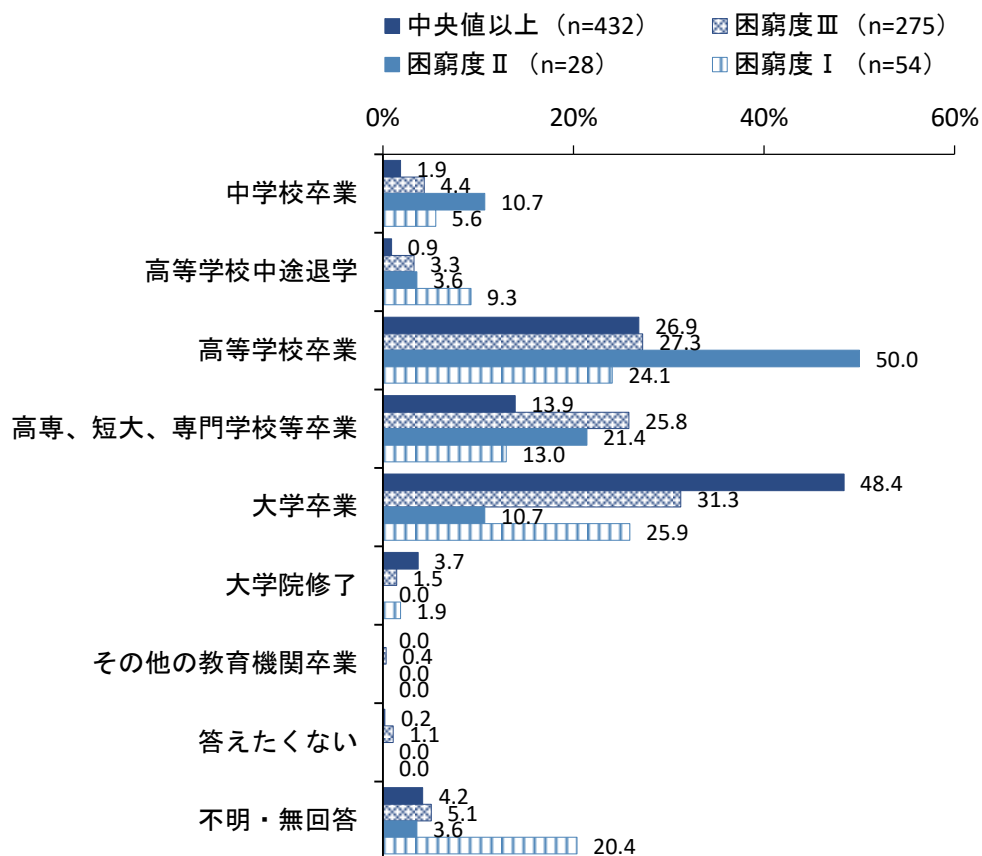


図 162 困窮度別 父親の最終学歴

④ 母親の最終学歴別 就労状況

就労状況について母親の最終学歴別にみると、「非正規群」では、中学校卒業群が最も高く 33.3%で、「正規群」では、大学卒業群が最も高く 86.9%となっています。

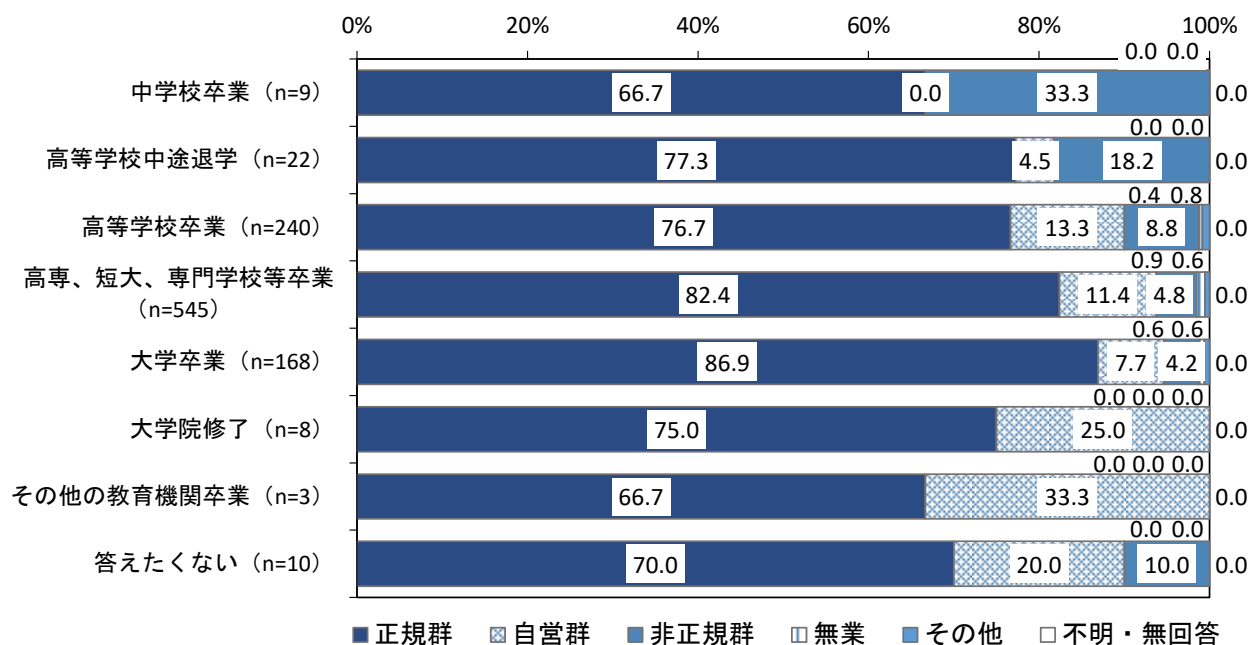


図 163 母親の最終学歴別 就労状況

⑤ 父親の最終学歴別 就労状況

就労状況について父親の最終学歴別にみると、「正規群」では、大学卒業群が最も高く88.9%となっています。

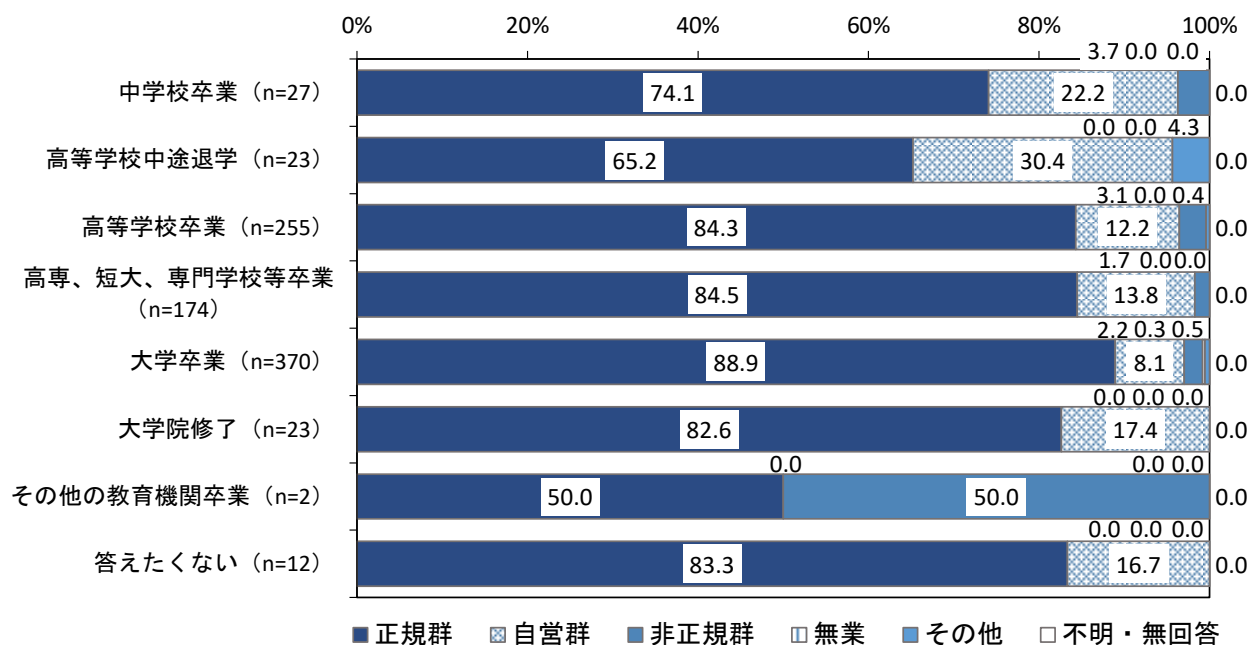


図 164 父親の最終学歴別 就労状況

⑥ 世帯構成別 就労状況

就労状況について世帯構成別にみると、「正規群」では、ふたり親世帯が他の世帯に比べて割合が高く 86.3%となっており、母子世帯では、「非正規群」が 37.9%となっています。

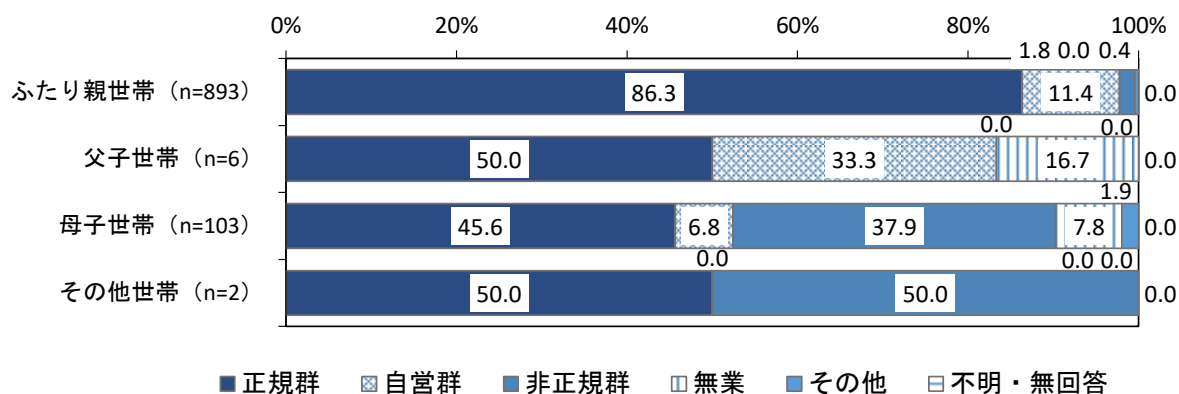


図 165 世帯構成別 就労状況

⑦ 困窮度別 生計の支えとなる人

生計の支えとなる人について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「お母さん」の割合が高くなっており、困窮度Ⅰ群では 49.0%となっています。

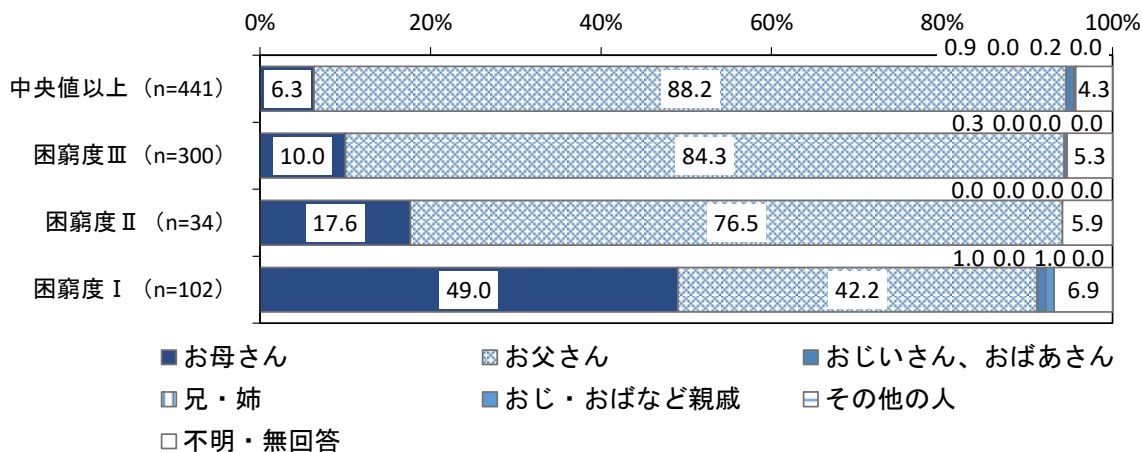


図 166 困窮度別 生計の支えとなる人

⑧ 就労状況別 家計状況

家計状況について就労状況別にみると、「赤字である」では、無業群が 44.4%で最も高く、次いで非正規群が 40.3%と続いており、「貯蓄ができています」では、非正規群が 13.4%で最も低くなっています。

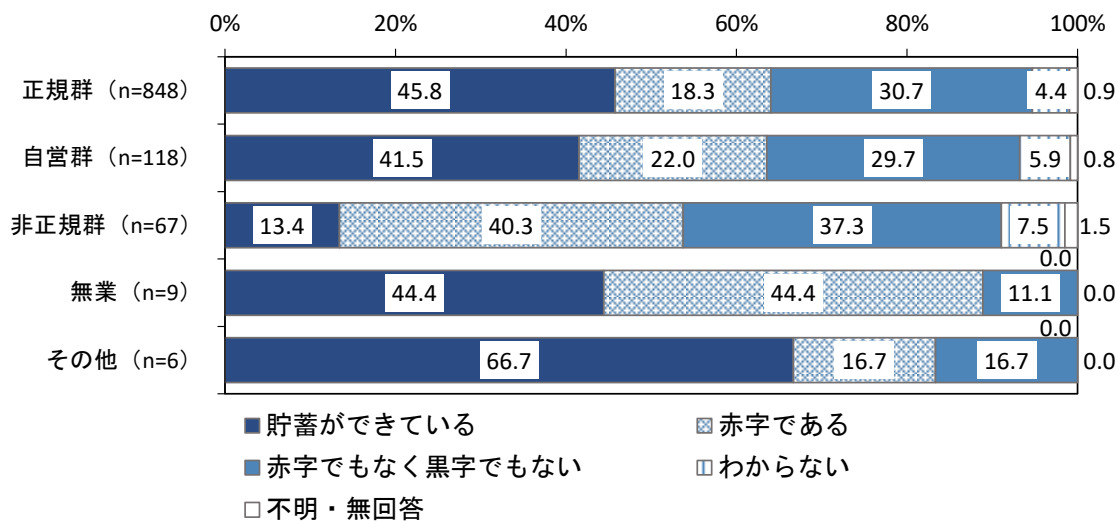


図 167 就労状況別 家計状況

3 健康

① 困窮度別 朝食の頻度

朝食の頻度について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「ほぼ毎日食べている」の割合が低くなっており、困窮度Ⅰ群では、『週5回以下』の割合が最も高く16.8%となっています。

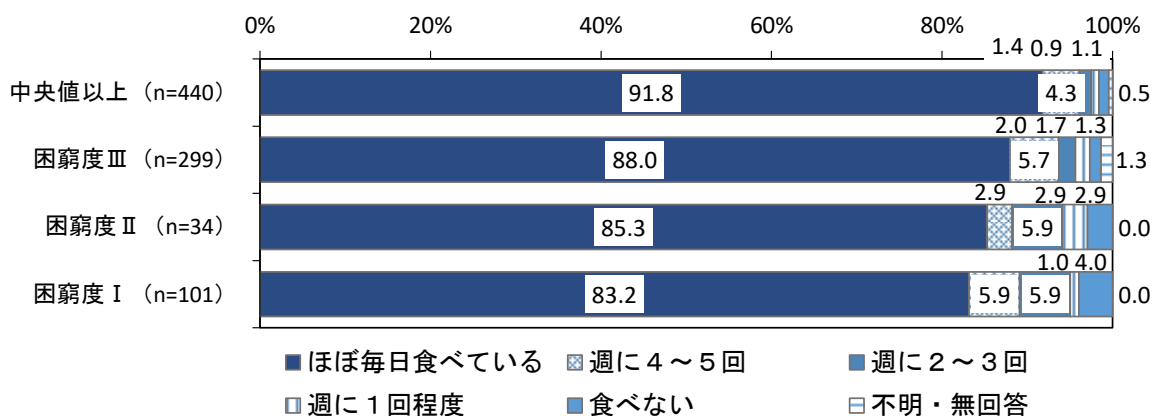


図 168 困窮度別 朝食の頻度

② 就労状況別 朝食の頻度

朝食の頻度について就労状況別にみると、「ほぼ毎日食べている」では、自営群が最も高く93.2%で、次いで正規群が89.4%と続いており、「食べない」では、無業群が22.2%となっています。

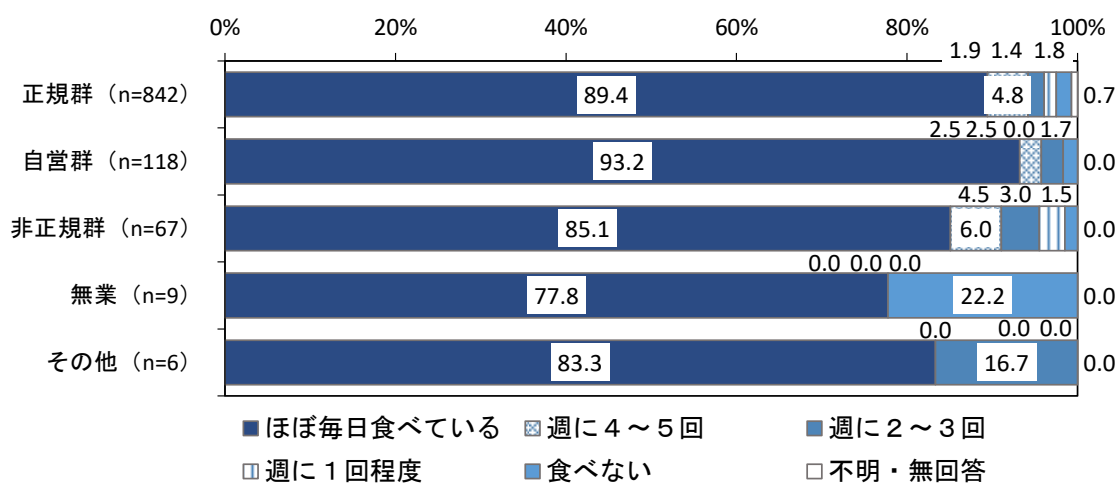


図 169 就労状況別 朝食の頻度

③ 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）について朝食の頻度別にみると、「とても信頼している」では、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人が55.9%で、「週5回以下」朝食をとっていると回答した人（32.4%）に比べて高くなっています。

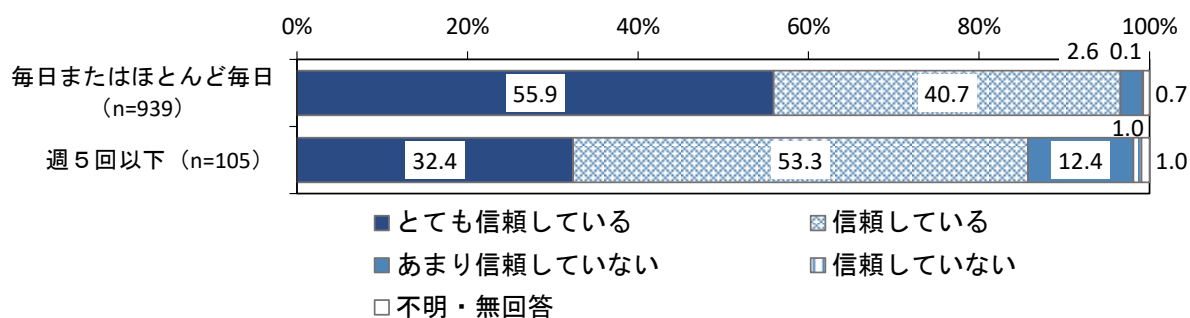


図 170 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

④ 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

保護者と子どもの関わり（子どもと会話）について朝食の頻度別にみると、「よくする」では、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人が65.9%で、「週5回以下」朝食をとっていると回答した人（42.9%）に比べて高くなっています。

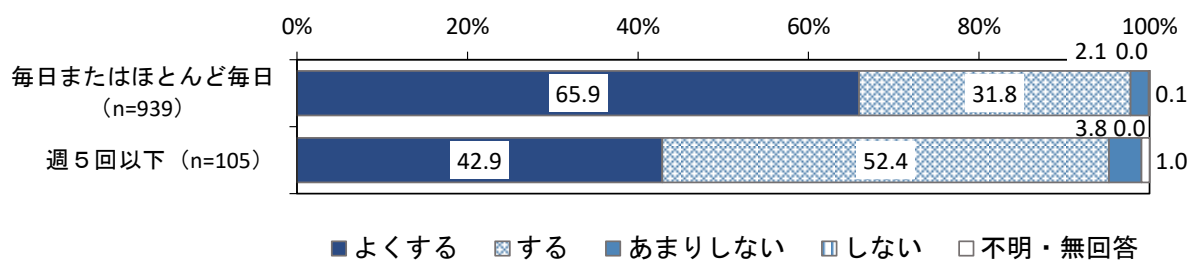


図 171 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

⑤ 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））について朝食の頻度別にみると、『1時間以上』では、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人が69.3%で、「週5回以下」朝食をとっていると回答した人（58.1%）に比べて高くなっています。

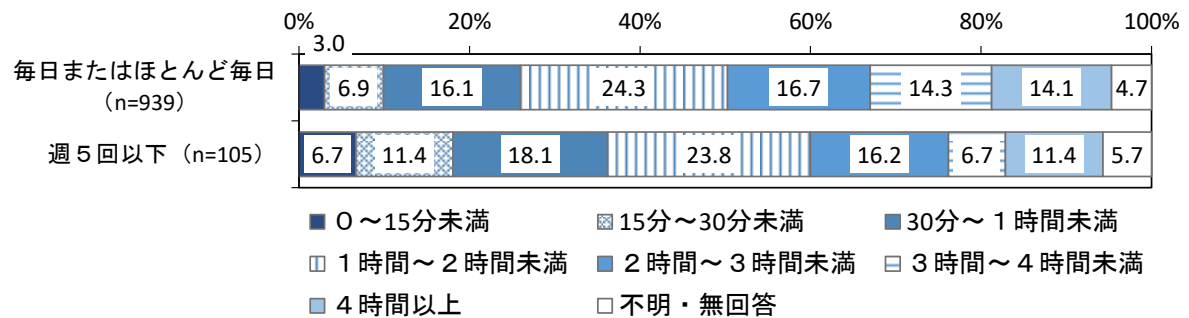


図 172 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

⑥ 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））について朝食の頻度別にみると、『2時間以上』では、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人が71.7%で、「週5回以下」朝食をとっていると回答した人（59.0%）に比べて高くなっています。

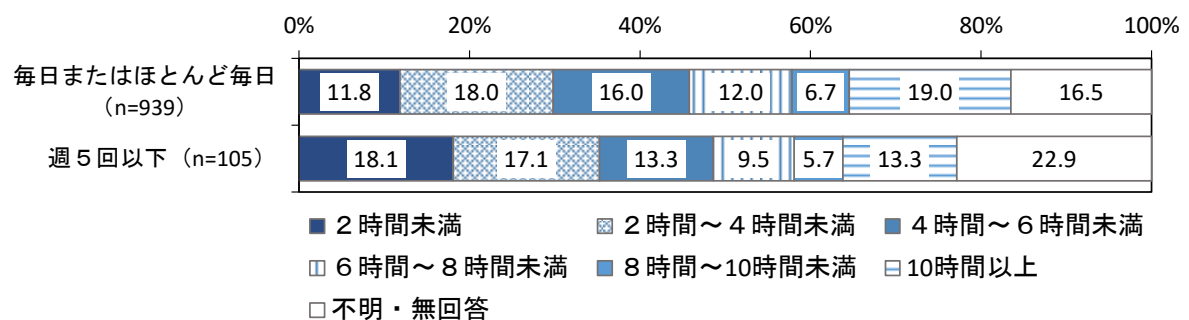


図 173 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

⑦ 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）について朝食の頻度別にみると、『期待している』では、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人が86.7%で、「週5回以下」朝食をとっていると回答した人（75.2%）に比べて高くなっています。

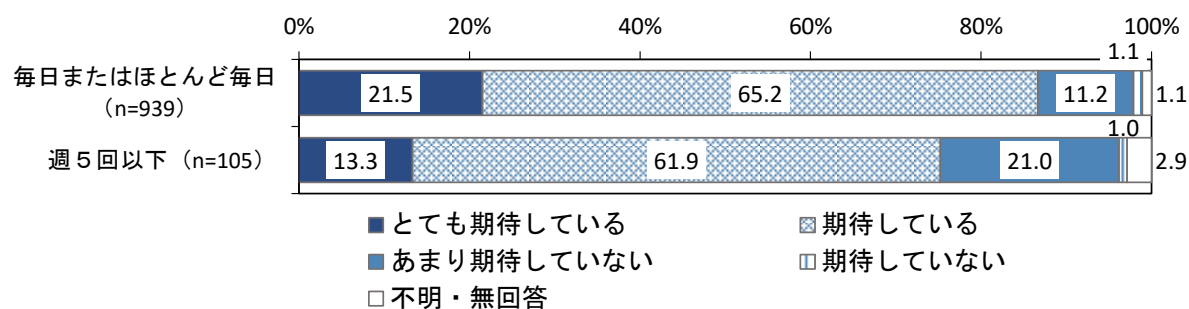


図 174 朝食の頻度別 保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

⑧ 朝食の頻度別 子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）

「自分に自信があるか」、「自分の考えをはっきり相手に伝えることができるか」、「大人は信用できるか」、「自分の将来の夢や目標を持っているか」、「将来のためにも、今、頑張りたいと思うか」、「将来、働きたいと思うか」の6項目について、それぞれ4段階で評価してもらい、その値を合計した得点を、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）得点としました。

得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表します。

表2 子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）得点

設問	項目	点数
自分に自信があるか	ある	4
	どちらかというところ	3
	どちらかというところない	2
	ない	1
自分の考えをはっきり相手に伝えることができるか	できる	4
	どちらかというところできる	3
	どちらかというところできない	2
	できない	1
大人は信用できるか	そう思う	4
	どちらかというところそう思う	3
	どちらかというところそう思わない	2
	そう思わない	1
自分の将来の夢や目標を持っているか	持っている	4
	どちらかというところ持っている	3
	どちらかというところ持っていない	2
	持っていない	1
将来のためにも、今、頑張りたいと思うか	そう思う	4
	どちらかというところそう思う	3
	どちらかというところそう思わない	2
	そう思わない	1
将来、働きたいと思うか	そう思う	4
	どちらかというところそう思う	3
	どちらかというところそう思わない	2
	そう思わない	1

子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）について朝食の頻度別にみると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人が 18.8 点で、「週 5 回以下」朝食をとっていると回答した人（16.9 点）に比べて高くなっています。

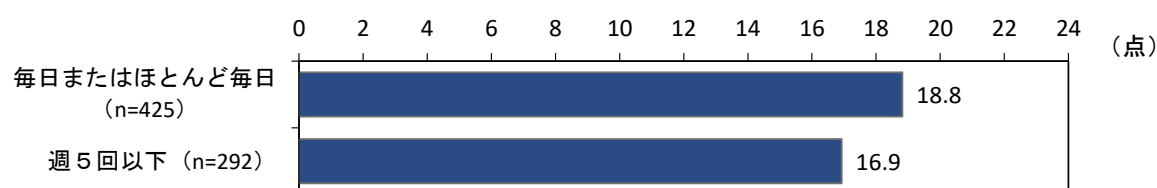


図 175 朝食の頻度別 子どもの自己効力感（セルフエフィカシー）

⑨ 困窮度別 入浴頻度

入浴頻度について困窮度別にみると、「毎日またはほとんど毎日」では、困窮度Ⅰ群が最も低く 91.1%となっています。

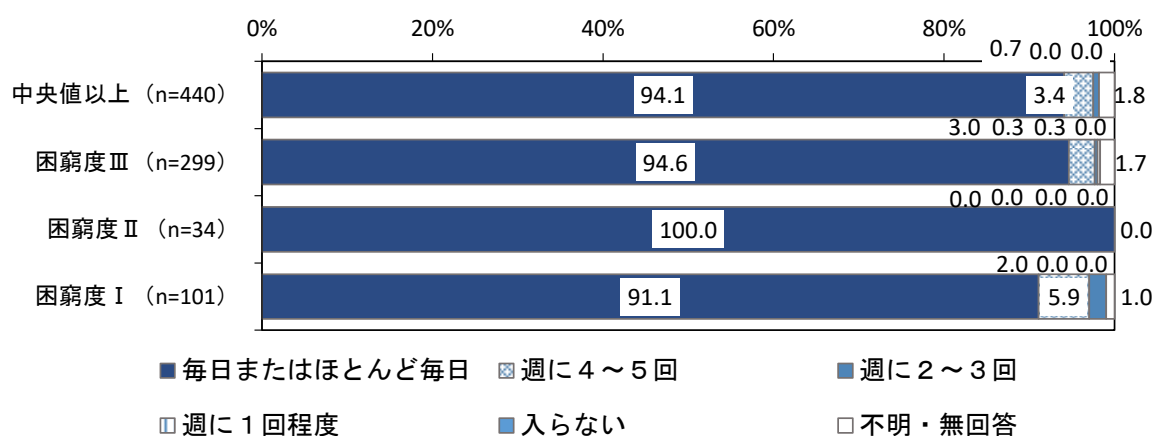


図 176 困窮度別 入浴頻度

⑩ 困窮度別 自分の体や気持ちで気になること（子ども）

自分の体や気持ちで気になること（子ども）について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて、「よくおなかがいたくなる」、「よくかゆくなる」の割合が高くなっており、「とくに気になるところはない」では、困窮度Ⅰの割合が最も低く 26.7%となっています。

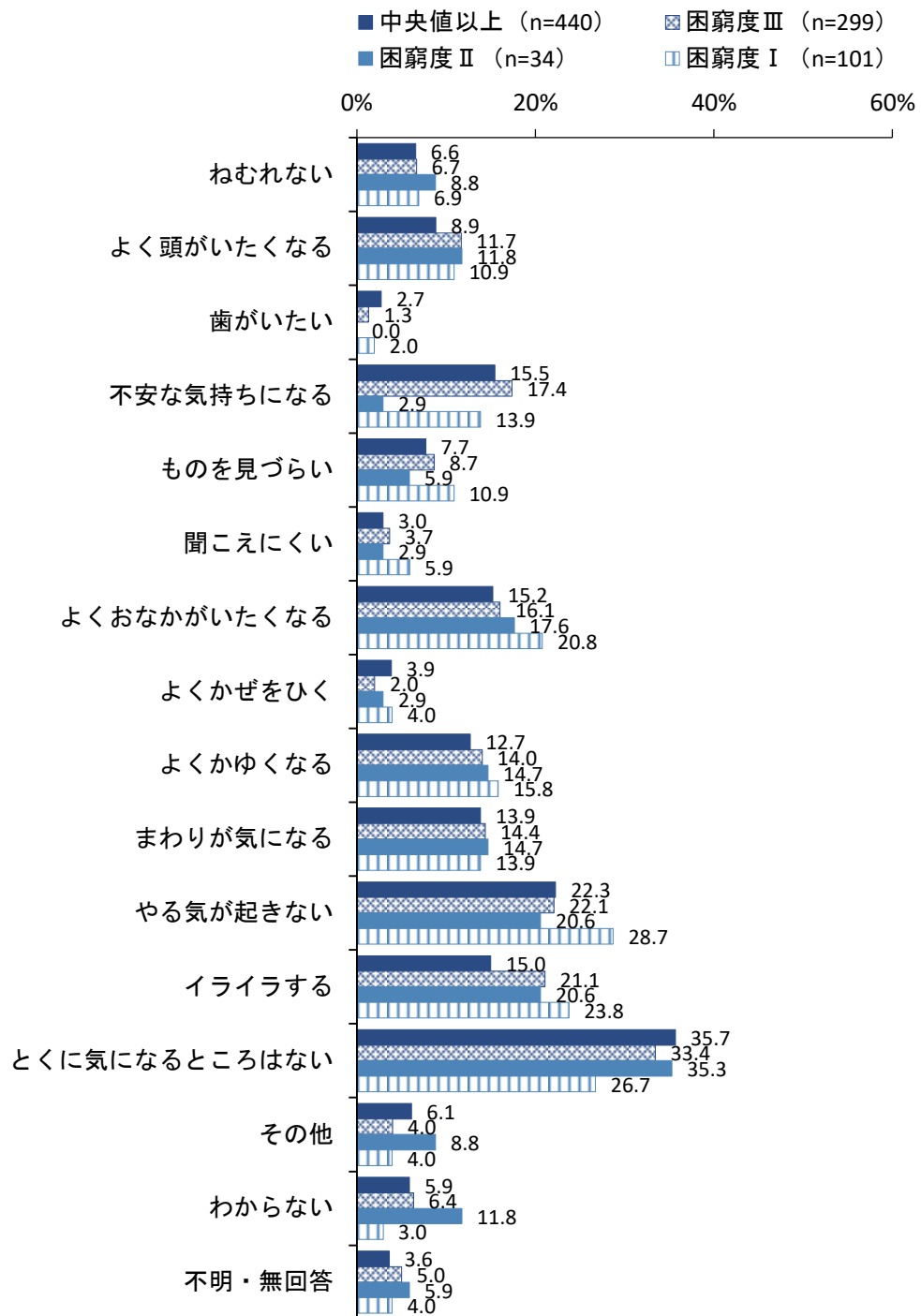


図 177 困窮度別 自分の体や気持ちで気になること（子ども）

⑪ 経済的な理由による経験該当数別 自分の体や気持ちで気になること（子ども）

自分の体や気持ちで気になること（子ども）について経済的な理由による経験該当数別にみると、経験該当数が多くなるにつれて、「ねむれない」、「よく頭がいたくなる」、「不安な気持ちになる」、「聞こえにくい」、「よくおなかがいたくなる」、「やる気が起きない」、「イライラする」の割合が高くなり、「とくに気になるところはない」の割合が低くなっています。

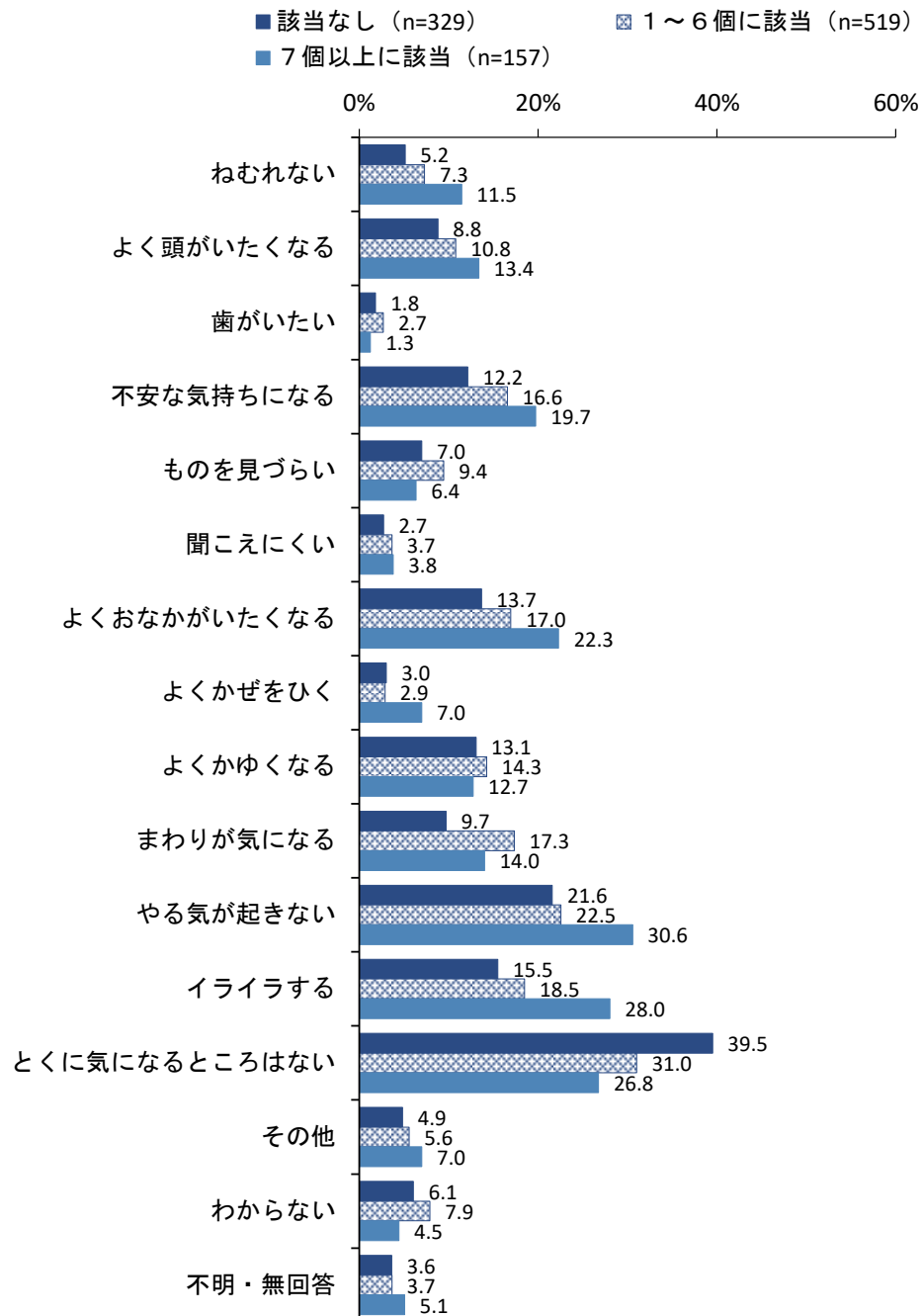


図 178 経済的な理由による経験該当数別 自分の体や気持ちで気になること（子ども）

⑫ 困窮度別 自分の体や気持ちで気になること（保護者）

自分の体や気持ちで気になること（保護者）について困窮度別にみると、中央値以上群に比べ、「ものを見づらい」、「やる気が起きない」、「とくに気になるところはない」以外の全ての項目で困窮度Ⅰ群が高くなっています。

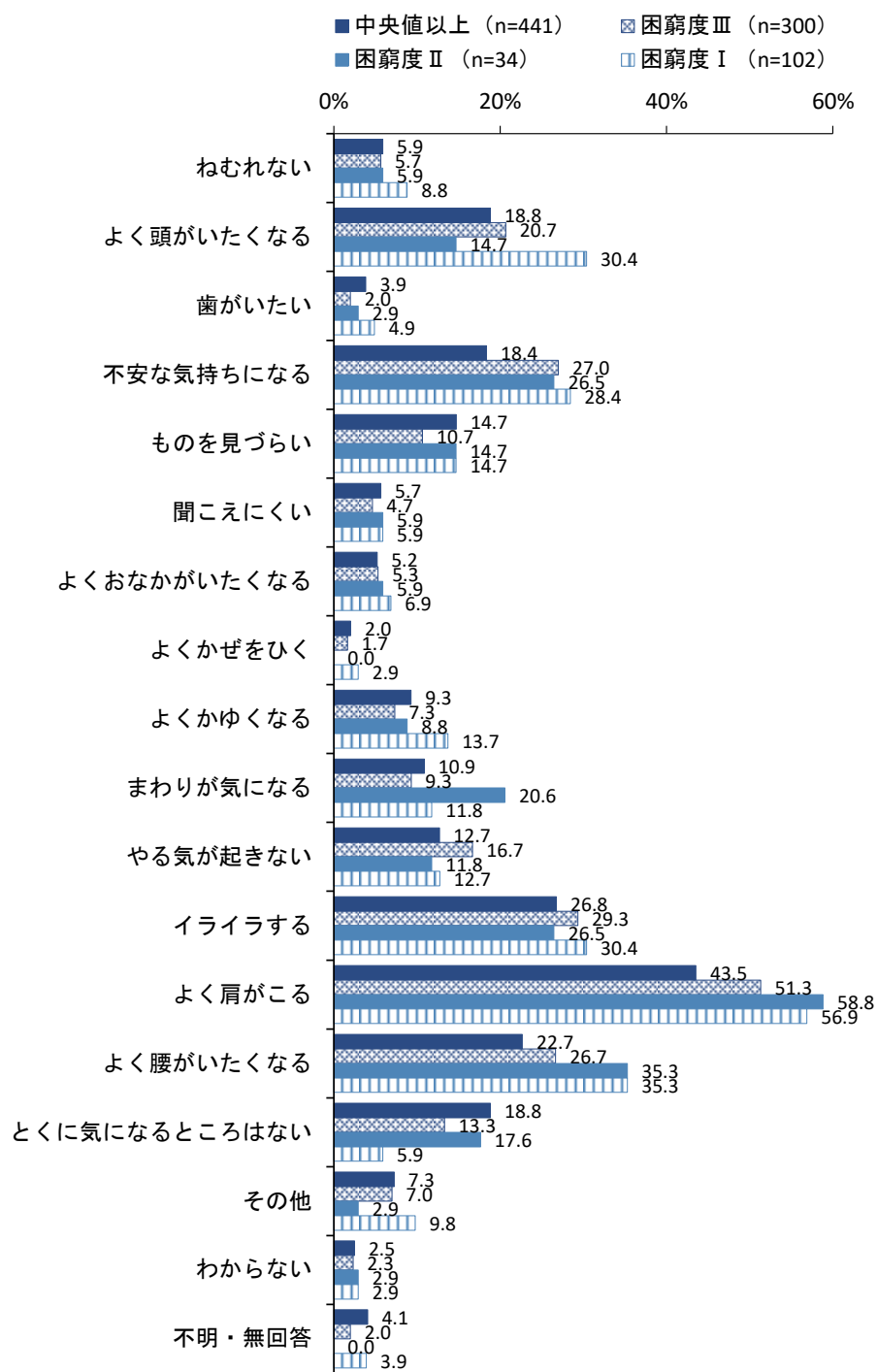


図 179 困窮度別 自分の体や気持ちで気になること（保護者）

⑬ 経済的な理由による経験該当数別 自分の体や気持ちで気になること（保護者）

自分の体や気持ちで気になること（保護者）について経済的な理由による経験該当数別にみると、経験該当数が多くなるにつれて、「聞こえにくい」、「よくかぜをひく」、「とくに気になるところはない」、「その他」、「わからない」以外の全ての項目で割合が高くなっています。

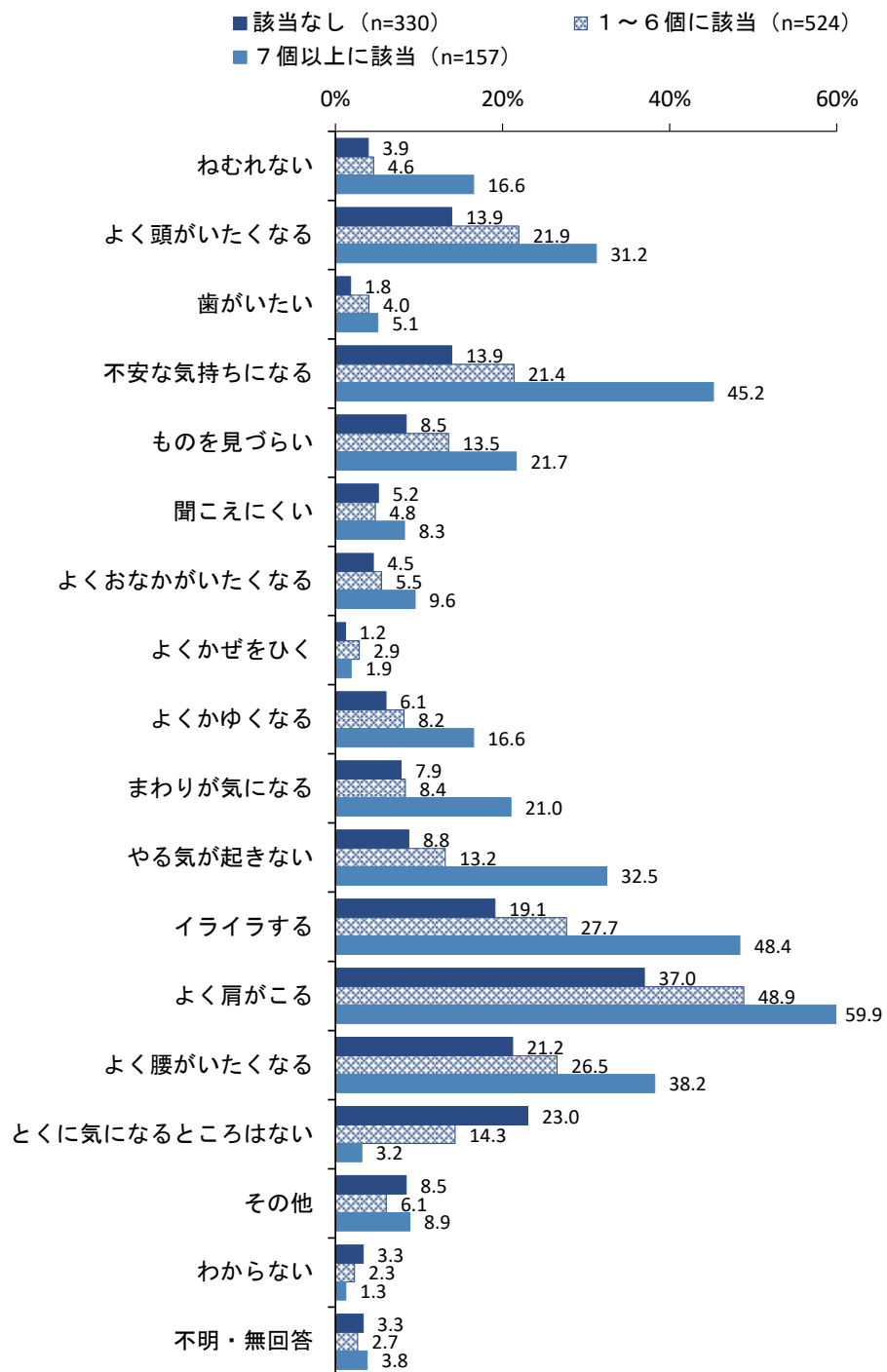


図 180 経済的な理由による経験該当数別 自分の体や気持ちで気になること（保護者）

⑭ 就労状況別 自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者）

自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者）について就労状況別にみると、非正規群が2.9個で最も高くなっています。

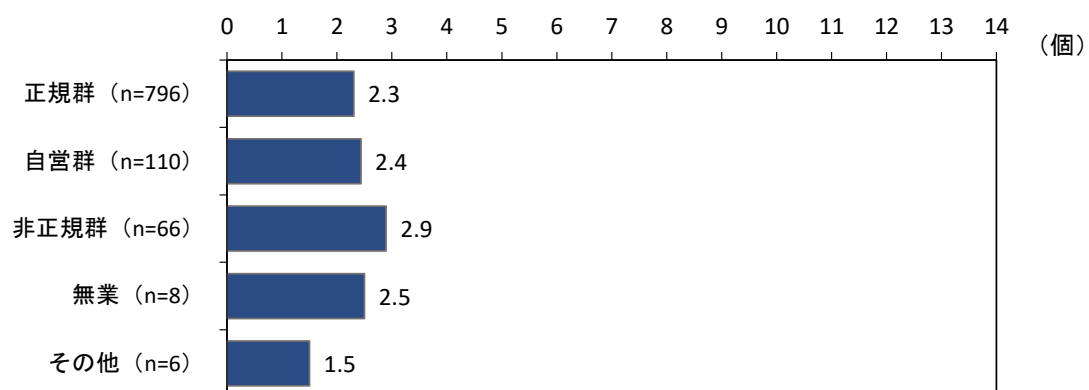


図 181 就労状況別 自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者）

⑮ 就労状況別 保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）

「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信があると思うか」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続けると思うか」、「人の集まりの中では、うまくふるまえないと思うか」、「私は自分から友だちを作るのがうまいと思うか」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できないと思うか」の5項目について、それぞれ4段階で評価してもらい、その値を合計した得点を、保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）得点としました。

得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表します。

表3 保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）得点

設問	項目	点数
自分が立てた目標や計画はうまくできる自信があると思うか	そう思う	4
	まあそう思う	3
	あまり思わない	2
	思わない	1
はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続けると思うか	そう思う	4
	まあそう思う	3
	あまり思わない	2
	思わない	1
人の集まりの中では、うまくふるまえないと思うか	そう思う	1
	まあそう思う	2
	あまり思わない	3
	思わない	4
私は自分から友だちを作るのがうまいと思うか	そう思う	4
	まあそう思う	3
	あまり思わない	2
	思わない	1
人生で起きる問題の多くは自分では解決できないと思うか	そう思う	1
	まあそう思う	2
	あまり思わない	3
	思わない	4

保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）について就労状況別にみると、無業群が14.4点で最も高く、非正規群が12.7点で最も低くなっています。

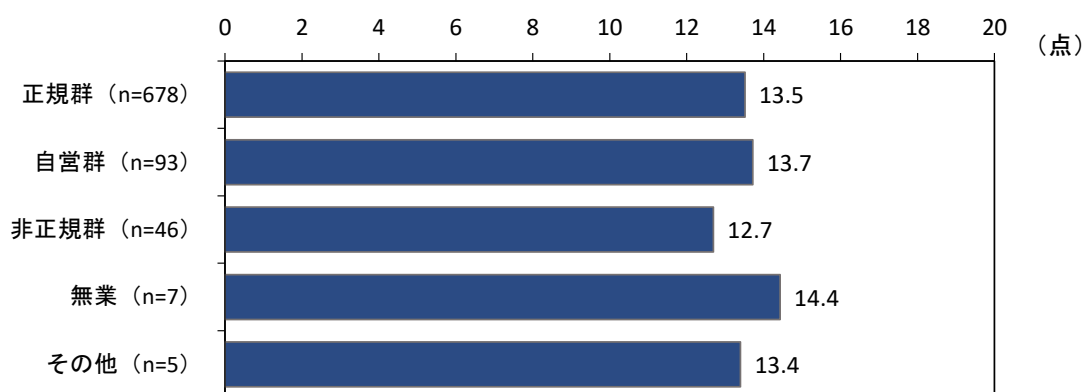


図 182 就労状況別 保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）

⑩ 就労状況別 支えてくれる人得点

「あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」、「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」、「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」、「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」、「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」、「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」、「留守を頼める人」の7項目について、「いる」か「いない」かで評価してもらい、「いる」を1点、「いない」を0点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」としました。

得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表します。

支えてくれる人得点について就労状況別にみると、非正規群が5.6点で最も低くなっています。

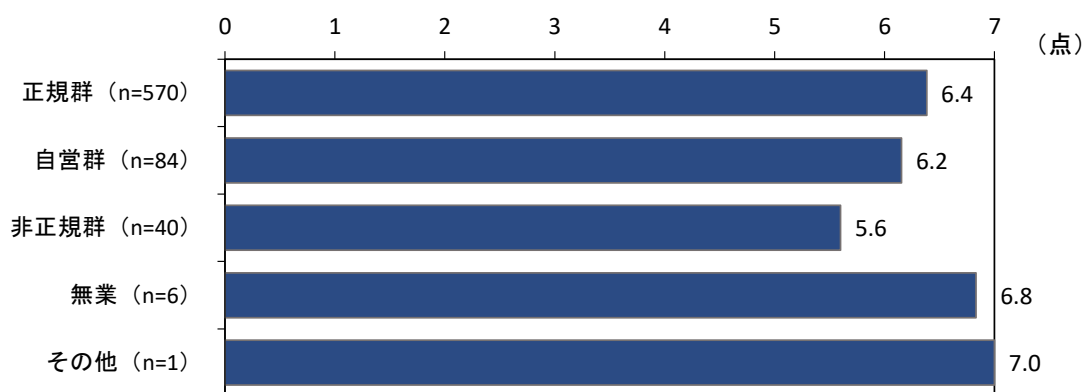


図 183 就労状況別 支えてくれる人得点

⑪ 困窮度別 心の状態（生活を楽しんでいるか）

心の状態（生活を楽しんでいるか）について困窮度別にみると、『楽しんでいる』では、中央値以上群が最も高く 82.5%で、『楽しんでいない』（「あまり楽しんでいない」と「楽しんでいない」の合計）では、困窮度Ⅰ群が最も高く 21.6%となっています。

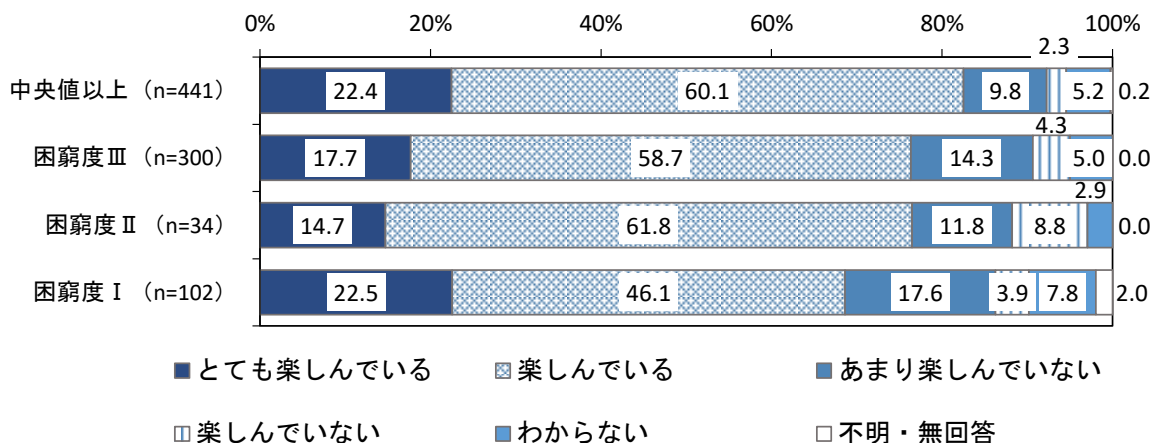


図 184 困窮度別 心の状態（生活を楽しんでいるか）

⑫ 困窮度別 心の状態（将来への希望）

心の状態（将来への希望）について困窮度別にみると、「希望が持てる」では、中央値以上群が最も高く 39.9%で、「希望が持てない」では、困窮度Ⅱ群が最も高く 14.7%となっています。

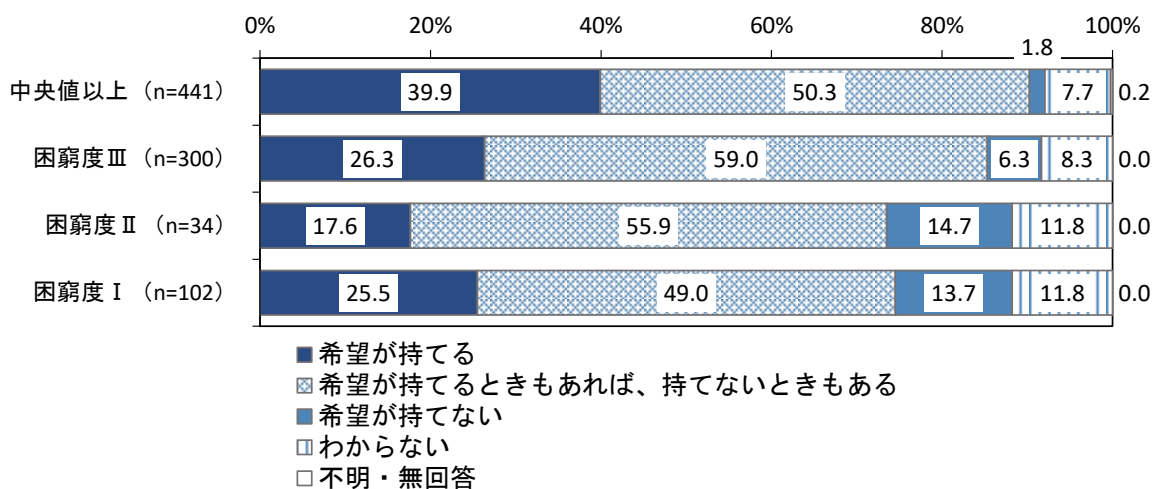


図 185 困窮度別 心の状態（将来への希望）

⑲ 困窮度別 心の状態（ストレス発散できるもの）

心の状態（ストレス発散できるもの）について困窮度別にみると、「ある」では、中央値以上群が最も高く 46.9%で、「ない」では、困窮度Ⅰ群が最も高く 9.8%となっています。

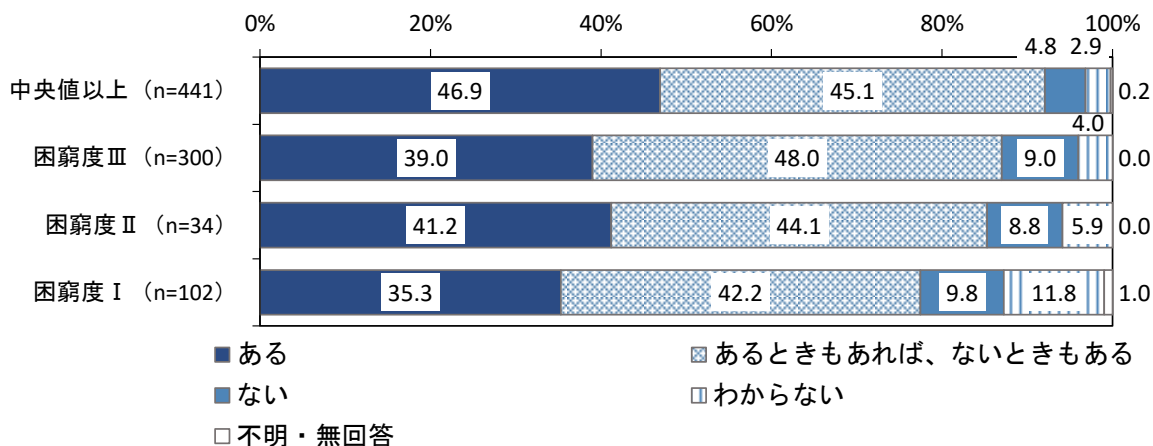


図 186 困窮度別 心の状態（ストレス発散できるもの）

⑳ 困窮度別 心の状態（幸せだと思うか）

心の状態（幸せだと思うか）について困窮度別にみると、『幸せだと思う』では、中央値以上群が最も高く 91.8%で、『幸せだと思わない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」の合計）では、困窮度Ⅱ群が最も高く 17.6%となっています。

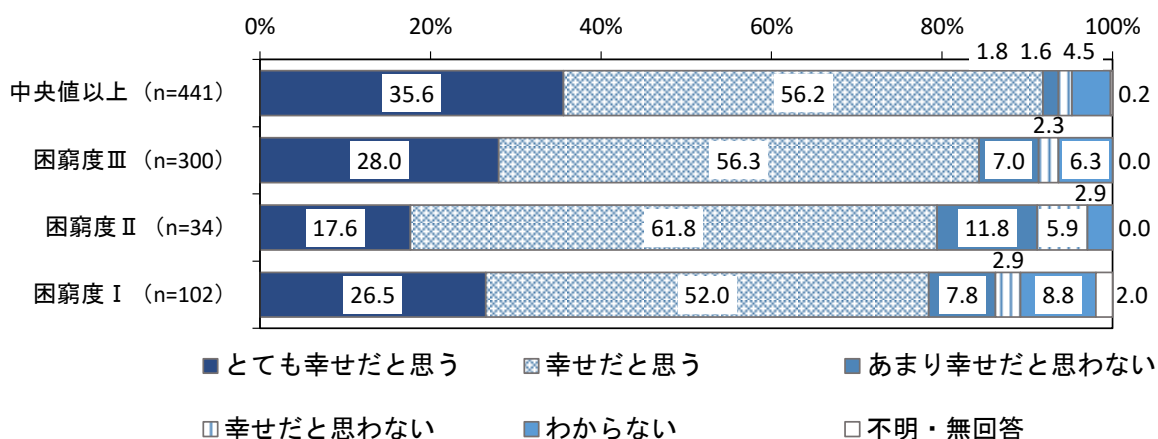


図 187 困窮度別 心の状態（幸せだと思うか）

②① 困窮度別 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことについて困窮度別にみると、困窮度による大きな差はみられないものの、「よくある」では、困窮度が高くなるにつれて割合が高くなり、困窮度Ⅰ群が最も高く 9.8%となっています。

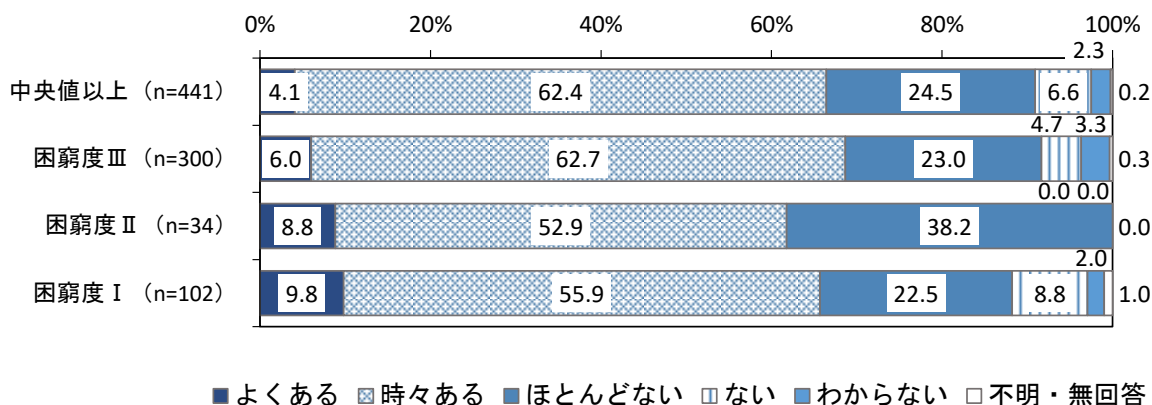


図 188 困窮度別 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

②② 困窮度別 定期的な健康診断の受診

定期的な健康診断の受診について困窮度別にみると、「はい」では、中央値以上群が最も高く 74.6%で、「いいえ」では、困窮度Ⅰ～Ⅱ群が 50%台となっています。

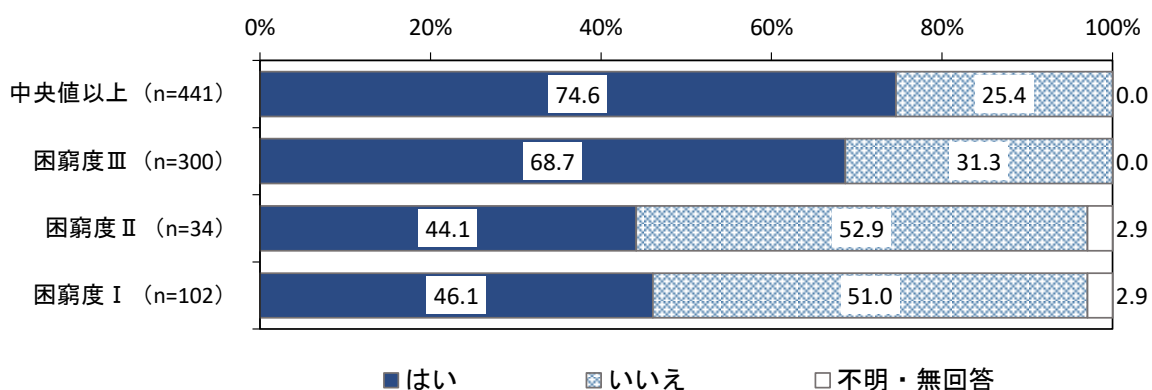


図 189 困窮度別 定期的な健康診断の受診

②③ 定期的な健康診断の受診別 等価可処分所得の平均値

等価可処分所得の平均値について定期的な健康診断の受診別にみると、「受けている」では 299.1 万円、「受けていない」では 241.9 万円となっています。

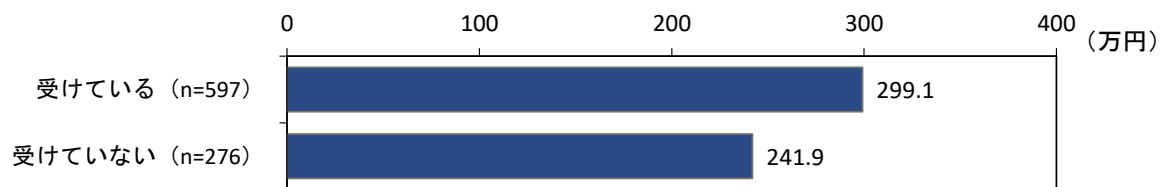


図 190 定期的な健康診断の受診別 等価可処分所得の平均値

4 家庭生活、学習

① 困窮度別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）について困窮度別にみると、「ほとんど毎日」では、中央値以上群が 44.1%で他の群よりも高く、一方、『ない』（「ほとんどない」と「まったくない」の合計）では、中央値以上群が 30.0%で他の群よりも低くなっています。

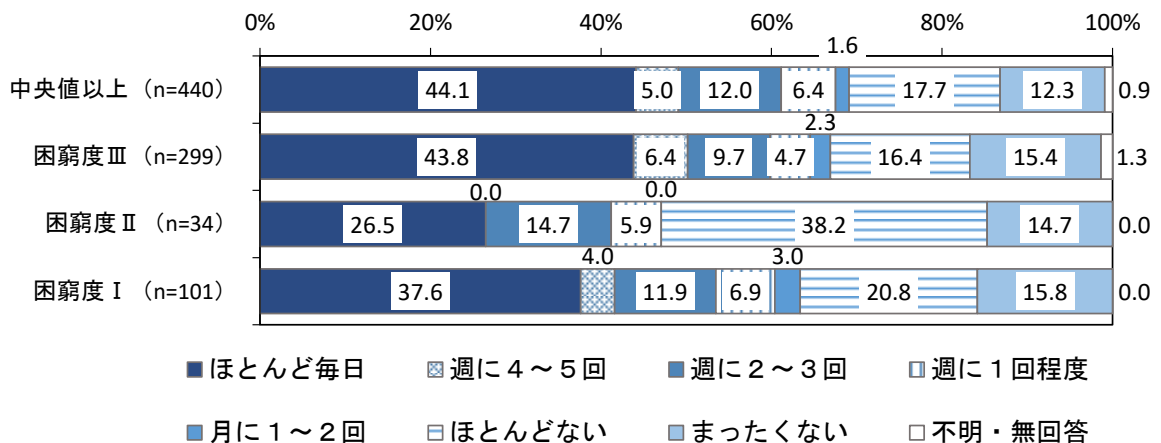


図 191 困窮度別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

② 困窮度別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）について困窮度別にみると、「ほとんど毎日」では、困窮度Ⅲ群が最も高く 80.9%となっています。

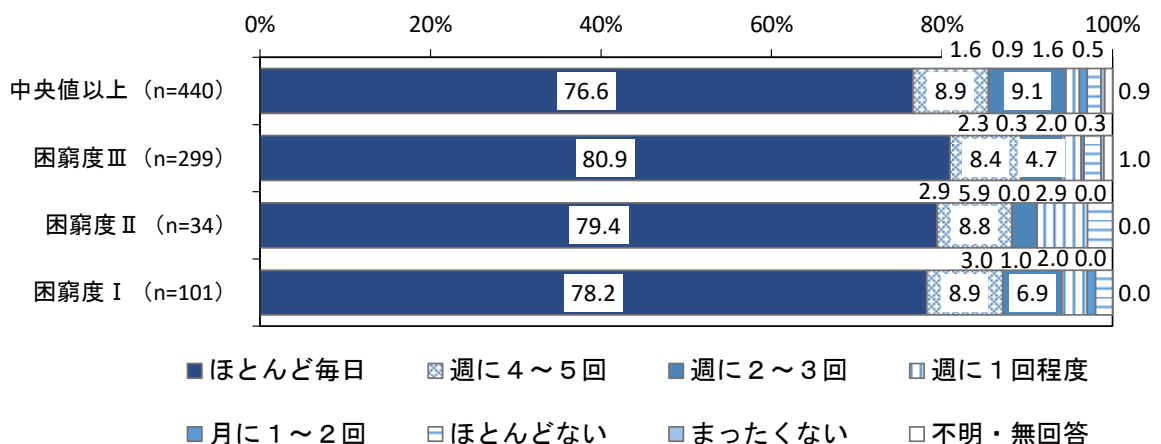


図 192 困窮度別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

③ 困窮度別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）について困窮度別にみると、『ない』では、困窮度Ⅱ群が最も高く 70.6%で、「ほとんど毎日」では、困窮度Ⅰ群が最も高く 13.9%となっています。

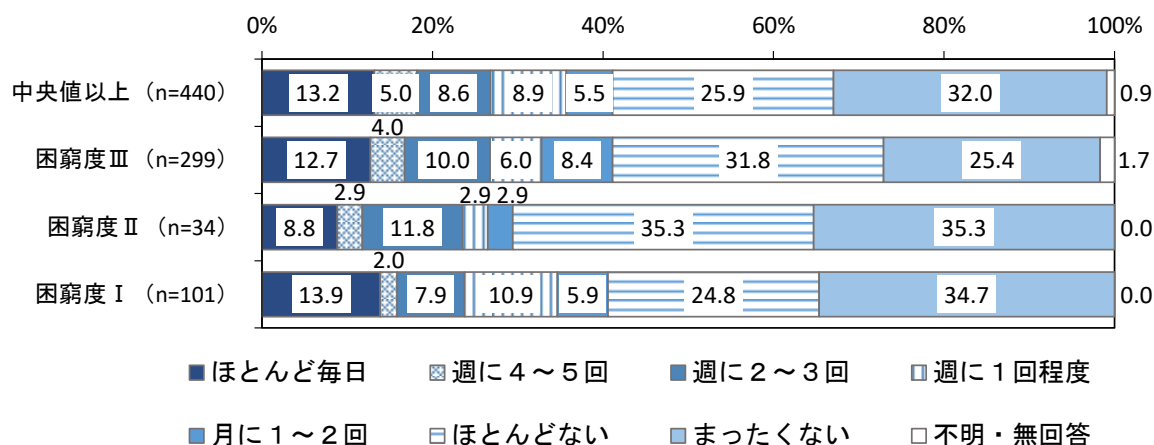


図 193 困窮度別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

④ 困窮度別 授業以外の勉強時間

授業以外の勉強時間について困窮度別にみると、「まったくしない」では、困窮度Ⅱ群が最も高く 17.6%で、『2時間以上』では、中央値以上群が最も高く 26.1%となっています。

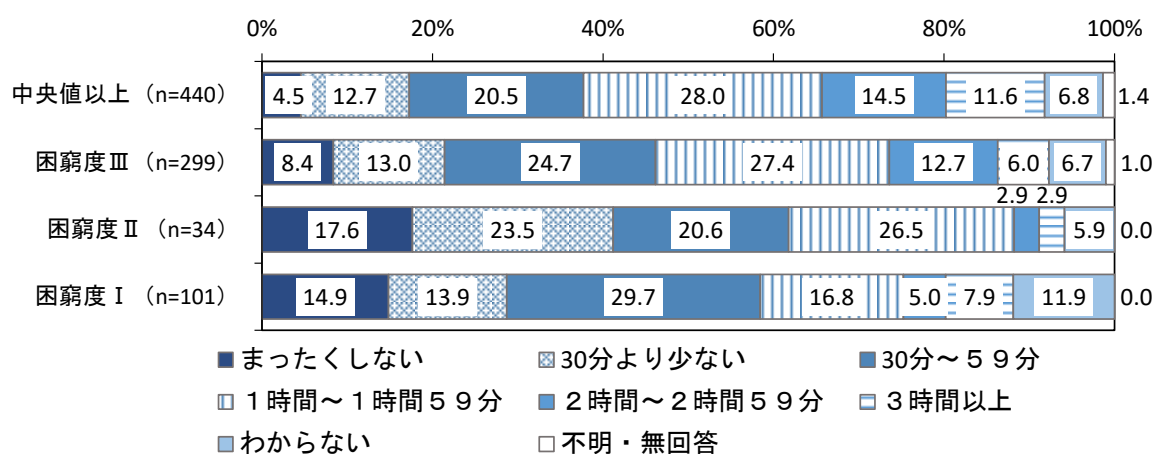


図 194 困窮度別 授業以外の勉強時間

⑤ 困窮度別 授業以外の読書時間

授業以外の読書時間について困窮度別にみると、「まったくしない」では、困窮度Ⅱ群が最も高く 47.1%で、『1時間以上』では、困窮度Ⅰ群が最も高く 10.9%となっています。

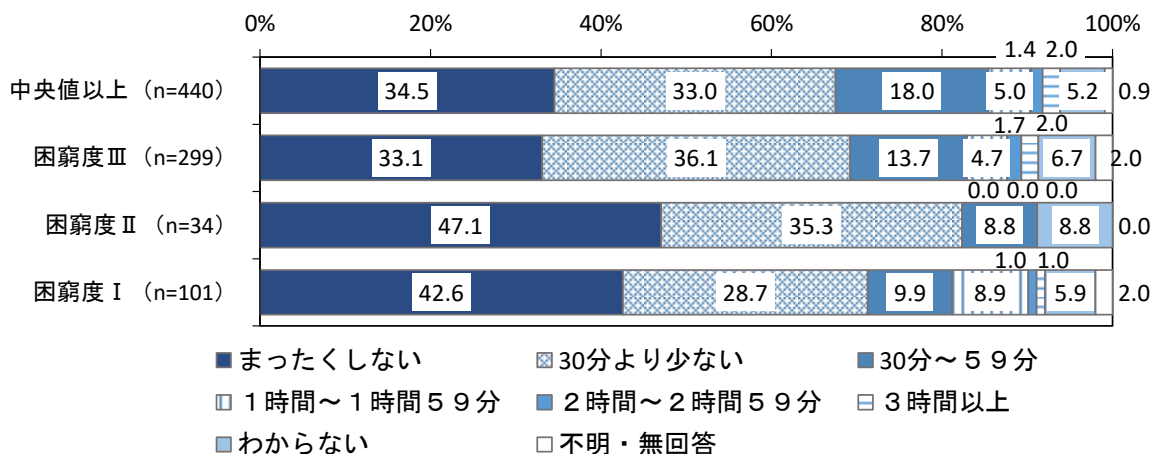


図 195 困窮度別 授業以外の読書時間

⑥ 困窮度別 学習理解度

学習理解度について困窮度別にみると、『わかる』では、中央値以上群が最も高く 90.0%で、「ほとんどわからない」では、困窮度が高くなるにつれて割合が高くなっています。

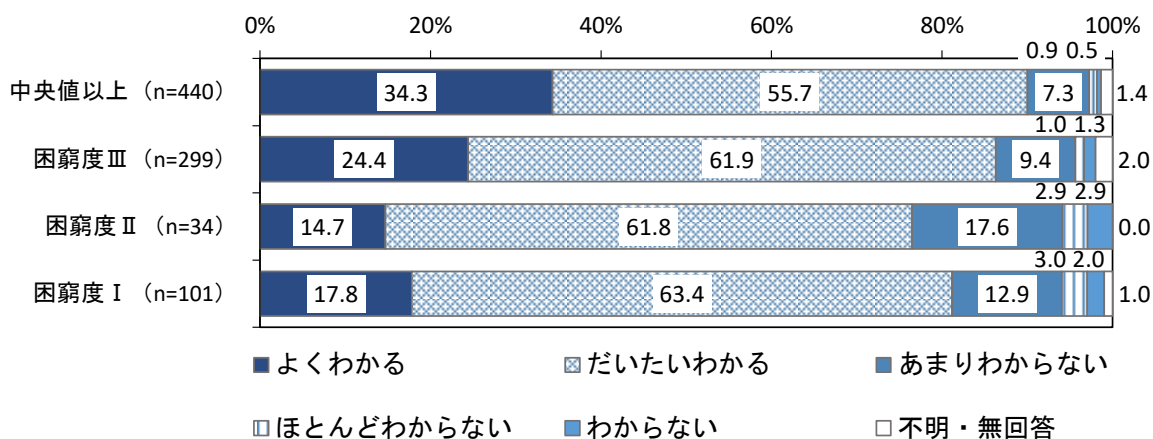


図 196 困窮度別 学習理解度

⑦ 子ども部屋の有無別 勉強時間の平均値

勉強時間について、「まったくしない」を1点、「30分より少ない」を2点、「30分～59分」を3点、「1時間～1時間59分」を4点、「2時間以上～2時間59分」を5点、「3時間以上」を6点とし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表します。

また、持っているもの、使うことができるものについて、「子ども部屋」を回答した人を「子ども部屋あり」、回答していない人を「子ども部屋なし」としています。

勉強時間の平均値について子ども部屋の有無別にみると、「子ども部屋あり」が3.6点で、「子ども部屋なし」(3.4点)よりも勉強時間の平均値が高くなっています。

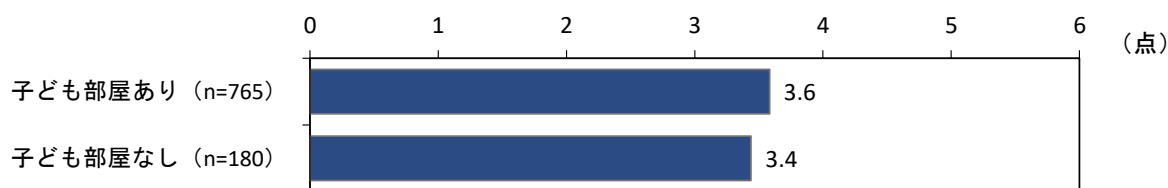


図 197 子ども部屋の有無別 勉強時間の平均値

⑧ 起床時間の規則性別 授業以外の勉強時間

起床時間の規則性について、「起きている」、「どちらかと言えば、起きている」と回答した人を『同じ時刻に起きている』、「あまり、起きていない」、「起きていない」と回答した人を『同じ時刻には起きていない』としています。

授業以外の勉強時間について起床時間の規則性別にみると、「まったくしない」では、「同じ時刻に起きている」(6.4%)に比べて「同じ時刻には起きていない」(15.9%)の割合が高くなっています。

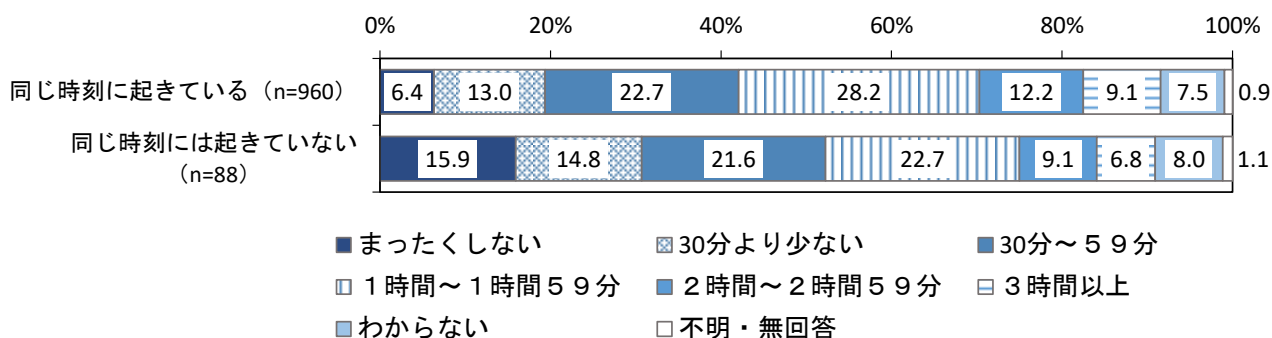


図 198 起床時間の規則性別 授業以外の勉強時間

⑨ 朝食の頻度別 授業以外の勉強時間

朝食の頻度において、「ほぼ毎日食べている」を回答した人を「毎日またはほとんど毎日」、「週に4～5回」、「週に2～3回」、「週に1回程度」、「食べない」を回答した人を「週5回以下」としています。

授業以外の勉強時間について朝食の頻度別にみると、「まったくしない」では、「毎日またはほとんど毎日」(6.4%)に比べて「週5回以下」(14.3%)の割合が高くなっています。

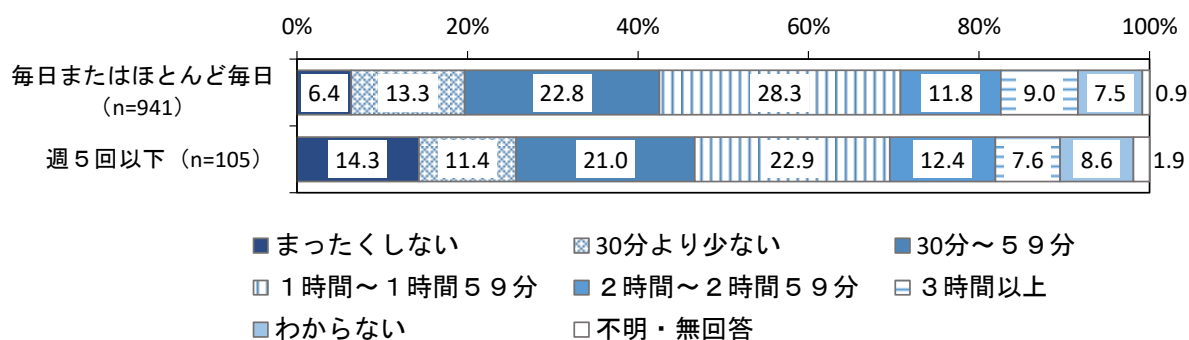


図 199 朝食の頻度別 授業以外の勉強時間

⑩ 起床時間の規則性別 授業以外の読書時間

授業以外の読書時間について起床時間の規則性別にみると、「まったくしない」では、「同じ時刻に起きている」(34.3%)に比べて「同じ時刻には起きていない」(38.6%)の割合が高くなっています。

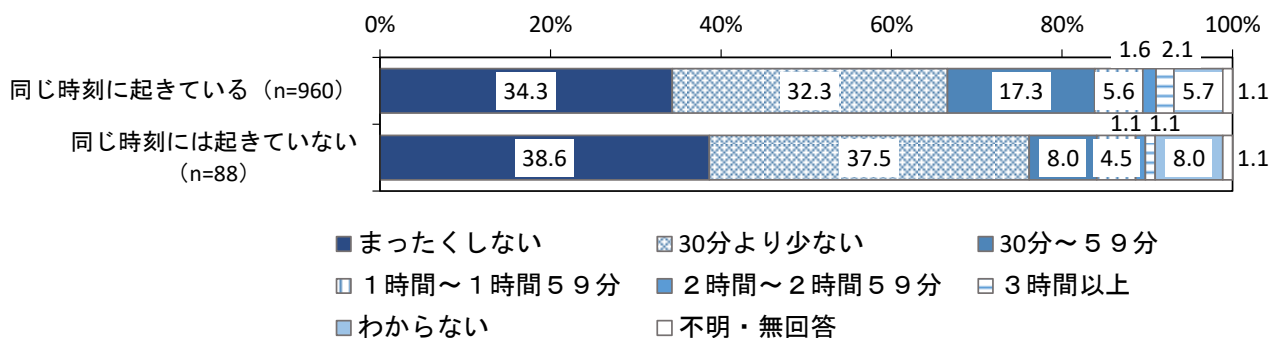


図 200 起床時間の規則性別 授業以外の読書時間

⑪ 朝食の頻度別 授業以外の読書時間

授業以外の読書時間について朝食の頻度別にみると、「まったくしない」では、「毎日またはほとんど毎日」(32.8%) に比べて「週 5 回以下」(50.5%) の割合が高くなっています。

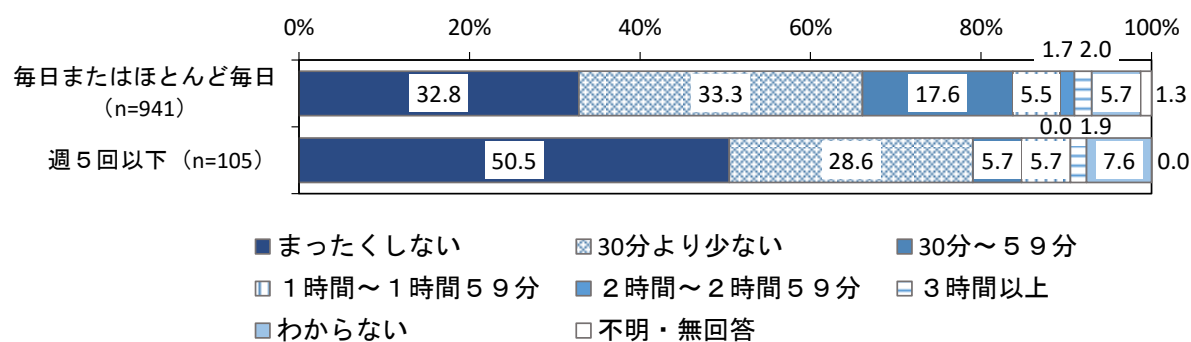


図 201 朝食の頻度別 授業以外の読書時間

⑫ 困窮度別 授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

学習理解度について、「よくわかる」を4点、「だいたいわかる」を3点、「あまりわからない」を2点、「ほとんどわからない」を1点とし、数値が高いほど、学習理解度が高いことを表します。

授業以外の勉強時間と学習理解度の関連について困窮度別にみると、「3時間以上」で、中央値以上群、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰにおいて学習理解度が最も高くなっています。

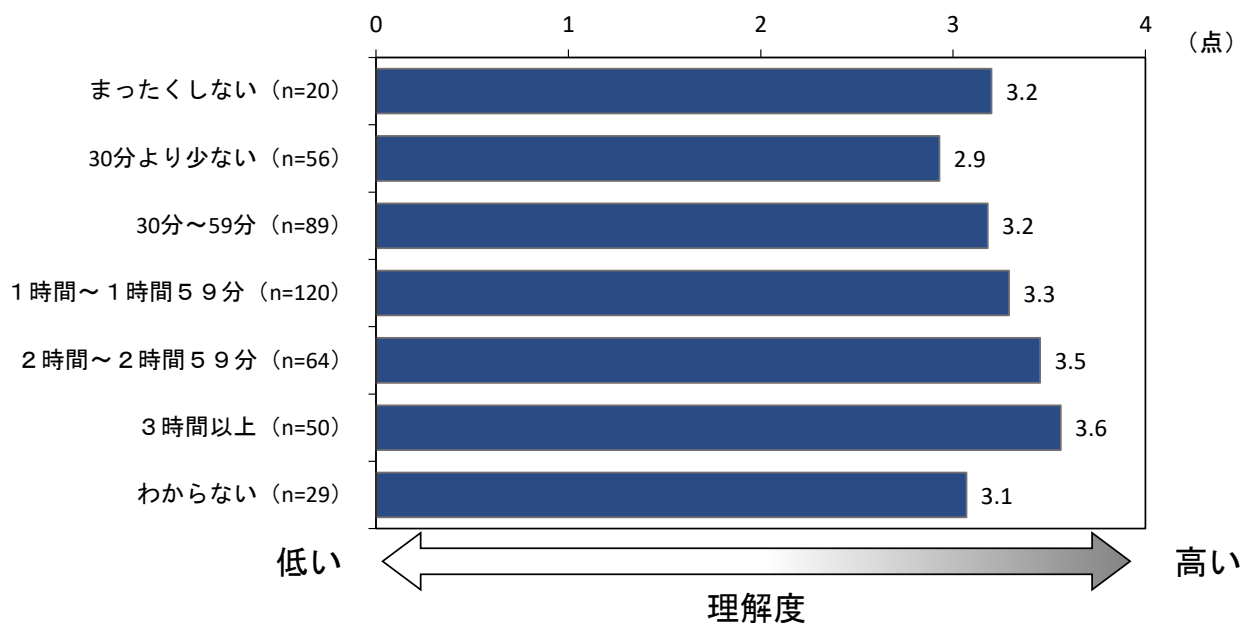


図 202 授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（中央値以上）

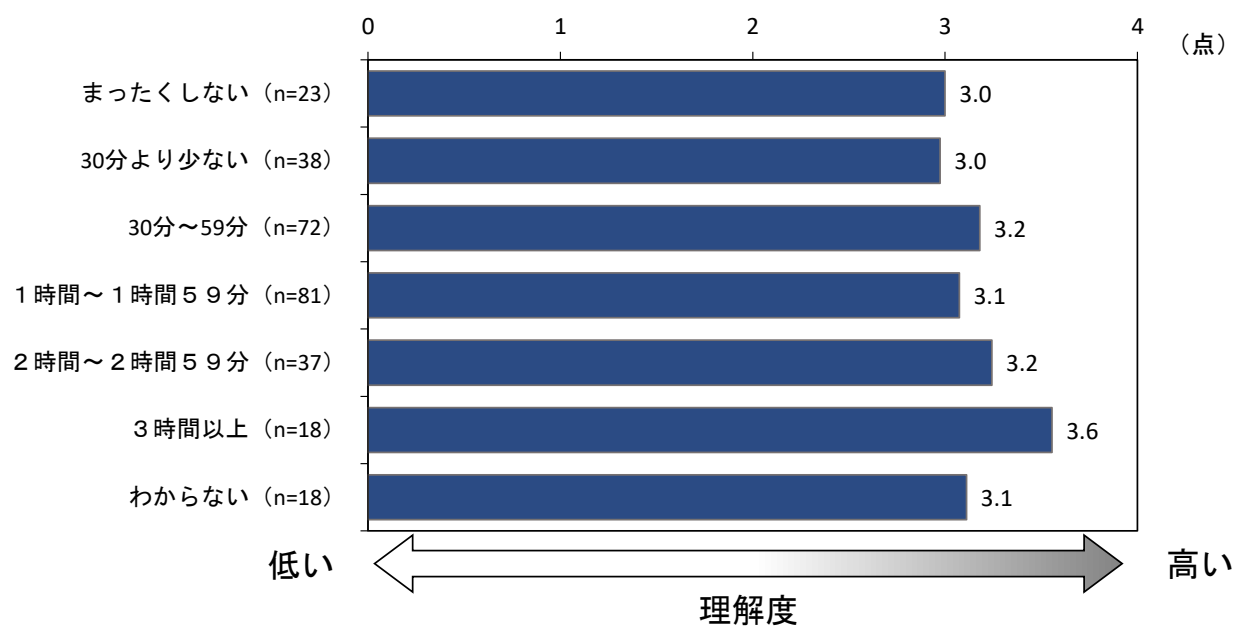


図 203 授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（困窮度Ⅲ）

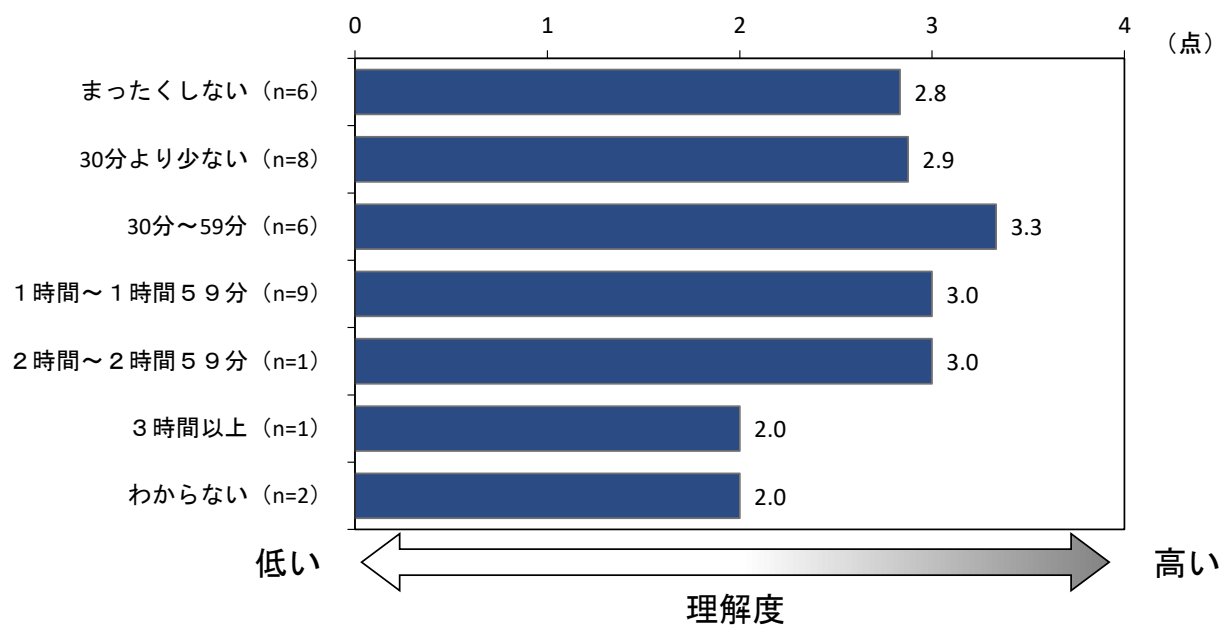


図 204 授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（困窮度Ⅱ）

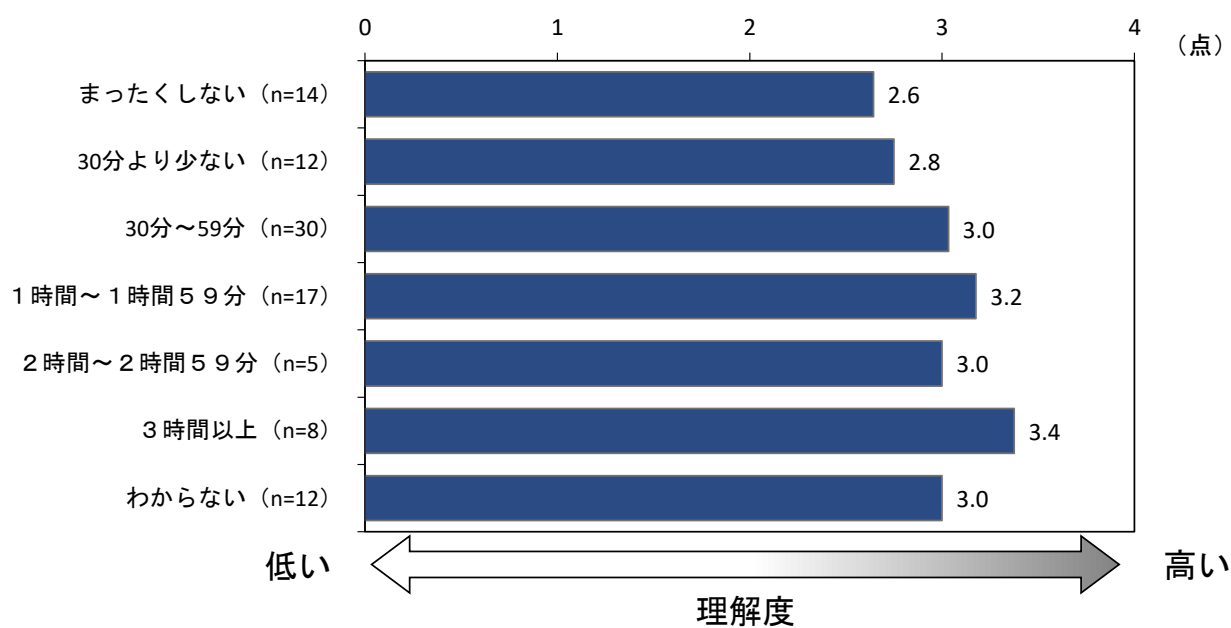


図 205 授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（困窮度Ⅰ）

⑬ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

学校への遅刻において、「ほぼ遅刻はしない」と回答した人を『遅刻はしない』、「ほぼ毎日遅刻している」、「週に4～5回遅刻している」、「週に2～3回遅刻している」、「週に1回程度遅刻することがある」を回答した人を『週1回以上遅刻する』としています。

保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）について学校への遅刻別にみると、「とても信頼している」では、「週1回以上遅刻する」（35.4％）に比べて「遅刻はしない」（56.2％）の割合が高くなっています。

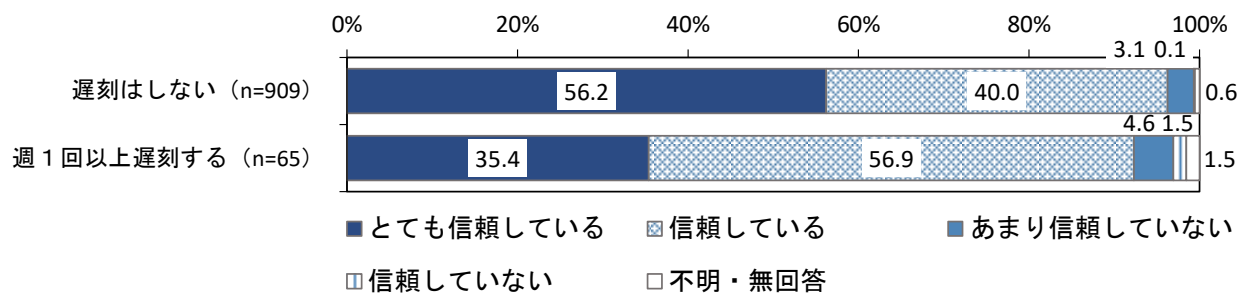


図 206 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

⑭ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

保護者と子どもの関わり（子どもと会話）について学校への遅刻別にみると、「よくする」では、「週1回以上遅刻する」（61.5％）に比べて「遅刻はしない」（65.1％）の割合が高くなっています。

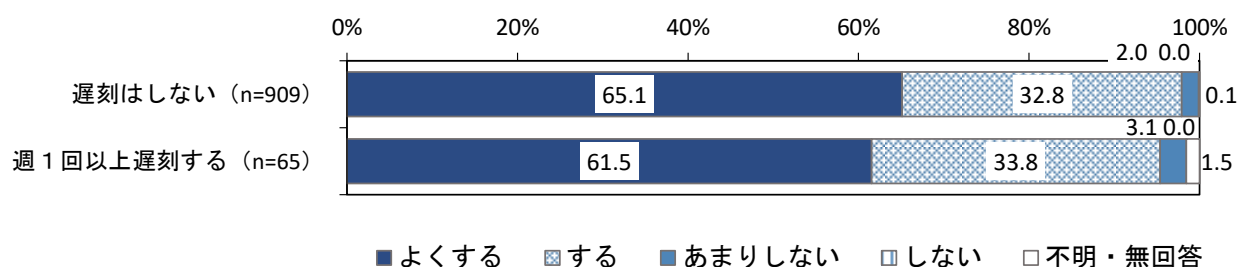


図 207 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

⑮ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））について学校への遅刻別にみると、『2 時間以上』では、「週 1 回以上遅刻する」（29.2％）に比べて「遅刻はしない」（45.3％）の割合が高くなっています。

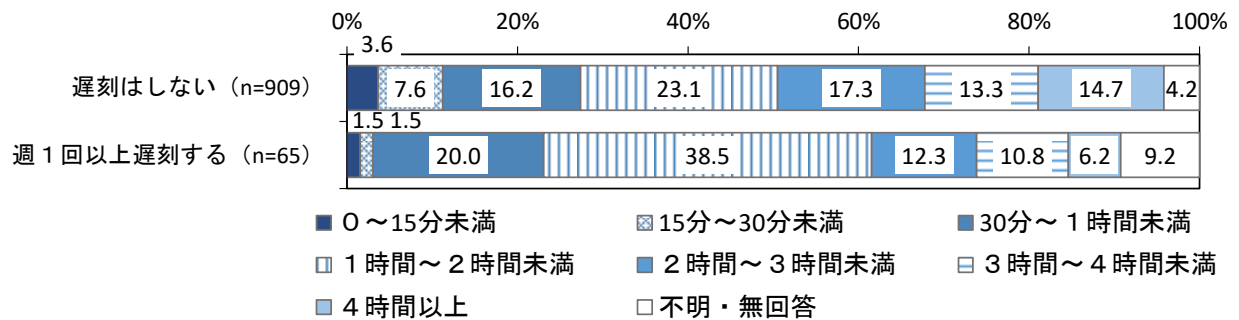


図 208 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

⑯ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））

保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））について学校への遅刻別にみると、『6 時間以上』では、「週 1 回以上遅刻する」（29.2％）に比べて「遅刻はしない」（37.6％）の割合が高くなっています。

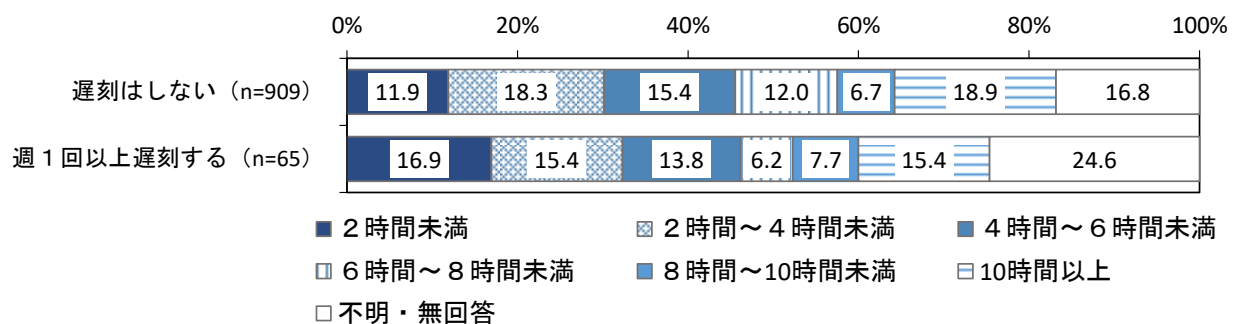


図 209 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））

⑪ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）について学校への遅刻別にみると、『期待している』では、「週 1 回以上遅刻する」（69.2％）に比べて「遅刻はしない」（87.2％）の割合が高くなっています。

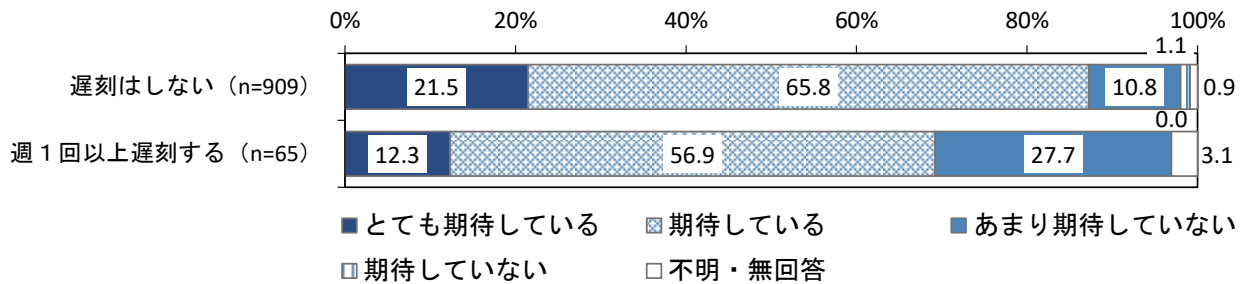


図 210 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

⑫ 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもの将来への期待）

保護者と子どもの関わり（子どもの将来への期待）について困窮度別にみると、『期待している』では、困窮度Ⅲが最も高く 88.7％で、『期待していない』（「あまり期待していない」と「期待していない」の合計）では、困窮度Ⅱ群が最も高く 23.5％となっています。

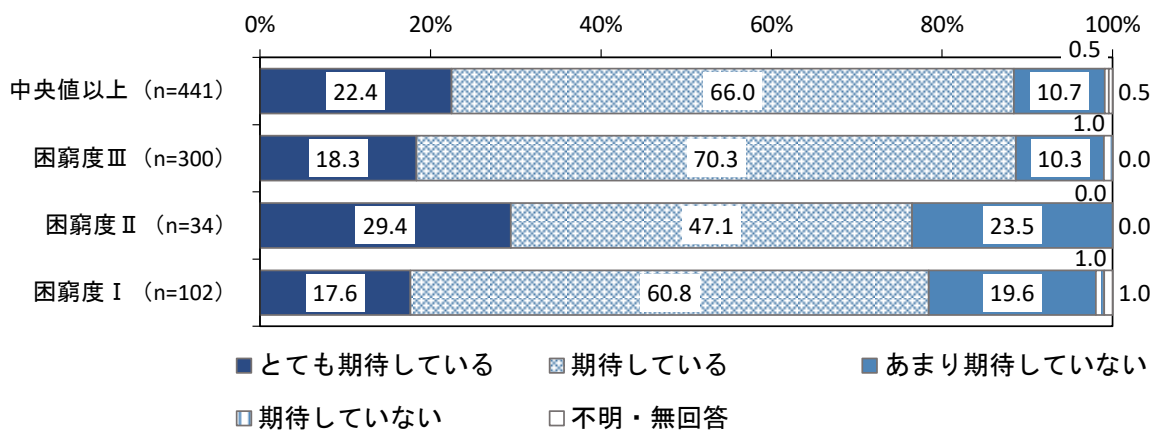


図 211 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもの将来への期待）

⑱ 困窮度別 希望する進学先

希望する進学先について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「高校」の割合が高くなり、「大学・短期大学」の割合が低くなっており、中央値以上群では「大学・短期大学」が49.8%なのに対し、困窮度Ⅰ群では29.7%となっています。

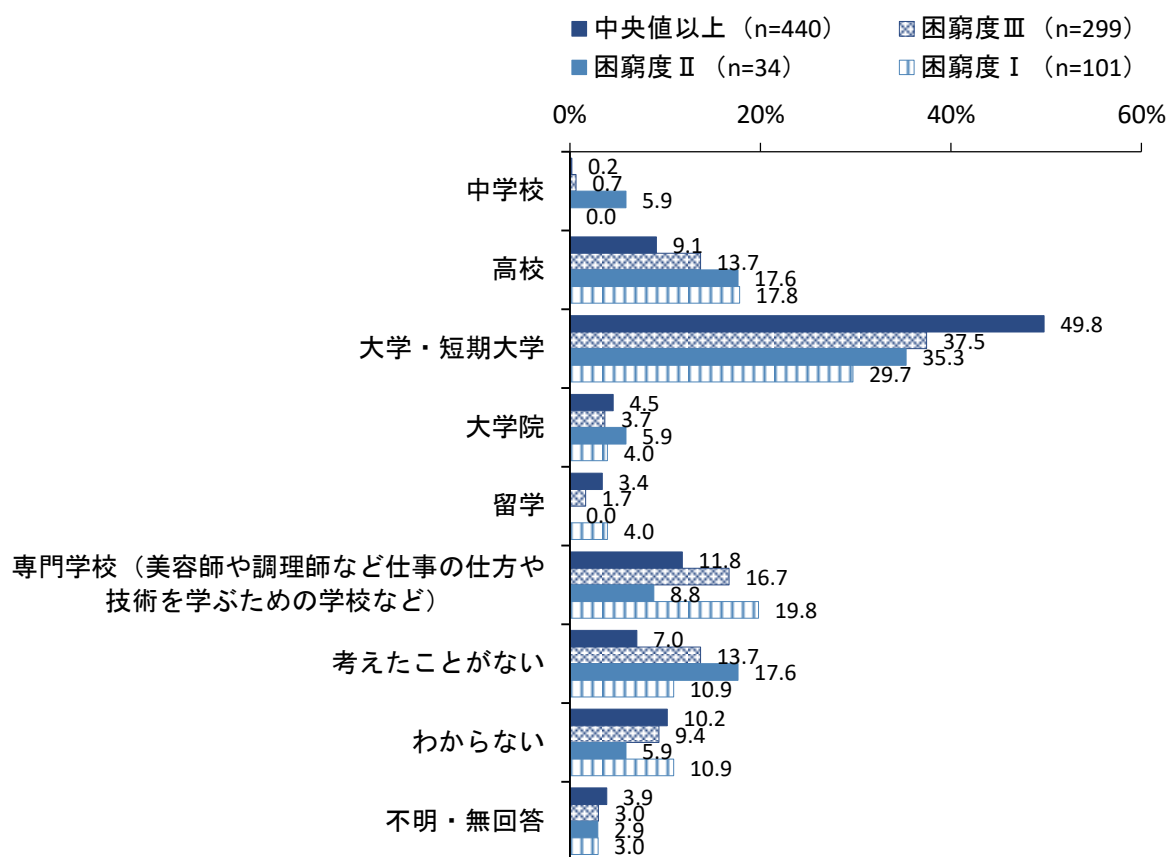


図 212 困窮度別 希望する進学先

⑳ 困窮度別 子どもの進学予測

子どもの進学予測について困窮度別にみると、困窮度が高くなるにつれて「専門学校・高等専門学校」の割合が高くなり、「大学・短期大学」の割合が低くなっており、中央値以上群では「大学・短期大学」が73.2%なのに対し、困窮度Ⅰ群では44.1%となっています。

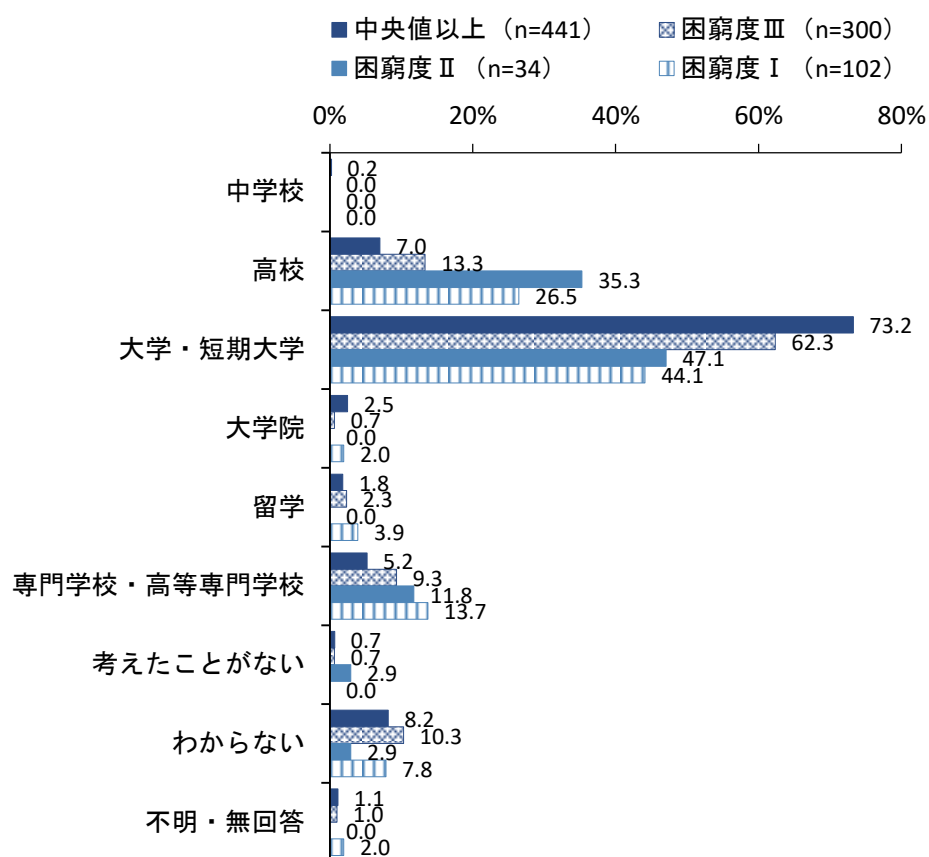


図 213 困窮度別 子どもの進学予測

②① 困窮度別 子どもの進学達成予測

子どもの進学達成予測について困窮度別にみると、「思う」では、困窮度Ⅰ～Ⅲ群に比べて中央値以上群の割合が高くなっています。

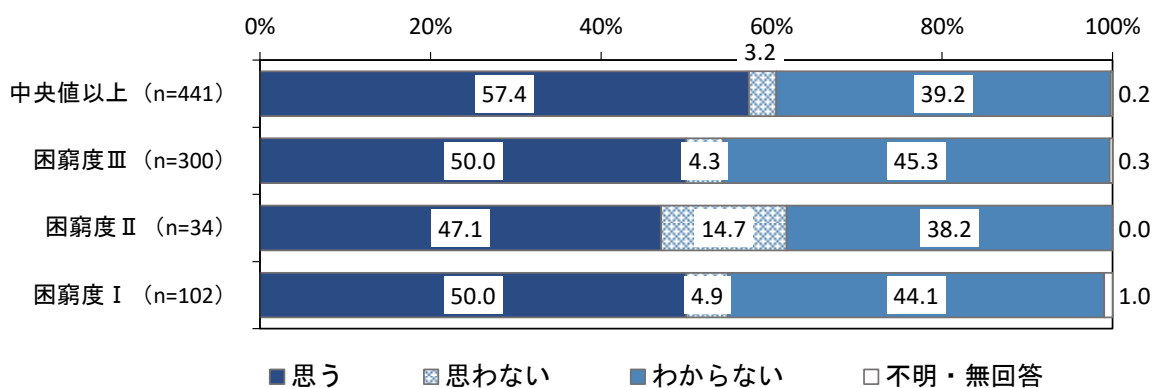


図 214 困窮度別 子どもの進学達成予測

②② 困窮度別 子どもの進学達成「思わない」理由

子どもの進学達成「思わない」理由について困窮度別にみると、「経済的な余裕がないから」では、困窮度Ⅰ群が最も高く 60.0%となっています。

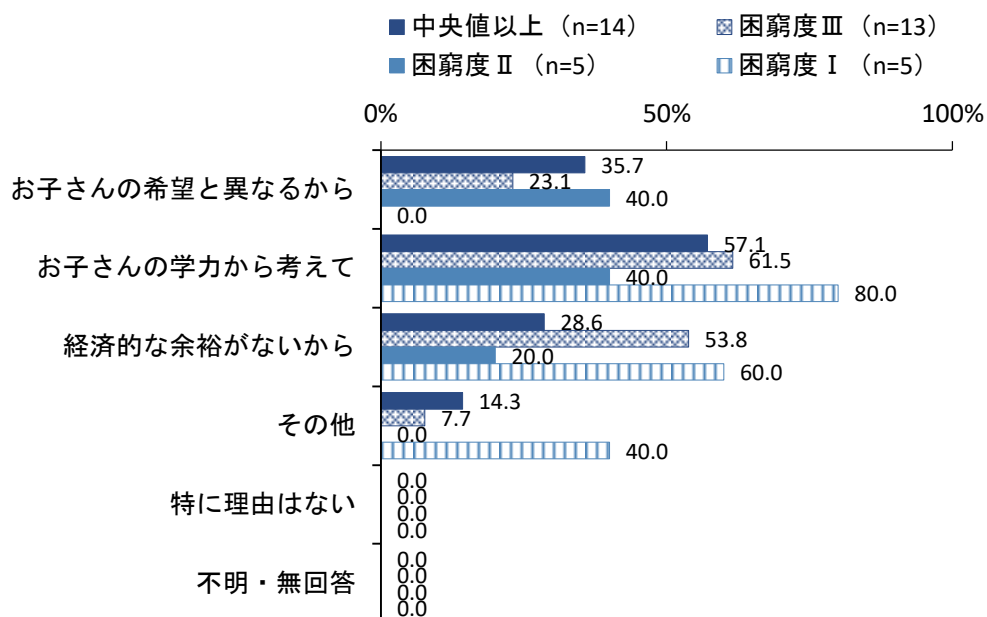


図 215 困窮度別 子どもの進学達成「思わない」理由

②③ 困窮度別 学校への遅刻

学校への遅刻について困窮度別にみると、『週 1 回以上遅刻する』では、困窮度が高くなるにつれて割合が高くなり、困窮度Ⅰ群が最も高く 14.9%となっています。

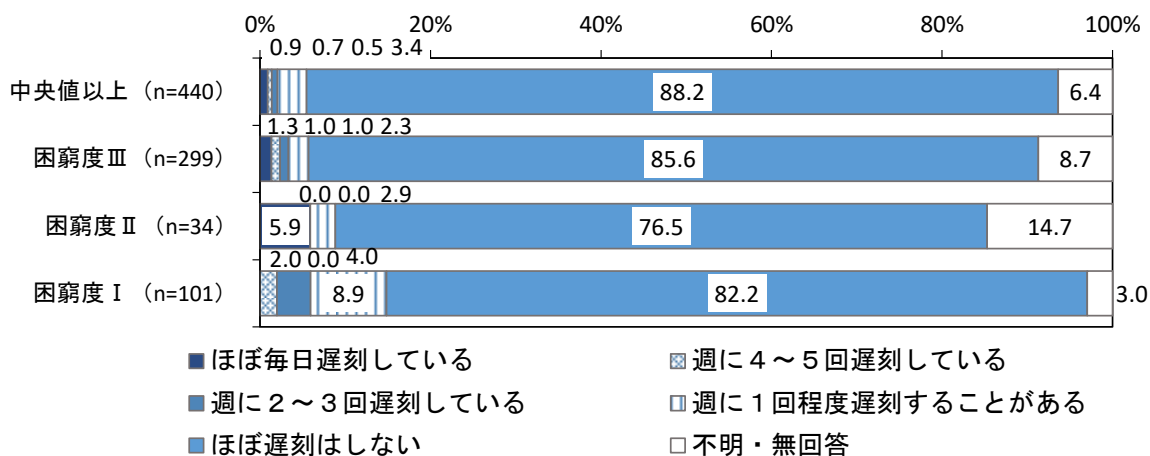


図 216 困窮度別 学校への遅刻

②④ 困窮度別 子どもの通学状況

子どもの通学状況について困窮度別にみると、『年間 30 日未満の欠席』（「ほぼ毎日通っている」と「欠席は年間 30 日未満である」の合計）では、困窮度が高くなるにつれて割合が低くなっており、困窮度Ⅰ群が 92.2%となっています。

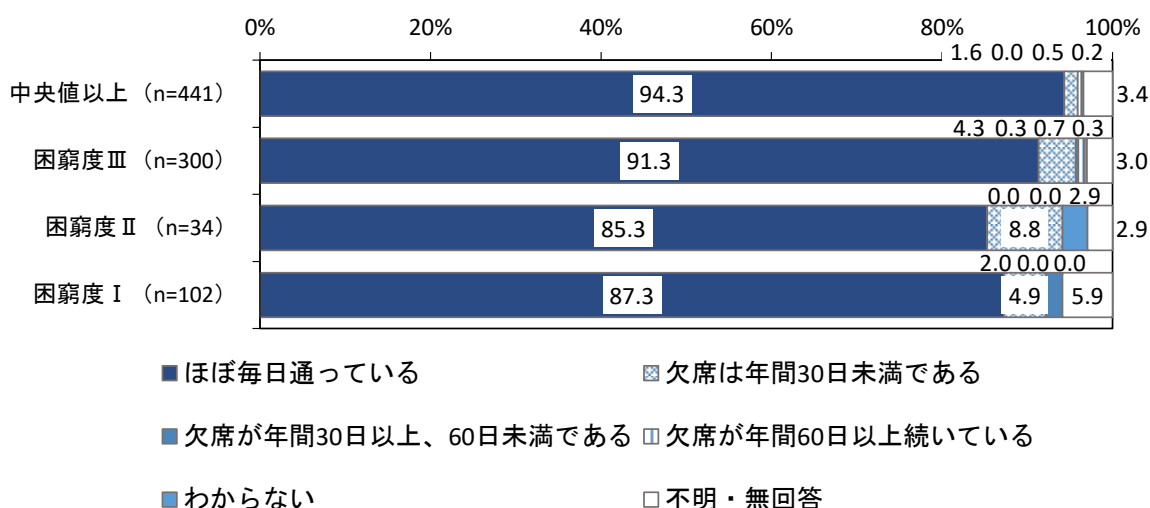


図 217 困窮度別 子どもの通学状況

②⑤ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）について学校への遅刻別にみると、「ほとんど毎日」では、「週1回以上遅刻する」（23.1%）に比べて「遅刻はしない」（45.3%）の割合が高くなっています。

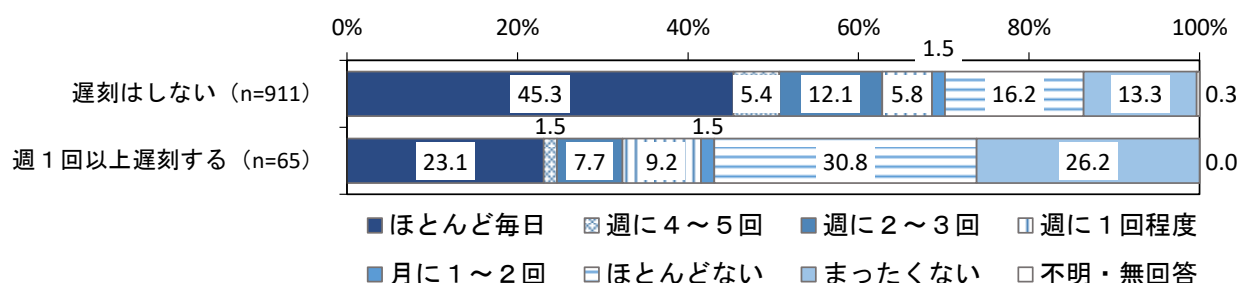


図 218 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

②⑥ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）について学校への遅刻別にみると、「ほとんど毎日」では、「週1回以上遅刻する」（69.2%）に比べて「遅刻はしない」（81.0%）の割合が高くなっています。

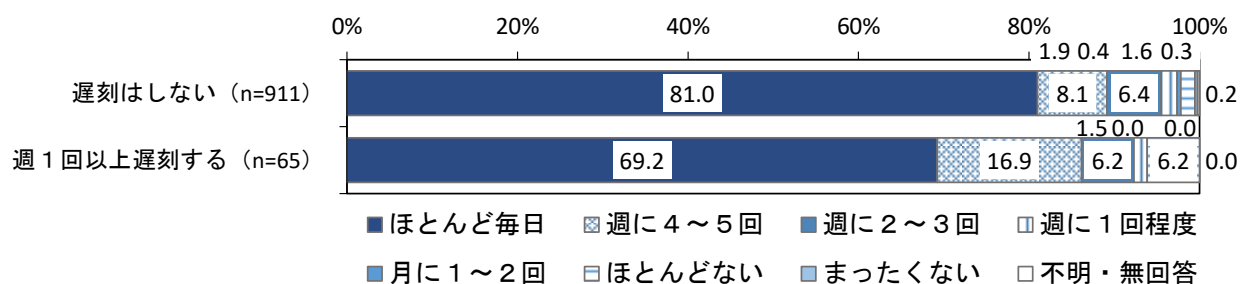


図 219 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

②⑦ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）について学校への遅刻別にみると、『ない』では、「遅刻はしない」（57.7%）に比べて「週1回以上遅刻する」（66.2%）の割合が高くなっています。

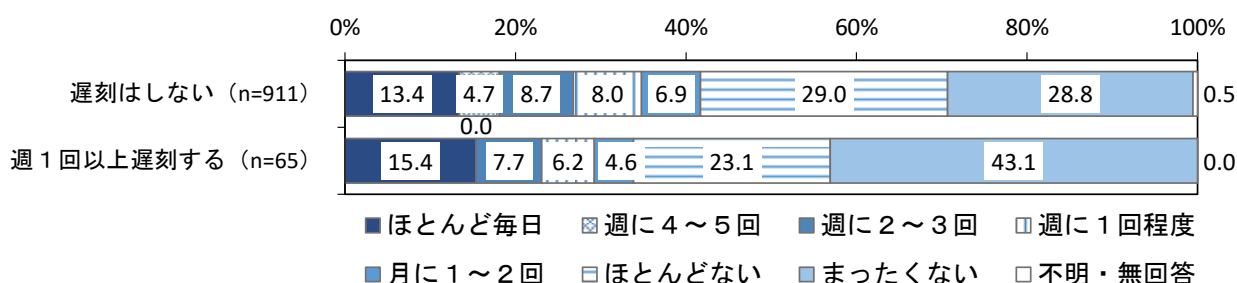


図 220 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

②⑧ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）について学校への遅刻別にみると、「ほとんど毎日」では、「週1回以上遅刻する」（23.1%）に比べて「遅刻はしない」（43.4%）の割合が高くなっています。

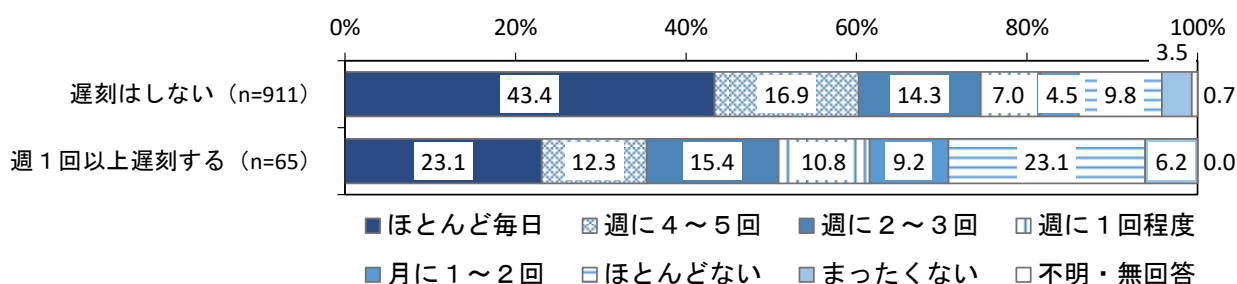


図 221 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）

②⑨ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）について学校への遅刻別にみると、『ない』では、「遅刻はしない」（41.4％）に比べて「週1回以上遅刻する」（55.4％）の割合が高くなっています。

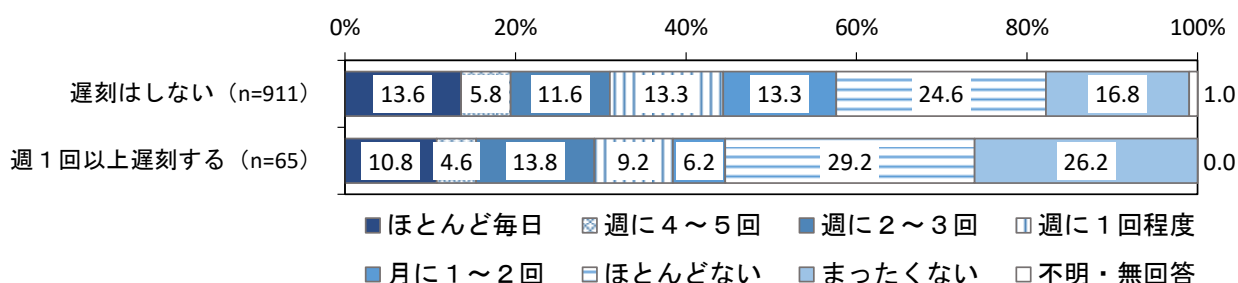


図 222 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

③⑩ 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）について学校への遅刻別にみると、『ない』では、「遅刻はしない」（29.2％）に比べて「週1回以上遅刻する」（50.8％）の割合が高くなっています。

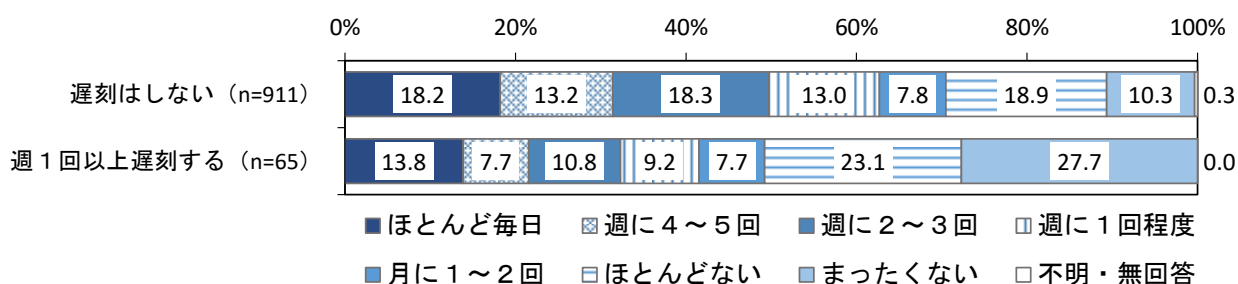


図 223 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

③① 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）について学校への遅刻別にみると、『ない』では、「遅刻はしない」（6.1％）に比べて「週1回以上遅刻する」（13.8％）の割合が高くなっています。

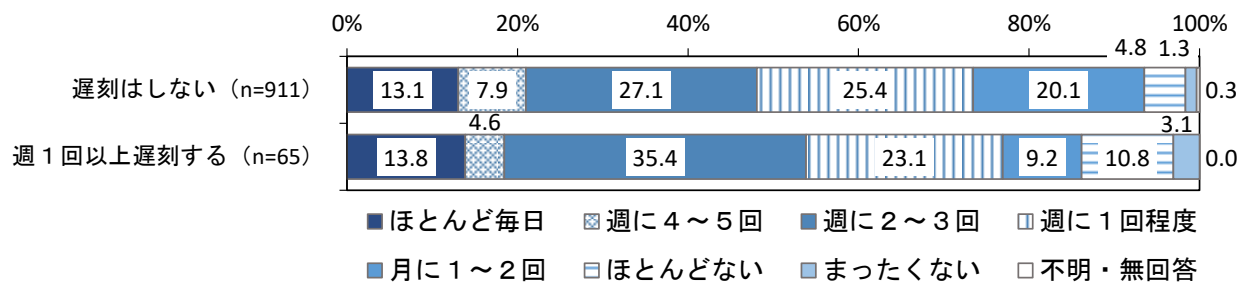


図 224 学校への遅刻別 保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）

③② 学校への遅刻別 悩んでいること

悩んでいることについて学校への遅刻別にみると、「いやなことや悩んでいることはない」では、「週1回以上遅刻する」(24.6%)に比べて「遅刻はしない」(42.7%)の割合が高くなっています。

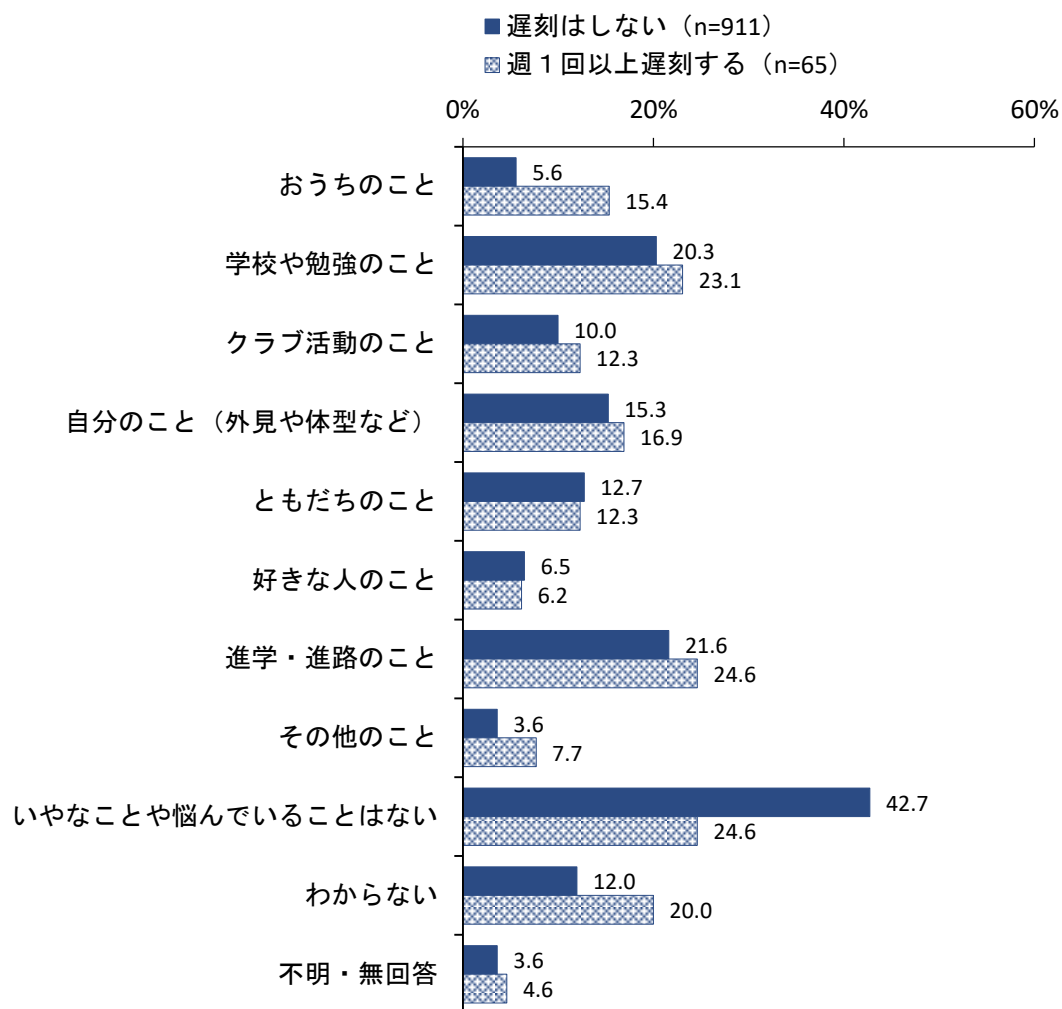


図 225 学校への遅刻別 悩んでいること

③③ 学校への遅刻別 自分の体や気持ちで気になることの該当個数

自分の体や気持ちで気になることの該当個数について学校への遅刻別にみると、「遅刻はしない」(1.6 個) に比べて「週 1 回以上遅刻する」(2.1 個) の該当個数が多くなっています。

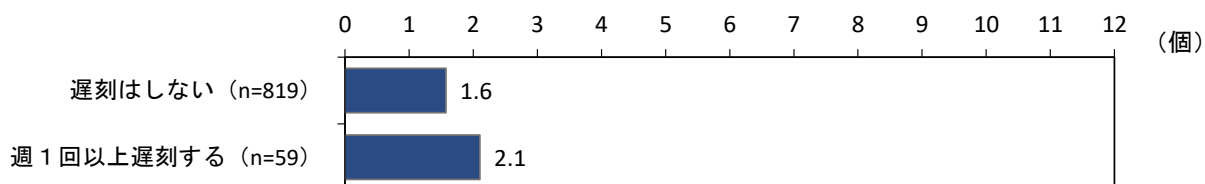


図 226 学校への遅刻別 自分の体や気持ちで気になることの該当個数

③④ 学校への遅刻別 子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）について学校への遅刻別にみると、「週 1 回以上遅刻する」(17.8 点) に比べて「遅刻はしない」(18.7 点) の自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高くなっています。

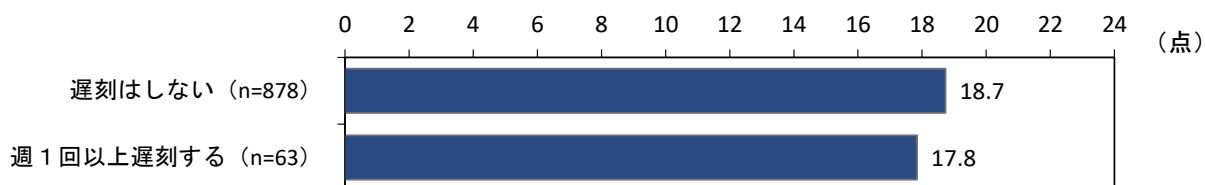


図 227 学校への遅刻別 子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

③⑤ 学校への遅刻別 希望する進学先

希望する進学先について学校への遅刻別にみると、「大学・短期大学」では、「週1回以上遅刻する」(27.7%) に比べて「遅刻はしない」(42.7%) の割合が高くなっています。

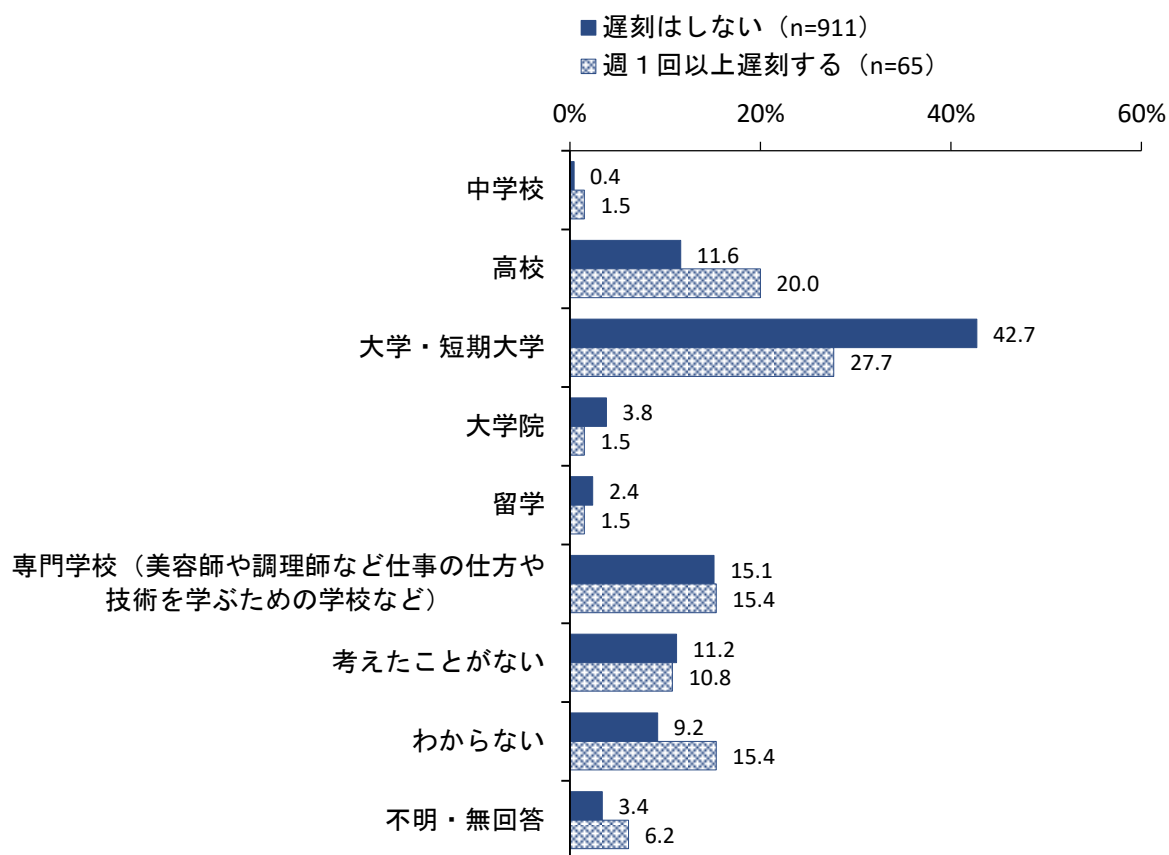


図 228 学校への遅刻別 希望する進学先

③⑥ 学校への遅刻別 学習理解度

学習理解度について学校への遅刻別にみると、「週1回以上遅刻する」(2.9点)に比べて「遅刻はしない」(3.2点)の点数が高くなっています。

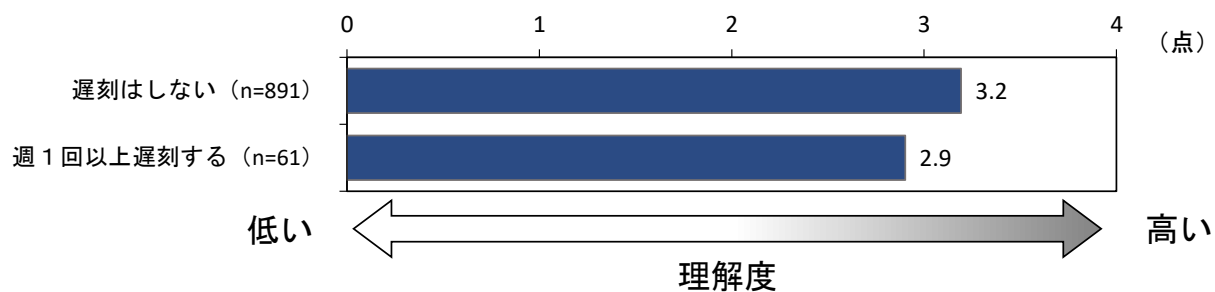


図 229 学校への遅刻別 学習理解度

③⑦ 登校状況別 悩んでいること

子どもの通学状況において、「ほぼ毎日通っている」、「欠席は年間 30 日未満である」を回答した人を『不登校ではない（年間 30 日未満の欠席）』、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」、「欠席が 60 日以上続いている」を回答した人を『不登校（年間 30 日以上の欠席）』としています。

悩んでいることについて登校状況別にみると、「いやなことや悩んでいることはない」では、「不登校（年間 30 日以上の欠席）」（12.5%）に比べて「不登校ではない（年間 30 日未満の欠席）」（41.4%）の割合が高くなっています。

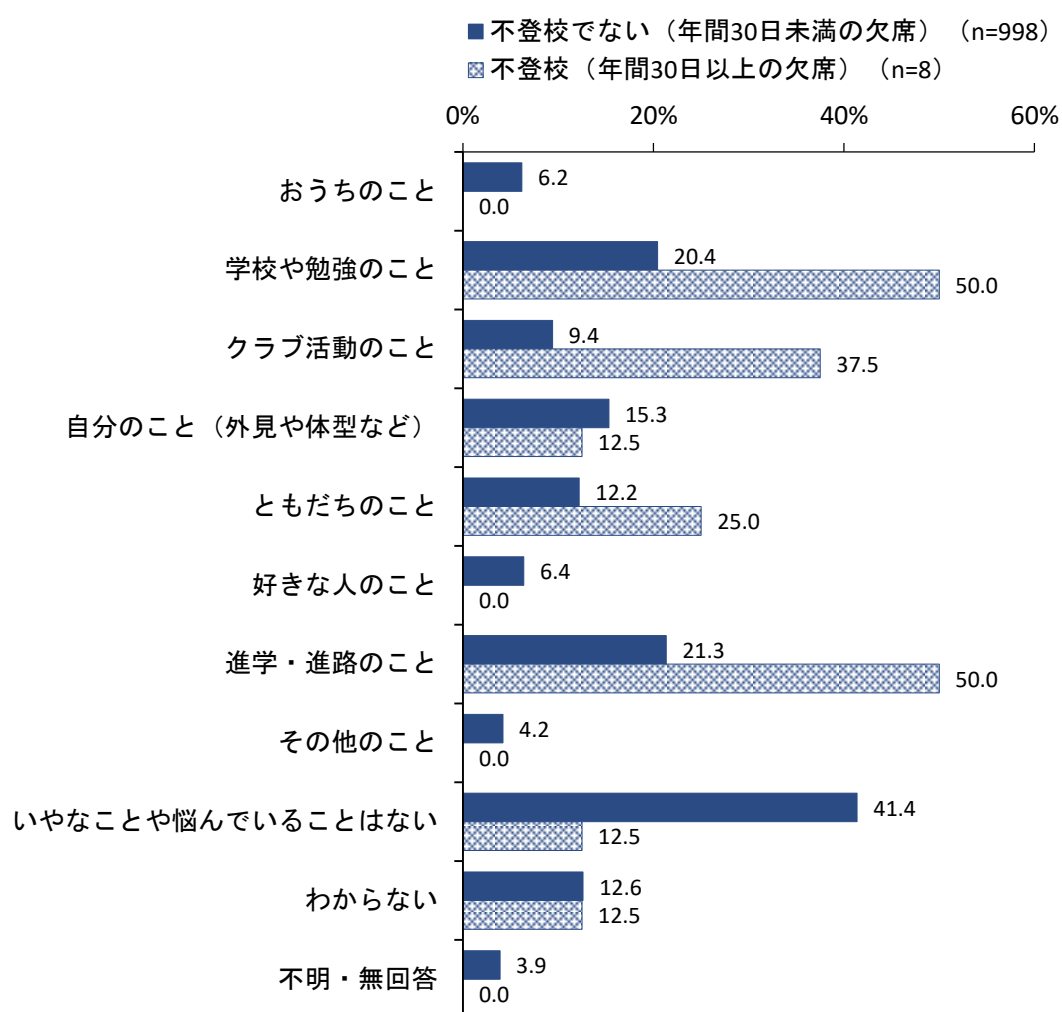


図 230 登校状況別 悩んでいること

③⑧ 登校状況別 「悩んだときの対処を教えてください人」がいない割合

「悩んだときの対処を教えてください人」がいない割合について登校状況別にみると、「不登校でない（年間30日未満の欠席）」（2.4％）に比べて「不登校（年間30日以上欠席）」（12.5％）の割合が高くなっています。

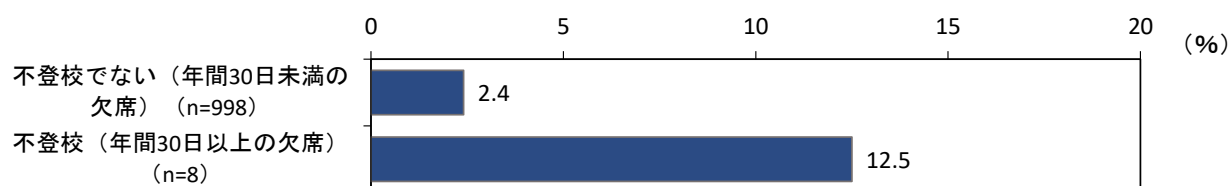


図 231 登校状況別 「悩んだときの対処を教えてください人」がいない割合

③⑨ 登校状況別 自分の体や気持ちで気になることの該当個数

自分の体や気持ちで気になることの該当個数について登校状況別にみると、「不登校でない（年間30日未満の欠席）」（1.6 個）に比べて「不登校（年間30日以上欠席）」（3.3 個）の該当個数が多くなっています。

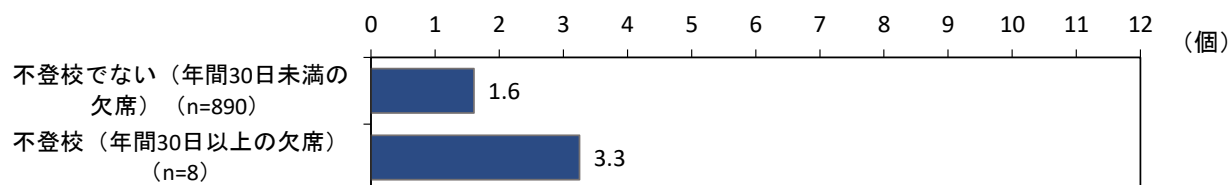


図 232 登校状況別 自分の体や気持ちで気になることの該当個数

④⑩ 登校状況別 子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）について登校状況別にみると、「不登校（年間 30 日以上の欠席）」（17.0 点）に比べて「不登校でない（年間 30 日未満の欠席）」（18.6 点）の自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高くなっています。

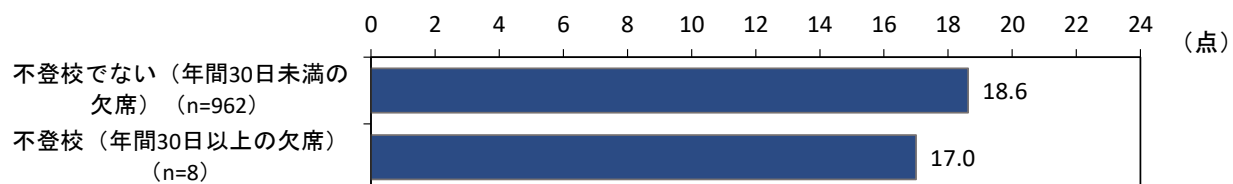


図 233 登校状況別 子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

④ 登校状況別 希望する進学先

希望する進学先について登校状況別にみると、「大学・短期大学」では、「不登校（年間30日以上欠席）」(25.0%)に比べて「不登校ではない（年間30日未満の欠席）」(41.1%)の割合が高くなっています。

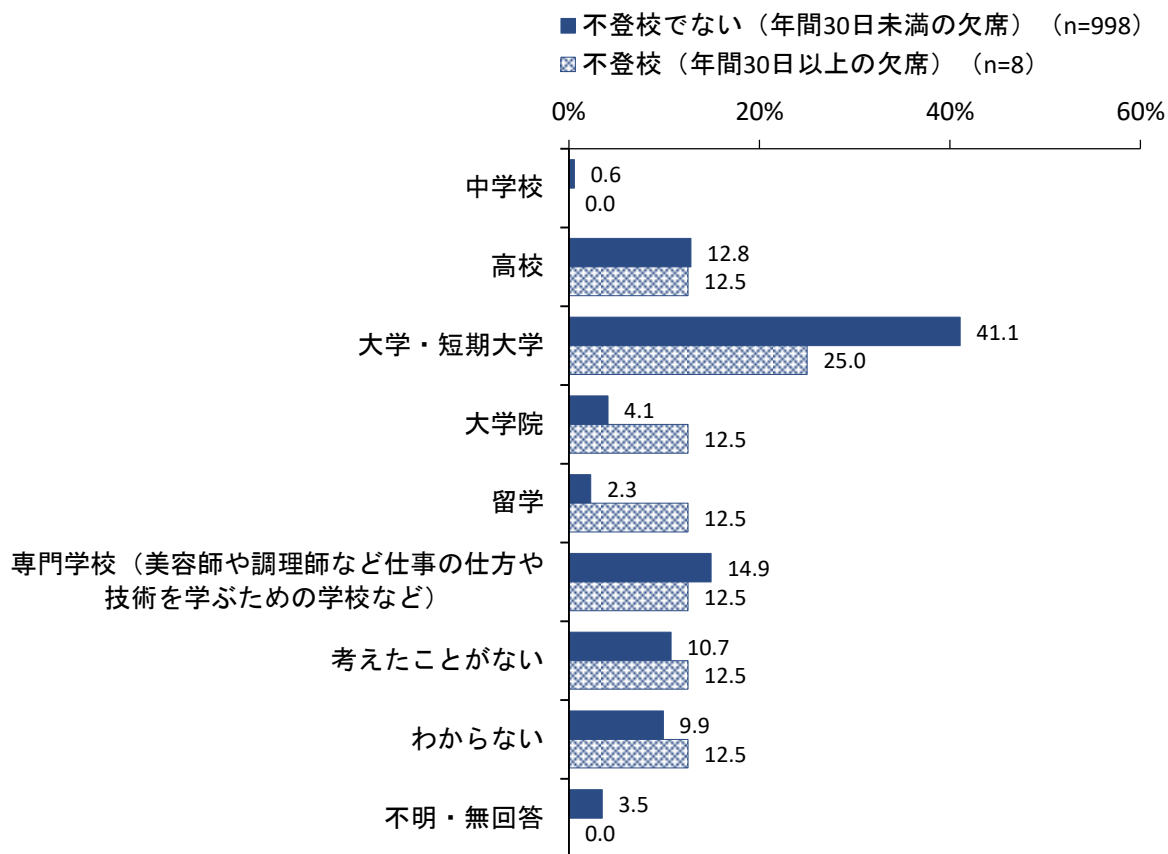


図 234 登校状況別 希望する進学先

④2 困窮度別 保護者の在宅時間

保護者の在宅時間について困窮度別にみると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」では、困窮度Ⅰ群が最も低く 45.1%となっています。

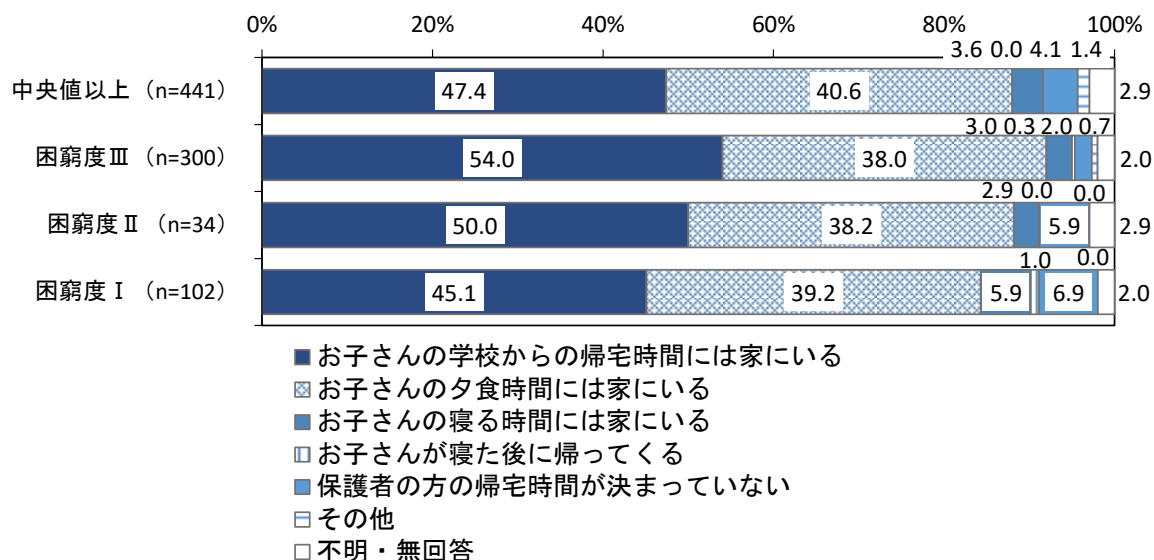


図 235 困窮度別 保護者の在宅時間

④3 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）について困窮度別にみると、「とても信頼している」では、中央値以上群（56.0%）に比べて困窮度Ⅰ～Ⅲ群の割合が低くなっています。

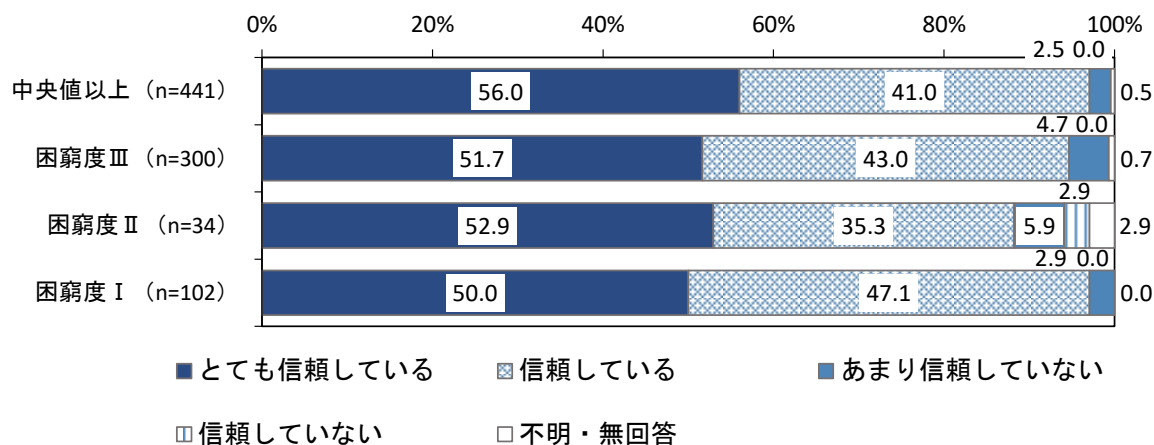


図 236 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

④ 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

保護者と子どもの関わり（子どもと会話）について困窮度別にみると、「よくする」では、困窮度Ⅰの割合が最も低く 59.8%となっています。

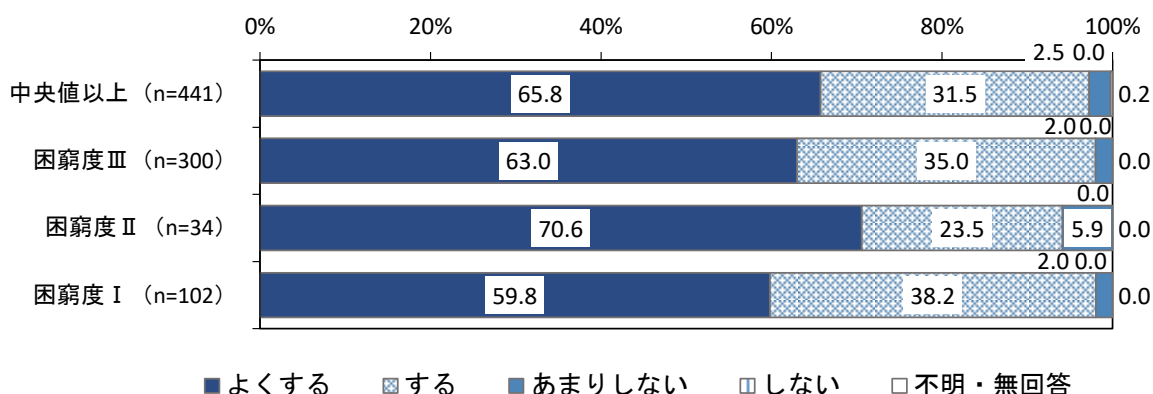


図 237 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

⑤ 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））について困窮度別にみると、『2時間以上』では、困窮度Ⅲ群が最も高く 45.7%となっています。

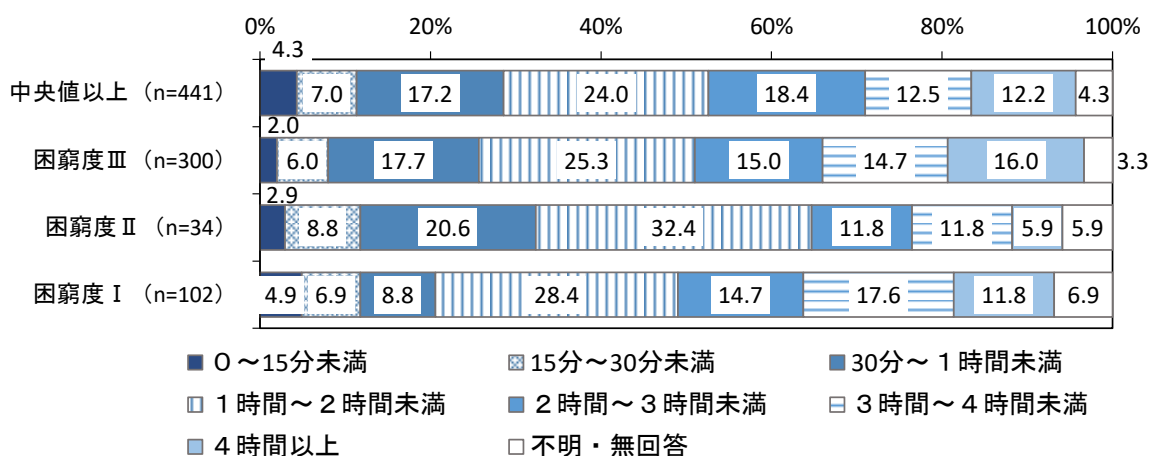


図 238 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

④⑥ 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））

保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））について困窮度別にみると、「2 時間未満」では、中央値以上群が最も高く 15.9%となっています。

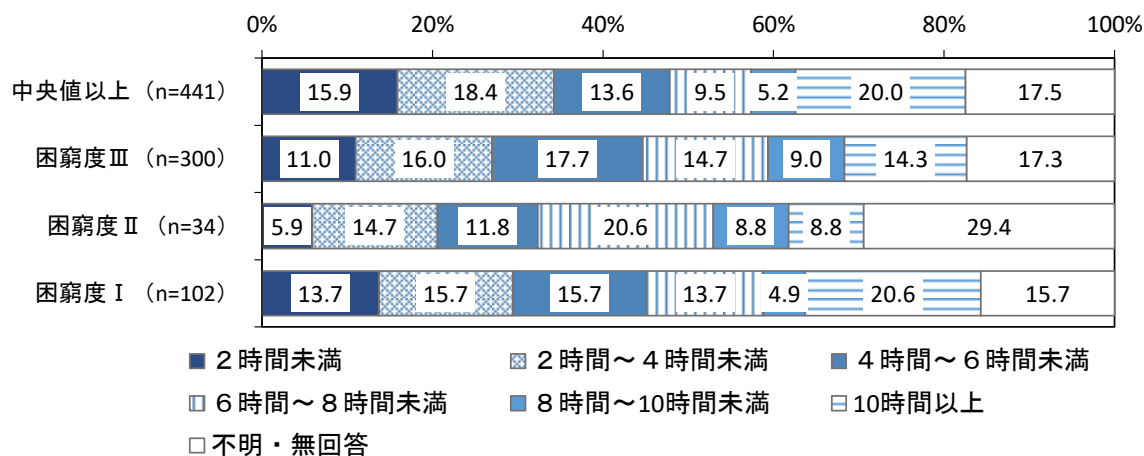


図 239 困窮度別 保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））

5 対人関係

① 困窮度別 放課後に過ごす場所

放課後に過ごす場所について困窮度にみると、中央値以上群に比べて困窮度Ⅰ～Ⅲ群の割合が高いものについては、「公園・広場」、「地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところ）」となっています。

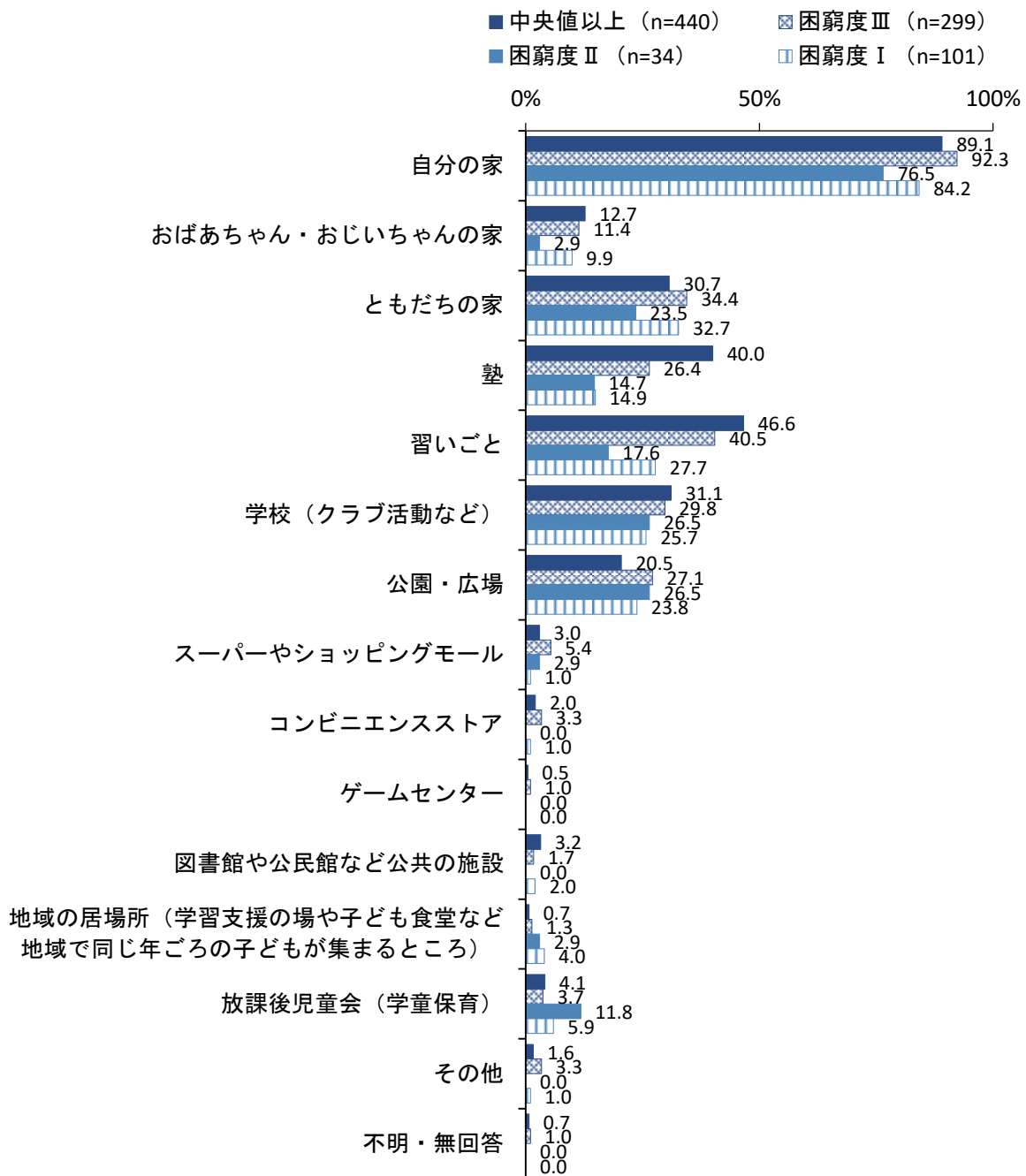


図 240 困窮度別 放課後に過ごす場所

② 困窮度別 放課後一緒に過ごす人

放課後一緒に過ごす人について困窮度別にみると、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」の大人については、いずれも困窮度Ⅱ群の割合が最も低くなっています。

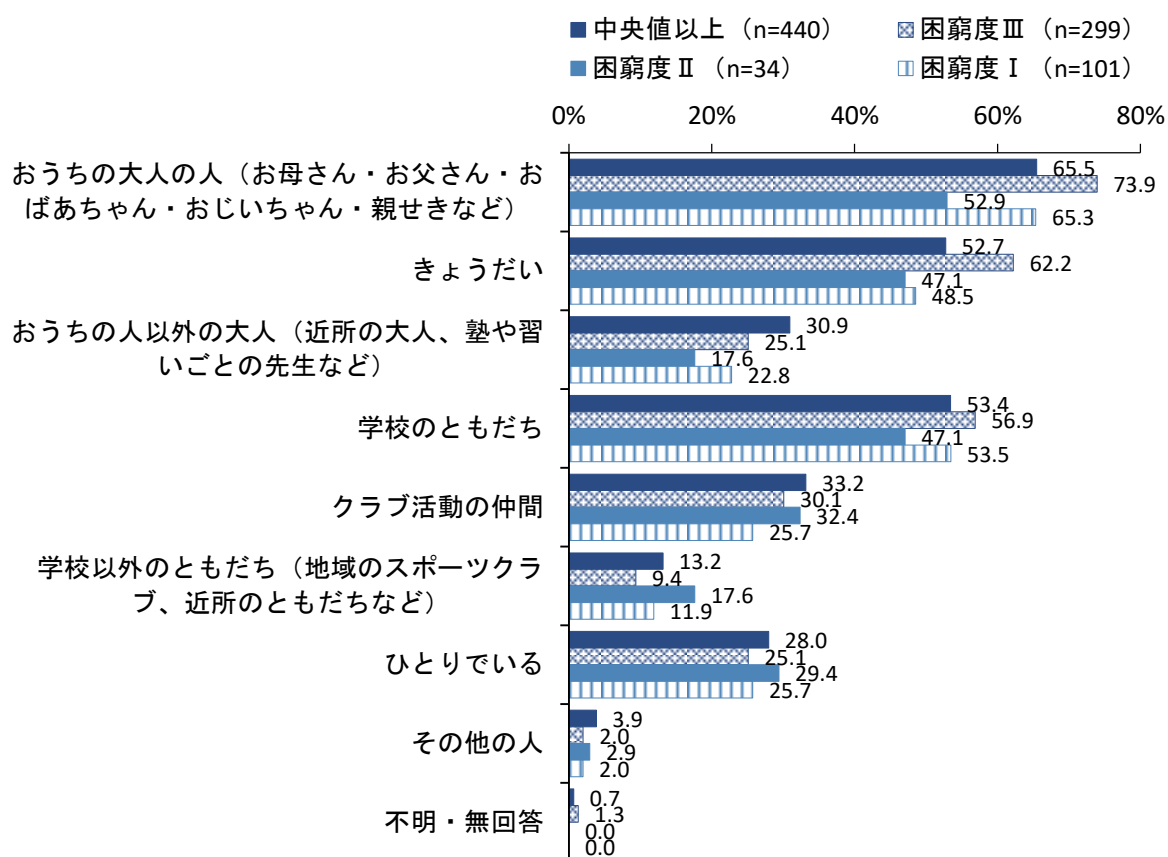


図 241 困窮度別 放課後一緒に過ごす人

③ 困窮度別 子どもと過ごす時間が長い人

子どもと過ごす時間が長い人について困窮度別にみると、「お母さん」では、困窮度Ⅰ群が最も割合が低く 69.6%で、「お子さんがひとりである」では、困窮度Ⅰ群が最も割合が高く 4.9%となっています。

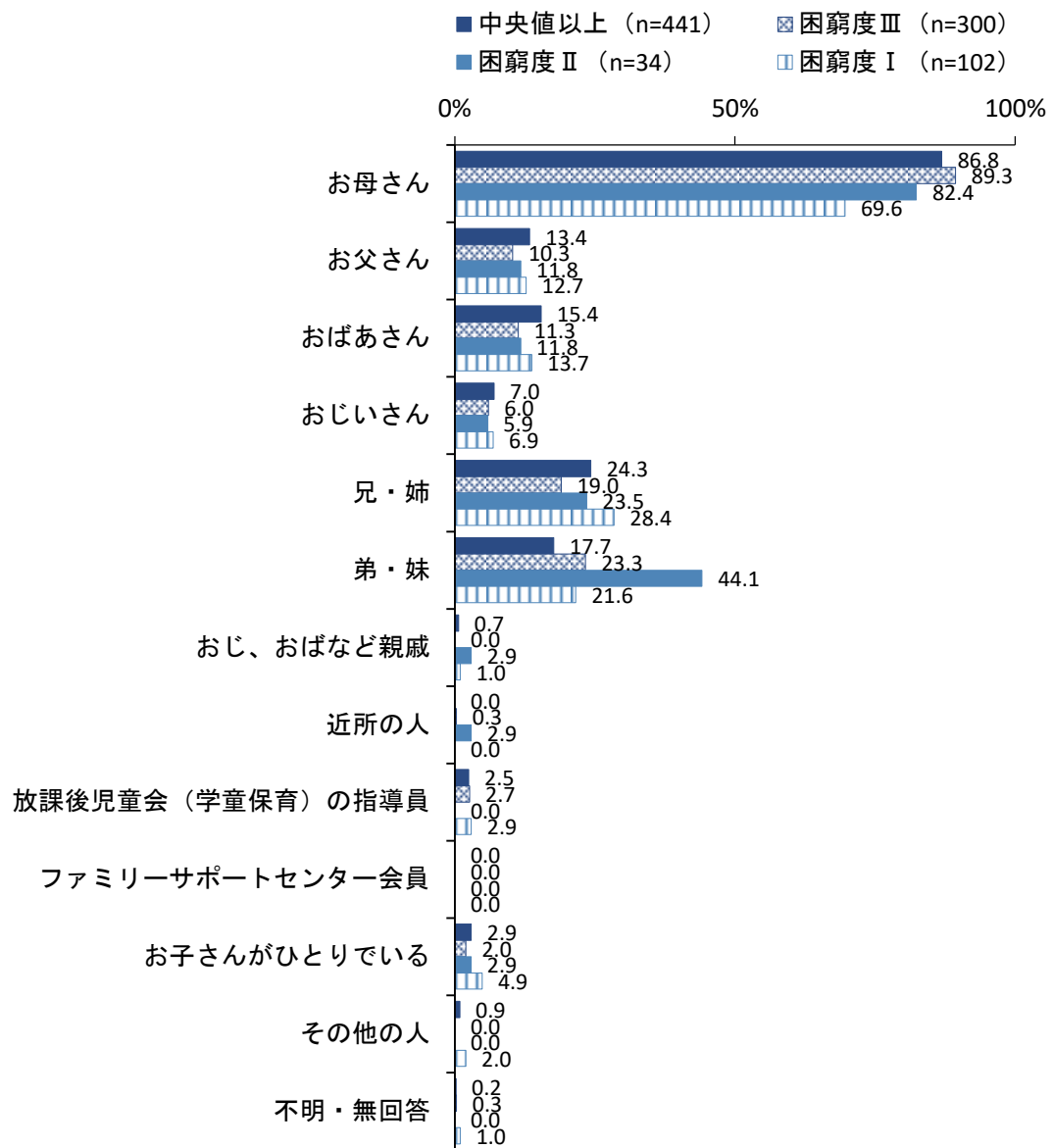


図 242 困窮度別 子どもと過ごす時間が長い人

④ 困窮度別 悩んでいること

悩んでいることについて困窮度別にみると、「いやなことや悩んでいることはない」では、困窮度Ⅰ～Ⅲ群に比べて中央値以上群の割合が高くなっています。

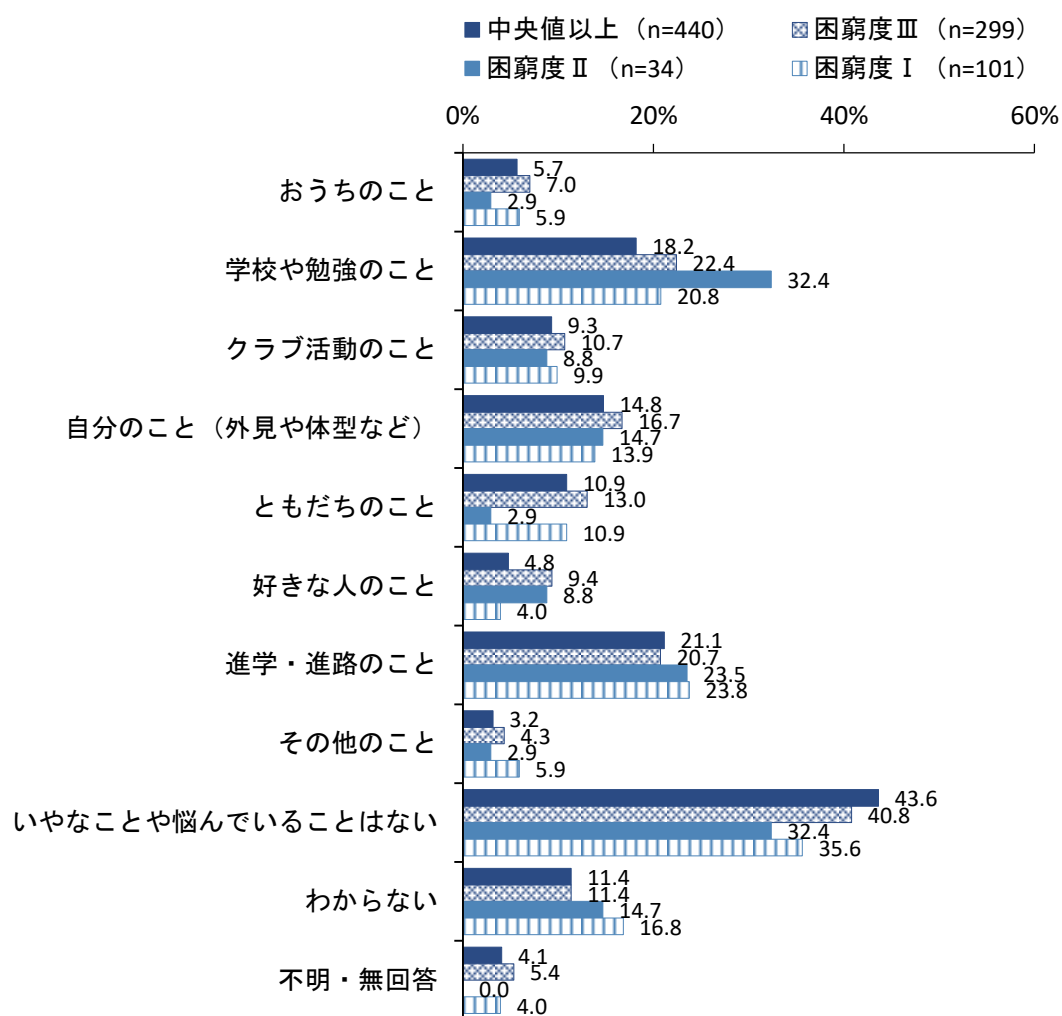


図 243 困窮度別 悩んでいること

⑤ 困窮度別 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

嫌なことや悩んでいるときの相談相手について困窮度別にみると、「だれにも相談したくない」では、困窮度Ⅱ群の割合が最も高く 32.4%で、他の群と比べて著しく高くなっています。

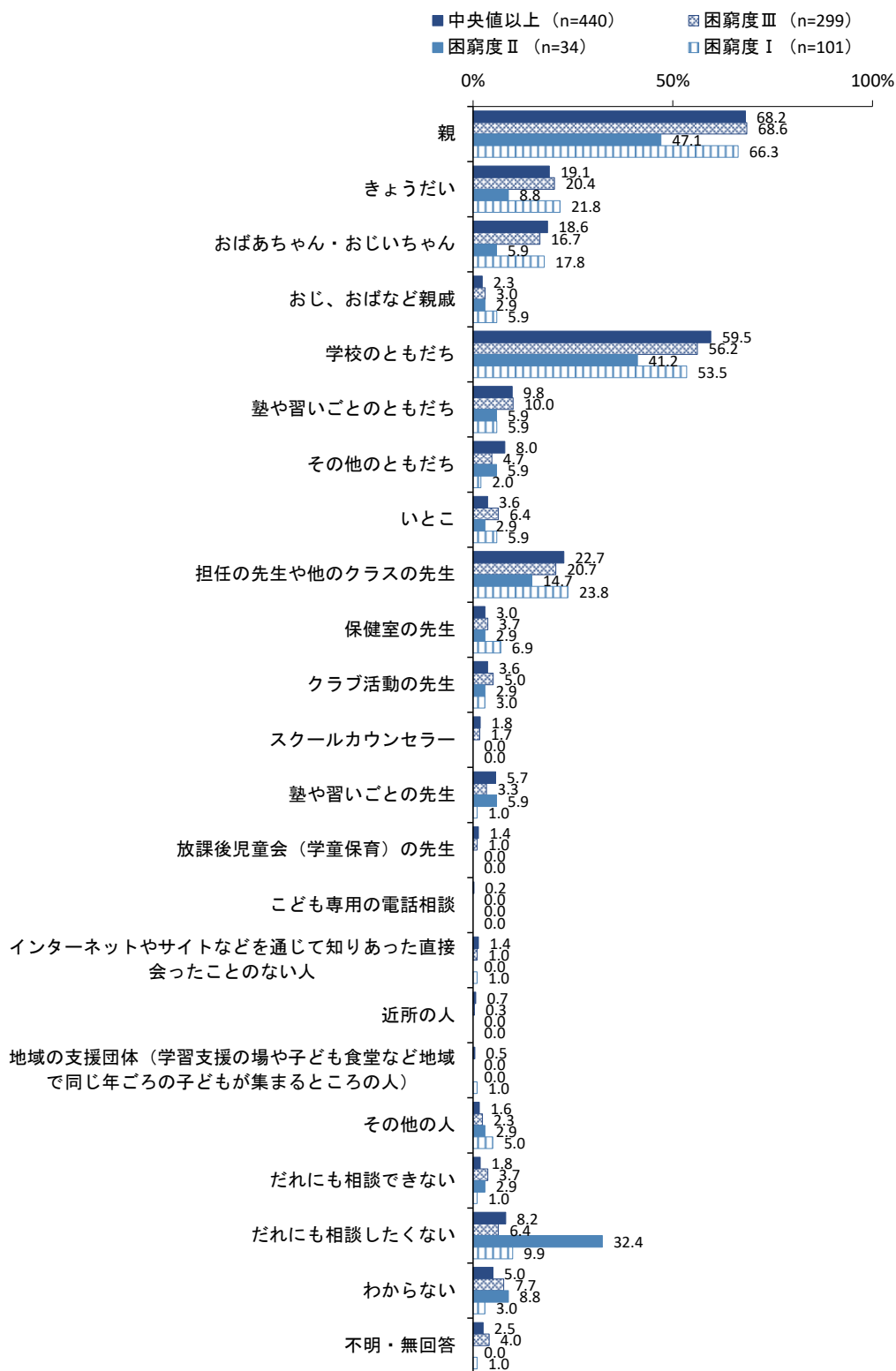


図 244 困窮度別 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

⑥ 困窮度別 困ったときの相談先

困ったときの相談先について困窮度別にみると、「配偶者・パートナー」では、困窮度が高くなるにつれて割合が低くなっており、「相談できる相手がいない」では、困窮度Ⅰ群の割合が最も高く 3.9%となっています。

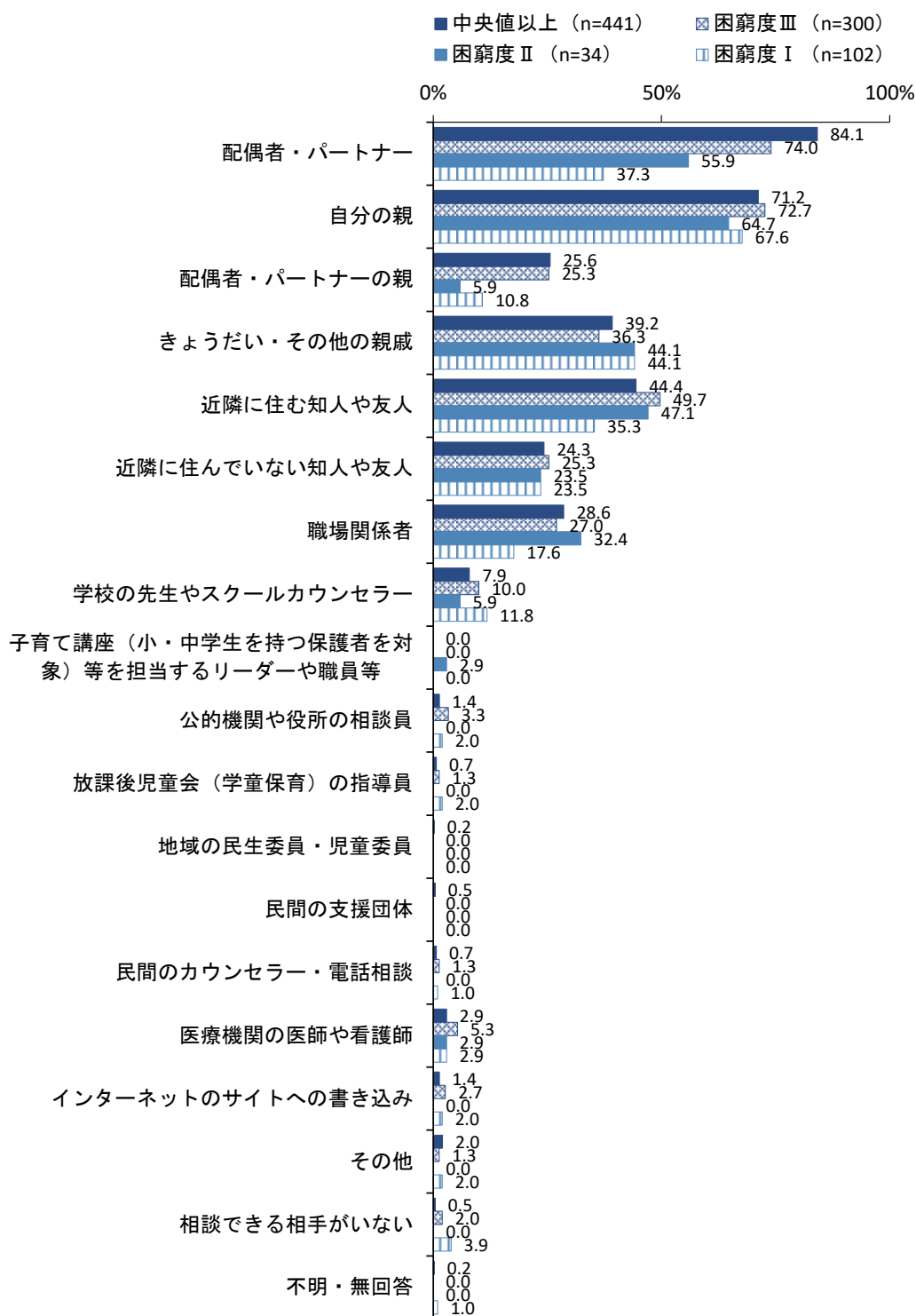


図 245 困窮度別 困ったときの相談先

⑦ 世帯構成別 保護者の困ったときの相談相手のいない割合

保護者の困ったときの相談相手のいない割合について世帯構成別にみると、父子世帯が16.7%、母子世帯が2.9%となっています。

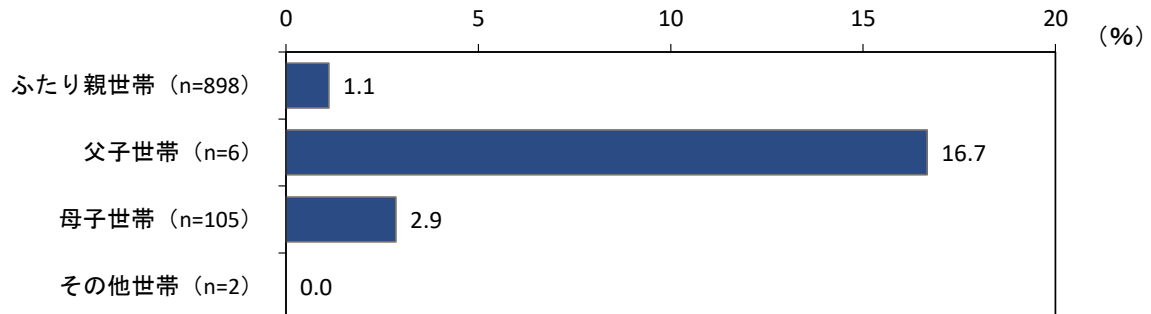


図 246 世帯構成別 保護者の困ったときの相談相手のいない割合

⑧ 困窮度別 子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）について困窮度別にみると、中央値以上群に比べて困窮度Ⅰ～Ⅲ群の自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低くなっています。

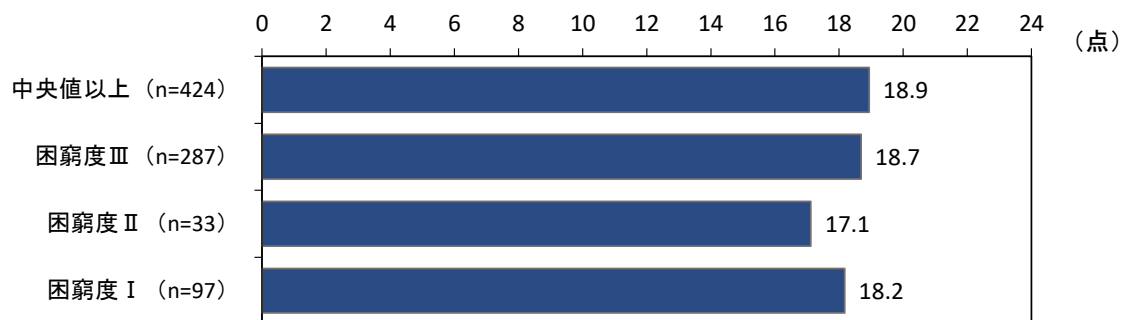


図 247 困窮度別 子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

⑨ 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうか別 子どもの自己効力感
(セルフ・エフィカシー)

放課後一緒に過ごす人において、「ひとりでいる」を回答した人を『ひとりでいる』、回答していない人を『ひとりでいることはない』としています。

子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)について子どもが放課後ひとりで過ごすかどうか別にみると、「ひとりでいる」に比べて「ひとりでいることはない」の自己効力感(セルフ・エフィカシー)が高くなっています。

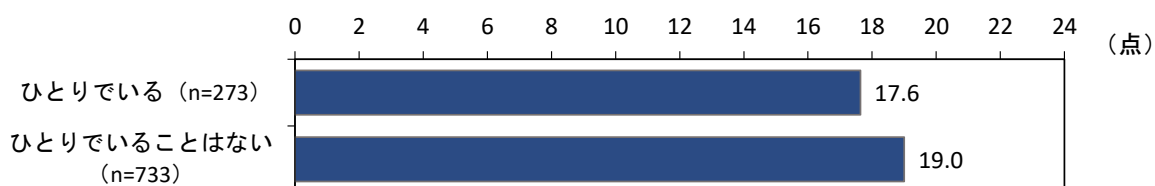


図 248 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうか別 子どもの自己効力感
(セルフ・エフィカシー)

⑩ 困窮度別 保護者の自己効力感 (セルフ・エフィカシー)

保護者の自己効力感(セルフ・エフィカシー)について困窮度別にみると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群に比べて中央値以上群の自己効力感(セルフ・エフィカシー)が高くなっています。

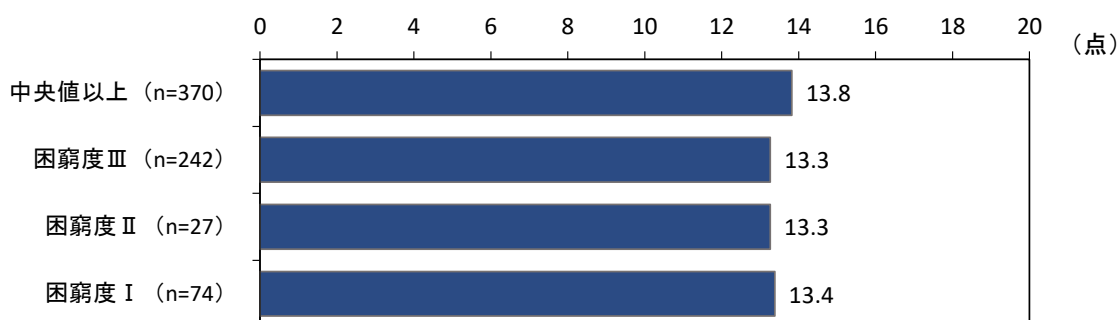


図 249 困窮度別 保護者の自己効力感 (セルフ・エフィカシー)

⑪ 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）

困ったときの相談先において、「学校の先生やスクールカウンセラー」、「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」、「公的機関や役所の相談員」、「放課後児童会（学童保育）の指導員」、「地域の民生委員・児童委員」、「民間の支援団体」、「民間のカウンセラー・電話相談」、「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」としています。

保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）について地域社会に相談相手がいるか別にみると、『週に4回以上』では、「地域社会に相談相手がない」（39.1%）に比べて「地域社会に相談相手がいる」（42.0%）の割合が高くなっています。

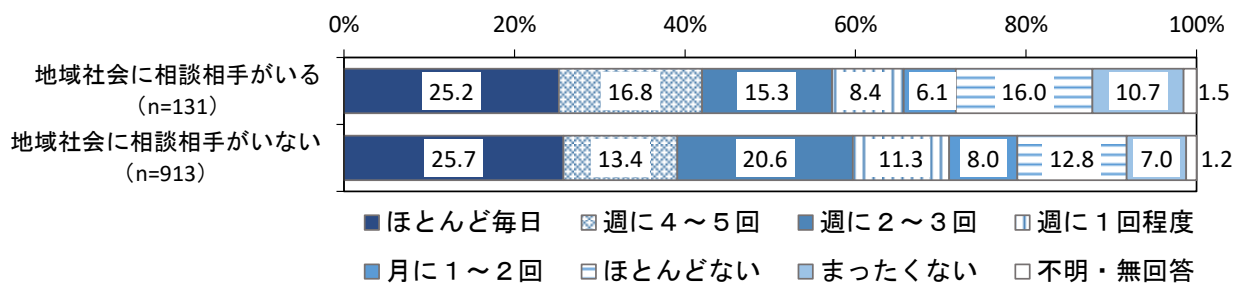


図 250 地域社会に相談相手がいるか別 保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）

⑫ 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）について地域社会に相談相手がいるかどうか別にみると、『ない』では、「地域社会に相談相手がいる」（55.0％）に比べて「地域社会に相談相手がない」（58.6％）の割合が高くなっています。

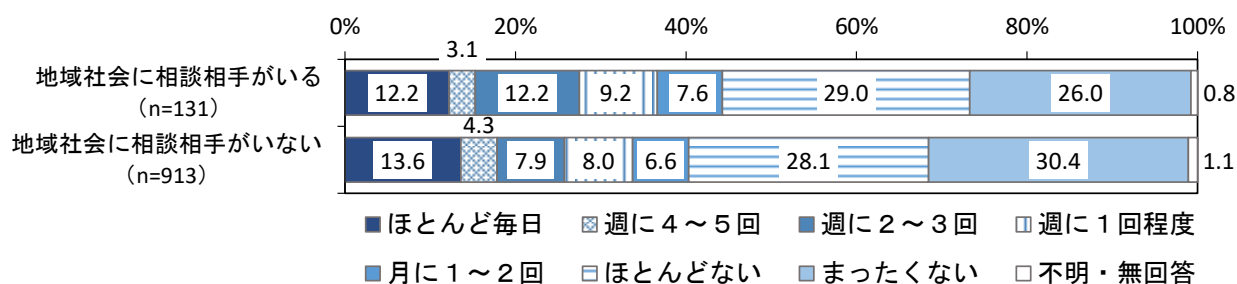


図 251 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

⑬ 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）について地域社会に相談相手がいるかどうか別にみると、「ほとんど毎日」では、「地域社会に相談相手がない」（40.3%）に比べて「地域社会に相談相手がいる」（48.1%）の割合が高くなっています。

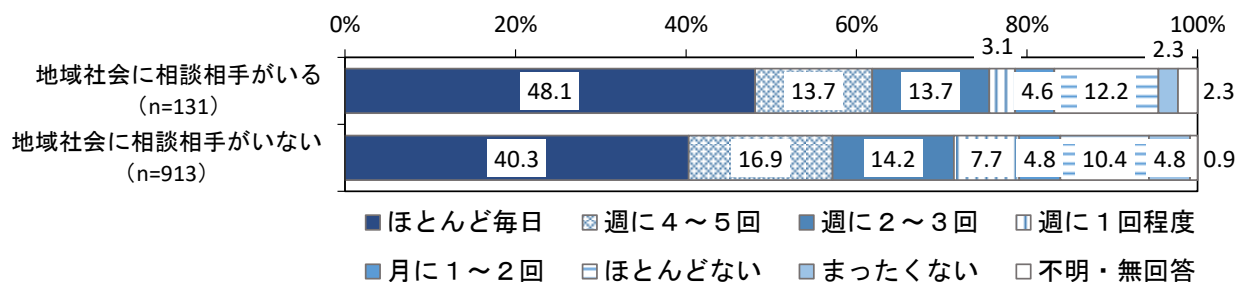


図 252 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

⑭ 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）について地域社会に相談相手がいるかどうか別にみると、地域社会に相談相手がいるかどうか別で大きな差はみられませんでした。

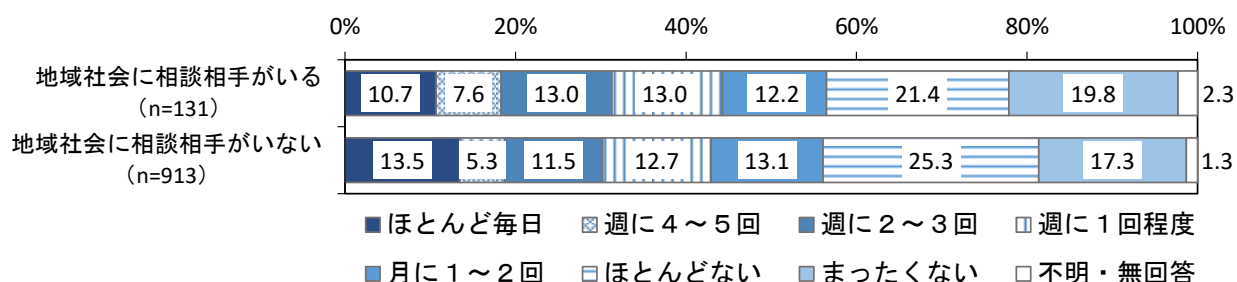


図 253 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

⑮ 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）について地域社会に相談相手がいるかどうか別にみると、「ほとんど毎日」では、「地域社会に相談相手がない」（16.6%）に比べて「地域社会に相談相手がいる」（27.5%）の割合が高くなっています。

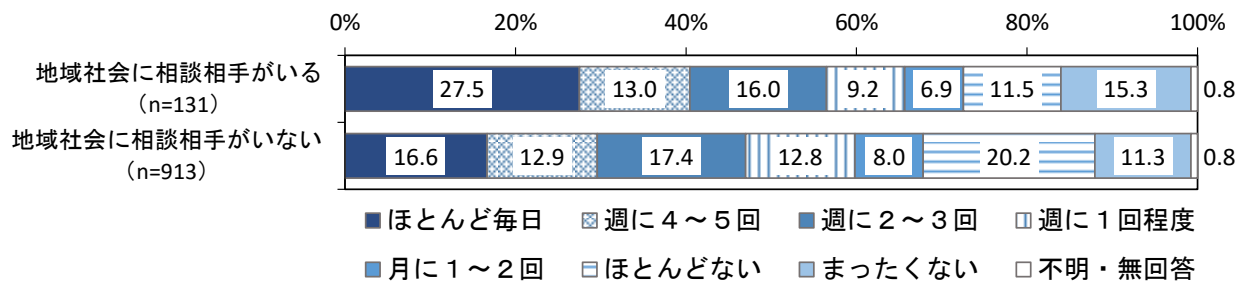


図 254 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

⑯ 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と一緒に外出するか)

保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）について地域社会に相談相手がいるかどうか別にみると、地域社会に相談相手がいるかどうか別で大きな差はみられませんでした。

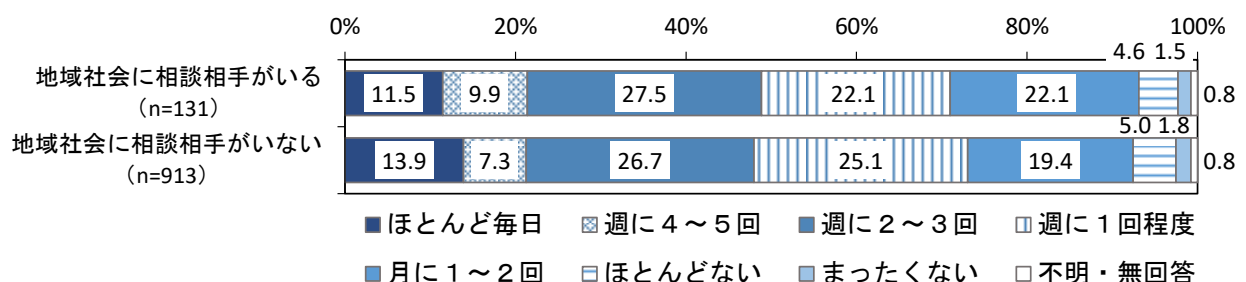


図 255 地域社会に相談相手がいるかどうか別 保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と一緒に外出するか)

IV 課題まとめ

1 経済状況について

- 家計状況について、赤字の世帯は 20.5%で、小学5年生の世帯が 18.2%なのに対し、中学2年生の世帯が 23.0%と、中学2年生の世帯の割合が高くなっていました（図 21）。
また、赤字の場合の対処として、65.9%の世帯が貯金を取り崩し、13.8%の世帯が金融機関等に借入となっていました（図 22）。
- 家計状況について世帯構成別にみると、赤字である世帯は、ふたり親世帯が 18.7%なのに対し、父子世帯は 50.0%、母子世帯は 35.2%となっていました（図 134）。
- 就学援助費について、困窮度Ⅰの世帯で受けたことがない世帯が 27.5%となっていました（図 143）。
- ひとり親世帯のうち、困窮度Ⅰの世帯で児童扶養手当を受けたことがない世帯が 6.1%、養育費を受けている世帯が 22.4%となっていました（図 145、149）。
- 経済的な理由による経験について、中央値以上群では「どれにもあてはまらない」が 41.0%なのに対し、困窮度が高くなるにつれて割合が低くなり、困窮度Ⅰ群では 12.7%となっていました（図 127）。
- 困窮度Ⅰの世帯の 50.5%が母子世帯となっていました（図 133）。
- 困窮度Ⅰの世帯における正規雇用の割合は 42.0%となっていました（図 160）。
- 初めて親となった年齢について、困窮度が高まるにつれ、「10代」、「20～23歳」の割合が高くなり、困窮度Ⅰ群では 31.4%で、母親が回答者の場合に限定すると、32.3%となっていました（図 150、151）。
- 母子世帯の就労状況については、37.9%が非正規群、7.8%が無業となっていました（図 165）。
- 家計状況について住居別にみると、赤字である世帯は、「府営・市営の住宅」が 57.1%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が 47.4%、「民間の賃貸住宅」が 40.2%で、子どものための貯蓄ができていない世帯は、「府営・市営の住宅」が 60.7%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が 52.6%、「民間の賃貸住宅」が 48.3%となっていました（図 158、159）。

2 学びを支える環境について

- 学習理解度について、困窮度が高くなるにつれて「ほとんどわからない」の割合が高くなっていました（図 196）。
- 授業以外の勉強時間について、「まったくしない」では、中央値以上群に比べて困窮度Ⅰ～Ⅲ群の割合が高くなっていました（図 194）。
- 進学希望について、困窮度が高くなるにつれて「高校」の割合が高くなり、「大学・短期大学」の割合が低くなっていました（図 212）。
- 子どもの進学予測について、困窮度が高くなるにつれて「大学・短期大学」の割合が低くなっていました（図 213）。
- 放課後に過ごす場所について、「塾」、「習い事」では、中央値以上群に比べて困窮度Ⅰ～Ⅲ群の割合が低くなっていました（図 240）。

3 子どもの現状について

- 放課後ひとりでいる子どもは 26.6%（小学 5 年生 19.6%、中学 2 年生 33.8%）となっていました（図 77）。
- 何らかの悩みを持っている子どもは 55.0%となっていました（図 117）。
- 嫌なことや悩んでいるときの相談相手について「誰にも相談したくない」は 8.6%となっていました（図 118）。
- 朝食の頻度について、困窮度が高くなるにつれて「ほぼ毎日食べている」の割合が低くなっていました（図 168）。
- 子どもの自分の体や気持ちで気になることについて「とくに気になるところはない」では、困窮度Ⅰ群の割合が最も低く 26.7%となっていました（図 177）。
- 子どもと過ごす時間が長い人について「お子さんがひとりでいる」では、困窮度Ⅰ群が最も割合が高く 4.9%となっていました（図 242）。

4 保護者の現状について

- 子どもを信頼していない人は3.7%となっていました（図 54）。
- 子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人がいない人は 21.3%となっていました（図 114）。
- 留守を頼める人がいない人は22.4%となっていました（図 115）。
- 公的な機関への相談割合が低くなっていました（図 116）。
- 保護者の自分の体や気持ちで気になることについて「とくに気になるところはない」では、困窮度Ⅰ群の割合が最も低く 5.9%となっていました（図 179）。
- 困窮度が高くなるにつれて、生活を楽しんでいる人の割合が低くなっていました（図 184）。
- 将来への希望が持てない人の割合は、中央値以上群に比べて困窮度Ⅰ～Ⅲ群の割合が高くなっていました（図 185）。
- 幸せだと思う人の割合は、困窮度が高くなるにつれて割合が低くなっていました（図 187）。
- 不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことがよくある人は、困窮度が高くなるにつれて割合が高くなっていました（図 188）。

平成 31 年（2019 年）3 月

河内長野市子どもの生活に関する実態調査
調査結果報告書

編集・発行 河内長野市 子ども未来部 子ども子育て課

〒586-8501

大阪府河内長野市原町一丁目1番1号

TEL 0721-53-1111（代表）